



昭和会誌

2018



ロゴマークは昭和会の「S」と今給黎の「I」をモチーフに、「S」を表す円と繋がり、働く人・総合力・コミュニケーションを意味し、患者様に見立てた「I」という1人に対して、積極的に立ち向かう姿勢を表現したものです。また黄緑は優しさ・温かさ、水色は誠実さ・清潔感をイメージしたものです。

巻頭言

公益社団法人昭和会 今給黎総合病院
院長 昇 卓夫



年報の巻頭言を書くようにと言われて、巻頭言などというのは病院では理事長が大学の教室では教授が書くものと思っていたのですが、私が院長になった2004年、2005年の年報にはなんと、一年の歩みと称して自分が担当していました。

ところで、以前尚典理事長が JR 九州の鹿児島駅横の土地取得を目的に、JR 九州の石原社長を訪ねて行かれたり、また住吉町の 13 街区には何年もかけ伊藤知事のところに私どもも一緒に何回通ったことでしょうか。結局両方とも果たされませんでした。

フランスのルイ・パスツールがチャンスは準備を整えたところにやってくると述べているそうですが、私どもの病院の土地探しは当時はまだ準備が整っていなかったということだったのでしょうか。それでも2020年には新築移転を迎えます。現時点で機が熟してきたのでしょうか、すでに工事が始まっていて竣工そして移転が楽しみです。今度はそれまで、入院患者数の UP と稼働率 UP を図って、十分な準備を整えていかなければと思っています。

目次

■基本理念・基本方針・運営方針	02
■ I. 病院概要	03
■ II. 病院統計	15
■ III. 部門報告	
各診療科報告	27
各部署報告	77
■ IV. 会議・委員会活動報告	129
■ V. 研究実績	173
■ VI. 昭和会クリニックの現況	189
■ 巻末資料 公益社団法人昭和会事業実施概要書	

昭和会の理念

「協力・貢献・向上」

1. 全職員の協力体制
2. 地域社会への貢献
3. 自己研鑽と向上心

昭和会の基本方針

1. 質の高い医療の提供を目指し、全職員一致協力して努力します。
2. 生命の尊さを認識し、地域社会に貢献します。
3. 常に向上心を持って、自己研鑽に励みます。

昭和会の運営方針

1. 地域のセンター病院として、最新・最高の医療を提供すべく、高度の医療機器を充実し、全職員の医学研修を推進する。そのために、各分野関連の大学各教室・各研究機関との交流に努め、また夫々の学会参加を助成する。
2. 高度医療機器の公開利用に努め、最新で効率的且つ倫理的医療の充実を図る。
3. 救急医療24時間受け入れ体制の充実。
当病院全職員(全科オンコール体制)の協力のもとに24時間体制で全県下・離島の救急患者を積極的に受け入れ救急医療の使命を達成する。
4. 21世紀の少子高齢化社会の医療に対応すべく、地域の保健・医療・福祉施設と密な連携に努め、有効的な医療の提供を図る。
5. 地域に開かれた病院を目指し、健康増進活動に積極的に取り組み、活動の充実・発展を図る。

地域がん診療連携拠点病院

地域医療支援病院

県へき地医療拠点病院（遠隔医療支援） 洋上救急業務支援協力医療機関

県指定地域周産期母子医療センター 基幹型医師臨床研修病院

鹿児島県DMAT(災害派遣医療チーム)指定病院

●●● 病院概要

I

- 病院概要
- 昭和会の沿革
- 昭和会の組織図
- 今給黎総合病院の現況
- 病院施設概要
- 医師研修施設指定の現況
- 諸制度の指定状況
- 会議・委員会組織図
- 医療設備概要

病院概要

(平成31年3月現在)

名 称	公益社団法人昭和会 今給黎総合病院(いまきいれそうごうびょういん) Imakiire General Hospital
創設者	今給黎 満幸 (いまきいれ みつゆき)
開設者	代表理事 今給黎 尚典 (いまきいれ たかのり)
管理者	院長 昇 卓夫 (のぼり たくお)
所在地	〒892-8502 鹿児島市下竜尾町4番16号(かごしまししもたつおちょう)
代表電話	099-226-2211
代表 FAX	099-222-7906
URL	http://imakiire.jp
病院開設日	1938年(昭和13年)7月 1964年(昭和39年)5月「医療法人昭和会」設立 1965年(昭和40年)7月「財団法人昭和会」設立 2009年(平成21年)12月「公益財団法人昭和会」法人名変更 2018年(平成30年)4月「公益社団法人昭和会」法人名変更
病床数	450床 (うちICU8床 GCU10床、NICU9床 回復期リハビリテーション病棟33床)
看護基準	7:1
	厚生労働省地域がん診療連携拠点病院 地域医療支援病院 県へき地医療拠点病院(遠隔医療支援) 県指定地域周産期母子医療センター 基幹型医師臨床研修病院 洋上救急業務支援協力医療機関 鹿児島県DMAT(災害派遣医療チーム)指定病院 厚生労働省 医薬品・医療器具安全性情報協力施設 厚生労働省 DPC 対象病院 県脳卒中情報システム推進事業の情報提供協力医療機関 県町村会指定離島緊急医療対策支援協力医療機関 県エイズ治療拠点病院 県地域周産期医療支援病院 県重症難病医療協力病院(短期入所施設) 痛風治療協力医療機関 鹿児島市高規格救急車指示病院 県救急・災害医療情報システム参加登録病院 県消防・防災ヘリコプター急患搬送(医師搭乗)システム輪番病院 県指定 かごしま子育て応援企業 産科医療補償制度加入医療機関 県女性医師復職研修事業指定病院 各種健診(検診)・予防接種等受託医療機関
関連施設	昭和会クリニック

(平成31年3月現在)

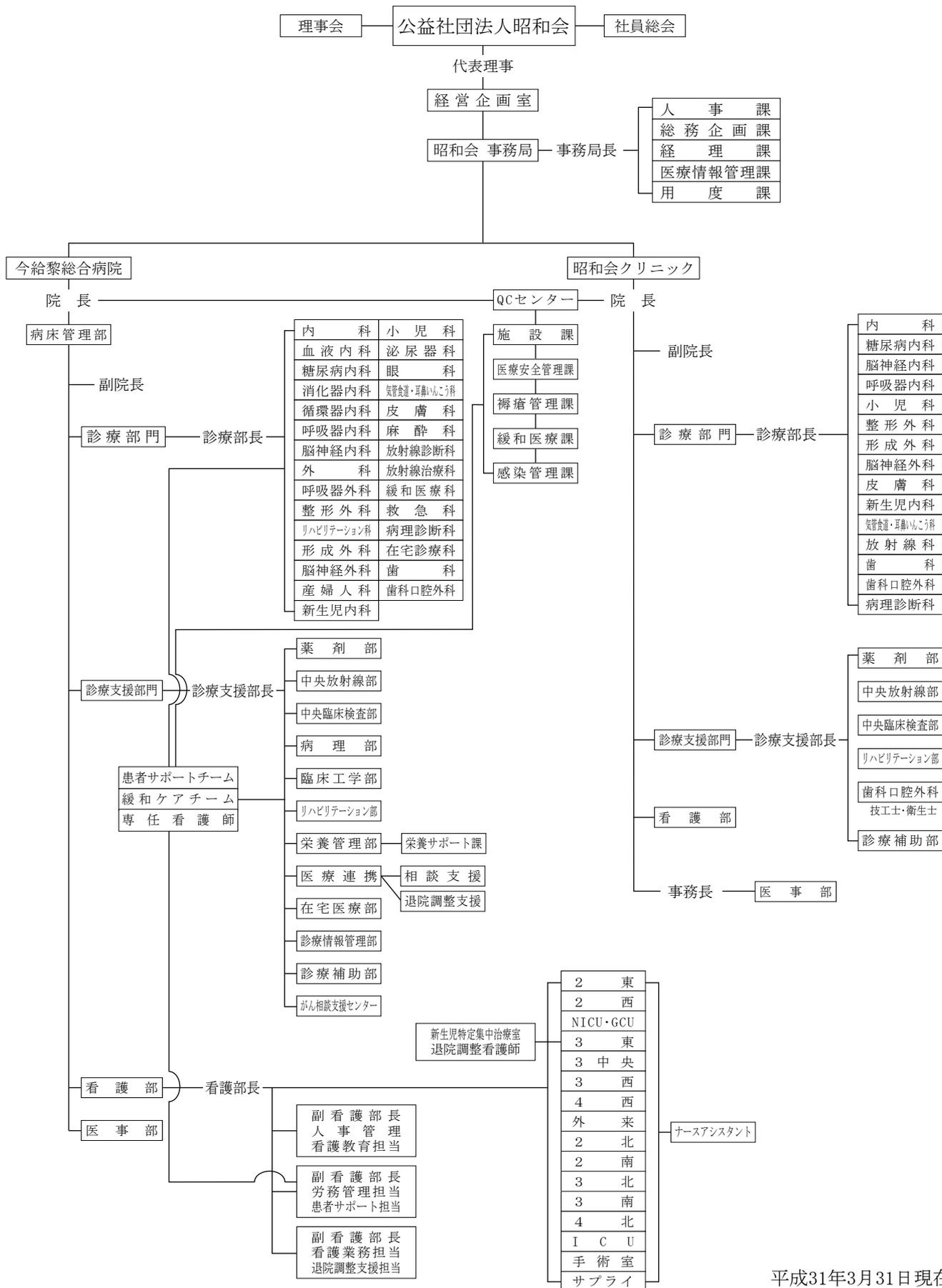
職員数	961名（非常勤27名含）		
有資格者	常 勤	非常勤	
	医師	91名	8名
	薬剤師	21名	
	診療放射線技師	22名	
	臨床検査技士	29名	1名
	臨床工学技士	8名	
	理学療法士	43名	
	作業療法士	21名	
	言語聴覚士	9名	
	管理栄養士	12名	
	視能訓練士	5名	
	社会福祉士	5名	
	看護師	449名	4名
	助産師	26名	
	保健師	2名	
	准看護師	4名	
診療情報管理士	10名	1名	

標榜科目	<p>27 診療科</p> <p>内科、糖尿病内科、血液内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科(肝臓・消化器・乳腺・内分泌・小児・肛門)、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、新生児内科、眼科、気管食道・耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科</p>
診療受付時間	<p>平日</p> <p>午前：午前8時00分～午前11時30分</p> <p>午後：午後1時30分～午後5時00分</p> <p>土曜（午前のみ）</p> <p>午前8時00分～午前11時30分</p>
休診日	土曜午後・日曜・祝日・年末年始（12月31日～1月3日）

昭和会の沿革

- 昭和13年 7月 現在地に今給黎医院開設
- 昭和22年 11月 今給黎病院開設(24床)
- 昭和30年 2月 鉄筋コンクリート2階建 病棟増築(41床)
- 昭和32年 6月 65床認可
- 昭和35年 2月 看護婦寮新築
- 昭和35年 5月 80床認可
- 昭和32年 7月 医師住宅新築
- 昭和39年 5月 「医療法人昭和会」設立(120床)
- 昭和39年 7月 救急告示病院指定
- 昭和40年 7月 民法第34条による「財団法人昭和会」設立
- 昭和42年 1月 160床認可
- 昭和44年 4月 鉄筋コンクリート3階建病院新築
- 昭和44年 8月 鉄筋5階建第1看護婦寮・4階建医師住宅2棟新築
- 昭和45年 10月 220床認可
- 昭和47年 10月 鉄筋5階建職員住宅(20世帯)新築
- 昭和50年 12月 鉄筋コンクリート2階建第3女子寮・院内託児所新築
- 昭和53年 10月 鉄筋コンクリート7階建本館新築(300床)
- 昭和54年 3月 325床認可
- 昭和54年 8月 鉄筋コンクリート4階建第2女子寮新築
- 昭和58年 2月 医師住宅4階建新築
- 昭和62年 1月 第4看護婦寮3階建新築
- 昭和62年 9月 別館4階建新築
本館・別館の連絡路として地下道(巾3m)完成
- 昭和63年 1月 450床認可、本館全面改装、総合医療各診療科整備
- 昭和63年 8月 第5看護婦寮4階建新築、男子独身寮2階建新築
- 平成元年 1月 医師研修等3階建新築
- 平成元年 12月 今給黎総合病院認可
- 平成9年 7月 周産母子センター開設
- 平成9年 9月 外来患者専用自動管理式駐車場完成
- 平成10年 3月 医局棟3階建新築
- 平成13年 3月 (財)日本医療機能評価機構「認定証」(一般病院種別B)取得
- 平成14年 1月 民間ビル(3階建)、研修棟として購入
- 平成15年 10月 「基幹型臨床研修病院」指定
- 平成17年 5月 昭和会クリニック開院(診療録の電子化開始)
- 平成17年 12月 今給黎総合病院(外来診療録の電子化開始)
- 平成18年 8月 歯科・歯科口腔外科開設
- 平成19年 10月 リニアック棟造築(稼働開始)
- 平成21年 3月 鹿児島県「地域周産期母子医療センター」指定
- 平成21年 12月 「公益財団法人昭和会」へ法人名称変更
- 平成22年 2月 今給黎総合病院(入院診療録の電子化開始)
- 平成24年 4月 厚労省「地域がん診療連携拠点病院」指定
- 平成25年 3月 地域医療支援病院認定
- 平成30年 4月 「公益社団法人昭和会」へ法人名称変更
- 平成30年 9月 鹿児島DMA T指定病院

昭和会の組織図



今給黎総合病院の現況

(1) 標榜科目(27 診療科)

内科，糖尿病内科，血液内科，脳神経内科，呼吸器内科，消化器内科，循環器内科，小児科，外科(肝臓・消化器・乳腺・内分泌・小児・肛門)，整形外科，形成外科，脳神経外科，呼吸器外科，皮膚科，泌尿器科，産婦人科，新生児内科，眼科，気管食道・耳鼻いんこう科，リハビリテーション科，放射線診断科，放射線治療科，歯科，歯科口腔外科，麻酔科，救急科，病理診断科

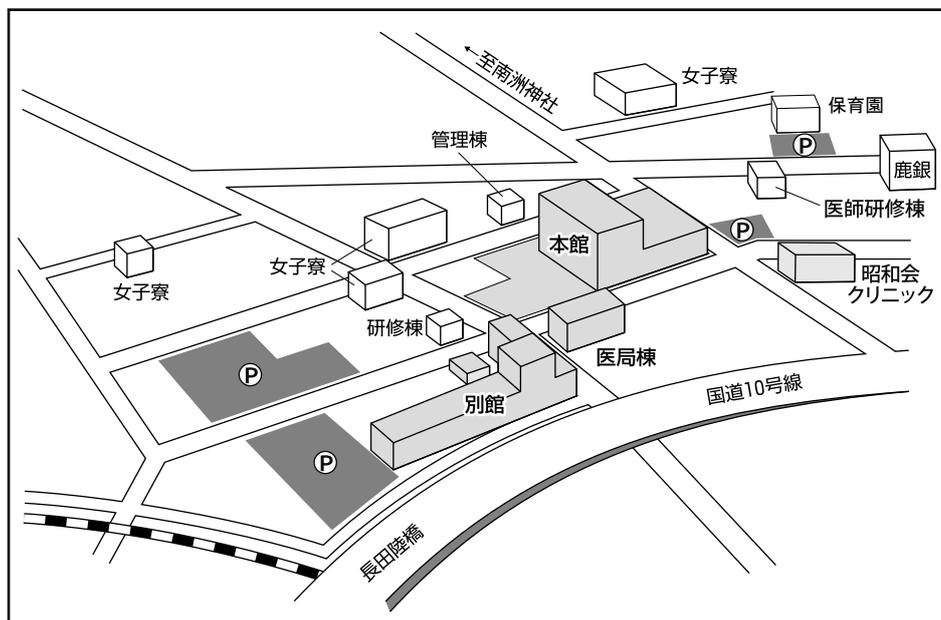
(2) 許可病床数 一般病床 450床

病棟	病室数	病床数	主な診療科
本館	2 F 西	12	19 産婦人科
	NICU-GCU	2	19 新生児内科
	2 F 東	18	61 外科, 消内, 形成
	3 F 西	19	43 呼内, 呼外, 緩和
	3 F 中	7	37 循内, 糖内, 整形
	3 F 東	12	37 脳外, 泌尿
	4 F 西	10	31 眼科, 形成
別館	I C U	1	8 外科, 麻酔科
	2 F 北	13	45 放射線科, 総内
	2 F 南	10	43 脳神経内科, 皮膚科
	3 F 北	11	33 整形外科
	3 F 南	10	50 整形外科
	4 F 北	9	24 小児科, 歯科口腔外科 気管食道・耳鼻いんこう科
	合計	134	450

(3) 施設の概要

		敷地	建物
病院	本館	3,407.3 m ²	10,542.6 m ²
	別館	3,656.2	5,531.5
	医局棟	290.1	546.8
福利厚生施設	研修棟	156.6	280.1
	医師研修等	224.2	523.9
	第1女子寮	616.8	1,329.7
	第2 "	987.8	2,243.0
	第4 "	286.6	535.8
	第5 "	200.6	409.9
	保育園		157.1
管理棟		179.0	411.8
患者専用駐車場		2,632.5	—
医療関連施設建設予定地		81,642.0	—
患者用駐車場		170台収容可	

(4) 病院及び関連施設配置図



H31.3.31 現在

病院施設概要

本館

7 F	・会議室・和温療法室・患者図書室 ・高気圧酸素治療室・臨床工学部・理事長室
6 F	・中央手術室6室(手術台8台)
5 F	・ICU室(8床)・サブライセンター
4 F	・病理部・看護部長室・言語聴覚室・当直室 ・病棟(眼、形)・ナースステーション(4F 西) ・病床管理部・褥瘡管理課
3 F	・病棟(呼内、呼外、緩医、循内、糖内、整、脳外、泌) ・ナースステーション(3F 西、3F 中、3F 東)
2 F	・病棟(産婦、周産母子、外、消内、形) ・ナースステーション(2F 西、2F 東、NICU・GCU) ・薬剤部薬剤管理室
1 F	・総合案内・患者サポート相談室 ・総合受付・薬剤部・医事部 ・救急室・総合処置室・外来化学療法室 ・各科外来診療室・薬品情報室 ・内視鏡室(消化器)・がん相談支援センター ・外来検査室・心電図室・栄養相談室 ・新入院患者様待合室・家族控室(ICU・手術)
B 1	・放射線科外来診察室・中央放射線部 ・画像診断室・診療情報管理部 ・中央監視センター・自家発電装置室 ・高圧変電室・空調機械室・売店
B 2	・前立腺シード室

医局棟

3 F	カンファレンスルーム・医局
2 F	医局・院長室
1 F	医局・当直室

管理棟

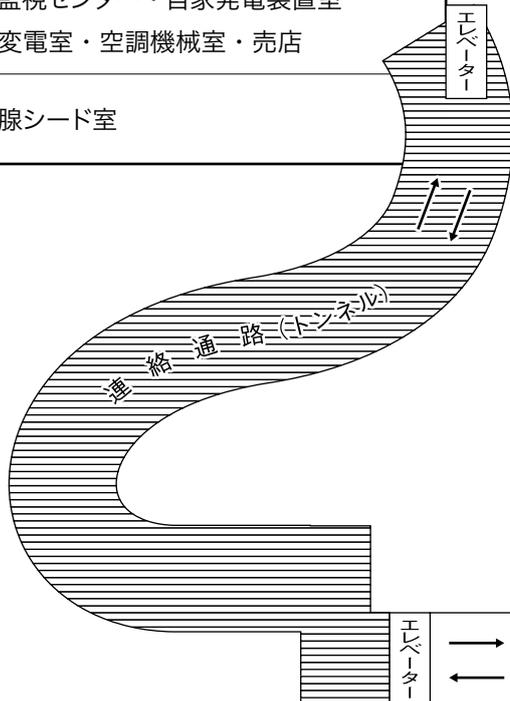
3 F	医療相談室・地域医療連携室・感染管理課 医療安全管理課・緩和医療課
2 F	在宅医療部・看護師控室
1 F	公益社団法人昭和会 事務局

研修棟

3 F	研修室
2 F	研修室
1 F	テナント

別館

4 F	・病棟(小、気・耳、歯口外) ・ナースステーション(4F 北)
3 F	・病棟(整) ・ナースステーション(3F 北、3F 南)
2 F	・病棟(放、総内、脳内、皮) ・ナースステーション(2F 北、2F 南)
1 F	・中央臨床検査部・リニアクセンター ・生理検査室(心エコー・脳波・筋電図) ・栄養管理室・調理室・浴場
B 1	・講義室(大ホール) ・機能訓練室(理学・作業・言語) ・ハーバードタンク室 ・洗濯室・リハビリテーション部
B 2	・気管支鏡準備室 ・病理解剖室・霊安室



医師研修施設指定の現状

S58.	4.	11	日本整形外科学会・専門医研修施設
S63.	1.	1	日本泌尿器科学会・専門医教育施設
S63.	9.	1	日本眼科学会・専門医研修施設
H2.	5.	18	日本麻酔科学会・麻酔科標榜研修施設
H2.	12.	19	日本内科学会・認定医教育関連病院
H3.	4.	1	日本医学放射線学会・専門医修練機関
H3.	4.	1	日本耳鼻咽喉科学会・専門医研修施設
H4.	7.	13	日本脳神経外科学会・専門医指定訓練場所
H7.	3.	22	日本形成外科学会・認定医研修施設
H7.	5.	10	日本呼吸器外科学会・専門医認定制度施設
H7.	11.	21	日本外科学会・専門医制度修練施設
H8.	4.	1	日本病理学会・認定病理制度登録施設
H13.	7.	30	日本胸部外科学会・認定医認定制度関連施設
H14.	4.	1	日本皮膚科学会・専門医研修施設
H15.	4.	1	日本神経学会・専門医制度教育関連施設
H15.	4.	1	日本臨床細胞学会・認定施設
H16.	4.	1	日本周産期新生児医学会・周産期(新生児)専門医暫定研修施設
H17.	2.	11	日本脳卒中学会 専門医研修教育施設
H17.	12.	1	日本消化器内視鏡学会・専門医指導施設
H18.	4.	1	日本周産期・新生児医学会 周産期(母胎・胎児)専門医暫定研修施設
H19.	10.	24	日本放射線腫瘍学会 認定施設
H19.	11.	1	日本がん治療認定医機構 認定研修施設
H20.	4.	1	呼吸器外科専門医合同委員会・基幹施設
H20.	4.	1	日本泌尿器科学会・基幹教育施設
H20.	12.	20	日本呼吸器学会・専門医制度関連施設
H21.	4.	1	日本血液学会・認定研修施設
H21.	10.	1	日本産婦人科学会・専門医制度卒後臨床研修指導施設
H21.	10.	1	日本口腔外科学会・専門医制度研修施設
H22.	1.	1	日本救急医学会・専門医指定施設
H23.	1.	1	日本消化器外科学会・専門医研修施設
H23.	7.	1	日本胆道学会・指導医制度指導施設
H24.	1.	1	日本消化器病学会・専門医制度認定施設
H25.	1.	13	日本手外科学会研修施設
H26.	1.	1	日本IVR学会専門医修練施設
H27.	11.	1	日本消化器学会 胃腸科指導施設
H28.	1.	1	日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡関連認定施設
H29.	4.	1	日本脊髄病学会脊髄外科専門医基幹研修施設

その他の施設認定

H16.	8.	1	マンモグラフィ検診精度管理中央委員会 認定施設
H17.	4.	1	日本栄養療法推進協議会NST稼動施設
H17.	11.	1	日本静脈経腸栄養学会NST稼動施設
H23.	2.	17	日本静脈経腸栄養学会NST専門療法士取得 実施修練施設
H23.	4.	1	日本臨床衛生検査技師会・精度管理保証施設
H29.	4.	1	日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師 研修事業研修施設認定

H31. 3現在

諸制度の指定状況

● 各種法による当院の取扱指定状況

1. 保険医療機関
2. 国民健康保険医療取扱機関
3. 労災保険指定病院
4. 労災保険二次健診等給付病院
5. 生活保護法指定病院
6. 介護保険法「居宅介護支援事業所」指定病院
7. 生活保護法「居宅介護支援事業所」指定病院
8. 障害者自立支援法「更生医療」「育成医療」指定病院（整形外科・形成外科・耳鼻咽喉科・腎臓・免疫・口腔に関する医療）
9. 障害者自立支援法「精神通院医療」指定病院（神経内科に関する医療）
10. 感染症法（第37条の2）指定病院
11. 原子爆弾被爆者医療法一般疾病医療取扱病院
12. 母体保護法指定病院「不妊手術」
13. 特定疾患治療研究事業に係る医療指定病院
14. 小児慢性特定疾患治療研究事業に係る医療指定病院
15. 先天性血液凝固因子障害等治療研究事業に係る医療指定病院
16. 母子保健法指定病院「養育医療」
17. 出入国管理及び難民認定法指定病院
18. 救急告示病院

● 九州厚生局による当院の許認可事項

○ 基本診療料の施設基準等

- 一般病棟入院基本料(7対1)
- 総合入院体制加算
- 超急性期脳卒中加算
- 診療録管理体制加算
- 医師事務作業補助体制加算20:1
- 急性期看護補助体制加算25:1
- 急性期看護補助体制加算の注3に掲げる看護職員夜間配置加算
- 重症者等療養環境特別加算
- 緩和ケア診療加算
- 医療安全対策加算
- 感染防止対策加算1
- 感染防止対策地域連携加算
- 抗菌薬適正使用支援加算
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ハイリスク分娩管理加算
- ハイリスク妊娠管理加算
- 退院支援加算1:3
- 精神疾患診療体制加算
- データ提出加算2
- 特定集中治療室管理料4
- 新生児特定集中治療室管理料1
- 新生児治療回復室入院医療管理料
- 小児入院医療管理料5
- 患者サポート体制充実加算
- 栄養サポートチーム加算
- 回復期リハビリテーション入院料2

○特掲診療料の施設基準等

がん性疼痛緩和指導管理料
 がん患者指導管理料1, 2, 3
 外来緩和ケア管理料
 院内トリアージ実施料
 外来放射線照射診療料
 ニコチン依存管理料
 開放型病院共同指導料
 がん治療連携計画策定料
 薬剤管理指導料
 医療機器安全管理料1, 2
 在宅訪問看護・指導料
 持続血糖測定器加算
 H P V核酸固定検査
 検体検査管理加算 (IV)
 時間内歩行試験
 神経学的検査
 C T透視下気管支鏡検査加算
 画像診断管理加算1
 画像診断管理加算2
 CT撮影及びMRI撮影
 冠動脈CT撮影加算
 心臓MRI撮影加算
 放射線治療専任加算
 高エネルギー放射線治療
 1回線量増加加算
 病理診断管理加算1
 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
 外来化学療法加算1
 無菌製剤処理料
 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
 運動器リハビリテーション料 (I)
 呼吸器リハビリテーション料 (I)
 がん患者リハビリテーション料
 透析液水質確保加算1
 悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
 組織拡張器による再建手術
 乳がんセンチネルリンパ節加算1
 緑内障手術
 網膜再建術
 ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術
 腹腔鏡下肝切除術
 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
 腹腔鏡下仙骨腔固定術
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
 輸血管管理料 I
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
 麻酔管理料 (I)
 外来放射線治療加算
 定位放射線治療

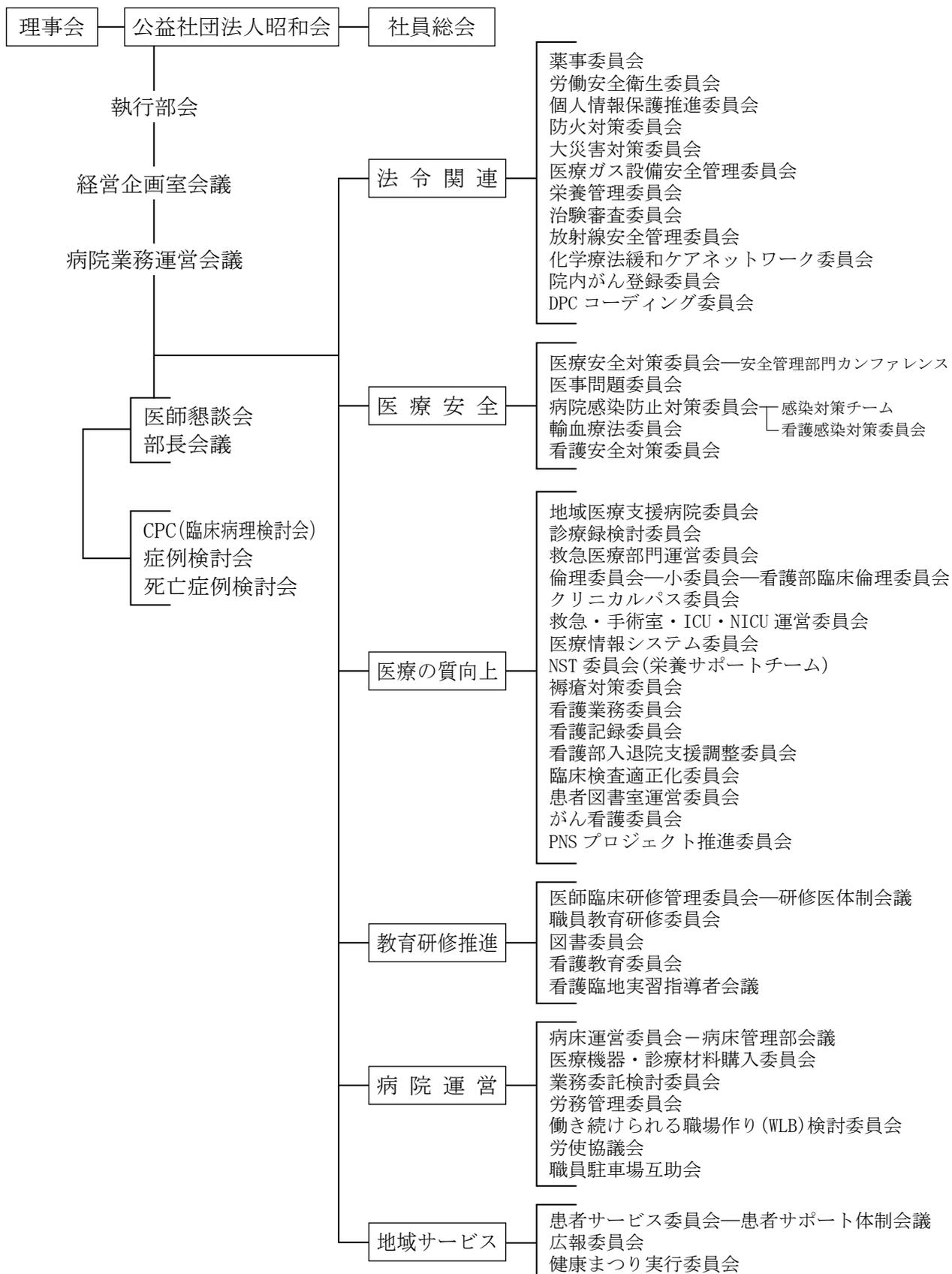
●その他の取扱指定状況

H14. 7. 1 県へき地医療拠点病院 (遠隔医療支援)
 H15. 10 基幹型臨床研修病院
 H20. 4. 1 厚生労働省 D P C対象病院
 H20. 9. 1 県指定 かがしま子育て応援企業
 H20. 10. 1 産科医療補償制度加入医療機関
 H20. 11. 26 県女性医師復職研修事業指定病院
 H21. 3. 27 県指定 地域周産期母子医療センター
 H21. 10. 1 県消防・防災ヘリコプター救急搬送医師搭乗システム輪番病院
 H24. 4. 1 厚生労働省指定 地域がん診療連携拠点病院
 H24. 4. 11 歯科医師臨床研修病院 (協力型)
 H24. 6. 7 県エイズ治療拠点病院
 H25. 3. 22 県指定 地域医療支援病院

- ・ 洋上救急業務支援協力医療機関
- ・ 厚生労働省 医薬品・医療器具安全性情報協力施設
- ・ 脳卒中情報システム推進事業の
 情報提供協力医療機関
- ・ 県町村会指定離島緊急医療対策支援協力医療機関
- ・ 県重症難病医療協力病院 (短期入所施設)
- ・ 痛風治療協力医療機関
- ・ 鹿児島市高規格救急車指示病院
- ・ 県救急・災害医療情報システム登録病院
- ・ 県広域災害医療情報システム (EMIS) 登録病院
- ・ 市指定 ここにこ子育て応援隊認定企業
- ・ 県地域周産期医療支援病院
- ・ 各種健診 (検診) ・予防接種等受託医療機関

H31. 3現在

会議・委員会組織図



医療設備概要

【放射線部門】

検査室名等		メーカー	機種名	台数
1	一般撮影室(I)	島津	(1)UD-150L-30	1
2	一般撮影室(II)	島津	UD-150L-30	1
第1 操作通路	DR (CXDIシステム)	キャノン	立・臥位X線デジタルラジオグラフィ	2
5	FPD式X線テレビ室(Cアーム)	日立	SF-VA2000FP(Versi Flex)	1
6	FPD式X線テレビ室	日立	EXAVISTA	1
7	X線CT室(II)	日立	SCENARIA (64列MDCT)	1
8	アンギオ・DSA室	フィリップス	Allura Xper FD20	1
A9	X線CT室(I)	フィリップス	ブリリアンス Brilliance64 (64列MDCT)	1
10	MR I 室	日立	ECHOLON Vega(1.5テスラ)	1
11	R I 室	フィリップス	BRIGHTVIEW(特)	1
13	乳房専用室	ローラッド	(1)M-IV	1
14	前立腺シード室	バリアン 東芝	(1)バリシード (2)クリアスコープ9000	1 1
第2 操作通路	レーザーイメージャー	ケアストリーム	ドライビュー8900	1
受付・画像処理		NOBORI 富士	画像ネットワークシステム(PACSクラウド化・検像システム) VINCENT(3Dワークステーション)	1式 1式
手術室 ・外科用イメージ ・ポータブル		東芝 GE ケアストリーム	(1)SXT-1000A (2)Brivo OEC 850 (3)DRX-レボリユーション	1 1 1
本館病棟(ポータブル)		富士	ACROS	1
別館病棟(ポータブル)		シーメンス	モビレットXP Hibrid	1
リニアックセンター		エレクタ フィリップス	(1)プリサイストリートメントシステム (2)ピナクル	1 1

【その他医療機器】

高気圧酸素治療装置	超音波凝固切開装置
個人用人工透析装置	超音波検査装置
急性血液浄化装置	睡眠時無呼吸症候群検査装置
人工呼吸器	精密肺機能検査装置
手術中誘発電位測定装置	ホルター心電計／解析装置
体温維持装置	磁気刺激装置
内視鏡ビデオスコープ	心電計
3D内視鏡装置	脳波計
分娩監視装置	誘発電位・筋電図測定装置
定置・閉鎖型保育器	聴力検査装置
搬送用保育器	多項目自動血球装置
光線治療器	生化学自動分析装置
眼底カメラ検査装置	全自動血液凝固測定装置
眼球運動検査装置	自動免疫組織化学染色装置
無反射視力検査装置	除細動装置
マイクロ波治療装置	オートパルス人工蘇生システム
高周波手術装置	新生児専用救急搬送車

病院統計

- (1) 科別外来患者数
- (2) 科別在院患者延べ数
- (3) 年度別手術症例数
- (4) 科別手術症例数
- (5) 年度別入院患者死亡数及び病理解剖数
- (6) 外来患者市町村別分類図
- (7) 退院患者市町村別分布図
- (8) 市町村別紹介施設数・患者数
- (9) 市町村別逆紹介施設数・患者数
- (10) 紹介率
- (11) 逆紹介率
- (12) 外来患者初再診
- (13) 外来患者時間外・深夜・休日患者数
- (14) 入院患者に関する実績比較
- (15) 年度別救急車受入台数(患者数)
- (16) 救急患者受入時間帯・年齢別分類
- (17) 市町村別救急患者数
- (18) 退院患者ICD大分類(主傷病名大分類)
- (19) ICD大分類(科別、性別退院患者数)



(1) 平成30年度 科別外来患者数 (複数診療科受診を各々1とした場合)

・○印:時間内診療はクリニックで実施 ・在宅医療含む
 ・1日平均:患者数÷平日・土曜日数(祝日除く)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 合計	1月 平均	1日 平均
○ 総合内科	55	62	56	80	70	59	66	57	97	264	104	92	1,062	88.5	4.0
○ 糖尿病内科	157	146	142	140	156	139	138	140	141	138	137	147	1,721	143.4	6.4
○ 呼吸器内科	72	77	68	91	97	92	79	75	69	83	86	105	994	82.8	3.7
○ 脳神経内科	53	56	49	39	48	49	43	42	33	36	37	25	510	42.5	1.9
○ 消化器内科	547	621	651	635	672	633	718	636	633	593	597	649	7,585	632.1	28.2
○ 循環器内科	471	549	481	523	494	454	534	512	530	485	523	433	5,989	499.1	22.3
○ 血液内科	104	109	116	118	130	97	114	98	100	118	104	94	1,302	108.5	4.8
○ 外科(肝・膵・乳・甲・小・肛)	299	335	361	347	377	322	361	383	366	323	356	357	4,187	348.9	15.6
○ 呼吸器外科	182	175	198	175	216	179	235	189	161	183	164	174	2,231	185.9	8.3
○ 整形外科	200	281	281	300	273	255	230	253	340	323	287	218	3,241	270.1	12.1
○ 形成外科	115	128	148	163	173	166	128	135	98	122	79	111	1,566	130.5	5.8
○ 脳神経外科	30	12	22	17	16	12	13	25	19	16	15	19	216	18.0	0.8
○ 産婦人科	287	346	373	359	324	298	323	266	294	304	283	324	3,781	315.1	14.1
○ 小児科	4	3	3	3	2	0	3	6	3	4	5	4	40	3.3	0.1
○ 泌尿器科	651	740	708	710	776	679	713	692	738	655	688	814	8,564	713.7	31.9
○ 眼科	842	847	835	864	902	845	981	897	788	833	859	874	10,367	863.9	38.6
○ 気管食道・耳鼻いんこう科	7	4	9	8	9	12	7	4	11	6	9	7	93	7.8	0.3
○ 皮膚科	11	11	46	15	10	62	11	8	8	62	3	2	249	20.8	0.9
○ 麻酔科	9	12	10	14	5	13	17	9	11	24	12	12	148	12.3	0.6
○ (一部)放射線科(診断・治療)	111	126	222	180	181	166	145	99	137	164	174	208	1,913	159.4	7.1
○ 緩和医療科	12	23	23	16	9	12	11	10	4	3	5	5	133	11.1	0.5
○ 病理診断科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
○ 歯科口腔外科	1	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	5	0.4	0.0
合計	4,220	4,663	4,803	4,798	4,940	4,546	4,870	4,536	4,581	4,739	4,527	4,674	55,897	4,658.1	-
1日平均	192	207	204	209	202	222	203	202	213	226	216	208	-	-	208.2



(2) 平成30年度 科別在院患者延数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計	1月平均	1日平均
総合内科	658	747	615	636	646	780	244	227	242	296	384	413	5,888	491	16
糖尿病科	46	47	51	66	44	74	50	37	41	33	137	117	743	62	2
呼吸器内科	754	749	782	844	715	687	713	867	763	943	726	725	9,268	772	25
脳神経内科	965	954	924	1,011	943	864	765	901	942	883	857	968	10,977	915	30
消化器内科	607	805	753	786	876	761	880	725	715	969	583	951	9,411	784	26
循環器内科	236	263	241	346	424	322	257	355	327	266	276	334	3,647	304	10
血液内科	1	3	0	5	0	1	541	516	542	528	515	514	3,166	264	9
外科(肝・消・乳・甲・小・肛)	695	802	798	927	524	653	745	742	708	772	681	609	8,656	721	24
呼吸器外科	387	399	375	397	317	429	442	446	395	319	275	285	4,466	372	12
整形外科	3,800	3,652	3,156	3,335	3,654	3,104	3,404	3,859	3,290	3,615	3,456	3,540	41,865	3,489	115
形成外科	562	482	516	543	575	680	678	723	713	731	831	858	7,892	658	22
脳神経外科	546	420	358	454	390	282	412	426	283	370	306	308	4,555	380	12
産婦人科	350	365	344	255	318	437	418	363	324	432	393	478	4,477	373	12
新生児内科	514	531	507	544	490	529	545	525	565	543	468	454	6,215	518	17
小児科	101	38	106	112	102	114	89	44	58	24	49	103	940	78	3
泌尿器科	423	476	620	504	621	532	493	480	455	486	470	638	6,198	517	17
眼科	266	253	311	262	211	226	224	208	204	212	182	300	2,859	238	8
気管食道・耳鼻いんこう科	235	205	213	245	269	195	202	260	188	209	194	245	2,660	222	7
皮膚科	62	62	55	55	99	116	83	53	61	76	53	75	850	71	2
麻酔科	0	11	16	33	43	33	1	0	31	60	24	10	262	22	1
放射線科	53	27	98	72	49	47	70	56	23	29	85	88	697	58	2
緩和医療科	74	84	47	2	0	0	0	0	0	0	0	0	207	17	1
歯科口腔外科	31	59	32	46	134	67	46	16	42	47	60	142	722	60	2
合計	11,366	11,434	10,918	11,480	11,444	10,933	11,302	11,829	10,912	11,843	11,005	12,155	136,621	11,385	-
1日平均	379	369	364	370	369	364	365	394	352	382	393	392	-	-	374

(3) 年度別手術症例数 (病院手術室実施手術)

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
4月	375	388	343	329	362
5月	344	319	301	356	374
6月	373	415	394	366	396
7月	399	385	335	386	386
8月	406	298	347	398	387
9月	341	312	330	373	334
10月	400	373	364	382	392
11月	340	364	388	392	382
12月	369	315	378	381	281
1月	344	304	339	346	342
2月	382	341	355	348	349
3月	399	383	383	406	390
合計	4,472	4,197	4,257	4,463	4375
月平均	373	350	355	372	364.6

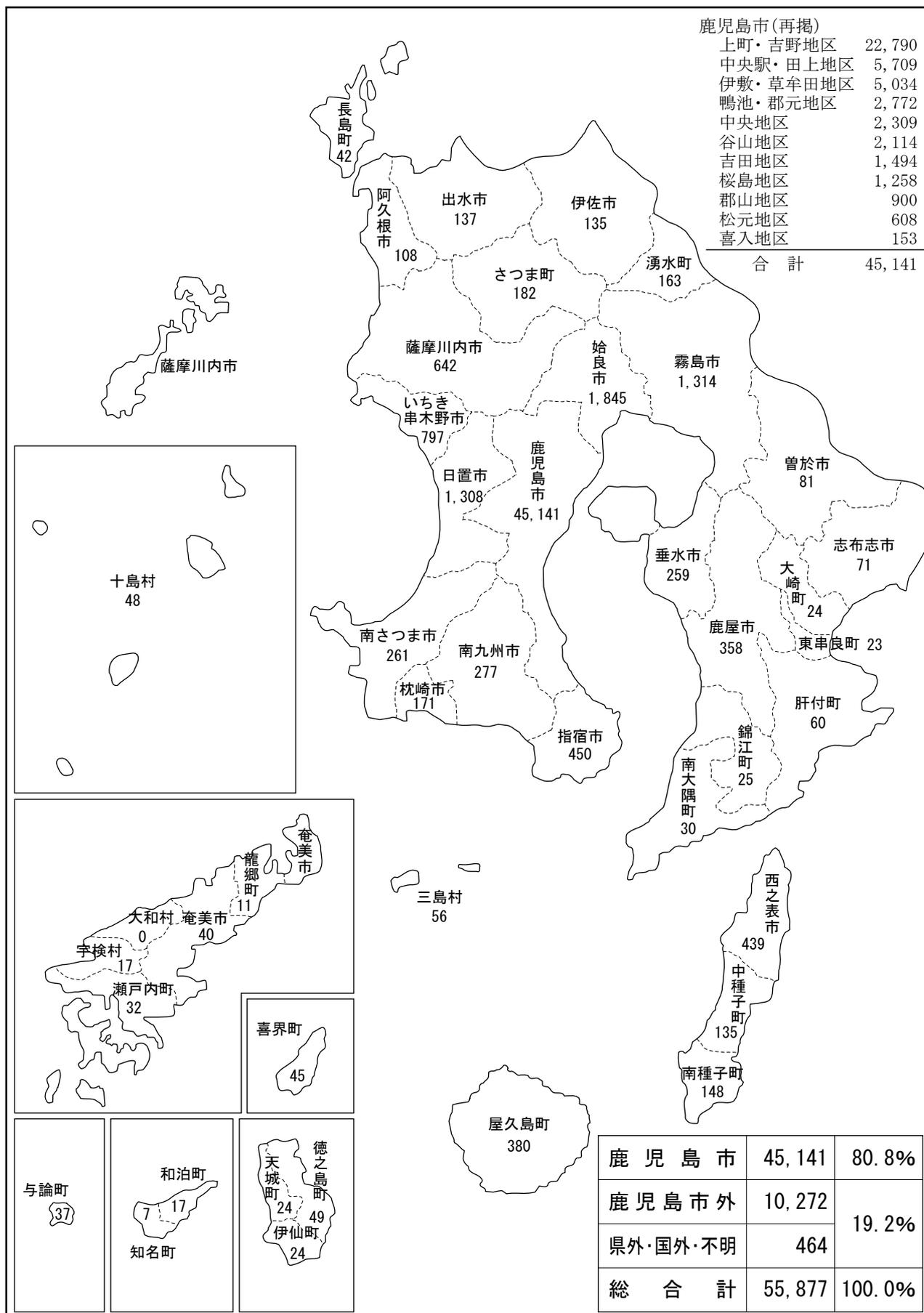
(4) 科別手術症例数 (病院手術室実施手術)

	眼科	整形外科	形成外科	外科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	呼吸器外科	産婦人科	歯科口腔外科	脳神経外科	麻酔科	総計
4月	138	90	33	21	19	15	16	14	10	6		362
5月	123	105	28	19	33	14	20	12	13	7		374
6月	150	96	30	28	32	18	11	17	12	2		396
7月	143	87	30	27	30	21	18	13	11	6		386
8月	112	109	39	20	22	28	15	13	26	3		387
9月	122	66	34	31	20	15	16	17	12	1		334
10月	125	96	44	34	24	18	19	15	11	6		392
11月	108	116	46	28	20	17	19	12	7	8	1	382
12月	72	75	39	29	18	12	9	14	10	2	1	281
1月	96	97	34	30	24	19	16	8	12	6		342
2月	89	108	33	36	21	18	11	12	16	5		349
3月	117	98	42	25	27	18	16	21	25	1		390
総計	1,395	1,143	432	328	290	213	186	168	165	53	2	4,375

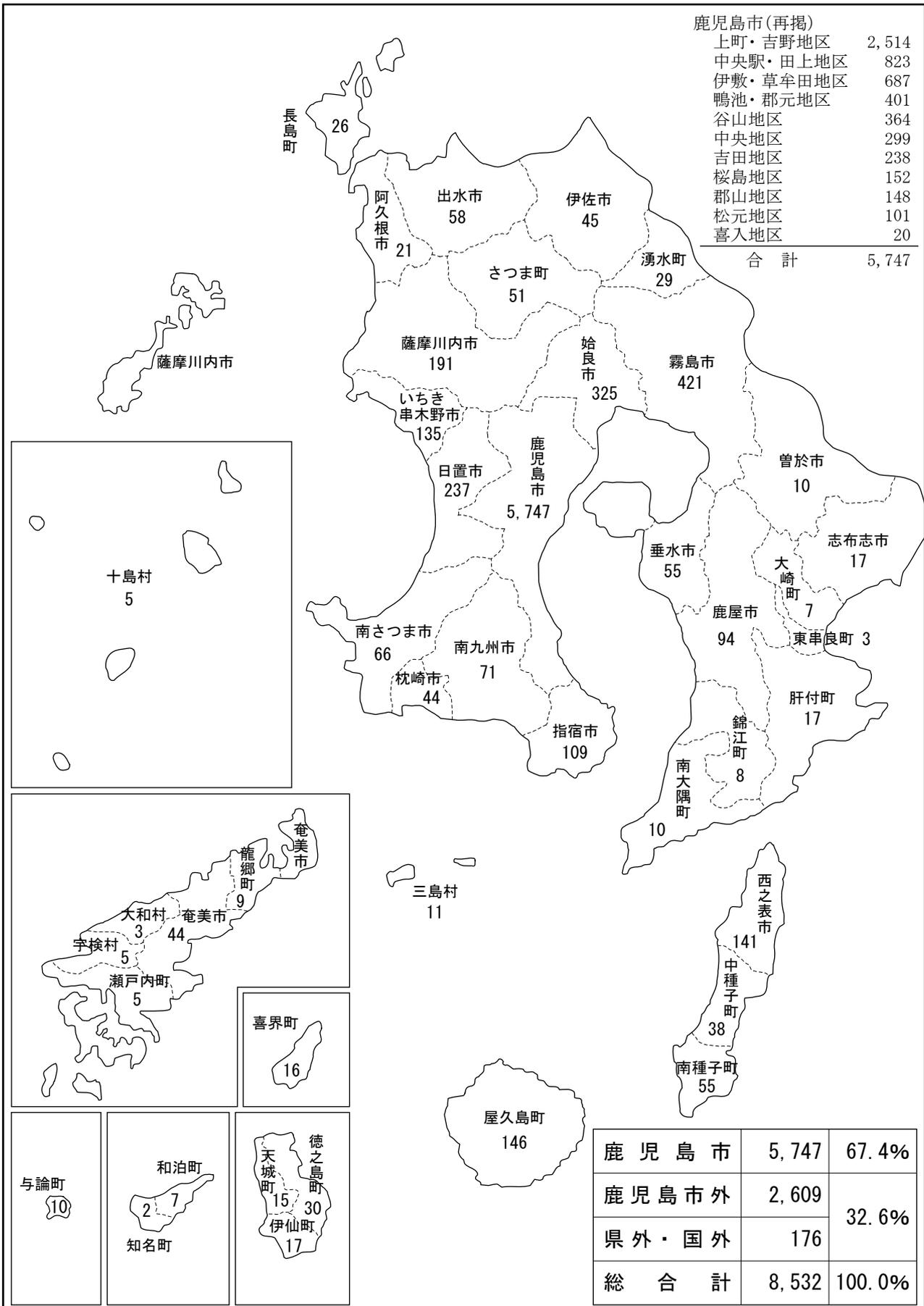
(5) 年度別入院患者死亡数及び病理解剖数

	平成26年		平成27年		平成28年		平成29年		平成30年	
	死亡数	解剖数								
4月	18	0	21	0	18	0	13	1	14	0
5月	18	0	23	0	9	0	15	1	19	0
6月	10	0	10	0	11	0	10	0	15	0
7月	13	0	13	0	12	0	16	1	14	0
8月	17	0	17	0	18	0	14	0	16	1
9月	16	0	13	0	14	0	13	0	11	0
10月	4	0	12	0	19	0	10	0	13	0
11月	19	0	12	1	10	0	15	1	8	0
12月	20	0	15	0	11	0	14	0	12	0
1月	19	0	16	0	18	0	16	0	21	0
2月	12	1	8	0	14	0	17	0	11	0
3月	20	0	16	0	15	0	10	0	16	0
合計	186	1	176	1	169	0	163	4	170	1
解剖率	0.53%		0.56%		-		2.45%		0.58%	

(6) 平成30年度 外来患者市町村別分布図(複数診療科受診を各々1とした場合)



(7) 平成30年度 退院患者市町村別分布図



(8) 平成30年度 市町村別紹介施設数・患者数(他院より当院への紹介)

市 町 村 名			施設件数	患者数	市 町 村 名			施設件数	患者数
鹿児島	鹿児島郡	鹿児島市	514	7,770	肝属	肝属郡	大崎町	1	1
		三島村	4	31	曾於	曾於	曾於市	5	8
		十島村	7	25			志布志市	5	7
始良	始良郡	霧島市	58	480	伊佐	熊毛郡	伊佐市	12	63
		始良市	53	377	西之表市		6	263	
日置	日置市	39	237	大島郡	奄美市	中種子町	1	1	
川薩	薩摩郡	薩摩川内市	33			286	南種子町	1	22
		いちき串木野市	21	132	屋久島町	8	130		
川辺	薩摩郡	さつま町	7	20	大島郡	奄美市	瀬戸内町	1	1
		南さつま市	19	53			喜界町	3	8
		枕崎市	9	30	徳之島	6	37		
指宿	指宿市	南九州市	11	40	大島郡	奄美市	和泊町	1	1
		指宿市	18	121			知名町	3	11
出水	出水郡	出水市	8	46	大島郡	奄美市	与論町	3	10
		阿久根市	2	28			県内	900	10,474
肝属	肝属郡	長島町	2	2	県外	111	196		
		鹿屋市	19	102	総合計	1,011	10,670		
		垂水市	6	37					
肝属	肝属郡	肝付町	2	5					
		錦江町	1	7					

※病院・クリニック合算の数です

(9) 平成30年度 市町村別逆紹介施設数・患者数(当院より他院への紹介)

市 町 村 名			施設件数	患者数	市 町 村 名			施設件数	患者数
鹿児島	鹿児島郡	鹿児島市	549	5,063	肝属	肝属郡	大崎町	1	1
		三島村	3	3	曾於	曾於	曾於市	2	9
		十島村	2	4			志布志市	8	15
始良	始良郡	霧島市	60	377	伊佐	熊毛郡	伊佐市	12	51
		始良市	55	295	西之表市		9	108	
日置	日置市	34	170	大島郡	奄美市	中種子町	5	11	
川薩	薩摩郡	薩摩川内市	48			157	南種子町	2	10
		いちき串木野市	15	100	屋久島町	8	69		
川辺	薩摩郡	さつま町	10	24	大島郡	奄美市	喜界町	1	1
		南さつま市	13	37			瀬戸内町	2	10
		枕崎市	13	57	徳之島	5	36		
指宿	指宿市	南九州市	12	29	大島郡	奄美市	和泊町	2	3
		指宿市	18	103			知名町	1	11
出水	出水郡	出水市	15	49	大島郡	奄美市	天城町	2	4
		阿久根市	4	25			与論町	3	10
肝属	肝属郡	長島町	1	1	県内	966	7,084		
		鹿屋市	28	130	県外	172	252		
		垂水市	6	31	紹介先不明	0	416		
肝属	肝属郡	肝付町	2	4	総合計	1,138	7,752		
		錦江町	4	9					

※病院・クリニック合算の数です

(10)平成30年度 今給黎総合病院 紹介率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
紹介患者数	311	365	353	333	358	349	353	327	301	328	281	356
紹介率 (%)	75.9	84.3	76.6	78.0	73.2	77.9	75.3	77.5	78.6	80.8	73.8	84.2

※地域医療支援病院計算式に準ずる(紹介率50%が当院の基準)

(11)平成30年度 今給黎総合病院 逆紹介率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
逆紹介患者数	485	520	538	462	502	459	509	485	451	453	426	517
逆紹介率 (%)	118.3	120.1	116.7	108.2	102.7	102.5	108.5	114.9	117.8	111.6	111.8	122.2

※地域医療支援病院計算式に準ずる(逆紹介率70%が当院の基準)

(12)平成30年度 外来患者初再診数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	月平均	1日平均
初診	672	782	792	751	832	752	726	675	727	923	659	642	8,933	744.4	33.3
再診	3,548	3,881	4,011	4,047	4,108	3,794	4,144	3,861	3,854	3,816	3,868	4,032	46,964	3,913.7	174.9
合計	4,220	4,663	4,803	4,798	4,940	4,546	4,870	4,536	4,581	4,739	4,527	4,674	55,897	4,658.1	208.2
初診率(%)	15.9	16.8	16.5	15.7	16.8	16.5	14.9	14.9	15.9	19.5	14.6	13.7	-	-	-
再診率(%)	84.1	83.2	83.5	84.3	83.2	83.5	85.1	85.1	84.1	80.5	85.4	86.3	-	-	-

(13)平成30年度 外来患者時間外・深夜・休日患者数 (診療報酬加算をもとに集計)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	月平均	1日平均
時間外	105	119	125	140	134	112	108	105	100	141	93	102	1,384	115.3	4.7
深夜	53	48	41	49	72	46	48	43	60	64	33	33	590	49.2	1.6
休日	119	148	146	86	126	182	104	79	157	351	101	72	1,671	139.3	22.9
合計	277	315	312	275	332	340	260	227	317	556	227	207	3,645	303.8	10.0

休日：休日在宅医(当番日)含む

(14) 入院患者に関する実績比較

1. 年度別

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
定 床	450	450	450	450	450
新 入 院 数	8,060	8,179	8,167	8,793	8,515
退 院 数	8,038	8,180	8,158	8,811	8,532
在院患者延数	136,106	134,367	138,525	141,598	136,621
1日平均 在院患者数	372.9	367.1	379.5	387.9	374.3
平 在 院 日 数	17.2	16.0	16.4	15.9	15.5
病 利 用 率	82.9%	81.6%	84.3%	86.2%	83.2%

2. 平成30年度 月別

* 平均在院日数は3ヶ月平均の値

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年 計	月平均
定 床	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	-	450
新 入 院 数	698	736	728	779	743	647	762	705	630	738	624	725	8,515	710
退 院 数	716	709	748	753	754	670	736	703	724	616	630	773	8,532	711
在院患者延数	11,366	11,434	10,918	11,480	11,444	10,933	11,302	11,829	10,912	11,843	11,005	12,155	136,621	11,385
1日平均 在院患者数	378.9	368.8	363.9	370.3	369.2	364.4	364.6	394.3	352.0	382.0	393.0	392.1	-	374.3
平 均 在 院 日 数	15.7	15.0	14.6	14.4	14.5	16.0	14.3	16.4	15.5	17.5	16.6	15.7	-	15.5
病 利 用 率 (%)	84.2	82.0	80.9	82.3	82.0	81.0	81.0	87.6	78.2	84.9	87.3	87.1	-	83.2

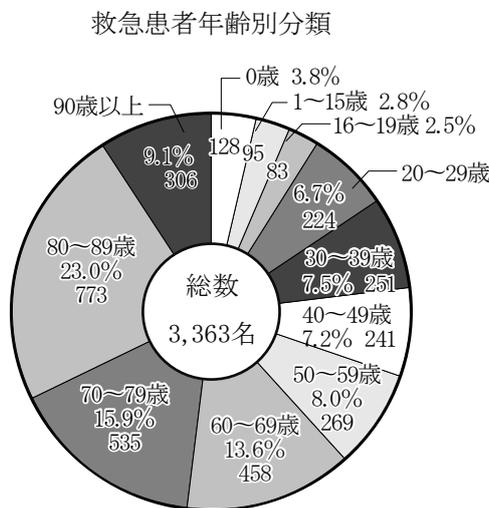
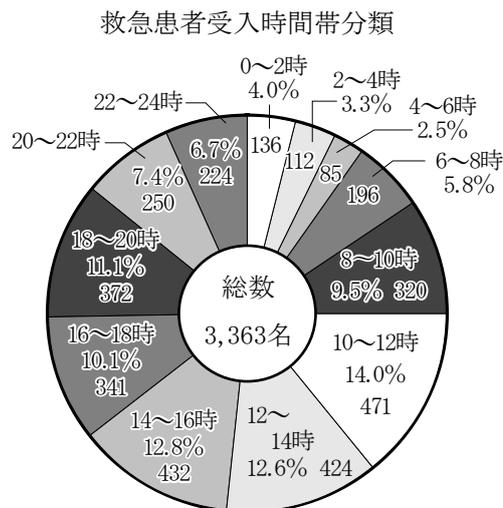
3. 平成30年度 科別

	総 内	血 内	糖 内	消 内	循 内	呼 内	脳 内	外	呼 外	整 形	形 成	脳 外
新 入 院 数	288	137	50	778	145	609	435	583	422	1,314	478	171
退 院 数	296	129	38	760	142	601	434	610	383	1,404	463	200
在院患者延数	5,888	3,166	743	9,411	3,647	9,268	10,977	8,656	4,466	41,865	7,892	4,555
1日平均 在院患者数	16.1	8.7	2.0	25.8	10.0	25.4	30.1	23.7	12.2	114.7	21.6	12.5
	産 婦	新生児	小 児	泌	眼	耳 鼻	皮	麻	放	緩 和	歯 口 外	総 計
新 入 院 数	343	225	182	653	1,042	362	34	9	51	3	201	8,515
退 院 数	346	231	183	632	1,038	368	31	12	29	6	196	8,532
在院患者延数	4,477	6,215	940	6,198	2,859	2,660	850	262	697	207	722	136,621
1日平均 在院患者数	12.3	17.0	2.6	17.0	7.8	7.3	2.3	0.7	1.9	0.6	2.0	374.3

(15) 年度別救急車受入台数(患者数)

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
4月	199 (202)	221 (224)	219 (223)	218 (221)	253 (258)
5月	213 (217)	219 (226)	205 (211)	238 (240)	280 (285)
6月	206 (209)	210 (215)	206 (206)	218 (220)	218 (220)
7月	225 (229)	209 (215)	208 (212)	286 (289)	287 (291)
8月	212 (216)	259 (264)	251 (253)	270 (276)	297 (308)
9月	224 (226)	205 (213)	224 (226)	233 (239)	249 (250)
10月	202 (205)	248 (252)	211 (211)	232 (239)	296 (304)
11月	222 (224)	213 (215)	235 (237)	268 (270)	293 (297)
12月	227 (232)	249 (253)	291 (293)	279 (282)	308 (310)
1月	244 (243)	243 (248)	259 (259)	286 (295)	343 (349)
2月	204 (209)	228 (232)	208 (209)	256 (259)	230 (232)
3月	227 (230)	251 (257)	214 (214)	263 (267)	252 (259)
合計	2,605 (2,642)	2,755 (2,814)	2,731 (2,754)	3,047 (3,097)	3,306 (3,363)
月平均	217.1 (220.2)	229.6 (234.5)	227.7 (229.5)	253.9 (258.0)	275.5 (280.3)
日平均	7.1 (7.2)	7.5 (7.7)	7.5 (7.5)	8.3 (8.5)	9.1 (9.2)
ドクターカー (再掲)	20	41	57	53	50
ドクターヘリ (再掲)	51	21	53	34	24

(16) 平成30年度
救急患者受入時間帯・年令別分類



(17) 平成30年度 市町村別救急患者数

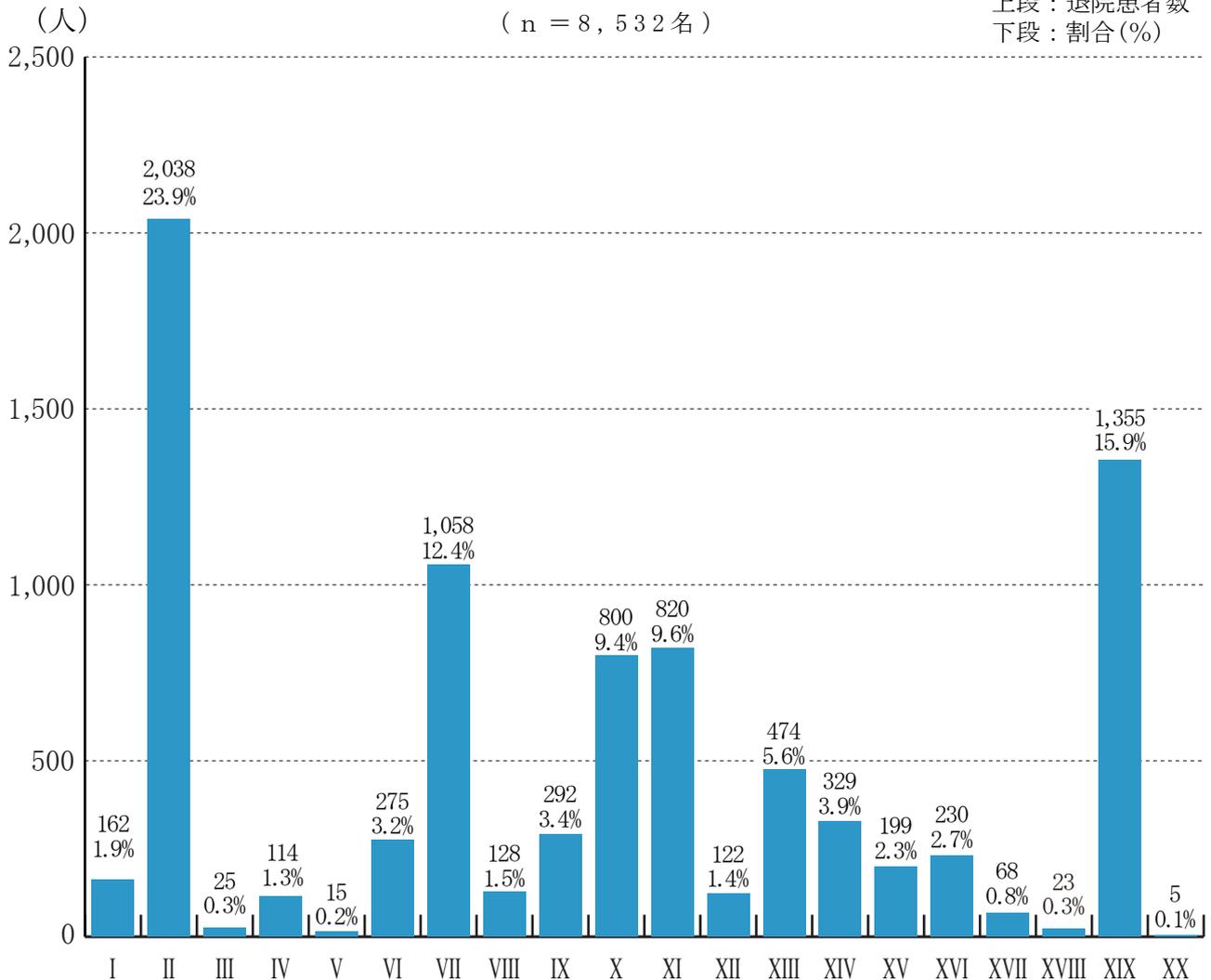
市町村名		救急患者数	市町村名		救急患者数	市町村名		救急患者数
鹿	上町・吉野	1,238	熊毛	日置市	61	大島	西之表市	6
	伊敷・草牟田	665		薩摩川内市	9		南種子町	2
	中央	301		いちき串木野市	4		屋久島町	3
	中央駅・田上	359		さつま町	5		奄美市	5
	鴨池・郡元	121		南さつま市	8		徳之島	1
	谷山	67		枕崎市	2		総合計	3,363
	桜島	54		南九州市	8			
	吉田	122		指宿市	12			
	松元	26		出水市	3			
	喜入	2		阿久根市	10			
島	郡山	90	鹿屋市	8				
	三島村	2	垂水市	15				
	霧島市	39	錦江町	1				
始良	始良市	108	曾於市	1				
	湧水町	1	伊佐市	4				

(18) 平成30年度 退院患者 ICD大分類

主 傷 病 名 大 分 類

(n = 8, 5 3 2 名)

上段：退院患者数
下段：割合(%)



- | | |
|--------------------------|---------------------------------------|
| I 感染症及び寄生虫症 | XII 皮膚及び皮下組織の疾患 |
| II 新生物 | XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患 |
| III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 | XIV 腎尿路生殖器系の疾患 |
| IV 内分泌、栄養及び代謝疾患 | XV 妊娠、分娩及び産褥 |
| V 精神及び行動の障害 | XVI 周産期に発生した病態 |
| VI 神経系の疾患 | XVII 先天奇形、変形及び染色体異常 |
| VII 眼及び付属器の疾患 | XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの |
| VIII 耳及び乳様突起の疾患 | XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響 |
| IX 循環器系の疾患 | XX 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 |
| X 呼吸器系の疾患 | |
| XI 消化器系の疾患 | |

(19) 平成30年度 ICD大分類・診療科別・性別・退院患者数

ICD大分類	男女合計	総数	総内	血内	神内	呼内	消内	循内	糖	小	外科	呼外	皮	整形	脳外	泌	産	新生児	婦	眼	耳	放	麻	口腔	緩和	
総数	8,532	男 4,511 女 4,021	139	57	235	381	428	73	20	101	376	257	16	646	220	102	492	-	117	-	546	208	18	7	69	3
I 感染症及び寄生虫症	162	男 79 女 83	6	-	12	17	13	1	1	17	-	3	4	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	
II 新生物	2,038	男 1,294 女 744	40	46	2	228	189	-	-	-	201	159	-	2	41	2	360	-	-	-	1	2	18	-	1	2
III 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	25	男 9 女 16	1	3	3	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	114	男 58 女 56	6	-	12	2	1	1	19	8	-	3	1	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
V 精神及び行動の障害	15	男 8 女 7	1	-	4	-	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
VI 神経系の疾患	275	男 139 女 136	13	-	89	-	3	2	-	-	-	2	-	14	5	5	-	-	-	-	5	-	1	-	-	
VII 眼及び付属器の疾患	1,058	男 540 女 518	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	528	-	-	-	-	-	
VIII 耳及び乳様突起の疾患	128	男 56 女 72	1	-	7	-	2	-	-	-	-	1	-	1	-	3	-	-	-	-	41	-	-	-	-	
IX 循環器系の疾患	292	男 145 女 147	3	-	53	1	6	42	-	-	5	1	-	-	1	29	2	-	-	-	-	-	1	-	1	
X 呼吸器系の疾患	800	男 494 女 306	43	4	27	116	11	16	-	71	3	55	-	2	-	1	-	-	-	-	145	-	-	-	-	
XI 消化器系の疾患	820	男 425 女 395	-	-	2	1	188	2	-	1	154	1	-	1	2	-	1	-	-	-	5	-	-	67	-	
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	122	男 59 女 63	2	1	2	-	-	1	-	-	-	1	11	1	39	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	474	男 253 女 221	7	2	6	3	3	-	-	-	1	-	-	210	20	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
XIV 腎尿路生殖器官の疾患	329	男 147 女 182	11	1	4	3	3	4	-	1	4	-	-	-	1	-	115	-	-	-	-	-	-	-	-	
XV 妊娠、分娩及び産褥	199	男 0 女 199	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
XVI 周産期に発生した病態	230	男 118 女 112	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	117	-	-	-	-	-	-	
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	68	男 32 女 36	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	26	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	23	男 16 女 7	-	-	3	5	2	-	-	-	1	2	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,355	男 637 女 718	5	-	8	5	3	4	-	-	5	28	-	413	74	63	7	-	-	-	17	1	-	3	1	
XX 健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用	5	男 2 女 3	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

部門報告

Ⅲ-1

各診療科報告

- 内科(総合内科)
- 血液内科
- 糖尿病内科
- 消化器内科
- 循環器内科
- 呼吸器内科
- 神経内科
- 外科(消化器・乳腺・甲状腺・小児・肛門)
- 呼吸器外科
- 整形外科・リハビリテーション科
- 形成外科
- 脳神経外科
- 産婦人科
- 新生児内科
- 小児科
- 泌尿器科
- 眼科
- 気管食道・耳鼻いんこう科
- 皮膚科
- 麻酔科
- 放射線診断科
- 放射線治療科
- 緩和医療科
- 病理診断科
- 在宅診療科
- 歯科
- 歯科口腔外科
- 救急科



総合内科

部長 二木 真琴

総合内科の業務は、感染症の診断治療、健康診断、ワクチン接種、生活習慣病に関連した疾患の治療などです。

当科は当初生野、二木医師の二人で担当していましたが、色々な科の研修を続けて消化器疾患、内科全般に詳しい大磯医師に加えて外科出身の三宅医師にも参加していただき更に総合的な治療を行う体制となってきました。

ワクチン接種に関して昨年はインフルエンザを含めて760件行いました。日本はワクチンに関しては後進国と言われていましたが、ここ数年で方針が変わり種類、接種などが増加しています。

肺炎球菌ワクチンが平成26（2014）年7月に予防接種法政省令の改正により、同年10月1日から定期接種に導入されました。各年度に65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳または100歳となる者が接種対象となっています。高齢者のインフルエンザに合併する肺炎は肺炎球菌が原因として多いと言われているので両方のワクチンを接種するのが効果的です。

2009年から2010年はメキシコより感染が広がったブタ由来A型インフルエンザ（H1N1）の流行が日本にもおしよせ、当科へも多く患者さんが来院されました。当院は発熱外来を設けて患者様に受診していただきましたが、集団発生する感染症への対応の困難さを痛感しました。2017/18シーズンは、2017年第45週（11/6～11/12）よりAH1pdm09亜型が増加傾向を示しましたが、2017年第48週（11/27～12/3）よりB型が増加し、さらにAH3亜型も年明け頃より増加するなど、混合流行となりました。この混合流行が今季の患者数の増加に影響を及ぼしていた可能性があります。B型の検出割合については、ビクトリア系統と山形系統のうち、今シーズンは2シーズンぶりに山形系統がビクトリア系統を上回りました。

季節性インフルエンザに対する抗インフルエンザ薬の有効性に関する知見は、有熱期間の短縮のほか、抗インフルエンザ薬の早期投与による重症化予防効果が示されています。治療対象については幼児や基礎疾患があり、インフルエンザの重症化リスクが高い患者や呼吸器症状が強い患者には投与が推奨されています。選択薬についてはオセルタミビル（タミフル®）ザナミビル（リレンザ®）ラニナミビル（イナビル®）ペラミビル（ラピアクタ®）に加え、今シーズンからは作用機序の異なる新薬パロキサビルマルボキシル（ゾフルーザ®）があります。ワクチン接種と合わせて、当科に

受診されたインフルエンザ患者様の初期および合併症治療を行っています。

2008年4月より特定健診が開始されました。これは話題となったメタボリックシンドロームを診断し治療、指導するのを目的としています。脳出血、脳梗塞、心筋梗塞の原因となる動脈硬化には以前より高血圧、高脂血症、肥満、糖尿病などの危険因子があるとされていました。メタボリックシンドロームとは腹部に内臓脂肪の蓄積がある場合、程度の軽い危険因子の組み合わせによっても動脈硬化が非常に進行しやすいという概念です。自覚症状のある前に早期に動脈硬化の危険因子を発見し治療するためには、健康診断は重要と思われまます。

当科の入院は高齢者の患者様が特に多く、病気の治療は当然ですが、治癒した後の退院先でのfollow upが大変重要と思われまます。専門性が利用できる場所は生かし、MSW（メディカルソーシャルワーカー）、在宅医療部との連携を保ち、より良いquality of lifeを目指した治療を考えて行きたいと思われまます。

2005年より当院入院患者様におけるNST（nutrition support team）の活動も行っています。これは患者様の栄養状態を把握して、栄養補給を補助する多種職種を含めた委員会活動です。主治医が希望する低栄養状態の患者様を栄養士、PT、ST、薬剤師、看護師などの多職種と共に回診を行い、主治医への助言、補助を行っています。

また、ここ数年来当科では「睡眠時無呼吸症候群（SAS）」の診察を行っています。睡眠時無呼吸症候群は高血圧や糖尿病などの生活習慣病と密接な関わりを持ち、その有病率は3～4%ともいわれ、極めて多い病気であることが明らかになってきました。また、放置された重症な無呼吸では、7～8年後の死亡率が37%との報告もあります。このように睡眠時無呼吸症候群は、医学的にも社会的にも放置できない重要な病気であり、その対応が急がれます。診断・治療には健康保険が適応になっており、鼻づまりやのどの構造上の問題がないかを確認する（耳鼻科）とともに夜間睡眠時ポリグラフィを用いた検査（PSG）や自宅でのCPAP（持続性気道内陽圧呼吸）導入など積極的に行っています。

微力ではありますが、これからも地道に診療、委員会活動を継続していきます。

【スタッフ】

部長 生野 博久

NST認定医
インфекションコントロールドクター(ICD)
医学博士(鹿児島大学)

三宅 健治

日本外科学会認定医
日本医師会認定産業医
日本体育協会スポーツドクター

部長 二木 真琴

日本内科学会総合内科専門医
日本血液学会 専門医
医学博士(日本医科大学)

大磯 陽子

日本内科学会総合内科専門医
日本消化器病学会 専門医
日本消化器内視鏡学会 専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
マンモグラフィ読影認定医
日本人間ドック学会認定医
日本人間ドック健診専門医
日本医師会認定産業医

【診療実績】

クリニック外来患者数(2018年1月1日～12月31日)

初診	再診	患者延べ数	1日平均(稼働日数270.0日)			初診率
			合計	初診	再診	
2,604	5,065	7,669	28.5	9.7	18.8	34.0%

今給黎総合病院外来患者数(2018年1月1日～12月31日)

初診	再診	患者延べ数	1日平均(稼働日数270.0日)			初診率
			合計	初診	再診	
712	331	1,043	3.9	2.6	1.2	68.3%

【予防接種件数】(2018年1月1日～12月31日)

	肺炎球菌	麻疹	インフルエンザ	おたふく	麻疹	風疹	B型肝炎	水痘	二種混合	風疹	日本脳炎	A型肝炎	破傷風	合計
1月	2	1	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	20
2月	9	0	5	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	16
3月	21	1	3	1	0	1	1	0	0	0	9	0	0	37
4月	14	0	0	0	0	1	0	1	0	0	3	0	0	19
5月	14	1	0	3	4	3	0	0	0	3	0	0	0	28
6月	6	0	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	1	12
7月	4	0	0	1	1	2	2	0	0	0	0	0	0	10
8月	7	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3	0	0	12
9月	4	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	7
10月	14	0	62	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	80
11月	6	0	346	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	355
12月	3	0	159	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	164
総合計	104	3	591	6	7	18	3	1	7	18	0	2	2	760

【睡眠時無呼吸症候群の診療状況】(2018年1月1日～12月31日)

	2016年	2017年	2018年
終夜睡眠ポリグラフ検査(件数)			
病院(含む循環器内科)簡易検査	43	46	29
クリニック(含む耳鼻咽喉科)簡易検査	27	53	44
病院(含む循環器内科)PSG	28	32	26
CPAP導入(件数)	16	48	32



血液内科

部長 小濱 浩介

【概要】

白血病、悪性リンパ腫、成人T細胞白血病、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの血液の悪性疾患から、各種貧血、出血傾向をきたす疾患（紫斑病等）の診療を行っています。当院は血液学会認定研修施設となっており、総合病院として放射線治療をはじめとしたスムーズな多科連携を伴う集学的治療が可能であることが特徴です。

2018年の入院患者実績は以下の通りです。スタッフの増員から、徐々に入院患者数は増加傾向となってきています。

	延べ入院数	新規入院数
悪性リンパ腫	52	23
多発性骨髄腫	57	17
成人T細胞白血病リンパ腫	15	10
急性白血病	5	2
骨髄異形成症候群	3	2
膠原病類縁疾患	13	8
紫斑病	3	3
その他、感染症含む	57	46

【スタッフ】

小濱 浩介 血液内科部長

日本血液学会血液専門医、指導医
日本内科学会認定内科医
日本がん治療認定機構がん治療認定医
医学博士（鹿児島大学）

井上 大栄 血液内科部長

日本血液学会血液専門医
日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医



糖尿病内科

部長 盛満 慎吾

【診療内容、特色】

鹿児島県内最大の民間の総合病院であることの人的および設備的なメリットを生かして、あらゆる病期の糖尿病患者様につきまして、血糖コントロールおよび慢性透析を除く糖尿病に伴う全ての合併症の管理ができます。ただ、診療体制としましては、450床という病院規模に対して昨年度と同様に常勤医1名、非常勤医1名の2名と担当医の数は全く不十分で、治療を希望して来られた患者様に対して、十分な診療を提供できない状態が続いております。

また、当院が地域連携支援病院に指定されていることもあり、入院患者様を積極的に受け入れるようにとの当院の運営方針もあり、入院患者様につきましては、概ね、いつでも受け入れ可能ですが、現状では外来患者様の受け入れにつきましては、困難となっております。そのため、初診で来られた糖尿病患者様につきましては、掛かり付け医があるようならば、引き続き、掛かり付け医での治療の継続をお願いし、もし、掛かり付け医より入院の必要があると言われ、紹介状をお持ち頂いた患者様につきましては、当科で入院治療をさせて頂き、退院後は、再び、かかりつけ医での治療を継続して頂くこととしております。また、全くの無治療で掛かり付け医をお持ちでない糖尿病患者様につきましては、当科外来もしくは入院で治療をさせて頂き、血糖コントロールが改善傾向となり、安定してきたところ、概ね、治療開始後3～6ヶ月を目処として、お住まいや職場の近くの医療機関にご紹介させて頂くことと致しております。そのため、継続的な外来治療を希望される患者様の受け入れは、現在のところ、困難となっております。

【スタッフ紹介】

部長 盛満 慎吾

所属学会：日本内科学会、日本糖尿病学会

資格：日本内科学会総合内科専門医

日本糖尿病学会専門医

【外来診察担当（今給黎総合病院）】

	月	火	水	木	金	土
AM	盛満*	盛満	盛満	盛満	盛満*	休診
PM	休診	休診	休診	休診	休診	

* 予約再診のみ

非常勤医 濱崎 秀崇

所属学会：日本内科学会、日本糖尿病学会

日本内分泌学会

資格：日本内科学会総合内科専門医

日本糖尿病学会専門医、医学博士

【外来診察担当（昭和会クリニック）】

	月	火	水	木	金	土
AM	濱崎	休診	休診	濱崎	休診	休診
PM	濱崎	休診	休診	濱崎	休診	

【平成31年の計画】

前述のように常勤医1名＋非常勤医1名と450床という病床数に対して、担当医の圧倒的な不足状態は続いております。また、患者様の増加、特に無治療や合併症をお持ちの重症な患者様の増加は著しく、現在の当科の診療体制では質および量の面において、すでに限界に達しております。また、当院が地域連携支援病院に指定されたこともあり、積極的に入院患者様を受け入れるようにとの当院の運営方針もあり、入院患者様につきましては受け入れ可能ですが、外来患者様につきましては、全ての患者様を受け入れることは困難となっております。そのため、外来での治療のご依頼はお受けすることはできませんが、もし、入院治療を必要とされる患者様がおられましたら、ご紹介頂ければ積極的に入院の上で治療をさせて頂きたいと考えております。また、その際の入院スケジュールおよび入院目標を明らかにするため、昨年度のこの紙面で書かせて頂いておりましたクリニカルパスの運用につきましては、まだ、準備中で開始には至っておりません。クリニカルパスが完成しましたら、改めて、ご連絡を差し上げたいと思いますので、その際は、治療でお困りの患者様をご紹介頂ければと思います。この場をお借りしお願いする次第です。

また、糖尿病性細小血管障害の評価につきましては、現在でも入院下では十分に行えております

が、以前は、入院下で行ってございました動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックが、DPC（診断群分類包括評価）といわれる包括医療制度上、入院下では十分に行い難くなってきております。そのために、末梢血管の動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックは外来で行えるようにシステムを構築し、通院中の全患者様に検査を受けて頂くようにしているところであります。他方、生命予後に係わる心血管疾患および脳血管疾患等の動脈硬化性疾患の評価は、まだ、不十分かと思っておりますので、今年度は、まずは脳血管障害のチェックとしての頭部MRIだけでも前期高齢者以上の高齢の患者様には受けて頂くようにしたいと考えております。また、糖尿病の新たな合併症としての認知症につきましても、現在のところ、DASC-8スコアの定期的にチェックより開始したいと考えております。

最後に、糖尿病患者様方に対して、一病息災という理念の下に、QOLを維持しつつ健康な方々とかかわらない寿命を可能な限り保障出来るように、今後とも努力してまいりたいと思っております。今後ともかわらぬご支援の程をお願い申し上げます。



消化器内科

部長 吉永英希

消化器内科は、月曜日から土曜日まで外来患者様の検査・治療、入院患者様の診療・加療を行っており、消化器外科や放射線科との共同で集学的な治療をご提供しています。

当院は日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化管学会認定指導施設、日本胆道学会指導医制度指導施設で有り、当科には日本消化器内視鏡学会認定指導医 2 名、専門医 2 名が常勤し高度の内視鏡検査治療が可能となっています。また、内視鏡室には 7 名の専属スタッフ（すべて日本消化器内視鏡学会認定内視鏡技師：6 名）が常勤し、当科の安全性と質の高い医療を提供する要となっております。

検査に関しましては腹部超音波検査、上・下部内視鏡検査、超音波内視鏡検査、EUS-FNA：超音波内視鏡下生検～穿刺吸引細胞診、ERCP：内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査、IDUS、食道胃透視撮影検査、注腸透視撮影検査、肝生検、肝炎ウイルス検査等を行っております。

治療に関しましてはほぼ全ての消化器疾患の内科的治療をはじめとし、上部・下部内視鏡的止血術、イレウスチューブ留置術、内視鏡的異物除去術、内視鏡的消化管拡張術、消化管ステント留置術、内視鏡的静脈瘤結紮術・硬化療法、EMR：内視鏡的粘膜切除術、ESD：内視鏡的粘膜下層剥離術、内視鏡的ポリープ切除術、超音波ガイド下穿刺吸引細胞診～ドレナージ術、内視鏡的胆道ドレナージ術、内視鏡下乳頭切開術～拡張術、内視鏡下胆道拡張術、内視鏡下胆管結石砕石～採石術、内視鏡下胆管～膵管ステント留置術、内視鏡下胃瘻造設術、消化器癌に対する化学療法、ウイルス性肝疾患の加療、肝臓における Angio 動注療法、ラジオ波焼灼療法など多岐にわたっております。

当科の特徴としましては消化器内視鏡に関するほとんど全ての検査～治療をまんべんなく取り扱っており、放射線科、病理診断科、外科と連携し、診断から治療まで一貫して行っています。当院が急性期の総合病院である特色から他科疾患合併症を有するリスクの高い患者様、緊急処置を必要とする患者様の救急搬送が多い事等です。外来は離島を含め県内各地の多数の医療機関と病診連携をとっております。

また、当院は地域がん診療連携拠点病院であり、質の高いがん医療の提供に努めています。当科でも専門医が超音波内視鏡検査等高度の画像診断技

術を用い、がんの早期発見治療に積極的に取り組んでいます。

以前より懸案となっておりました常勤医師の増員ですが、昨年 4 月より山崎先生の着任、途絶えていました昭和大学からの派遣が復活したことにより計 6 名の常勤医師体制となりました。山崎先生は肝臓内科の専門医でもありウイルス性肝疾患の加療、肝臓における Angio 動注療法、ラジオ波焼灼療法等専門的加療も行えるようになりました。昭和大学からは倉田先生、西川先生、浅見先生が短期間ずつではありますが交代で着任され、現在は松原先生が 2019 年 4 月から着任されております。また、常勤 2 名体制の頃から呼吸器外科との併任でがんばって頂いておりました水流先生が担当交代で救急救命科にご転任され、4 月より福岡大学筑紫病院から中馬先生が着任されています。これまで中心となられていました今給黎和幸先生が新理事長となられ病院経営、運營業務で多忙となっておりますが、今後もこの体制を維持し、新生今給黎病院の中核となれるようさらなる発展を目指して頑張っていく所存です。

【スタッフ紹介】

常勤医師

吉永 英希

部長

日本消化器内視鏡学会認定専門医・指導医

日本消化管学会胃腸科専門医・指導医

今給黎 和幸

科長、副院長

日本内科学会認定総合内科専門医

日本消化器病学会消化器病専門医・指導医

日本消化器内視鏡学会認定専門医・指導医

日本消化管学会胃腸科専門医・指導医

日本人間ドック学会認定医

日本胆道学会認定専門医・指導医

山崎 晃裕

医長

日本内科学会認定総合内科専門医

日本消化器病学会消化器病専門医

日本肝臓学会肝臓病専門医

奈良 博文
 日日本内科学会認定総合内科専門医
 日本消化器病学会消化器病専門医
 日本消化器内視鏡学会認定専門医

中馬 健太
 日本内科学会認定医

非常勤医師
 松本美由紀 丸尾周三 小牧蒔子 鶴留一誠

内視鏡室 看護師
 梅北裕司 山元真貴子 江口万美 有菌佳那
 小橋口直美 隈元美幸 新門美保

【外来診療日】 月曜～土曜日 午前（完全予約制）

月	火	水	木	金	土
山崎 小川	吉永 奈良	今給 中馬	吉永 奈良	中馬 山崎	交代制

診療、検査、投薬などは全て予約制です。
 午後からは基本検査のみとなっております。
 紹介患者様は別です。

【診療状況】（2018年1月～12月）

外来患者数 初診 1,178名、再診 6,179名
 入院患者数 730名

【内視鏡検査件数】（2018年1月～12月）

検査名	件数
胃・十二指腸内視鏡検査	1,973
食道内視鏡検査	3
下部消化管内視鏡検査	911
小腸内視鏡検査	13
内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)	137
超音波内視鏡検査(EUS)	174
超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)	14
超音波内視鏡下瘻孔形成術	22
IDUS	38

【内視鏡治療・処置件数】（2018年1月～12月）

治療・処置名	件数
上部消化管内視鏡的止血術	32
下部消化管内視鏡的止血術	9
経口イレウス管留置術	28
経肛門的イレウス管留置術	5
内視鏡的消化管異物除去(上部・下部)	10
内視鏡的静脈瘤硬化療法・結紮術(EIS・EVL)	6
内視鏡的胃・十二指腸ポリープ粘膜切除術(EMR)	3
内視鏡的早期食道癌粘膜下層剥離術(ESD)	11
内視鏡的早期胃癌粘膜下層剥離術(ESD)	13
内視鏡的大腸ポリープ粘膜切除術(EMR)	220
内視鏡的早期大腸癌粘膜下層剥離術(ESD)	6
内視鏡下食道狭窄拡張術	27
食道ステント留置術	7
内視鏡下胃・十二指腸狭窄拡張術	4
胃・十二指腸ステント留置術	10
内視鏡的乳頭切開術(EST)	10
内視鏡的乳頭拡張術(EPBD)	5
内視鏡的胆道結石砕石術(EML)	15
内視鏡的胆道結石採石術	15
内視鏡的胆道ドレナージ(ENBD・ERBD)	89
内視鏡的胆道ステント留置術	12
内視鏡的膵管ステント留置術	4
内視鏡下胃瘻造設術(PEG)	37
胃瘻交換	78
内視鏡下軸捻転整復術	4
胃瘻閉鎖術	2
内視鏡的小腸結腸狭窄部拡張術	2
内視鏡下大腸ステント留置術	5

【活動】

- ・久木田学園看護専門学校
 非常勤講師として講義開講 吉永 英希

【多施設共同研究】

- ・Bilio-Pancreatic Stenting 研究会より
 「非切除肝門部悪性胆道閉塞に対するメタリック
 ステントの留置方法を比較検討する多施設共同
 無作為比較試験（片葉ドレナージ VS 両葉ドレナ
 ージ）」
 「ERCP 後膵炎に関する多施設共同前向き観察研究」
- ・埼玉医科大学との共同研究、難治性疾患克服事業
 「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」

※学会関連は[研究実績]に掲載



循環器内科

科長 志岐健三郎

【特色】

当科は、鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 心臓血管・高血圧内科学（旧第一内科学）教室から派遣された医師を中心として構成されています。循環器疾患の外来・入院診療、他科から依頼される術前および心疾患精査、救急患者の対応を経胸壁・経食道心エコー、頸動脈エコー、下肢動静脈エコーなどの超音波検査、運動・薬物負荷心筋シンチグラフィ、冠動脈CTを駆使し生理検査室、放射線科と連携して多様に診療をこなしています。

【人事・スタッフ】

平成30年度：

部長 大場一郎、科長 志岐健三郎、科長 下舞浩二

平成31年度：

部長(院長兼任) 濱崎秀一、科長 志岐健三郎、科長 下舞浩二

その他に毎年、院内研修医または鹿児島大学研修ローテーションによる研修医を加えて、外来・病棟の診療を行っています。超音波検査は主に生理検査技師の富吉裕児、森田修康が行っています。院内や外来、他院からの問い合わせには外来受付・看護師が対応し、患者様の診断・治療を円滑に行えるよう皆が心を一つに協力しています。

【診療状況】

1) 外来診療

外来診察は3人の医師が新患・再来を曜日変わりで担当しています。平成30年度の平均外来患者数は、一日あたり20.3名でしたが、院内紹介患者がほぼ同数に上ります。再来患者様については待ち時間短縮のために予約制をとっています。対象疾患としては、高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病、狭心症・心筋梗塞などの虚血性心疾患、拡張型心筋症や陳旧性心筋梗塞後など心筋疾患による慢性心不全、心房細動・上室性頻拍・症候性徐脈などの不整脈および弁膜疾患、下肢閉塞性動脈硬化症（ASO）や深部静脈血栓症（DVT）などの下肢血管疾患、大動脈解離などの救急対応と循環器疾患全般の診察や治療を行っています。冠動脈疾患の精査については、冠動脈造影CT診断が放射線部のレベルアップによって解析が迅速化し、従来よりも大量かつ詳細な画像診断が可能になりま

した。併せて心筋シンチなどの核医学検査を放射線科医師と協同して行うことで診断の精度向上を常に目指しています。当院では、現在、カテーテル検査およびカテーテル治療は行っていませんので、鹿児島大学病院・鹿児島医療センター・鹿児島市立病院・天陽会中央病院などの心臓カテーテル施設との緊密な連携により迅速な診断と加療を実現しています。最近では、鹿児島大学病院心臓血管内科・鹿児島医療センター・鹿児島市立病院にて発作性心房粗動・心房細動・上室性頻拍症に対してカテーテルアブレーション術を施行された症例を連携してフォローする症例が増えています。一方で循環器疾患患者様のうち病状が安定している患者様については自宅近くの医療機関への逆紹介を増やし病診連携を図っています。

2) 入院診療

2018年の入院数は153名でした。最も多い症例は、急性心不全および慢性心不全急性増悪(全体の38%)でした。救急搬送されるケースも多数認めます。循環・呼吸状態を改善させた後、病棟にて引き続き加療を行い全身状態の改善を確認して退院となります。うっ血性心不全の傾向としては、心房細動合併症例が多く心不全症例の7割に合併しています。また中等度以上の僧帽弁閉鎖不全・大動脈弁狭窄症の合併が16%、その他、慢性呼吸器疾患の合併も16%と増加傾向にあります。肺血栓症・深部静脈血栓・左心房内・動脈血栓の血栓症例の入院症例は7例でしたが、下大静脈フィルター留置症例は1例のみでした。これは、外来レベルで経口抗凝固薬の投与症例が増えている影響と思われる。ペースメーカー植え込み術は、平成30年度は新規植え込み症例が3件、電池交換・リード追加症例が3件でした。他に、当院における当科の特徴としては、院内の他科からの診療依頼が多いことがあげられます。他科の手術前の心機能評価・下肢静脈血栓の評価依頼・化学療法時の心機能評価、ならびに他科入院症例で心血管イベント発症時の診療も、主治医と協力しながら行っております。

【循環器内科関連の検査】（外来入院併せて）

心エコー	2805 件
下肢静脈エコー	397 件
頸動脈エコー	860 件
ホルター心電図	145 件
ABI 検査	202 件
冠動脈 MDCT	50 件
心筋シンチ	37 件
大血管 CT(静脈系含む)	18 件

【平成 31 年度に向けて】

平成32年度の新病院移転に向け、濱崎秀一新院長が平成31年4月より着任しましたが、院長・循環器内科部長の兼任となります。For the patient、Patient firstのpolicyのもと現在の診療内容をさらに充実させるよう努めていきます。鹿児島大学病院や鹿児島市立病院、鹿児島医療センター、天陽会中央病院の心臓カテーテル検査施設との協力をいっそう深めていき、さらに地域医師会の先生方の診療にも一層お役に立てるよう努めます。総合病院である当院の特色から循環器内科に限らず幅広い疾患を経験する機会が多く、研修医にとって良好な研修環境にあると思います。今後はさらに研修医の指導にもより多くの力を注いでいきたいと考えています。



呼吸器内科

部長 岩川 純

今給黎総合病院呼吸器内科は平成30年度、部長の岩川を始め、萩原、亀之原、大脇の4人体制でした。平成31年度は亀之原先生が鹿児島大学病院に転任となり、入れ替わりで松山が着任し、留任した岩川、萩原、大脇とともに4人体制で業務に当たっています。専門医としての自覚を持ってサービスを提供し、患者・周囲の医療者から選ばれる呼吸器内科を目指し、日々診療を行っております。

【当科の主な診療疾患】

- ・ 肺癌、胸部悪性疾患
- ・ 肺炎、呼吸器感染症
- ・ 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）
- ・ 間質性肺炎、びまん性肺疾患

呼吸器診療は主に上記の疾患の治療を行っております。肺癌の予後は依然として満足いくものではありませんが、近年の治療進歩は著しく、トピックとしては免疫チェックポイント阻害剤が挙げられます。平成27年以降、本邦で使用可能となり、二次治療だけでなく一次治療でも有効性が確認され、また細胞障害性抗癌剤に免疫チェックポイント阻害剤上乗せの高い有効性も示されています。但し、決して全ての肺癌に効果のある夢の新薬でなく、効果が高いとされる患者の選定と、適正に使用することが重要です。また、抗癌剤とは異なる免疫関連の特殊な有害事象への対応も重要で、各科との密な連携が必要となります。

平成29年度、肺炎は日本人の死因第5位となりました。前年度第3位からランクダウンしたものの、高齢化もあり、肺炎に罹患する患者数は今後増加すると思われます。高齢者の肺炎に関しては予防も重要であり、当科では積極的に肺炎球菌ワクチンの投与を行っています。しかし繰り返す嚥下性肺炎等、人生の終末期における治らない肺炎があるという認識は必要だと思います。

【外来・入院診療】

外来患者数および入院患者疾患内訳は、表に示す通りです。肺癌患者が年々増加していましたが、平成29年以降入院患者数は減少しました。肺癌化学療法については繰り返し入院での治療を行わず、可能な限り外来化学療法を行うよう努めた結果です。その代わり、特発性間質性肺炎を中心としたびまん性肺疾患が増多しました。間質性肺炎は先の細菌性肺炎とは全く異なり、肺が固くなることで呼吸状態が悪化し、様々な呼吸管理や治療が必要になります。他科では治療や診断も困難

なため、当科が治療に当たるべきだと考えています。

外来患者数は新患者、特に紹介患者数が増多傾向にありますが、外来の延べ人数は減少傾向です。軽症、安定期の状態の方は逆紹介を行い地域で診て頂くようにした結果と考えております。場合によっては当科と並診とさせていただき、画像、生理検査などは当科で定期的に行うこともしております。

気管支鏡については平成29年度から160-170件施行しています。今年度から超音波気管支鏡（EBUS-GSによる生検診断、EBUS-TBNAによる縦隔リンパ節診断など）を導入しより安全に、正確に診断が可能となるように努力しております。

表1) 外来患者数

	延べ患者数	新患者数
平成26年	6,398	522
平成27年	5,548	553
平成28年	6,049	618
平成29年	5,306	665
平成30年	5,316	620

表2) 入院患者疾患内訳

	26年	27年	28年	29年	30年
肺癌・胸部悪性疾患	356	337	369	200	314
肺炎	43	51	44	54	70
びまん性肺疾患	25	28	24	78	62
気管支喘息	9	5	4	18	16
慢性閉塞性肺疾患	12	9	11	12	18
肺結核	5	13	4	5	4
その他	65	49	71	174	166
合計	515	492	527	566	650

表3) 気管支鏡数(呼吸器外科・内科合算)

	件数
平成26年	91
平成27年	105
平成28年	101
平成29年	170
平成30年	166



脳神経内科

代理部長 林 茂 昭

当院脳神経内科は鹿児島大学脳神経内科・老年病学講座を母体とした医局で、丸山医師・長堂医師・林医師・湯地医師・小田医師は同科の出身または同科在籍中の医師です。この5人と鳥取大学脳神経内科出身の甲斐医師を含めた6人が当科の常勤医で、うち丸山医師・長堂医師・林医師・甲斐医師の4人が日本神経学会神経内科専門医で、湯地医師・小田医師も今後同資格を取得予定です。加えて鹿児島大学から6人の非常勤医師にも応援をいただき、頭痛・めまい・しびれ等の症状や脳卒中・パーキンソン病・アルツハイマー型認知症等の一般神経内科外来から急性期神経疾患の救命救急医療・急性期リハビリテーションまでの神経内科診療をこなしています。鹿児島大学の脳神経内科・老年病学講座が日本においても最も規模が大きく且つ歴史のある脳神経内科教室のひとつである事もあり、鹿児島県は他の県に比べ脳神経内科医が非常に多い県です。しかし、脳神経内科医6人を常勤として抱え神経救急を行っている私立病院は全国的にも多くはなく、鹿児島県における神経内科診療に多少なりとも貢献できているものと、私どもは自負しております。

平成30年は人事異動があり、3月末で小田医師が鹿児島大学病院脳神経内科に異動となっています。また8月末には、部長の長堂医師が開業されるため退職されました。平成30年は前年より2人少ない状況で診療を継続しておりました。人数は減りましたが、お互いが連携・協力すること、鹿児島大学脳神経内科からの協力をいただいたことにより、外来体制を崩すことなく診療を継続することができました。

平成30年の診療実績は下記の通りとなっています。

入院患者様ですが、507名が平成30年1月1日～12月31日の1年間で入院されました。その中では脳血管障害・感染症・パーキンソン病の3疾患が大きな割合を占めています。脳神経内科という科の性質上、予定入院に比べると緊急入院が圧倒的に多いことを考えると、ほぼ毎日1.4人の入院患者を受け入れてくれる病棟スタッフには頭の下がる思いです。外来患者様は、1年間の初診患者は約880人、外

来患者総数が約9,300人、1日平均外来患者数は約34.5人でした。病棟は別館2階南病棟の42床で、脳神経内科と皮膚科の混合病棟となっており、皮膚科の三好先生には時間を問わず的確なご指導をいただき、脳神経内科一同感謝の気持ちでいっぱいです。

病棟スタッフは稲森師長をはじめとする看護師が激務をこなしながらも、笑顔を絶やさず日夜仕事に励んでいます。脳神経内科は他科に比べご高齢の患者様やADLの低下した患者様も多い中、クオリティの高い看護・介護を実践していただき、患者様だけではなく医師にとっても本当に働きやすい病棟です。

外来は、有能で気配りのできる医療クラークの片山さんが、キャラクターの異なるそれぞれの医師を上手くおだてながら、脳神経内科外来のすべてを取り仕切っています。

日常診療以外の業務としては、丸山医師は副院長としての多くの院内・院外激務に加え、各種研究会の世話人、血液凝固・神経関連の講演を行い、長堂医師は鹿児島大学医学部非常勤講師として医学部学生講義と久木田学園看護専門学校での授業、臨床研修医対応、各種講演会などを行っています。また林医師・甲斐医師・小田医師の3名は訪問診療も行っていきます。このように、全員が医療以外にも多くの雑多な用事を両手いっぱい抱えながらコマネズミのように毎日走り回っています。

以上、簡単ではありますが今給黎総合病院脳神経内科の日常をご紹介します。ありがとうございました。

【スタッフ】

丸山 芳一 副院長

医学博士、日本神経学会専門医、
日本内科学会認定医、日本神経学会評議員
愛媛大学医学部卒

長堂 竜維 神経内科部長

医学博士、日本神経学会専門医、
日本内科学会認定医、鹿児島大学臨床教授、
鹿児島大学医学部非常勤講師、
日本神経学会評議員・代議員、
日本神経学会九州地方会世話人、
久木田学園非常勤講師、鹿児島大学医学部卒

林 茂昭 在宅医療部部長
日本神経学会専門医、日本内科学会認定医、
日本内科学会総合内科専門医
鹿児島大学医学部卒

非常勤医師
丸山征郎（血管病）
有村由美子（電気生理検査）
橋口照人（神経内科、糖尿病）
荒田 仁（神経内科）
橋口良也（頸部血管超音波検査）
吉村道由（電気生理検査）

甲斐 太 在宅医療部科長
医学博士、日本神経学会専門医、
日本内科学会認定医、鳥取大学医学部卒

湯地 美佳：鹿児島大学医学部卒

小田 健太郎：鹿児島大学医学部卒

【診療状況】（2018年1月1日～12月31日）

【外来患者】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
初診	89	93	106	105	117	120	116	100	105	81	91	83	1,206
再診	715	711	753	743	781	783	777	745	714	771	671	731	8,895
合計	804	804	859	848	898	903	893	845	819	852	762	814	10,101
1日平均初診患者数	4.2	4.4	4.5	4.8	5.2	5.1	5.0	4.1	5.1	3.4	4.0	3.9	-
1日平均再診患者数	34.0	33.9	32.0	33.8	34.7	33.3	33.8	30.4	34.8	32.1	29.8	34.0	-
1日平均患者数	38.3	38.3	36.6	38.5	39.9	38.4	38.8	34.5	40.0	35.5	33.9	37.9	-
診療実日数	21.0	21.0	23.5	22.0	22.5	23.5	23.0	24.5	20.5	24.0	22.5	21.5	269.5

（昭和会クリニック含）

【入院患者】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
入院	30	39	54	43	54	36	42	32	33	39	35	28	465	38.8
退院	41	39	54	49	48	36	42	37	3	39	24	38	450	37.5
在院	1,205	1,039	981	965	954	924	1,011	943	863	765	901	942	1,1493	957.8
平均病床数	38.8	37.1	31.6	32.1	30.7	30.8	32.6	30.4	28.7	24.6	30	30.3	377.7	31.5
平均在院日数	30.5	26.6	18.1	20.9	18.7	25.6	24	27.3	25.7	19.6	30.5	28.5	296	24.7

【入院患者内訳】（2018年1月1日～12月31日）

脳血管障害	131
変性疾患	61
筋疾患	37
末梢神経障害	29
てんかん	22
脱髄性疾患	13
自己免疫疾患	10
内分泌代謝疾患	9
感染症	77
呼吸器感染症	(41)
中枢感染症	(17)

尿路感染症	(13)
消化器感染症	(4)
皮膚感染症	(2)
腫瘍性疾患	6
水頭症	6
血液疾患	6
膠原病関連疾患	5
運動神経疾患	2
骨関節疾患	17
頭痛	4
めまい	21

失神	8
その他	43
合計	507

感染症の内訳

呼吸器感染症	41
中枢感染症	17
尿路感染症	13
消化器感染症	4
皮膚感染症	2

脳血管障害の内訳

脳梗塞	96
TIA	19
外傷性くも膜下出血	3
一過性全健忘	2
胸椎圧迫骨折	1
小脳梗塞疑い	1
小脳出血	1
静脈洞血栓症、筋ジス	1
脊髄梗塞	1
椎骨脳底動脈循環不全	1
頭部打撲、TIA	1
脳幹出血	1
脳出血	1
脳出血後遺症	1
慢性硬膜下血腫	1



外科 (肝臓・消化器・乳線・内分泌・小児・肛門)

部長 小倉 芳 人

今年度、外科の人員構成が大幅に変更となりました。まずは、長きにわたり外科をささえてこられた2人の先生方が交代することとなりました。1人目は、13年間の長きにわたり勤めてこられた牟禮洋先生が今年定年を迎えられ外科を一旦退職されることとなりました。最近では研修医の獲得を目指して環境整備や教育指導に力を入れてこられました。来年度は多数の研修医が当院での研修を希望したとのことで、先生のご尽力の賜物と思いません。今後は総合診療科として病院を支えてくださるとのことで、裏方として外科も支えてくださることとっております。2人目は、7年間外科にてご活躍された濱ノ上雅博先生が転出されました。しばらく離島医療に貢献されることとご活躍を祈っております。その他に、实操二先生と櫻井俊秀先生がそれぞれ転出されました。かわりに、外科主任部長として小倉芳人が、その他に緒方俊二先生・田中貴子先生(8月～12月)・大井秀之先生(1月～)がそれぞれ着任いたしました。野口智弘先生ひとりが継続勤務となりましたが、既存の良いものは継承し、新しい風を吹かしていきたいと思っております。

診療に関して、外科は救急医療と腫瘍外科の二つを柱として取り組んでおります。一つ目の柱である救急医療は、連携を伴った高度医療により救命率の向上と機能温存を目指すことを念頭に考えております。当院は総合病院ですのでそのメリットを最大限に利用し、複数科にまたがる重症症例に関しても他科との連携体制をとって対応しております。特に、消化器疾患に関しては、消化器内科の協力のもと内科的治療と外科的治療を組み合わせ、過度の外科侵襲を抑えることを目指しています。このことは救命率を向上や機能温存にも反映されていることと思っております。次に二つ目の柱の腫瘍外科に関しては、診断から治療まで、時には緩和医療まで切れ目のない医療の提供や最先端の医療の提供を心がけております。外科が主に扱う治療は外科手術と薬物療法が挙げられます。外科手術に関しては多くの手術において腹腔鏡下手術を標準治療として取り入れ、患者様の負担の少ない手術を目指しております。更に、肝胆膵領域といった少し専門性を要する手術に関しても日本肝胆膵外科学会の指導医のもと安全に手術が行われるように努めております。薬物療法においては、近年の癌治療の進歩に遅れることなく、最新の医療を提供することを務めております。中で

も、昨年本庶佑先生がノーベル賞を受賞したことから免疫療法にも注目されております。今後、胃癌・大腸癌をはじめ広い範囲の腫瘍に今後この治療が行われていくことと思っておりますので順次対応していきたいと思っております。

その他の新しい取り組みとして、従来の外來における乳腺診療のほかに、2018年12月より鹿児島大学消化器外科・乳腺甲状腺外科学教室のご協力により、女性乳腺専門医による乳腺外來を月2回開始することとなりました。乳腺疾患はその特性によりほとんどは女性の患者様です。マンモグラフィ検査に関しては今までも女性放射線技師による検査を行ってききましたが、いざ診察になると男性医師が対応しているという状況でした。今回、日時は限られていますが女性医師による診察が可能となった環境ができました。今まで羞恥心等が壁となってきた方々にはこの機会に検診や診察を受けていただければと思います。

現在、消化器に関しては毎週1回、消化器内科・外科・放射線科・病理診断科等が合同でカンファレンスを行っております。現在は手術症例を中心に検討しておりますが、診断や治療方針に難渋している症例も提示してもらい、各科が忌憚ない意見交換を行い適切な治療が選択できるようにしております。外科としては、手術症例の結果を速やかに報告し、診断や手術の問題点を提起し各科にフィードバックできるようにしております。時には呼吸器内科や呼吸器外科にも参加していただき、ALL今給黎病院の態勢で治療できるようにしております。

当院での手術症例は、すべて全国手術症例登録システム(NCD)に登録しております。これは今後導入される専門医制度に連携したシステムで、すでに外科領域の種々の専門医制度には利用されています。NCDシステムは医師個人の資格取得や維持にも重要で、連携していただく先生方や当院にて研修される先生方のお役に立てるように進めていきたいと思っております。また、本システムは個人情報の管理に関しても厳重に対応しておりますので患者様は安心してご協力いただければと思います。

2020年12月には新病院が完成し移転する予定です。その際にロボット手術の導入も検討していることとです。今後は診療のみならず、若い医師の教育にも力を入れていきたいと考えており、多くの外科を目指す先生方にとって魅力ある病院作りにも取り組んでいきたいと考えております。

【人事】

勤務者

＜医師＞

(転入)

牟禮 洋 : ～平成 31 年 1 月
 濱之上 雅博 : ～平成 30 年 7 月
 實 操二 : ～平成 30 年 7 月
 櫻井 俊秀 : ～平成 30 年 7 月

(継続)

野口 智弘

(転入)

小倉 芳人 : 平成 30 年 8 月～
 緒方 俊二 : 平成 30 年 8 月～
 田中 貴子 : 平成 30 年 8 月～平成 30 年 12 月
 大井 秀之 : 平成 31 年 1 月～

＜看護師＞

中村唯子、村崎まこと、宮内かなえ、永野綾

＜診療クラーク＞

手塚あゆみ、上鶴智美

＜診療アシスタント＞

福和佳子、龍田ちおり

【診療状況】

＜外来患者状況＞

平成 30 年の外来受診者総数(延べ)は 4, 141 名であった。

その内訳は、初診患者：573 名、再診患者：3, 647 名。

＜入院患者＞ 573 名 / 年

【手術症例内訳】

全身麻酔症例 255 例

脊椎麻酔症例 17 例

全身麻酔症例

疾患部位	例数	悪性	良性	鏡視下
甲状腺	2	2		
乳腺	5	5		
胃	12	10	2	4
小腸	12	1	11	1
結腸・直腸	55	44	11	29
虫垂	21		21	21
肝臓	13	12	1	
胆嚢・胆管	42	4	38	31
膵臓	6	5	1	
ヘルニア	75		75	45
その他	12	4	8	

脊椎麻酔症例

疾患部位	例数
肛門	14
ヘルニア	3

※学会関連は[研究実績]に掲載



呼吸器外科

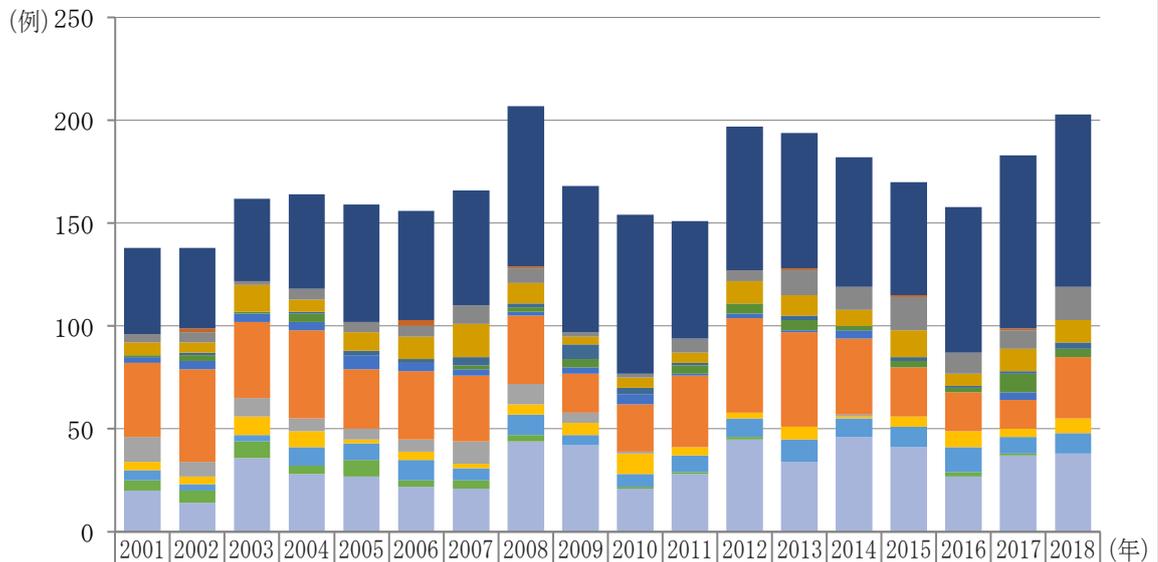
部長 米田 敏

日本呼吸器外科専門医合同委員会基幹施設

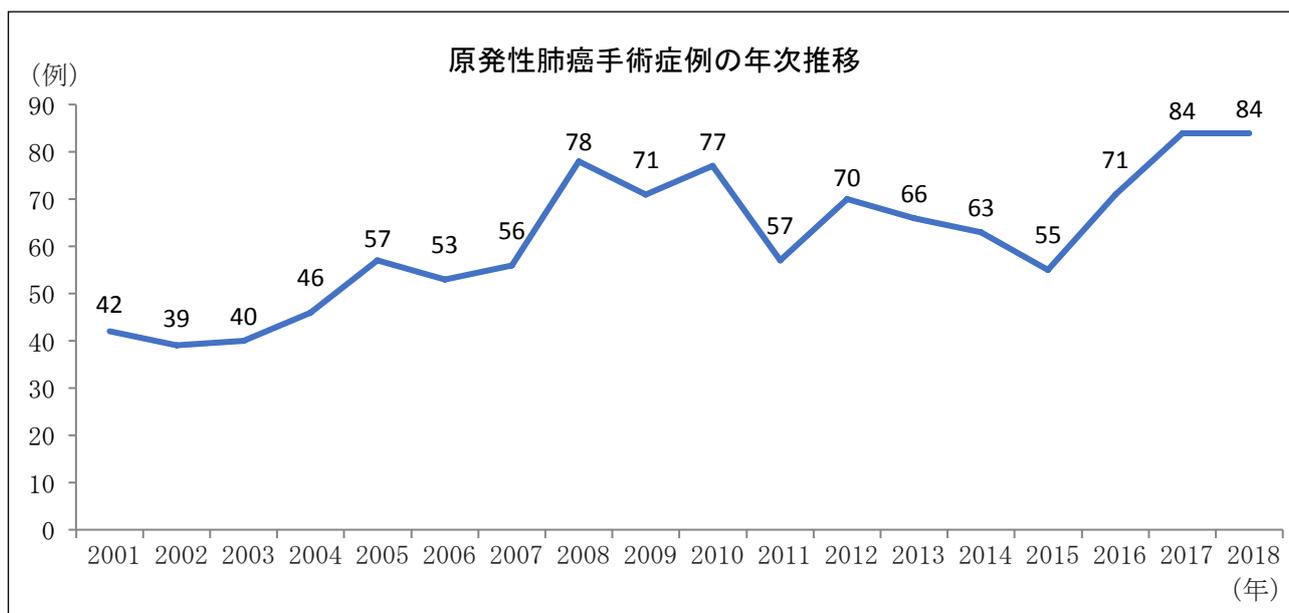
日本呼吸器内視鏡学会関連施設

今年度の年間手術症例は 202 例で、その内訳は肺癌 84 例、転移性肺腫瘍 16 例、縦隔腫瘍 11 例、胸膜中皮腫 3 例、胸壁腫瘍 4 例、肺気腫・自然気胸 30 例、膿胸 7 例、良性肺腫瘍 10 例、その他 38 例でした。

年別手術症例



	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
■ 原発性肺癌	42	39	40	46	57	53	56	78	71	77	57	70	66	63	55	71	84	84
■ 気管・気管支腫瘍	0	2	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0
■ 転移性肺腫瘍	4	5	2	5	5	5	9	7	2	2	7	5	12	11	16	10	9	16
■ 縦隔腫瘍	6	5	13	6	9	11	16	10	4	5	5	11	10	8	13	6	11	11
■ 胸膜中皮腫	0	1	0	1	2	2	4	2	7	3	1	0	2	0	2	1	1	3
■ 胸壁腫瘍	1	3	1	4	0	0	2	2	4	0	4	5	5	2	3	2	9	4
■ 肺気腫 3	3	4	4	4	7	4	3	2	3	5	1	2	1	4	0	0	4	0
■ 自然気胸・血気胸	36	45	37	43	29	33	32	33	19	23	35	46	46	37	24	19	14	30
■ 局所性多汗症	12	7	9	6	5	6	11	10	5	1	0	0	0	1	0	0	0	0
■ 膿胸	4	4	9	8	2	4	2	5	6	10	4	3	6	1	5	8	4	7
■ 良性肺腫瘍	5	3	3	9	8	10	6	10	5	6	8	9	11	9	10	12	8	10
■ 気道狭窄	5	6	8	4	8	3	4	3	0	1	1	1	0	0	0	2	1	0
■ その他	20	14	36	28	27	22	21	44	42	21	28	45	34	46	41	27	37	38



呼吸器外科部長・診療部長

米田 敏

日本外科学会認定医・専門医・指導医
 日本呼吸器外科学会指導医
 日本呼吸器外科専門医認定機構専門医
 日本胸部外科学会認定医・正会員
 日本呼吸器外科学会評議員
 九州外科学会評議員
 日本胸部外科学会九州地方会評議員
 日本肺癌学会九州支部会評議員
 鹿児島大学医学部臨床教授

呼吸器外科科長・副院長

今給黎尚幸

日本外科学会認定医・専門医・指導医
 日本呼吸器外科専門医認定機構専門医
 日本胸部外科学会認定医
 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医
 日本がん治療認定医機構専門医
 日本呼吸器外科学会評議員
 日本胸部外科学会九州地方会評議員
 日本肺癌学会九州支部会評議員

呼吸器外科医員

緑川健介

日本外科学会認定医・専門医

※学会関連は[研究実績]に掲載



整形外科・リハビリテーション科

部長 宮口文宏

整形外科の平成30年の活動状況を報告します。平成30年の整形外科の手術総数は1,590件と前年より増加しました。

勤務医の入れ替わりがある中、手術件数が増加し、多忙な1年となりました。高齢化に伴い、大腿骨頸部骨折や骨粗鬆症関連の骨折や交通外傷、転落等のHigh energy症例、合併症を伴った入院患者様が年々、増加傾向にあります。脊椎外科は内視鏡を使用した小侵襲の手術を希望する患者様も増加しております。クリニックの患者数も昨年度と比較すると増加しています。救急外来の対応件数は減少しましたが、入院総数は増加し、平均稼働率も100.8%と貢献しております。学術活動では日本の主要学会をメインに活動し、今給黎総合病院の学術的評価を高めることができました。現在、専門医制度における指導医も常務しており、臨床研修医の受け入れも多数可能な状態を保っております。

ありとあらゆる整形疾患に対応しておりますので、新入医師の切磋琢磨には最適な医療現場と思われまます。脊椎損傷・脊椎脱臼骨折・脊椎破裂骨折、手外科（指再接着・神経、血管吻合）、膝関節鏡、THA、TKAなど分野で役割分担があります。

日本整形外科学会認定の臨床専門研修施設として、今後益々地域にも貢献できるよう、医師が協力体制を整え、力を注いでいきたいと考えております。

【スタッフ紹介】

今給黎尚典（理事長）
松永俊二（部長・クリニック副院長）
宮口文宏（主任部長）
石田育男（部長）
川畑直也（科長）
堀川良治（科長）
中條正英（医長）
黒島知樹（医員）
坂本和歌子（医員）
有馬敏彦（医員）
太田真隆（医員）
前之園健太（医員）

【人事異動】

入職 7名
堀川良治 平成30年4月1日 入職
黒島知樹 平成30年4月1日 入職
坂本和歌子 平成30年4月1日 入職
有馬敏彦 平成30年4月1日 入職
中條正英 平成30年10月1日 入職
太田真隆 平成30年10月1日 入職
前之園健太 平成30年11月1日 入職

【整形外科初期研修医】

佐保 卓 平成30年8月1日～平成30年8月31日

【主催セミナー】

第1回救急隊・今給黎総合病院合同カンファレンス
第2回救急隊・今給黎総合病院合同カンファレンス

【症例検討会】

レ線カンファレンス 毎日
鹿児島脊椎症例検討会 1回/月

【診療実績】

昭和会クリニック

外来総数 26,833名
初診 3,616名 1日平均 99.6名

今給黎総合病院

外来総数 3,069名 初診 924名 1日平均 8.4名
入院総数 1,332名 平均稼働率 100.8%
平均在院日数 32.2日
手術総件数 1,590件

※学会関連は[研究実績]に掲載

【手術内訳】(2018年1月1日～12月31日)

脊椎(377件、うち顕微鏡下・視鏡下のもの122件)

体外式脊椎固定術 (ハローベスト装着術)	4
頰椎骨折	11
頰椎前方固定術	8
脊椎後方固定術	4
頰椎脊柱管拡大術	2
頰椎椎弓形成術・切除術	40
胸腰仙椎骨折 (椎体形成術を含む)	78
胸腰椎椎間板ヘルニア摘出術	62
胸腰椎拡大開窓術	19
胸腰椎前方固定術	11
胸腰椎後方固定術 (PLF)	6
胸腰椎後方固定術 (PLIF)	28
胸腰椎後方固定術 (その他)	37
胸腰椎椎弓形成術・切除術	60
胸腰椎椎間板摘出術 (ヘルニア以外)	5
脊椎腫瘍手術	1
脊髄腫瘍手術	1

骨関節骨折・脱臼 (414件)

鎖骨・肩鎖関節手術	27
肩関節手術 (上腕骨近位部含む)	33
上腕手術 (骨幹部)	9
肘関節手術 (上腕骨遠位・肘頭・橈骨頭含む)	15
前腕骨手術	77
手関節手術 (前腕骨近位含む)	16
手根管・手指骨手術	22
骨盤・寛骨臼手術	12
大腿骨近位部手術	99
大腿骨手術 (骨幹部)	19
膝関節手術 (大腿骨遠位・脛骨近位・膝蓋骨)	17
下腿骨手術 (骨幹部)	15
足関節手術 (脛腓骨遠位部含む)	46
足根骨 (手骨・距骨)・足趾骨手術	71

抜釘 (119件)

腫瘍手術 (3件)

骨軟部良性腫瘍手術	3
-----------	---

切断術 (7件)

上肢切断術	1
下肢切断術	6

関節手術 (162件、うち視鏡下のもの21件)

肩関節人工骨頭手術	1
肩靭帯断裂形成術	1
肘靭帯断裂縫合術 (視鏡下)	1
手・手指人工関節手術	1
手・手指関節授動手術	1
手・手指関節靭帯断裂縫合手術	1
手根管手術	9
股関節手術 (THA)	26
股関節手術 (人工骨頭)	66
股関節手術 (関節形成)	1
股関節手術 (人工関節抜去)	1
膝関節手術 (TKA)	19
膝関節手術 (骨切り術)	2
膝関節手術 (靭帯再建術)	6
膝関節手術 (半月手術)	8
膝関節手術 (その他)	7
足・足趾関節手術 (外反母趾手術)	5
足・足趾関節手術 (その他)	2
その他の手術	4

腱・神経手術 (15件)

腱縫合術 (上肢)	1
腱縫合術 (下肢)	3
腱移行術	1
腱鞘切開術	4
腱滑膜切除術	1
腱切離術	1
神経移行術	1
神経切離術	2
縫合・移植術 (神経)	1

感染症手術 (11件)

骨髓炎・化膿性関節炎手術	6
その他の手術	5

小児整形外科手術 (1件)

先天性股関節脱臼	1
----------	---

その他 (481件)

創傷処理・デブリートマン	24
複合組織移植術	1
その他	456



形成外科

部長 高木 信介

【当科の歴史】

1983年(昭和58年)、当院に鹿児島県で初めて形成外科が設立され、初代部長に宇田川晃一先生が赴任されました。以来、昭和大学形成外科の関連施設として、鹿児島県の医療に携わってまいりました。

常勤医4名(形成外科専門医1名)と非常勤医2名にて診療を行っております。

【診療内容】

形成外科とは

先天性および後天性の身体外表の醜形(形、色の異常)を対象とし、これを外科手技により機能はもとより形態(美容)解剖学的に正常(美形)にすることを手技とし、その目的は個人を社会に適応させるものである(鬼塚、1964)。

と定義されています。

形成外科は、体表を治す外科であり、他の外科には無い特徴があります。そして、日常生活に復帰(整容的、機能的)できることを最大の目的としております。

当科の主な仕事内容は、

1. Hand and Microsurgery
(手外科とマイクロサージャリー)
2. Oculoplastic Surger(眼形成)
3. Brest Sugery(乳房再建)
4. Vascular anomalies(血管腫・血管奇形)
5. Cleft Lip and Palate(口唇口蓋裂)
6. Maxillofacial Surgery(顎顔面外科)
7. Oncoplastic Skin Surgery(皮膚腫瘍外科)
8. Decubitus, intractable ulcer
(褥瘡・難治性潰瘍)
9. Burn injury(熱傷)

- 1: 日本手外科学会認定基幹病院で、整形外科の手外科専門医とともにチームで手術・週1回ハンドセラピストとともにカンファレンスを行っております。
- 2: 眼瞼下垂、眼窩骨折、内外反症、眼瞼悪性腫瘍・良性腫瘍、霰粒腫等を行っております。
- 3: 主に自家組織、インプラントによる乳房再建、乳輪乳頭再建を患者様のニーズに合わせて行っております。
- 4: 放射線科と協力し血管造影下に硬化療法、塞栓療法、外科的治療、内服療法、レーザー療法を組みあわせて行っております。

- 5: 術前顎矯正、口唇鼻形成術、口蓋形成術、顎裂部骨移植、骨切り術、言語療法等総合的な治療を行っております。
- 6: 先天異常から顎変形症に対する骨切り・骨延長から小耳症、顔面裂、顔面骨骨折を主に行っております。
- 7: 良性腫瘍、皮膚悪性腫瘍、悪性軟部腫瘍まで幅広く行っております。
- 8: WOCナースとのチーム医療のもとで、主にデブリドマンと皮弁形成による創部閉鎖を行っております。
- 9: デブリドマンと全層・分層による植皮と術後のリハビリを含め、整容面と機能的改善を目標に行っております。

形成外科は、Aesthetic and Functional Surgery(整容機能外科)として1つの疾患に対して様々なアプローチができる科です。遊離皮弁等顕微鏡下での再建の手術もありますが、基本的には、シンプルで低侵襲かつ効果的な手術方法から選択して個々の患者様に接したいと考えています。

【スタッフ紹介】

高木 信介(たかぎ しんすけ)

2002年 昭和大学医学部卒業

2002年 昭和大学形成外科学教室入局

昭和大学病院、毛山病院(高知)、

荏原病院(東京)、藤枝市立総合病院(静岡)

埼玉県立小児医療センター、

昭和大学横浜市北部病院勤務

2008年～ 今給黎総合病院形成外科勤務

2010年4月～2019年3月

今給黎総合病院形成外科 部長

形成外科専門医

手外科専門医

日本創傷外科学会専門医 皮膚腫瘍外科分野指導医

小児形成外科分野指導医 日本褥瘡学会認定師

医学博士

日本形成外科学会評議員

日本マイクロサージャリー学会評議員

日本血管腫血管奇形学会評議員

九州マイクロサージャリー研究会世話人

鹿児島手外科研究会世話人

九州重度四肢外傷 peer review 会議世話人

所属学会

日本形成外科学会、国際形成外科学会

日本手外科学会、日本マイクロサージャリー学会

日本血管腫血管奇形学会、日本口蓋裂学会
 日本乳房オンコプラステックサージャリー学会
 日本頭蓋顎顔面外科学会、日本褥瘡学会
 日本皮膚悪性腫瘍学会、日本臨床皮膚外科学会
 日本創傷外科学会、日本美容外科学会
 日本美容医療協会

内山田 桜 (うちやまだ さくら)
 2018年4月～2019年3月 今給黎総合病院 医長

斎藤 景 (さいとう けい)
 山形大学医学部卒業
 昭和大学形成外科学教室入局
 2018年5月～今給黎総合病院勤務
 所属学会
 日本形成外科学会 日本血管腫血管奇形学会

【診療状況 (2018年1月～12月)】

外来診療 外来患者数 8,227名 (病院・クリニック)
 入院診療 入院患者数 7,271名

小島 康孝 (こじま やすたか)
 日本大学医学部卒業
 昭和大学形成外科学教室入局
 2018年10月～今給黎総合病院勤務
 所属学会
 日本形成外科学会
 日本オンコプラステックサージャリー学会

非常勤医師
 門松 香一 (かどまつ こういち)
 昭和大学形成外科 主任教授
 春山 勝紀 (はるやま かつのり)
 春山クリニック院長

【講義】

九州形成外科顔面骨骨折セミナー講師 高木信介
 原田学園言語聴覚療法科 形成外科 高木信介

手術件数
 入院手術件数 544件
 外来手術件数 件

手術内容区分	全身 麻酔	脊椎 麻酔	伝達 麻酔	局所 麻酔	入院 手術 件数
皮膚・皮下組織	145	4	17	104	270
デブリードマン	23	2	5	20	50
皮膚、皮下腫瘍摘出術	16		5	28	49
皮弁作成術	20		1	19	40
分層植皮術	17	2	4	11	34
瘢痕拘縮形成手術	18		1	3	22
皮膚、皮下、粘膜下血管腫摘出術	10			7	17
腋臭症手術	9			4	13
動脈(皮)弁術	9			1	10
遊離皮弁術(顕微鏡下血管柄付き)	10				10
創傷処理	4		1	3	8
顔面神経麻痺形成手術	2			2	4
皮膚悪性腫瘍切除術				4	4
筋(皮)弁術	3				3
皮膚切開術	1			2	3
自家遊離複合組織移植術	2				2
組織拡張器による再建手術	1				1
筋骨格系・四肢・体幹	57	1	28	34	120
四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術	19		8	14	41
腱縫合術	1		7		8
合指症手術	6				6
腱移植術	2		3		5
指瘢痕拘縮手術	4			1	5
骨内異物(挿入物)除去術	4		1		5
骨折経皮的鋼線刺入固定術			1	3	4
断端形成	1			3	4
関節形成手術	1		1	2	4
切断四肢再接合術			3		3
腱剥離術			1	2	3

手術内容区分	2	1	3
骨長調整手術・骨延長術	2	1	3
自家肋骨肋軟骨関節全置換術	3		3
四肢切断術	1	1	3
関節脱臼靱帯の整復術			2
靱帯の関節授動術	2		2
骨移植術	2		2
ガングリオン摘出術			2
腱移行術	1	1	2
母指対立再建手術	1		1
多指症手術	1		1
陥入爪手術			1
裂足手術	1		1
骨髄炎・骨結核手術			1
偽関節手術			1
骨盤骨搔爬術			1
靱帯の関節固定術	1		1
自家培養軟骨移植術	1		1
骨搔爬術	1		1
デュプイトレン拘縮手術	1		1
筋膜移植術	1		1
手根管開放手術		1	1
眼	12		42
眼瞼下垂症手術			38
眼瞼内反症手術	3		3
眼窩骨折靱帯の手術	5		5
瞼縁縫合術	1		1
眼瞼外反症手術	1		1
霰粒腫摘出術			1
涙管チューブ挿入術	1		1
涙小管形成手術	1		1

耳鼻咽喉	25				25
鼻骨骨折整復固定術	14				14
鼻骨変形治癒骨折矯正術	2				2
鼻中隔矯正術	2				2
耳介形成手術	2				2
後鼻孔閉鎖症手術2. 複雑なもの(骨)	1				1
副耳(介)切除術	1				1
変形外鼻手術	1				1
鼓膜(排液、換気)チューブ挿入術	1				1
鼻骨骨折徒手整復術	1				1
顔面・口腔・頸部	24				24
耳下腺腫瘍摘出術	7				7
頬骨骨折観血的整復術	5				5
口唇裂形成手術	5				5
下顎骨折観血的手術	3				3
顎・口蓋裂形成術	1				1
頸部郭清術	1				1
耳下腺悪性腫瘍手術	1				1
下顎骨折非観血的整復術	1				1
心・脈管	12		3	3	18
血管塞栓術(頭部、胸腔、腹腔内血管)	9			2	11
動脈形成術、吻合術	1		2		3
リンパ管吻合術	2				2
四肢の血管吻合術			1		1
硬化療法				1	1
腹部	10			1	11
ヘルニア手術	5				5
毛嚢洞手術	3			1	4
腹壁腫瘍摘出術	1				1
小腸切除術	1				1
神経系・頭蓋	2		7	2	11
神経縫合術			7	1	8
頭蓋骨形成手術	1				1
神経腫切除術				1	1
神経剥離術(鏡視下)	1				1
胸部	8			1	9
再建乳房乳頭形成術	2			1	3
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建	2				2
漏斗胸手術	1				1
両側乳房インプラント摘出(自費)	1				1
両側異物摘出術(自費)	1				1
乳腺悪性腫瘍手術	1				1
尿路系・副腎	2				2
尿管摘出術	2				2
総計	297	5	55	187	544



脳神経外科

部長 西澤輝彦

【退任のごあいさつ】

今給黎総合病院の脳神経外科は450床の総合病院化に伴って平成元年に開設されました。平成の時代と共に四半世紀を越える歴史を刻み、微力ながら脳血管障害の外科的治療、頭部外傷治療を中心に地域医療に貢献してきました。初代の小田博重先生に続いて二代目部長西澤が平成3年10月に38歳で鹿児島大学から赴任しました。

当時は脳血管内治療に使用され始めたばかりのデジタル化された血管撮影装置（DSA）は今給黎総合病院にしかなく、まだフィルム撮影だった鹿児島大学の症例を当院に搬送して行っていました。このことが小生の赴任のきっかけとなりました。当時の今給黎総合病院には鹿児島初の超電導1.5TMRIや脳血流シンチが導入されており最新装置の揃った魅力的な病院でした。私が脳血管内治療の鹿児島におけるパイオニア的存在であったことからこれらの装置を使って鹿児島で最も早くから脳神経血管内治療を手がけてきました。今や主流となった離脱式コイルによる脳動脈瘤の瘤内塞栓術や頸動脈狭窄症に対するステント留置術、頭蓋内脳血管の拡張術、選択的血栓溶解術など県内最初の症例が当院で行われたことは特筆すべきことです。また脳血管内治療だけではなく脳動脈瘤に対するクリッピング術や頸動脈狭窄に対する頸動脈血拴剥離術なども行いました。開頭手術とカテーテル治療を両方行ういわゆるハイブリッド脳神経外科医の先駆けとなりました。

その後のDSA装置の発達も目を見張るものがあり当院の装置も現在で3代目ではありますが、DSA室の狭さや予算の関係で現在では当たり前となっているBiplane装置は導入されませんでした。現在の機種も15年が経過しており他院の最新機種と機能面での差が大きくなっています。新機種が検討される時期となっていましたが移転の遅延と共に先送りされてきました。更に2021年開院予定の新病院でも急性病床の縮小や予算の関係から新しい装置導入の確約が得られないままとなりました。現在の脳卒中急性期治療では脳神経外科だけではなく脳卒中内科医とのチームによる脳主幹動脈閉塞に対する血栓回収療法が必須となっています。しかし大学からの脳卒中内科医の派遣対象病院から当院は外れていることもあり、新病院での脳卒中ケアユニット（SCU）の新設も見送られることとなりました。脳神経外科医も慢性的な人員不足状態で急性期脳卒中治療は症例数の多いセンター病院へ人員の集約化が進む方向で当院への増員は今後も難しい状態と思われれます。

当院は年間3000台近くの救急車を受け入れる救急病院でありその中で外傷系疾患、特に複数の領

域に亘る高エネルギー外傷や多発外傷などの重症の症例が多いのも特徴でした。多発外傷は複数科による迅速なチーム医療が必要で整形外科、形成外科、胸部外科、麻酔科などと良好な関係のもと治療に当たってきました。緊急の開頭手術、他科との共同手術、頭蓋内圧センサーを用いた脳圧管理、麻酔科池田部長の協力によるブランケットを用いた体温管理（平温療法）など三次医療機関に近いレベルの治療を行ってきました。しかし近年は市立病院の新築移転と救急部の充実、米盛病院の外傷センター創設と両病院のドクターヘリ、ドクターカー導入により集中治療を要する多発外傷の重症例の当院搬送が減少しています。一方、高齢者の軽微な頭部外傷と慢性硬膜下血腫だけが増加している印象です。

脳卒中、頭部外傷と当院の売りであった分野は明らかに縮小傾向にあります。新病院での脳神経外科の在り方、存在意義を考える時期となっていると思われれます。

私は平成31年3月末で勤務期間は27年9か月となりましたが65歳で定年退職となりましたことをご報告し、平成30年度の活動報告とさせていただきます。

【人事・スタッフ】

平成28年10月からは貞村祐子先生が大学病院の救急部から赴任されました。鹿児島の女性脳神経外科医の先駆けで救急、手術に十分な経験を積んでいますが、さらに脳血管内治療専門医を鹿児島で初めて女性脳神経外科医として取得されました。残念ながらマスセンターでの経験を求めて7月1日付けで鹿児島市立病院へ転出となりました。後任には鹿児島大学から笠毛先生が赴任しましたが平成31年3月末で国分脳神経外科に移動となっています。

平成31年4月からは新部長として宮之原修先生が串木野脳神経外科センターから赴任されます。また科長として松邨宏之先生が今村総合病院から再度赴任される予定です。

【スタッフ紹介】

〈常勤医〉

【部長（副院長、医療情報システム管理者兼任）】

西澤 輝彦（平成3年10月～平成31年3月）

1979年 鹿児島大学医学部卒業
 1983年 鹿児島大学大学院単位取得退学
 2013年 鹿児島大学医学部臨床教授

〈取得資格〉

医学博士
 日本脳神経外科学会指導医
 日本脳神経血管内治療専門医
 日本脳卒中学会治療専門医
 鹿児島市立病院非常勤医師
 PNSL インストラクター
 (Primary Neurosurgical Life Support)

〈所属学会〉

日本脳神経外科学会、日本脳卒中学会、
 脳卒中の外科学会、日本脳神経血管内治療学会、
 日本小児脳神経外科学会、
 日本脳神経外科コンgres、脳ドック学会他

【脳神経外科 医長】

貞村 裕子（平成28年10月～平成30年6月）

2005年 鹿児島大学医学部卒業

〈取得資格〉

日本脳神経外科学会専門医
 日本脳神経血管内治療専門医

【脳神経外科医員】

笠毛 祐揮（平成30年7月～平成31年3月）

2012年 鹿児島大学医学部卒業

〈取得資格〉

日本脳神経外科学会専門医

〈非常勤医師〉

有田 和徳 鹿児島大学脳神経外科教授
 （～平成31年3月）

平原 一穂 元鹿児島市立病院副院長、
 脳神経外科部長

寺田 耕作 串木野脳神経外科センター

【診療実績】 入院患者疾患別分類（2018年1～12月）

脳腫瘍	グリオーマ	2
	転移性脳腫瘍	2
	合計	4
血管病変	クモ膜下出血（破裂脳動脈瘤）	1
	クモ膜下出血（原因不明）	1
	未破裂脳動脈瘤	44
	AVM / AVF	3
	高血圧性脳出血	16
	脳梗塞	7
	動脈狭窄（閉塞）	11
	モヤモヤ病	2
	その他	3
合計	88	
慢性硬膜下血腫	合計	38

頭部外傷	頭蓋骨骨折	3
	急性硬膜外血腫	1
	脳挫傷	19
	その他	29
	合計	52
小児神経外科	水頭症	3
	合計	3
脊椎・脊髄疾患	その他	2
	合計	2
機能的脳神経外科	てんかん	5
	その他	5
	合計	10
感染症	脳腫瘍	2
	合計	2
その他	合計	8

合計 207人

【手術症例】（2018年1～12月）

開頭術	腫瘍 摘出術	1
	動脈瘤 クリッピング(未破裂)	3
	血管吻合術 直接的血管吻合術	1
	開頭血腫除去術 脳内血腫	1
	合計	6
穿頭術	硬膜下血(水)腫洗浄術	28
	脳室ドレナージ	2
	合計	30

短絡術	V-P シヤント	1
	合計	1
血管内手術	動脈瘤 coiling	12
	血管形成術 (PTA)	1
	血管形成術 (STENT)	5
	血栓溶解, 摘出術	1
	合計	19

合計 56人



産婦人科

部長 加藤明彦

【診療内容・特色】

当院の産婦人科は、産科・婦人科一般診療を行っています。

産科領域では、一般の産科外来に加え、当院に新生児内科があることから地域周産期母子医療センターとして合併症を伴う妊娠や妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病など妊娠中のトラブルを抱えた妊婦さんの妊娠・分娩管理、一次施設からの母体搬送の受け入れを行っています。

婦人科領域では、子宮癌検診や月経困難症・更年期障害などの一般外来診療、良悪性の婦人科腫瘍の治療（薬物療法・手術療法）を行っており、女性の下腹部痛など婦人科救急疾患の対応も行ってまいります。

【人事・スタッフ紹介】

今年度は常勤医師4名で診療を行って参りました。平成31年度からは長年勤務いただいた寺原医師が非常勤医となります。平成31年4月から鹿児島市立病院より谷口貴之医師が専攻医研修のため当院で勤務いただく予定となっております。

【診療状況】（2018年1月1日～12月31日）

産科

入院総数 193件
 分娩件数 150件
 （うち帝王切開70件、その他産科手術8件）
 母体搬送 78件（非緊急を含む）

婦人科

入院総数 163件
 手術件数 85件
 （開腹35件、腹腔鏡23件、腔式27件）

卵巣腫瘍摘出術	3件
付属器切除術	30件
円錐切除術	15件
筋腫核手術	7件
腔式子宮全摘術	7件
腹式子宮全摘術	16件
腹腔鏡下子宮全摘術	1件
その他	11件

（1手術で複数臓器摘出があるため重複あり）

【院外教育活動】

加藤 明彦

久木田学園看護専門学校 看護科
 母性看護学・女性生殖器 40時間

【資格取得】

ALSO(プロバイダーコース)：児島 信子

NCPR：大木 朝子、富田 愛

日本産科婦人科学会 専門医：中間恵美子

【平成31年度の計画】

ここ1年半、鹿児島市立病院から専攻医の派遣が途絶えておりましたが、平成31年4月から専攻医の研修が再開致します。また初期研修医の研修規定も年々改定があり、再び産婦人科が必修項目となり今後院外からも初期研修医が当科へ研修に来る運びとなるようです。今後は地域周産期母子医療センターとしてだけでなく教育機関としても力を入れていければと思います。

産科は昨年母体搬送数の減少はありましたが分娩件数は大きく変わらず、帝王切開率が例年より低下しており重症度に変化があるように思われました。移転に伴い妊娠合併症のない、またはリスクの低い患者様が増えてくる事が予想されますがそうしたニーズに応えていけるようスタッフ一同取り組んでいく所存です。地域周産期母子医療センターとして、院外は鹿児島市立病院・鹿児島大学病院ならびに一般開業の先生方と連携し、また院内では新生児内科や他科と協力しつつ、合併症妊娠などのハイリスク妊娠の管理も継続して参ります。

婦人科は平成31年度より寺原医師が非常勤となりますが、今まで同様婦人科疾患、癌診療にも取り組んでいきたいと思っております。今年度4月以降は谷口医師を迎えるにあたり午後の外来診療枠を増やし、診療の幅を広げていく予定です。

※学会関連は[研究実績]に掲載



新生児内科

部長 徳久琢也

【診療内容】

当院のNICU・GCUは、NICU：9床、GCU：10床の合計19床の、県内では鹿児島市立病院NICUに次ぐ規模の新生児医療施設であり、当院出生の低出生体重児に対して急性期管理から Growing Care および Family Care を行いつつ、鹿児島市立病院などの三次施設で急性期管理を受けた超低出生体重児に対しても、Growing Care、Family Care を提供しています。

新生児フォローアップ外来は、当院などのNICUを退院したBaby達の発育発達をフォローしてゆく外来です。キーエイジでの発達・知能テストも行い、発達支援の要否について家族と話し合う場となっています。

【診療の担当】

医師4名、看護師36名（認定看護師1名）、助産師3名、保健師4名、作業療法士0名、理学療法士1名、メディカルクラーク1名、ナースアシスタント1名で日々の業務を行っています。

NICU・GCU及びフォローアップ外来業務は、新生児内科部長の丸山有子と徳久琢也と佐藤恭子の3人体制で行っていましたが、育休中の緒方先生が10月から復帰され、4人体制に戻りました。

フォローアップ外来には、島田療育センターの井之上寿美先生も来てくださり、5人で週5日を担当しています。

また、夜間当直業務は、当院と鹿児島市立病院新生児科の医師で担当しています。

ハイリスク児の発達知能検査（新版K式発達検査・WISC-IV）は、吉永明美臨床心理士により行われています。

月1回の療育指導外来には、埼玉医科大学総合医療センター カルガモの家から奈須康子先生に来ていただいています。

毎月1回、鹿児島大学小児科河野嘉文先生にNICU、GCUの回診をお願いしています。

【入院状況】（グラフと表を参照）

総入院数児数と体重別入院児数の経年推移をグラフ・表1に、入院経路別入院児数を表2に、人工呼吸管理患者数を表3に示しました。

【外来状況】

➤ フォローアップ外来・シナジス外来

平成19年より開始した新生児内科の外来業務ですが、フォローアップ外来とシナジス外来の総受診者数は増え続けてきましたが、平成24年からはほぼ安定してきました。（表4）。

➤ 発達検査

平成30年は201名が受けました。

➤ 療育相談外来

月1から2人ずつ行い、平成30年は18名が受けました。

➤ PIPC（早産児の両親学級）

今年は24回開催し、246人の方が聴講してくださいました。

【退院支援】

➤ 地域保健師と家族の面談をsetting

NICU入院中から保健師と家族の面談を企画し、その後の良好な関係作りを図っています。平成30年は84件のご家族と地域保健師との面談が当センターで行われました。

➤ ハイリスク新生児が退院する家庭へのNICUからの退院前訪問

平成30年は3件でした。

➤ ハイリスク児の家庭生活を支援するためのケース会議

複雑な事情をもつ家庭が増えています。そのような家庭へハイリスク新生児が退院する際には、福祉課や保健所、保健センター、児童相談所、訪問看護師を始め、民生委員や子育て支援NPOの方などの会議を主催し相互の情報交換をはかっています。今年は9件（10回）行われました。

【教育活動】

➤ 看護学生の実習受け入れ

久木田学園看護専門学校	18名
神村学園専修学校看護学科	56名
タラ看護専門学校	30名
鹿児島中央看護専門学校	32名

➤ スタッフのための勉強会

週レクチャー：32回開催	
茨 聡先生のレクチャー	：12回

【鹿児島県委託事業】

➤ 小児在宅療養ナビ「そよかぜ」への情報提供

※学会関連は[研究実績]に掲載

【入院児総数】

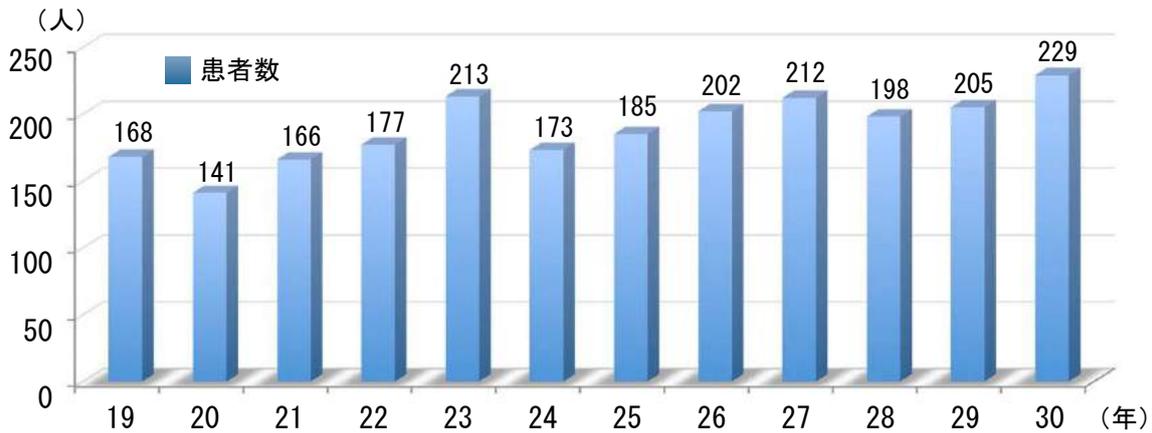


表 1：【出生体重別患者数内訳】

年(平成)	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
～999g	1	3	3	2	8	19	20	13	9	6	12	16
1000g～1499g	32	35	26	40	34	43	35	42	41	35	42	42
1500g～1999g	61	43	46	49	68	53	64	72	85	76	62	80
2000g～2499g	31	35	52	46	59	42	35	47	47	51	53	54
2500g～	43	25	37	40	44	15	31	28	30	29	36	37

表 2：【入院経路別患者数および院内出生率】

年(平成)	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
当院外来管理後の院内出生	26	9	29	28	36	17	22	32	42	41	38	50
母体搬送後の院内出生	51	42	39	47	43	20	48	49	38	51	61	33
市立病院より新生児搬送	75	66	66	80	105	118	100	109	123	91	90	119
大学よりgrowing care入院	3	3	6	1	9	9	10	0	0	6	8	12
他院よりの新生児搬送	13	23	24	21	20	9	5	12	9	8	8	15
院内出生率(%)	45.8	36.2	41.4	42.3	37	10	37	40	38	47	48	36.2

表 3：【人工呼吸管理施行患者数】

年(平成)	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
人工呼吸管理施行数(nasal CPAP)	15	19	12	44	33	49	46	55	55	66	51	64
人工呼吸管理施行数(挿管症例)	21	19	13	13	11	4	16	15	15	11	19	10
人工呼吸管理施行数	36	38	25	57	44	53	62	70	70	77	70	78

表 4：【フォローアップ外来＋シナジス外来のべ受診者数】

年(平成)	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
のべ人数(人)	307	684	770	890	1219	1641	1365	1651	1316	1613	1541	1520

※平成23までは年度で表示



小児科

部長 島子敦史

【診療内容・特徴】

堀之内兼一医師、堀之内泉医師、玉田泉医師、銚之原昌医師(非常勤)、上野さやか医師(非常勤)、7月から島子敦史が加わり診療いたしました。

1. 外来

平日午前午後の一般外来のほか、専門外来を設けています。当科の特徴である小児内分泌疾患は玉田先生が診療を行い、負荷試験を例年20~30件ほど実施したり、在宅自己注射管理に対する療養指導を看護師さんが担ってくれたり等、成長ホルモンやI型糖尿病治療もチーム医療として取り組んでいます。

その他、堀之内兼一先生は小児腎疾患を継続、島子は小児循環器外来を新たに開始しました。また、市県からの委託による乳幼児健診、予防接種業務も行っており、学校健診・学校検尿や生活習慣病予防健診での精密受診者の受け入れや精密検査後のフォローを行っています。

2. 入院

DPC(包括評価)対象病院の小児科として全国と同様の在院日数で診療を完了できています。本年度はインフルエンザA型の流行の割には軽症例が多く、延べ人数については減少。専門別では、糖尿病やコントロール目的、ほか内分泌疾患の精査入院、内分泌疾患は急性糸球体腎炎やネフローゼ症候群など腎疾患に加え、川崎病の受け入れが可能になりました。当院の特長を生かし、鹿児島県での役割を果たし、より良い医療環境を提供します。

職員の子供さん対象の病児保育室も設置後10年が経過し、年間のべ500超名の子どもさんを受け入れています。子育て世代の職員のバックアップのため、今後も貢献します。

【スタッフ紹介・講義 / 院外活動】

島子敦史：小児科専門医、医学博士
小児循環器専門医
医師臨床研修指導医養成講習修了医
鹿児島市医師会学校心臓健診 委員

堀之内兼一：小児科専門医、医学博士
医師臨床研修指導医養成講習修了医
日本補完代替医療学会学識医 学会理事
鹿児島市医師会学校腎臓病健診 委員
久木田看護専門学校 非常勤講師
European Univ. Vandrina 非常勤講師(漢方の講義)

堀之内泉：医学博士

玉田 泉：小児科専門医、医学博士
日本糖尿病協会療養指導医
鹿児島大学小児科 非常勤講師

銚之原昌：小児科専門医、リウマチ指導医・専門医
医学博士、鹿児島県小児科医会監事
日本小児科学会名誉会員
日本小児保健学会名誉会員
日本小児リウマチ学会監事
鹿児島県小児科医会監事
鹿児島子どもの虐待問題研究会会長
鹿児島小児保健学会監事
鹿児島県医師会裁定委員
鹿児島市子ども子育て会議委員

【診療状況】

外来診療 外来患者数延べ 9,240 人
入院診療 入院患者数延べ 1,001 人
(平均在院日数 5.19 日)

【診療実績】

入院疾患(実数)計 191 人
上気道炎・急性気管支炎・肺炎 130 人
(喘息増悪含む)
内分泌疾患 18 人
(成長ホルモン検査・糖尿病を含む)
急性胃腸炎(ノロ腸炎他) 23 人
腎・尿路疾患(IgA血管炎含む) 16 人
その他(川崎病・リンパ節炎他) 14 人

【予防接種件数】 (2018年1月1日～12月31日)

	ロ タ ウ イ ル ス	B 型 肝 炎	B C G	ヒ ブ	イ ン フ ル エ ン ザ	お た ふ く	麻 し ん 風 し ん	日 本 脳 炎	四 種 混 合	水 痘	二 種 混 合	肺 炎 球 菌	風 疹	ポ リ オ	合 計
1月	6	11	2	13	70	6	8	17	17	7	0	13	0	1	171
2月	9	13	5	18	9	5	7	14	14	10	1	18	0	0	123
3月	8	16	7	15	0	7	10	15	13	10	2	15	0	1	119
4月	5	12	0	15	0	9	8	25	14	10	4	14	0	0	116
5月	5	6	2	17	0	7	19	22	18	10	7	17	0	0	130
6月	10	9	5	17	0	7	0	17	14	7	2	16	1	0	105
7月	6	10	2	15	0	4	3	16	12	5	6	15	0	0	94
8月	10	12	3	12	0	3	6	33	12	6	12	12	0	1	122
9月	4	9	1	13	0	5	9	8	11	8	1	13	0	0	82
10月	8	13	4	15	61	2	7	4	16	5	1	15	0	0	151
11月	9	13	5	16	184	3	6	20	16	5	0	16	0	1	294
12月	4	7	3	12	141	7	6	20	12	4	4	12	0	0	232
総合計	84	131	39	178	465	65	89	211	169	87	40	176	1	4	1,739

【院外活動など】

※学会、講演関連は[研究実績]に掲載

島子敦史

- ・ 鹿児島市医師会学校心臓検診(4～6月、二次・三次)

堀之内 兼一

- ・ 鹿児島市医師会学校腎臓病検診 3次検診の受け入れ
- ・ 鹿児島市医師会学校腎臓病検診 精査症例の受け入れ
- ・ 鹿児島市医師会学校腎臓病検診委員、年5回委員会出席
- ・ 鹿児島小児腎疾患研究会委員研究会年1回(11月)

玉田 泉

- ・ 鹿児島市医師会学校糖尿病検診 精査症例受け入れ
- ・ 鹿児島市小児生活習慣病予防検診 精査症例受け入れ
- ・ 1型糖尿病家族会「さくらんぼの会昭和会支部」指導医、年に2回定例会
- ・ 1型糖尿病サマーキャンプ指導医として参加
ターナー症候群家族会「MIRAIの会」、年に2回定例会参加
- ・ 鹿児島県小児慢性特定疾患対策協議会委員、年12回審査会、年一回委員会
- ・ 鹿児島県先天性代謝異常等検査連絡協議会委員、年1回協議会

銚之原 昌 (非常勤医師)

院外活動

- ・ 健康相談 南日本子ども健康セミナー (2018/9/5)
 - ・ 鹿児島子どもの虐待問題研究会, 会長として年4回開催 (2018/4/10)
 - ・ 保育園健診
「保育園 風のことり」、「パピー保育園」年に2回
 - ・ 鹿児島県小児科医会 監事として監査 年に1回
 - ・ 鹿児島小児保健学会 監事として監査 年に1回
- 講演
- ・ 鹿児島県新規採用養護教諭研修会 講演 (2018/5/25)
 - ・ ロータリークラブ主催講演 「子どもの虐待とは？」 指宿商業高校生へ(2018/11/20)

【2019年計画】

- ・ 循環器外来の充実
- ・ 新非常勤の希望があるなど、期待されている小児科臨床医教育を遂行
- ・ 大学・市立病院小児科との補完的連携に努める



泌尿器科

部長 立和田 得志

平成30年は、常勤医 4 名（中目、立和田、宮元、川原）及び非常勤医（西山：前鹿児島大学泌尿器科准教授）にて診療を行いました。

診療する領域は、副腎、尿路（腎、尿管、膀胱、尿道）及び男性生殖器（前立腺、陰茎、精巣）の悪性腫瘍を中心に、良性疾患である前立腺肥大症や尿路感染症、尿路結石、女性の骨盤臓器脱（膀胱脱、子宮脱など）まで、内科的治療、外科的治療、放射線治療などを単独もしくは組み合わせて治療しています。

（急性腎不全、慢性腎不全に対する血液透析は入院患者様のみに行っており、外来維持透析は行っていません）。

当院ではCT検査まですぐに行える体制ですので、可能な限りその日のうちに診断、治療計画をたてるようにしています。

手術は腹腔鏡手術に力をいれており、腹腔鏡技術認定医が3名在籍しています。3D内視鏡システムを導入しており、精度の高い手術が可能となり、早期腎癌に対する腎部分切除や筋層浸潤性膀胱癌に対する膀胱全摘術もほぼすべて腹腔鏡下に行っています。

前立腺癌に対しては、腹腔鏡手術から密封小線源治療（ブラキセラピー）を含む放射線治療まで行っており、個々の患者様にあった治療の選択が可能です。

【スタッフ紹介】

部長 中目 康彦

日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医
日本透析医学会 認定医、緩和ケア研修修了医

川上 一誠

緩和ケア研修修了医

部長 立和田 得志

日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医
緩和ケア研修修了医、医学博士（鹿児島大学）

非常勤医師 西山 賢龍

日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本泌尿器内視鏡学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医
前鹿児島大学医学部泌尿器科准教授
医学博士（鹿児島大学）

医長 宮元 一隆

日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医
日本泌尿器内視鏡学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医
日本移植学会認定医、緩和ケア研修修了医
医学博士（鹿児島大学）

【2018 年主な主要手術】

分類	手術	例数
前立腺	腹腔鏡下前立腺全摘術	40
	経尿道的前立腺切除術	22
	密封小線源治療	3
腎 副腎 尿管	腹腔鏡下腎摘出術	16
	腹腔鏡下腎部分切除術	12
	腹腔鏡下腎尿管全摘術	14

分類	手術	例数
膀胱	腹腔鏡下膀胱全摘術+代用膀胱造設術	1
	腹腔鏡下膀胱全摘術+回腸導管造設術	3
	腹腔鏡下膀胱全摘術+尿管皮膚瘻造設術	3
	経尿道的膀胱腫瘍切除術	58
骨盤臓器脱	腹腔鏡下仙骨膕固定術	14



眼科

部長 高橋 範雅

当科では、白内障・網膜硝子体疾患・緑内障・加齢黄斑変性など、眼に関する様々な疾患へ、最新の医療機器やシステムを用いた高度かつ安全な治療を提供することを使命としています。

当院が総合病院である特色を活かし、全身状態に不安のある場合や高度な技術を要する難症例手術、また、緊急を要する眼疾患にも入院での治療が可能です。

当院では毎日手術を実施しているため、お急ぎの方はご相談下さい。また、遠隔地からも負担のないように施設間で連携し、初診日当日に入院や手術の対応ができるように体制を整えています。

紹介状をお持ちでない初診でも診察が可能であり、気になる症状があれば気軽に受診できるような環境作りに努めています。

【職員紹介】

友寄英士（ともよりえいじ）
2009年昭和大学医学部卒業

〈取得資格〉

日本眼科学会認定眼科専門医
日本眼科学会 CTR(水晶体囊拡張リング)認定医
ボツリヌストキシン療法認定医
身体障害者福祉法視覚障害者指定医
医学博士

〈所属学会〉

日本眼科学会
日本白内障屈折矯正手術学会

栗岡隆弘（くりおかたかひろ）
2014年昭和大学医学部卒業

〈所属学会〉

日本眼科学会
日本産業・労働・交通眼科学会

[外来]

看護師：青山・笠置・川崎・窪田・中原・中村・丸山

[検査]

視能訓練士：
川畑(真)・川畑(直)・今吉・並松・野添
眼科検査員：秋山

[事務]

秘書：日高・横手
受付：赤塚・北原・木下

【診療状況】

外来新患者数	958人
外来再診数	9,351人
入院患者数	1,120人

【手術件数】

白内障手術	931件
白内障手術(内、多焦点眼内レンズ使用85件)	1,105件
眼内レンズ縫着術	31件
硝子体手術	103件
増殖硝子体網膜症手術	7件
緑内障手術(内、iStent使用9件)	
硝子体内注射	193件
その他手術	161件
合計	1,630件

【講義】

久木田学園看護専門学校
病態学IV 眼科系/2018年9月毎週金曜日/栗岡



気管食道・耳鼻いんこう科

部長 昇 卓 夫

【スタッフ】

福田勝則 部長

医学博士、日本耳鼻咽喉科学会専門医
鹿児島大学医学部卒

昇 卓夫 院長

医学博士、日本耳鼻咽喉科学会専門医
耳鼻咽喉科専門研修指導医、補聴器相談医
日本気管食道科学会専門医
鹿児島大学臨床教授、久木田学園非常勤講師
鹿児島大学医学部卒

鎌田知子 医師

日本耳鼻咽喉科学会専門医、信州大学医学部卒

非常勤医師：

宮崎康弘医師 今村洋子医師

【入院患者内訳(非手術例)】

(2018年1月1日～12月31日)

突発性難聴	73例
(治療効果判定)	
治癒 6例 8.2%	著明回復 14例 19.1%
回復 25例 34.2%	不変 28例 38.4%
; 1984年厚生省特定疾患突発性難聴研究班による判定	
めまい(メニエル等)	13例
その他疾患	10例
扁桃周囲膿瘍(炎)	30例
急性咽喉頭炎、扁桃炎等	24例
急性喉頭蓋炎	6例
その他疾患	10例
鼻出血	4例
その他疾患	9例
非手術例の入院総症例数	173例

【手術実績】 (2017年1月1日～12月31日)

手術総件数 686件

1) 耳科領域	101件	
鼓膜チューブ留置術		34件
先天性耳瘻孔手術		8件
鼓膜形成術		4件
鼓室形成術		1件
アブミ骨手術		1件
鼓膜切開術		43件
乳突切開術		2件
その他		8件
2) 鼻科領域	373件	
鼻内副鼻腔手術		134件
(内ナビゲーション手術120件)		
下鼻甲介切除術		139件
鼻中隔矯正術		64件
鼻粘膜電気焼灼術		34件
その他		2件
3) 口腔・上中咽頭領域	190件	
口蓋扁桃摘出術		148件
扁桃周囲膿瘍切開術		13件
アデノイド切除術		19件
口蓋扁桃切除術		3件
その他		7件
4) 喉頭・気管・下咽頭・食道領域	9件	
声帯ポリープ・結節切除術		4件
気管切開		1件
その他		4件
5) 顔面・頸部等領域	13件	
唾石(含顎下腺)摘出術		4件
唾液腺腫瘍		4件
その他		5件



皮膚科

部長 三好逸男

平成30年4月から三好 逸男（みよし はやお）が常勤医として担当しました。前年度と比較では常勤医1名減です。

【診療内容・特徴】

入院施設を有する総合病院皮膚科として、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触皮膚炎、帯状疱疹、水虫、自己免疫性皮膚疾患、皮膚癌など、クリニックレベルから高度な専門的レベルの疾患まで診療しております。

総合病院の皮膚科であるメリットを活かして院内他科紹介（特に形成外科、総合内科、糖尿病内科）、周囲の医療機関との連携、をスムーズに行って、滞りのない、より良い医療の提供に努めています。

【今後の目標】

複数の常勤医の確保と皮膚科の重要性の啓蒙

【スタッフ紹介】

部長 三好 逸男

日本皮膚科学会専門医・指導医
医学博士
専門分野：アトピー性皮膚炎、蕁麻疹などのアレルギー性皮膚疾患、漢方、爪疾患

非常勤医師 瀬戸山 充

日本皮膚科学会専門医・指導医
医学博士
宮崎大学医学部名誉教授
専門分野：皮膚病理、皮膚悪性腫瘍特に悪性リンパ腫

非常勤医師 吉福 明日香

日本皮膚科学会専門医・指導医
医学博士

【他科への貢献】

他科入院患者さまの皮膚科診察依頼（ほとんど往診）はかなり多く、院内でトップの数です。

【講義】

新臨床研修医ガイダンス：皮膚科総論講義

【皮膚科の現状と将来展望】

1. 皮膚科常勤1名体制であり、マンパワーの点からこれまでの診療を踏襲せざるを得ません。
2. 当院皮膚科として手術、入院をふくめた本来の診療を行うためには最低常勤2名が必要です。鹿児島大学皮膚科医局のマンパワーが充足された後は、関連病院としての当科への医師派遣も増員が可能と考えます。

【外来患者・紹介患者数：最近5年間の動態】（病院・クリニック）

	平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度		
	初診	再診	計												
4月	234	733	967	180	676	856	174	559	733	196	593	789	173	652	825
5月	219	727	946	285	647	932	195	639	834	357	732	1,089	194	630	824
6月	230	721	951	214	718	932	221	694	915	237	699	936	246	674	920
7月	256	819	1075	259	725	984	230	721	951	329	841	1,170	220	730	950
8月	286	835	1121	258	741	999	319	715	1,034	292	920	1,212	230	683	913
9月	272	809	1081	172	641	813	198	677	875	231	777	1,008	236	667	903
10月	203	797	1000	237	703	940	226	635	861	266	821	1,087	187	716	903
11月	172	685	857	153	545	698	152	630	782	183	809	992	156	657	813
12月	158	689	847	160	628	788	173	650	823	198	815	1,013	146	655	801
1月	143	621	764	129	543	672	154	557	711	180	736	916	206	651	857
2月	173	607	780	176	566	742	157	555	712	191	717	908	161	542	703
3月	180	682	862	179	642	821	157	646	803	182	798	980	170	655	825
計	2,526	8,725	11,251	2,402	7,775	10,177	2,356	7,678	10,034	2,842	9,258	12,100	2,325	7,912	10,237
紹介患者数	262			285			297			376			212		

【入院患者数：最近5年間の動態】

	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	新入院	延入院	新入院	延入院	新入院	延入院	新入院	延入院	新入院	延入院
4月	6	56	7	92	3	64	3	89	5	73
5月	5	32	5	51	9	145	7	111	1	42
6月	10	97	3	57	6	98	4	76	1	11
7月	7	84	10	113	11	83	10	97	4	62
8月	6	147	4	76	5	109	7	72	3	62
9月	7	143	8	111	9	132	6	113	3	55
10月	7	111	8	143	2	47	3	129	1	55
11月	8	200	7	148	9	79	6	133	4	99
12月	3	74	9	157	4	127	5	80	2	116
1月	3	43	6	139	7	111	5	73	3	83
2月	9	93	3	171	2	99	1	42	2	53
3月	5	89	5	86	7	104	1	11	3	61
計	76	1,169	75	1,344	74	1,198	58	1,026	32	772

【手術件数】（2018年）

88件（外来と入院）



麻酔科

部長 池田 耕 自

当院における麻酔科の診療内容は手術麻酔、集中治療室等における重症患者管理等です。

今年における麻酔科の陣容は、5～6名の麻酔科常勤医と非常勤医7～9名（週4回1名、週3回1名、週1回5～7名）体制でした。

平成30年の当院における麻酔科管理症例数は2,407件でした（患者様の平均年齢は57.4歳 最高齢は103歳）。この内、緊急手術は159件（時間外106件）であり全体の6.6%（4.4%）程度を占めます。手術室は6室有り、最大で7件の同時並行手術が可能です。

各科別の麻酔件数は、整形外科 962 件（40%）、形成外科 216 件（9.0%）、泌尿器科 250 件（10.4%）、耳鼻咽喉科 204 件（8.4%）、外科 269 件（11.2%）、産科婦人科 167 件（6.9%）、歯科口腔外科 140 件（5.8%）、呼吸器外科 166 件（6.9%）、脳神経外科 19 件（0.8%）、眼科 14 件（0.6%）といった現状でした。

麻酔症例内訳	
総症例数（緊急）	2,407（159）
全身麻酔	1,678
全麻＋硬麻等	237
脊麻・硬麻等	485
伝達麻酔	0
その他	7

【各科別麻酔依頼件数】

	件数 (%)	緊急
整形外科	962 (40.0)	42
形成外科	216 (9.0)	3
泌尿器科	250 (10.4)	8
耳鼻咽喉科	204 (8.4)	4
外科	269 (11.2)	38
産科婦人科	167 (6.9)	60
歯科口腔外科	144 (5.8)	0
呼吸器外科	166 (6.9)	3
脳神経外科	19 (0.8)	1
眼科	14 (0.6)	0
その他	0 (0)	0

【ICU】

平成30年のICU入室件数は644件です。各科の内訳は以下の通りです。

【各科別 ICU 入室者数】

科名	入室者数
外科	128
呼吸器外科	155
整形外科	134
泌尿器科	107
脳神経外科	43
神経内科	17
産婦人科	9
麻酔科	9
循環器内科	4
呼吸器内科	16
形成外科	18
消化器内科	1
総合内科	2
耳鼻咽喉科	1
小児科	0
合計	644

麻酔科管理患者は8名で内訳は急性薬物中毒3名、急性腎不全2名、敗血症性ショック1名、心肺停止後蘇生1名、マムシ咬傷1名でした。

【麻酔科医名】

池田 耕自 (平成12年4月～)
 西山 淳 (平成17年10月～)
 山下 順正 (平成23年7月～)
 今給黎 南香 (平成28年9月～)
 岡山 奈穂子 (平成28年4月～平成30年2月)
 河村 翠 (平成29年7月～平成30年2月)
 上川路智美 (平成30年3月～)



放射線診断科

部長 鉾立博文

【診療内容・特色】

当院では画像診断機器として CT (64 列：2機、16 列：1 機械)・MRI (1.5T：2 機)、RI・血管造影装置 (Cone-beam CT)・透視装置 2 機・乳房 X 線装置・マンモトームなどを備えています。平成 23 年度に CT・MRI・RI 装置を更新し、PACS・フィルムレス運用にて画像診断を実施しています。救急患者に対する緊急 CT などの読影も on call 対応しています。また、院内で定期的に行われる整形外科・呼吸器・消化器・循環器・脳神経・泌尿器科系のカンファレンスに積極的に参加して画像診断・日常診療の質の向上に務めています。

画像診断情報を元にして低侵襲的な治療法を行う IVR (Interventional radiology：画像下治療) の手技を必要に応じて実施しています。主に原発性肝癌や転移性肝癌に対する肝動注化学 (塞栓) 療法 TA(C)E や膀胱癌などへの動注化学療法、外傷に伴う肝臓・脾臓・腎臓などの臓器損傷や喀血・血胸・腫瘍性病変からの出血に対するカテーテルを用いた動脈塞栓術、US/CT ガイド下生検・膿瘍ドレナージなどに取り組んでいます。その他、各診療科と協力して IVC フィルター留置・消化管ステント・四肢などの血管奇形に対する血管内治療なども行なっています。

【人事・スタッフ紹介】

部長 鉾立博文

(資格) 日本医学放射線学会 放射線診断専門医
日本 IVR 学会 専門医・代議員
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
検診マンモグラフィ読影認定医
緩和ケア研修会修了医
医師臨床研修指導医養成講習修了医
医学博士(鹿児島大学)

医師 佐竹有貴 (平成 30 年 7 月～平成 31 年 3 月)
長谷川知仁 (平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月)

クリニック院長 大久保幸一

(資格) 日本医学放射線学会 放射線診断専門医
検診マンモグラフィ読影認定医
医学博士(鹿児島大学)

非常勤医師 中村信哉(鹿児島大学)

【検査件数】(2018 年 1 月～12 月)

	件数
一般撮影	39,928
X線CT	14,456
MRI	5,795
RI	356
DSA/AG	261
骨塩定量	612
透視・造影撮影	1,071

【2018 年 放射線科入院患者】

肝細胞癌	6
食道癌	5
直腸癌	4
転移性骨腫瘍	4
肝門部リンパ節転移	1
癌性胸膜炎	1
転移性脳腫瘍	1
脊柱起立筋転移	1
グラム陰性桿菌敗血症	1
感染性胃腸炎	1
急性腎盂腎炎	1
胸部気管損傷	1
筋膜性腰痛症	1
神経因性膀胱	1
総胆管結石性胆管炎	1
転移性肝腫瘍	1
前立腺癌	1
乳癌	1
膵臓癌	1
結腸癌	1
混合型肝癌	1
子宮体癌	1
多部位リンパ節転移	1
腰椎圧迫骨折	1
総計	39

【悪性新生物原発巣別患者数】

肝細胞癌	7
直腸癌	6
食道癌	5
肺癌	4
結腸癌	2
子宮体癌	2
乳癌	2
混合型肝癌	1
膵臓癌	1
総計	30

【IVR 症例内訳】

胆道（PTCD, PTGBD, ステントなど）	20
CT/USガイドドレナージ	10
CT/USガイド生検	21
動注化学療法（肝臓癌・膀胱癌）	12
消化管（ステント, PTEG）	4
IVCフィルター留置・抜去	1
CVポート留置・CV挿入	31
その他	38
緊急止血術（TAE）	7
総計	144

【平成 31 年の計画】

平成 30 年度は、業務内容を従来通りの入院病棟管理をやりながらの画像診断・IVR の体制整備をしてきました。全国的には画像診断機器の発達で読影業務の増加により bed free の施設が主流となっていますが、当院での診療スタイルを継承しながら日々努力しているところです。

最近では初期研修医の増加で当科へのローテーション希望者も多く基本症例のテーチングファイルなどの体制整備を引き続き進めていく予定です。画像診断に関する業務においてはあいかわらず非常勤医師の応援を頂きながらの報告書作成となっておりますが、平成31年度は新病院への移転も踏まえ機器更新や常勤医増員を待ちたいところです。

平成29年度より日本専門医機構の新たなる施設認定も始まり更なる読影体制の整備・IVR症例の増加が必須となります。また、本年も初期研修医のローテーターが当科を選択しており引き続き放射線診断学・IVRの魅力を発信していきたいと思っております。

※学会関連は[研究実績]に掲載



放射線治療科

部長 中禮久彦

平成19年10月に当院での本格的な放射線治療のための「リニアックセンター」が開設されて既に12年が経過いたしました。昨今あらゆる分野で変化の速さが話題になりますが、リニアック装置も例外ではなく、先進的大病院での平均更新期間はわずか7-8年までに短縮してきているとのことです。

大学医局の吉浦教授のご厚意で昨年は佐竹先生と長谷川先生、交代で今年から篠原先生と中野先生が常勤医として加わっていただいております。先生方皆新進気鋭の優秀な若手中堅放射線科医で、読影を中心とした診断業務に加えて治療関連診療に対しても積極的に参加してもらっております。また診断部長の鉾立先生には膨大なCT・MRI読影やIVR業務で多忙を極める中であっても、赴任以来変わらず快く治療業務のご協力をいただいております。大学医局スタッフの先生方にはこの場をお借りして深く感謝を申し上げる次第です。

あと1年半ほどで当院は交通局跡地に新築移転いたします。大久保先生の多大なご尽力をいただき、近年他院に比べて遅れをとっていた当院リニアックのハードウェアが時流に合わせて一気に最新のものにアップデートされます。現在のSRT(定位集光放射線治療)に加えて、新病院ではIGRT(画像誘導放射線治療)及びIMRT(強度変調放射線治療)を多くの患者さんに適用してゆきたいと考えております。

日常診療において特殊診療科である放射線科をがん患者さんが直接受診することは稀で、放射線治療患者数及び内容は横断的及び集学的治療にご理解のある内科系及び外科系先生方から放射線科へのご紹介をいただくことで成立しております。当院はコバルト60の時代からの実績では30年を超え、放射線治療専門医1名に加えて、放射線治療認定技師3名及び放射線治療認定看護師1名を擁する放射線腫瘍学会認定施設及び鹿児島県がん診療連携拠点病院です。微力ながら鹿児島のがん患者さんのお役に立てるべく、初診を忘れず謙虚に日々精進していきたいと考えております。

【スタッフ紹介】

放射線治療科 部長 中禮久彦

〈経歴・資格〉

平成元年 宮崎医科大学卒業

鹿児島大学医学部放射線科入局 研修医

同3年 国立がんセンター中央病院

放射線治療部レジデント(国内留学)

同6年 一誠会 三宅病院

同7年 今給黎総合病院放射線科

同8年 鹿児島大学医学部放射線科 医員

同9年 同上 助手

同17年 同上 講師

同18年 同上 退局

今給黎総合病院放射線科 治療部長

平成9年 日本医学放射線学会 専門医(第2999号)

同12年 博士学位(鹿児島大学 医論第1267号)

同13年 日本放射線腫瘍学会 認定医(第336号)

同25年 研修指導者認定

(日本医学放射線学会 第R07590R0号)

【平成30年 診療状況】

○主な原発巣別

リニアック照射新患者数(全:185名) 内訳

呼吸器系(肺・気管・縦隔)	61名(内 肺:61名)
泌尿器系	33名(内 前立腺:13名)
消化管系(食道・胃・腸)	33名(内 食道:12名)
肝・胆・膵系良性(ケロイド)	14名
血液・リンパ系	13名
良性(ケロイド)	15名

○リニアック照射新患及び再患者数 主な転移 内訳

骨	39名
脳	10名

○定位集光照射(SRT)新患者数 内訳

肺:7名	脳:4名	肝:1名
------	------	------

○緊急照射新患者数 内訳

脊髄圧迫症候群:4名	上大静脈症候群:3名
気管狭窄:1名	

○前立腺シード【全3名】



緩和医療科

部長 松添大助、小玉哲史

多職種でのチーム医療を主軸に、患者本人のみでなく家族も含めた様々な“つらさ”への対応を行っている。2018年は緩和ケアチームにとって松添部長での締めくくりの年となった。2019年4月からは大瀬部長を迎え、新体制で緩和医療のさらなる充実を目指す。

【身体症状担当；松添大助】

《講義》

鳳凰高等学校看護学科専門課程

2018年5月～6月

呼吸器疾患；10時間、緩和ケア概論；2時間

鹿児島医療センター緩和ケア研修会

2018年1月8日 地域連携と治療・療養の場の選択

南風病院緩和ケア研修会

2018年7月15日 地域における医療連携

《取得資格》

日本緩和医療学会緩和医療認定医

2018年4月1日

《緩和ケアチームメンバー》

身体症状担当医師：松添大助

精神症状担当医師：小玉哲史

専従看護師：早崎玲子、岩山友紀

保健師：植屋明代、MSW：吉國久子

薬剤部：財間富士子、前嶋一友、築地辰典、中山恵美

リハビリテーション部：木原智美、重水智子、

宮之原俊一、山田千夏、栄養管理部：田中美帆

【緩和ケア依頼のべ件数（2018年1月～12月）】

	外来	入院
呼吸器内科	1	150
外科	5	55
呼吸器外科	1	52
泌尿器科		19
婦人科	1	15
消化器内科		15
血液内科		5
放射線科		4
循環器内科		2
総合内科		1
整形外科		1
形成外科		1
計	8	320

【依頼内容】（複数重複あり）

	外来	入院
疼痛コントロール	5 62.5%	87 27.2%
疼痛以外の身体症状	2 25.0%	96 30.0%
メンタルケア	3 37.5%	272 85.0%
家族ケア	1 12.5%	88 27.5%
退院・転院支援	2 25.0%	67 20.9%
倫理		15 4.7%

【精神腫瘍担当；小玉哲史】

《講義》

鹿児島医療センター緩和ケア研修会

2018年1月8日 コミュニケーション

県立大島病院緩和ケア研修会

2018年2月4日 コミュニケーション

鹿児島大学病院緩和ケア研修会

2018年3月4・5日 コミュニケーション

県立薩南病院緩和ケア研修会

2018年5月26・27日気持ちのつらさ、せん妄、不眠
南九州病院緩和ケア研修会

2018年7月15日 コミュニケーション

済生会川内病院緩和ケア研修会

2018年8月19日 コミュニケーション

鹿屋医療センター緩和ケア研修会

2018年9月9日 コミュニケーション

【緩和ケアチーム依頼以外の精神症状診察（精神科診察）】

2018年度合計＝130件

紹介元診療科の内訳

（整形外科 60件、呼吸器外科 11件、脳神経内科 8件、消化器内科・総合内科 7件、外科・泌尿器科 6件、形成外科・呼吸器内科・循環器内科 5件、産婦人科 3件、糖尿病内科・脳外科 2件、血液内科・小児科・麻酔科 1件）

精神疾患診療体制加算2（2018年4月～2019年3月）＝27件

※学会関連は[研究実績]に掲載



病理診断科

部長 白 濱 浩

病理診断科は常勤病理医1名、臨床検査技師4名（細胞検査士3名）、医療クラーク1名の計6名で組織検査、術中迅速診断検査、細胞診検査、病理解剖を遂行しています。また、病理診断では免疫染色は必須であり、当院では機械化し、近隣病院病理部門や検査センター等の院外からの受託検査も行っています。

本年は当院病理部門開設を開設し中心的に支えてきたスタッフである徳永技師が定年退職致しました。また、同様に長年にわたりご指導いただいた佐藤栄一鹿児島大学名誉教授が逝去されました。お二人への感謝と共に築いていただいた当院病理部を発展させるべく努力していかねばなりません。

現在は、新病院の設計や病理業務支援コンピューターシステムのブラッシュアップなど本来の業務以外にも多忙ななか、業務を行っています。これまで“職人技”で支えてくれた徳永技師の退職に伴いより迅速な変革が重要となってきています。今後は技術の標準化や必要な検査に人員を配置し、より精度の高い病理検査を行うために機械化等の環境を整えていきたいと思いをします。

また遺伝子診断が重要性を増しており、特にNGSへの対応をどのように行っていくか検討が必要です。

【病理部スタッフ】

医師

白濱 浩

日本病理学会病理専門医

日本臨床細胞学会細胞診専門医

日本病理学会病理専門医研修指導医

鹿児島大学医学部臨床教授

技師

肥後 真 (臨床検査技師、国際細胞検査士)

田辺 尚子 (臨床検査技師、国際細胞検査士)

有村 郷司 (臨床検査技師、細胞検査士)

瀬川 千春 (臨床検査技師)

西村 ゆかり (医療クラーク)

【院外活動】

1) 子宮の日キャンペーン活動 田邊、有村、瀬川 H30. 4. 15

【病院施設の公開利用】

1) 3月26日 第145回鹿児島病理集談会 18名

【施設認定】

1) 日本病理学会研修登録施設

2) 日本臨床細胞学会教育研修施設

組織診および細胞診検体数

	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年
組織件数	3,727	3,042	2,787	3,034	2,927
細胞診件数	2,453	2,461	2,521	2,744	2,669
術中迅速	193	164	139	164	166
院外からの受託（免疫染色）	1,787	1,942	1,587	1,710	1,735

組織診断統計(2018年1月1日～12月31日)

	生検		内視鏡切除など		切除		合計
	全件	悪性	全件	悪性	全件	悪性	
心血管	0	0	0	0	0	0	0
血液・骨髄・脾	9	2	1	1	4	0	14
リンパ節	19	10	0	0	168	46	187
鼻・咽頭・喉頭	124	2	7	0	26	1	157
肺	119	57	2	0	130	97	251
胸膜・縦隔・腹膜	14	10	0	0	24	6	38
口腔・唾液腺	23	2	0	0	34	0	57
食道	67	12	11	9	0	0	78
胃・十二指腸	308	32	19	12	18	8	345
小腸	15	2	0	0	19	4	34
大腸・肛門	182	44	307	15	106	46	595
肝・胆・膵	25	8	0	0	81	22	106
腎・尿路男性	118	67	90	50	190	99	398
女性器	60	16	8	1	156	15	224
乳腺	11	6	0	0	9	6	20
内分泌	0	0	0	0	3	1	3
中枢末梢神経	1	1	0	0	2	2	3
耳・眼	3	0	0	0	2	0	5
皮膚	99	12	1	0	437	22	537
骨・関節	19	8	0	0	21	0	40
軟部	17	7	0	0	150	5	167
その他	10	8	3	0	74	2	87
合計	1,243	306	449	88	1,654	382	3,346

細胞診断統計(2018年1月1日～12月31日)

	陰 性	擬 陽 性	陽 性	材 料 不 適	合 計	組 織 と の 対 比
婦人科(内臓)	44	3	1	0	48	2
呼 吸 器	199	47	123	8	377	5
消 化 器	80	16	13	0	109	7
泌 尿 器	568	86	69	0	723	7
乳 腺	12	8	11	5	36	2
甲 状 腺	10	3	0	4	17	0
体 腔 液	210	20	78	0	308	5
リ ン パ 節	2	0	4	0	6	0
そ の 他	26	4	5	1	36	0
総 件 数	1,151	187	304	18	1,660	28

婦人科(膣頸部)

NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	AGC
336	36	38	0	7	1
SCC	Adeno. Ca.	AIS	その他悪性	組織との対比	合計
0	0	1	0	8	421



在宅診療科

部長 林 茂 昭

【診療科紹介】

平成30年12月現在、在宅診療科は常勤医師は2名在籍しており、通院が困難で自宅療養を希望されている方を対象に訪問診療を行っています。訪問診療には当科2名の医師が中心となり、他科医師の協力も頂き、また理学・作業療法士及び在宅医療部の保健師・看護師と連携を図りつつ訪問診療を行っています。基本的に、臨時往診は行わず、2回/月の定期訪問診療を行っています。

当科以外に、脳神経内科、総合内科、循環器内科の先生に御協力を頂き、日々の診療を行っています。本年度は人事異動があり、小田医師が3月いっぱいで当院退職となりました。それを補うために、循環器内科下舞医師に診察依頼を行いましたところ、快くお引き受けくださり、人数が減ることなく診療を継続することができております。

【スタッフ紹介】

在宅診療科医師

林 茂昭 日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、日本神経学会専門医
甲斐 太 日本内科学会認定内科医、日本神経学会専門医、日本脳卒中学会専門医

訪問診療医師

甲斐医師、林医師、二木医師(総合内科)、三宅医師(総合内科)、下舞医師(循環器内科)、小田医師(脳神経内科)

【診療状況】

平成30年12月31日において当院在宅医療部の訪問診療を受けられた方は43名となっています。

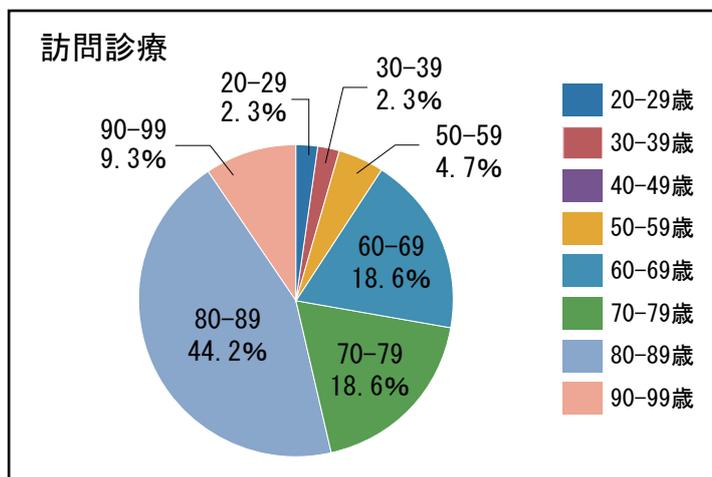
全身状態が悪化した場合は、在宅でそのまま対応する場合もあれば、入院での治療も行っております。高齢の方が多く、入院回数が多くなるとともにご本人の介護度が高くなり、介護者の負担が増大し自宅での介護が困難となり、療養型病院に入院または入院施設入所となる方、あるいは亡くなられた方もおられます。平成30年の診療実績は下記のような状況であります。

【年間訪問診療患者数】

年間訪問診療・訪問看護患者総数 43名 (男性 18名 女性25名)
(訪問診療：26名 男性 13名 女性 13名)

【患者年齢】

年代	人数	(訪問診療)
20-29	1	1
30-39	1	0
40-49	0	0
50-59	2	2
60-69	8	3
70-79	8	4
80-89	19	13
90-99	4	3
合計	43	26

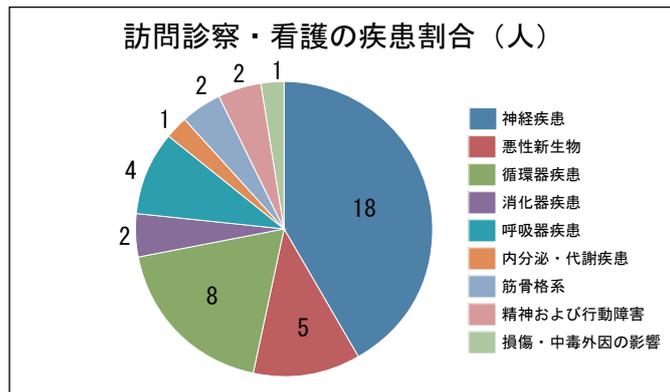


【平成30年 月別訪問診察人数（緩和医療科分は含めず）】（平成30年1月1日～平成30年12月31日）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
人数	19	19	19	20	18	18	18	18	18	19	20	19
入院数	3	3	3	6	6	4	3	4	7	7	2	3
終了：死亡	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
終了：その他	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0

【平成30年度 主疾患名（訪問診察、訪問看護）43名】

疾患名	(人)
神経疾患	18
悪性新生物	5
循環器疾患	8
消化器疾患	2
呼吸器疾患	4
内分泌・代謝疾患	1
筋骨格系	2
精神および行動障害	2
損傷・中毒外因の影響	1



【平成30年 月別訪問看護・診察件数】（平成30年1月1日～平成30年12月31日）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計（件）
訪問診察	37	39	37	33	30	33	34	31	25	29	34	34	396
訪問看護	72	73	80	104	88	83	89	91	79	92	100	86	1,037
訪問リハビリ	3	3	4	4	4	4	4	3	2	4	4	3	42
合計（件）	112	115	121	141	122	120	127	125	106	125	138	123	1,475



歯科

部長 鎌田 ユミ子

【診療内容・特色】

当院では、平成18年8月に歯科口腔外科を開設し、その後、入院中の歯科治療や口腔ケアを必要とする患者様の増加に伴い、平成24年4月に新たに歯科を開設しました。

診療は、主に本院に入院中の患者様や他科からの紹介患者様の歯科治療や口腔ケアを昭和会クリニック歯科外来にて行っています。また、入院患者様で外来受診できない方には、随時、病室へ往診して診療しています。診療内容は、う蝕・根管治療、歯周治療、冠やブリッジ、義歯などの補綴治療で、平成30年3月から手術を受ける患者様を対象に術前歯科受診システムを導入し、必要な方には手術前からの口腔機能管理を開始しました。

一般の歯科診療に加え、病院歯科でもあることから、入院患者様の口腔ケアにも取り組んでいます。平成22年6月に院内の多職種が集まり、口腔ケアチームを立ち上げ、定期的に勉強会や研修会を開催したり、口腔ケアの病棟ラウンドを行ったりして、入院患者様の口腔ケアの質の向上を図り、誤嚥性肺炎予に寄与できるように努めています。

また、口腔ケアチームメンバーは、多職種の集まりであるため、口腔ケア学会参加や学会認定資格を取得するなどして口腔ケアに関する知識やスキルの向上に努めており、平成29年4月から口腔ケア学会の「口腔ケア認定施設」になりました。

また、院内のNST（栄養サポートチーム）にも参加しており、NST対象患者様の口腔アセスメントを行い、栄養サポートが必要な患者様の口腔内や入れ歯の問題の早期発見に努めています。

本院はがん拠点病院であり、がん治療を受ける患者様も多くいらっしゃいます。がん治療の中でも抗がん剤治療や放射線治療では、その副作用でひどい痛みを伴う口腔粘膜炎になる場合があり、食事などに支障をきたすこともあります。この口腔粘膜炎は、がん治療前から、歯科で専門的な口腔ケアを行い、口腔内を清潔に保つことで、軽症化を図ることができると言われています。現在、3名の歯科衛生士が、この専門的口腔ケアを中心となって行い、がん治療を受ける患者様が口腔トラ

ブルに悩まされることなく、がん治療を遂行できるようサポートしています。

さらに本院は、年間約2000件の全身麻酔手術を行う急性期病院であることから、平成30年3月からは手術を受ける患者様を対象に術前歯科受診システムを導入しました。この目的としては、全身麻酔挿管時の歯の損傷防止（ぐらつく歯の抜歯や固定）や口腔ケアによる術後の誤嚥性肺炎・人工呼吸器関連肺炎予防、手術創の感染防止、手術前後に食事に支障がないように歯や歯肉、入れ歯の状態を改善する等が挙げられます。開始当初は、20～30%ほどの歯科受診率でしたが、現在では60%を超える患者様が、全身麻酔手術前に歯科受診をされ、状況に応じて必要な歯科治療や口腔ケアを行っています。

この取り組み開始後は、手術室での歯に関するトラブルはなくなり、手術中の口腔トラブル防止に一定の効果があったと思われます。今後も手術中や入院中の口腔トラブルを防止し、口腔機能の回復を図り、お口や入れ歯に不安なく入院生活を送れるよう歯科的なサポートを行っていきたいと考えます。

【スタッフ紹介】

部長 鎌田 ユミ子（歯科医師）

資格：日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士
所属学会：日本補綴歯科学会、日本老年歯科医学学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、日本口腔ケア学会

【病院指定】

平成25年～
鹿児島大学病院 歯科医師臨床研修プログラム
研修協力施設
鹿児島大学病院 歯科医師臨床研修 研修歯科
医受け入れ

【講義】

専門学校講師：鹿児島歯科学院専門学校
歯科技工士科 非常勤講師

外来患者数・手術件数は歯科口腔外科に掲載

全身麻酔手術前歯科受診状況（2018年3月～12月）

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
受診あり	46	42	69	103	77	95	90	109	117	95	843
受診なし	136	114	106	61	102	101	57	49	73	51	850
手術件数	182	156	175	164	179	196	147	158	190	146	1,693
歯科受診率	25.3%	26.9%	39.4%	62.8%	43.0%	48.5%	61.2%	69.0%	61.6%	65.1%	



歯科口腔外科

部長 吉田 雅 司

【診療内容】

歯科口腔外科は、平成18年8月1日に開設されました。現在、歯科と歯科口腔外科を標榜して日常診療を行っています。歯科は一般歯科を常勤歯科医師1名が担当し、歯科口腔外科外来診療は、常勤歯科医師2名が主に担当しています。歯科衛生士3名、歯科技工士1名、および受付1名の常勤スタッフが歯科と歯科口腔外科を兼務し、当院の入院患者やスタッフ、さらにご紹介いただいた患者様の治療を主に行っています。

診療は、主に昭和会クリニックで外来診療を、今給黎総合病院で入院診療を行っています。

1. 外来治療

- 1) 埋伏智歯抜歯を中心とした抜歯、歯の破折や歯槽骨骨折、歯根のう胞や粘液のう胞などの摘出術、顎関節症、および外傷治療
- 2) スポーツ選手に対するマウスガード（マウスピース）の作成や咬み合わせのチェックなどを行うスポーツ歯科：特に、2020年東京オリンピックパラリンピックや鹿児島国体に向けて準備活動を行っています。
- 3) 顎矯正手術患者の術前・術後管理

2. 入院治療

- 1) 顎矯正手術：さまざまな顎変形症に対応した手術が行われています。最近の傾向としては、小下顎による睡眠時無呼吸症候群患者の顎骨形成術が増加しています。
- 2) 有病者の抜歯や外科治療
- 3) さまざまな口腔外科の疾患の手術や治療に対応しております。

本院は、他科との連携が非常にスムーズで、有病者の患者様はもちろんのこと、常に安心できる歯科医療を提供できる環境が整っております。その一環として、歯科と歯科口腔外科との役割分担化を図り、歯科部長の鎌田先生が院内の核として口腔ケアチームを立ち上げ、総合的に入院患者や外科手術前患者の口腔清掃に努め、嚥下性肺炎の防止、外科手術後の創感染可能性の減少に努めています。

看護師やその他のスタッフの方々の方々の献身的な支えがあって、充実した診療が行えていると思います。さらに、努力し、今給黎総合病院・昭和会クリニックから情報発信ができるよう、頑張っていきたいと思います。

【スタッフ紹介】

吉田雅司（歯科医師）昭和会今給黎総合病院常勤、専門分野：歯科口腔外科、スポーツ歯科
日本口腔外科学会 代議員、指導医、専門医、日本顎顔面インプラント学会 指導医
日本スポーツ歯科医学会 理事、評議員、日本スポーツ協会公認 スポーツデンティスト
鹿児島県体育協会 評議員、鹿児島県トライアスロン協会 理事、長崎大学 非常勤講師、その他

江頭寿洋（歯科医師）昭和会今給黎総合病院常勤、専門分野：歯科口腔外科、一般歯科
日本口腔外科学会認定医、日本口腔科学会認定医、日本再生医療学会認定医、日本外傷歯学会認定医
日本化学療法学会認定医、日本ドライマウス研究会認定医、日本有病者歯科医療学会認定医
日本歯科薬物療法学会認定医、日本救急医学会・認定 ICLS インストラクター

瀬戸山智香（歯科衛生士）

満尾裕子（歯科衛生士）

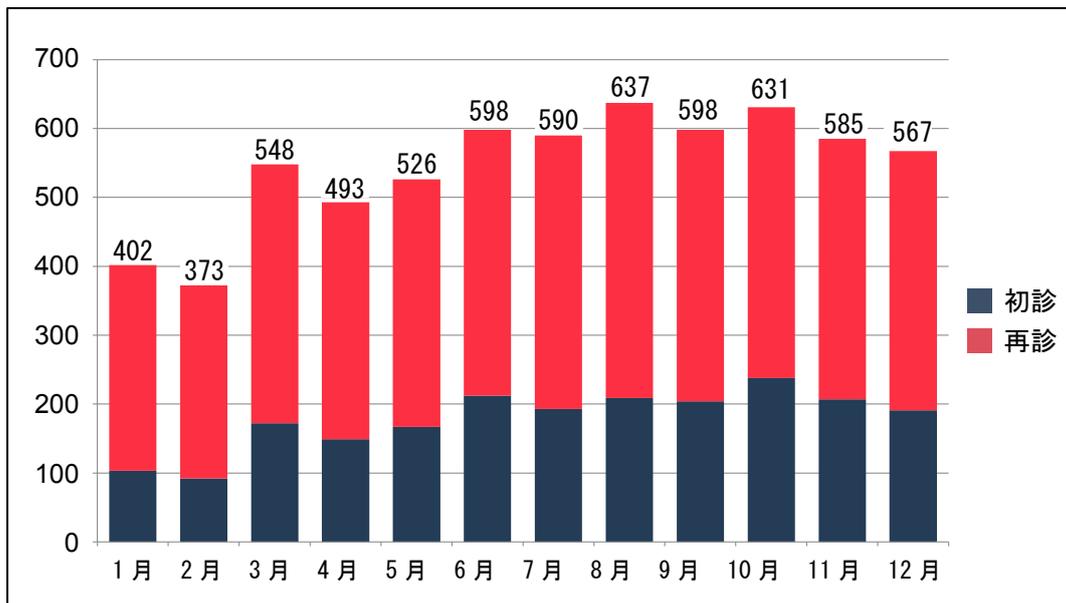
宮路貴子（歯科衛生士）

吉永まどか（歯科技工士）

【2018年統計】(2018年1月1日～12月31日)

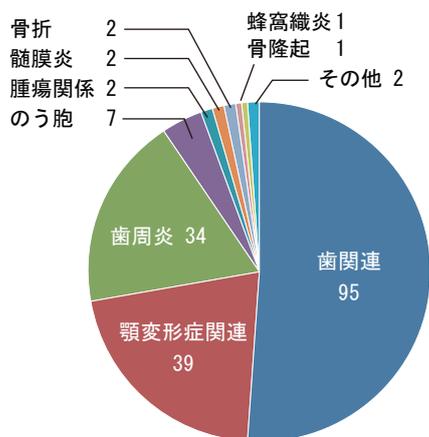
- ・ 外来患者数 6,548人 (新患2,137人) (歯科・歯科口腔科 / 病院・クリニックの合計)
- ・ 入院患者 185人

【月別外来患者数】



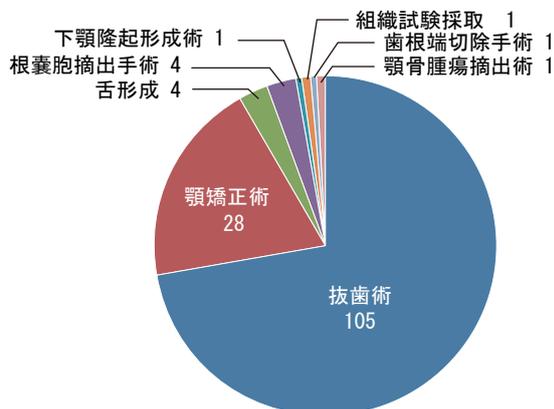
【症例別 入院患者 185人】

病名	症例数
歯関連	95
顎変形症関連	39
歯周炎	34
のう胞	7
腫瘍関係	2
骨髄炎	2
骨折	2
蜂窩織炎	1
骨隆起	1
その他	2
計	185



【手術症例(全身麻酔)145件】

手術名	症例数
抜歯術	105
顎矯正術	28
舌形成手術	4
歯根嚢胞摘出手術	4
下顎隆起形成術	1
組織試験採取	1
歯根端切除手術	1
顎骨腫瘍摘出手術	1
計	145



□離島診療

□永良部島離島歯科診療隊に参加
11月9日～12日



□歯科口腔外科・スポーツ歯科外来は格闘家菊野克紀さんをサポートしています。

世界で活躍する鹿児島市の出身で格闘家菊野克紀さんは、当科で作製したマウスピースで戦っています。

<http://kikunokatsunori.com/>

□歯科口腔外科・スポーツ歯科外来は鹿児島レブナイズをサポートしています。

吉田は、鹿児島レブナイズ後援会長を務め、選手の歯や口の問題に対する相談を受けたり、試合や練習時に口のケガを防止するために、マウスガードを提供しています。

注) 国際バスケットボール協会の規約により、現在は無色透明のマウスガードが使用可能となった。



救急科

部長 西山 淳

【スタッフ】

救急科部長 西山 淳

【資格・活動】

日本救急医学会 救急科専門医	鹿児島県ドクターヘリ医療作業部会検証医
日本麻酔科学会 麻酔科専門医	エマルゴトレインシステムシニアインストラクター
日本救急医学会九州地方会評議員	日本DMAT隊員登録医、鹿児島県DMAT隊員登録医
鹿児島集中治療研究会世話人	AMAT隊員登録医、ICLSディレクター
鹿児島救急・集中治療研究会世話人	医師臨床研修指導医養成講習修了医
薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会指導医	医学博士（鹿児島大学大学院）

【業績・活動】(2018年)

2月14日、19日	鹿児島県消防学校救急科	講義	西山
3月4日	鹿児島マラソン2018	医療救護班	西山、橋口 熊迫、松田
3月15日	第4回 薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会	指導医	西山
4月20日	第46回今給黎総合病院BLSコース	ディレクター	西山
6月16日	第47回・48回今給黎総合病院BLSコース	ディレクター	西山
6月28日	第1回 薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会	指導医	西山
7月7日	第12回今給黎総合病院ICLSコース	ディレクター	西山
7月13日	第1回救急隊・今給黎総合病院合同カンファレンス		
7月20日	第49回今給黎総合病院BLSコース	ディレクター	西山
7月29日	エマルゴコース（災害机上訓練）開催	シニアインストラクター	西山
8月5日	かごしま市消防70の祭典	出席	西山
9月3～5日	日本DMAT隊員養成研修	出席	西山、橋口、熊迫 御供田、越間
10月15日	第2回 薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会	指導医	西山
10月19日	三地域（薩摩・北薩・霧島）MC協議会合同訓練	指導医	西山
11月28日	第2回救急隊・今給黎総合病院合同カンファレンス		
12月1～2日	鹿児島県DMAT研修	インストラクター	西山、橋口、熊迫 御供田、越間
12月14日	第3回 薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会	指導医	西山
12月26日	第50回今給黎総合病院BLSコース	ディレクター	西山

【研修・実習受け入れ】

1月15～22日	鹿児島市消防局 1名	救急救命士再教育
1月24～2月1日	救急救命士九州研修所 3名	臨床実習
2月19～26日	鹿児島市消防局 1名	救急救命士再教育
2月19～3月2日	鹿児島市消防局救急救命士 1名	就業前病院実習
2月22～23日	鹿児島市消防局救急救命士 2名	病院実習
3月6～3月16日	鹿児島市消防局救急救命士 1名	就業前病院実習
4月17日～5月1日	鹿児島市消防局救急救命士 2名	就業前病院実習
5月2～17日	鹿児島市消防局救急救命士 2名	就業前病院実習
5月21～28日	鹿児島市消防局 1名	救急救命士再教育
10月15～22日	鹿児島市消防局 1名	救急救命士再教育
11月26日～12月3日	鹿児島市消防局 1名	救急救命士再教育

※学会関連は[研究実績]に掲載。診療実績に関しては病院統計をご参照ください。

部門報告

Ⅲ-2

各部署報告

- 看護部
- 薬剤部
- 中央放射線部
- 中央臨床検査部
- リハビリテーション部
- 臨床工学部
- 在宅医療部
- 相談支援センター 医療相談室
- 相談支援センター 地域連携室
- がん相談支援センター
- QCセンター
 - ・医療安全管理課
 - ・褥瘡管理課
 - ・緩和医療課
 - ・感染管理課
 - ・施設課
- 栄養管理部
- 診療情報管理部
- 患者サポートチーム
- 事務部



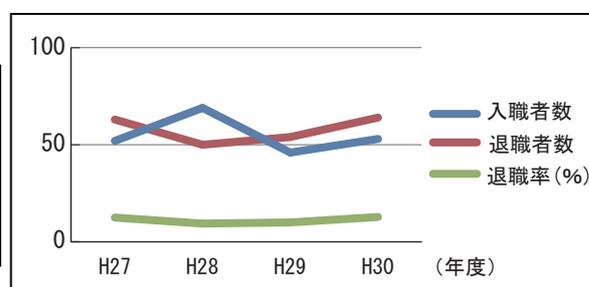
看護部

看護部長 近藤ひとみ

今年度は、2つの看護部目標を掲げ、この目標を達成するために各部署および委員会が年間計画を立て取り組んだ。目標の『患者を生活者としての視点で、個々にあった入退院支援を実践する』に対する評価は、「B」70～90%目標達成部署が10部署、「C」50～70%目標達成部署が5部署であり、概ね目標達成した。また、目標の『人権を尊重した（身体拘束のない）看護サービスを提供する』の評価は、「B」70～90%目標達成部署が8部署、「C」50～70%目標達成部署が6部署、「D」30～50%目標達成部署が1部署であり、看護実践まで至らなかったという反省が多く、来年度の課題であると考えます。

平成30年度の主な看護部の動き・活動は下記にまとめた。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
入職者数(名)	52	69	46	53
退職者数(名)	63	50	54	64
退職率 (%)	12.5	9.4	10.0	12.8



項目	数値	備考
入職者数	53名	(新卒者 24名 既卒者 21名 看護補助者 8名) / 年
退職者数	64名	(新卒者 1名 既卒者 63名) / 年
退職率	12.8%	
平均年齢	35.53歳	平成30年9月30日現在
平均在勤年数	8.6年	常勤平均在勤年数
平均年休所得率	54.10%	一人平均 8.9日 / 年
時間外	4.2時間	一人平均 / 月
部署異動	52名	看護師 37名 看護補助者 15名
出産者数	25名	看護師 24名 看護補助者 1名 育休取得者 27名 / 年
研修状況	127回 483名	院外研修
	110回 3,380名	院内研修
	210回 3,111名	単位別学習会
院外研究発表	18名	日本看護協会、新生児学会、各種学会等
雑誌他投稿・執筆	2名	日本オストミー協会誌 9月号、第29号新潟小児看護研究会ニュースレター
表彰	2名	鹿児島県医師会会長賞(看護業務功労)
院外講義・講演活動	56名	看護学校・看護協会・各学会等
ボランティア活動	72名	救護派遣、各種学会・団体・地域等
ふれあい看護体験受入れ	7名	鹿児島東高等学校 1名 松陽高等学校 1名 吉田南中学校 1名 玉龍中学校 4名
インターンシップ受入れ	9名	看護学校 5校
災害救護・訓練参加	8名 看護部	消防消火協議会 3名 DMAT、洋上救急等 5名
看護学生実習受入	9校	述べ実習日数 6968日 延べ実習人数 706名
学校訪問	30校	2回 / 年(5月・1月)



薬剤部

薬剤部長 高橋 真理

【平成 30 年度の概要】

平成30年度は4月に新入職員1名を迎えたが、7月・9月・12月に1名ずつ、3月末に2名退職した。2名は産休後育児休暇中で、年度末に勤務している薬剤師数は17名となった。

薬剤師数が減ったため、薬剤管理指導業務に関わる時間を減らさざるを得ない状況となり、薬剤管理指導患者数は前年度の7割以下となった。新病院での薬剤師病棟配置に向けて、看護部との定期的な話し合いを7月より行うようになった。この話し合いにより、持参薬を使用する日数を見直し、内服薬カートを新たに1病棟で導入した。また、入院前面談を薬剤師が行う場合の手順や様式を整えたが、今年度は実現することはできなかった。薬剤師数が減る一方で薬剤助手の業務を見直した結果、残業時間を前年度の5割ほどに減らすことができた。

学会発表として、前年度2月の鹿児島県病院薬剤師会学術大会において発表した2演題にデータを追加して、6月の医療薬学フォーラムにおいてポスター発表を行った。また、化学療法学会西日本支部総会において、感染担当薬剤師が感染対策チームの取り組みを発表した。今年度の鹿児島県病院薬剤師会学術大会では演題を準備できなかったが、来年度は発表できるようにしたいと考えている。

【スタッフ】

薬剤師	神門優子	久津輪久世	財間富士子	前島一友	古賀亜希子	壽 明伸	山之内樹里
	肥田香織	西岡帆菜未	中山恵美	吉永咲紀	淵村佳奈	築地辰典	福永 碧
	脇元弘喜	岡崎直樹	鈴木秀平	六田湧紀	餅越 茜	水流瑞稀	守屋佑紀
	最勝寺貴広	高橋真理					
薬剤部助手	竹之内清美	田中由梨	田中美保	澤村智美	福村あゆみ	福元のぞみ	

【部門実績】

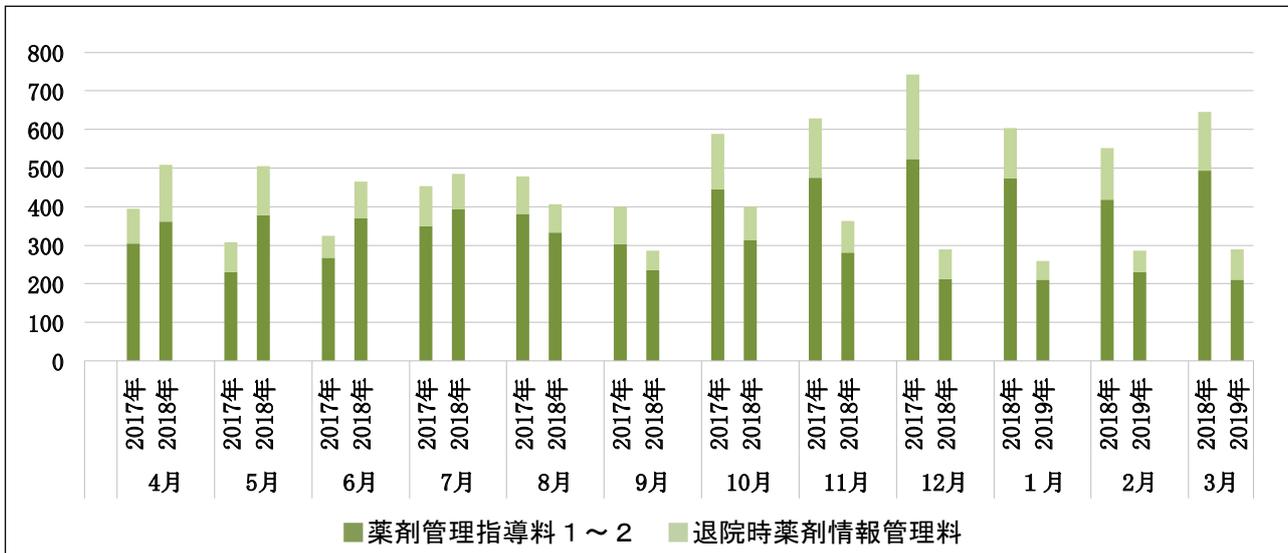
■ 薬剤管理指導実施状況と化学療法患者数 平成30年度と平成29年度の比較

	平成29年度月平均	平成30年度月平均	対前年比
退院患者数	734	711	96.9%
薬剤師数	24	20.5	85.4%
薬剤管理指導 患者数	303	197	65.0%
薬剤管理指導 1～2 件数	388	293	75.5%
薬剤管理指導実施率（薬剤管理指導患者数／退院患者数）	41.4%	27.7%	66.9%
退院時薬剤情報管理指導料 算定件数	121	84	69.4%
退院時薬剤情報管理指導算定率（算定患者数／退院患者数）	16.4%	11.8%	72.0%
薬剤管理指導 退院時指導 件数／全薬剤師数	21.2	18.5	87.3%
薬剤管理指導料 計（円）	1,431,992	1,087,063	75.9%
持参薬鑑別報告書件数	438	478	109.1%
外来化学療法患者数	70	93	133%
入院化学療法患者数	82	120	146%
化学療法 計（円）	487,471	656,875	135%
残業時間（時間）	327.6	169.5	51.7%

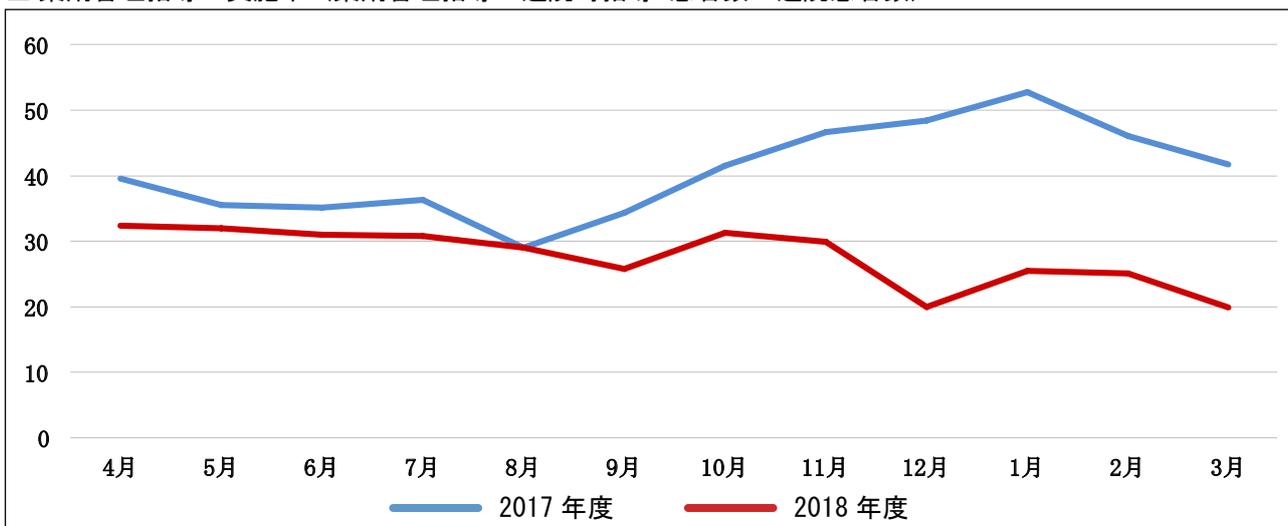
1. 薬剤管理指導

薬剤管理指導件数は、7月までは前年度より多かったが、年度末になるにつれて指導件数は減ってしまった。薬剤管理指導患者数・薬剤管理指導実施率は前年度の7割以下となり、薬剤管理指導実施率(=薬剤管理指導患者数/退院患者数)は27.7%、退院時薬剤情報管理指導実施率は18.5%であった。

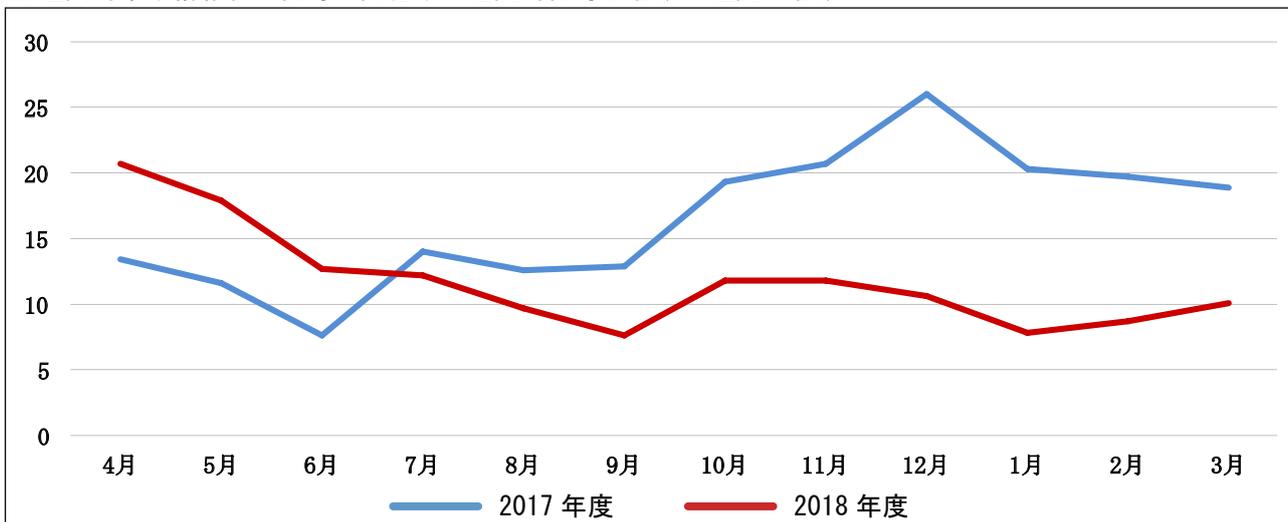
■ 薬剤管理指導料1～2・退院時薬剤情報管理料 算定件数



■ 薬剤管理指導 実施率 (薬剤管理指導・退院時指導 患者数/退院患者数)



■ 退院時薬剤情報管理指導 実施率 (退院時指導患者数/退院患者数)



2. 持参薬に関する業務

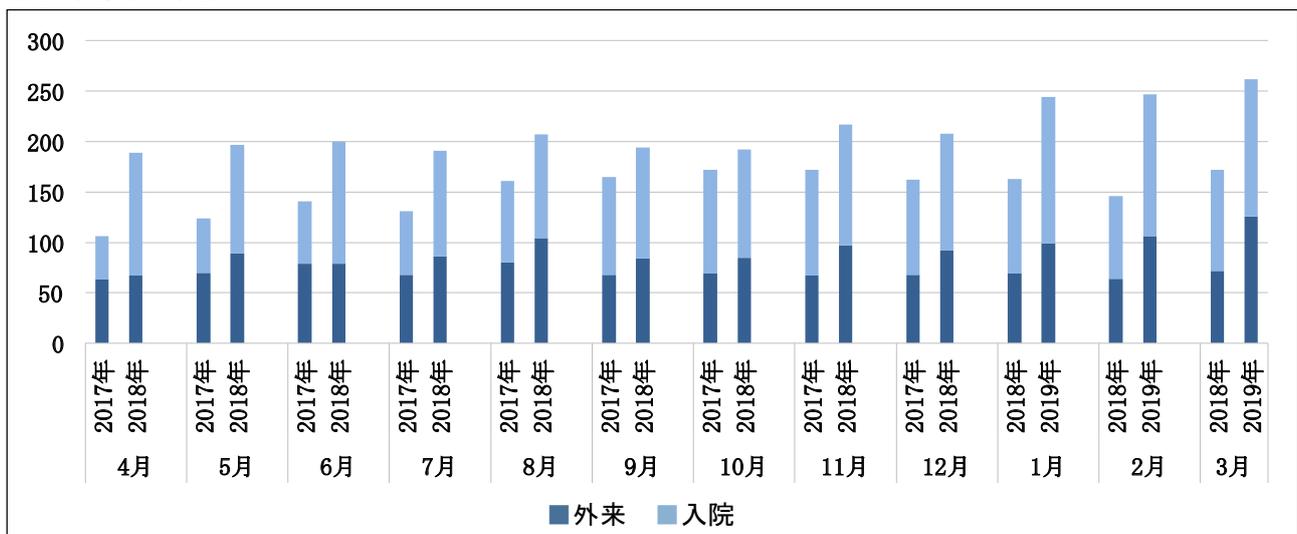
持参薬鑑別報告書件数は月平均478件と、入院患者数の増加に伴い昨年より1割程増えた。

今年度は、持参薬を使用する日数と持参薬鑑別報告書作成の手順を見直した。当院の平均入院日数は14日ほどであるため、持参薬を使用する日数の見直しを提案し、医師・看護部・事務部門と検討した結果、11月より持参薬は最大14日使用することとなった。また、持参薬鑑別システムにより持参薬報告書を作成する際、薬剤助手にも協力してもらい～薬剤助手が薬剤名と数を入力し、報告書作成の準備をする～その後、薬剤師が用法や代替薬、必要なコメントを入力するように改めた。その結果、報告書作成の所要時間を前年度より20～26時間程減らすことができた。

3. 化学療法

入院と外来を合わせた化学療法の件数は昨年度より4割程増え、今年度の化学療法患者数は2,548名であった。投与前の検査・投与量などの確認や無菌調製、服薬指導に、より多くの時間が必要になっている。

■ 化学療法 件数



4. 薬薬連携（保険薬局との連携）

院外処方に関する問題点の解決や、外来化学療法をより安全に行うために、病院薬剤部と保険薬局の連携は不可欠である。今年度も例年通り、薬薬連携会議とがん化学療法に関する薬薬連携研修会をそれぞれ3ヶ月毎に4回ずつ開催した。

今年度は、鹿児島県の取り組み【薬薬連携どんどん推進事業】として、病院と保険薬局の連携を推進する事業が開始された。この取り組みを周知するための研修会では、当院の薬薬連携について発表する機会があった。しかし、夏以降に退職者が多かったこともあり、これまで以上に連携を進めることはできなかった。入退院時における保険薬局との連携は今後の課題である。

■ 平成30年度 がん化学療法薬薬連携研修会

4月18日(水)	「当院における外来化学療法について」	福永碧
7月18日(水)	「当院における大腸がんの化学療法について」	鈴木秀平
10月17日(水)	「前立腺がんにおけるホルモン療法について」	水流瑞稀
1月16日(水)	「胃がんの化学療法と副作用」	餅越茜

■ 薬薬連携どんどん推進事業 研修会

9月28日(金)	「今給黎総合病院における薬薬連携の取組みと症例報告」	淵村佳奈
11月29日(木)	「当院における薬薬連携の取組み」	前島一友

5. 病院指定

日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師研修事業の研修施設
 認定期間：2017年4月1日～2022年3月31日

6. 専門・認定薬剤師など（今年度更新分）

壽 明伸 日本薬剤師研修センター認定 実務実習指導薬剤師 認定取得

学術実績は「研究実績」の頁へ



中央放射線部

技師長 新村 栄次

【はじめに】

平成30年度スタッフは、放射線科専門医5名、技師22名、看護師7名、医療クラーク5名の総計36名の陣容となっています。業務実績としては、前年度と比べて8項目減少しました。全体では1636件の減少となりました。(表1)本院、クリニック共に検査は減少していました。これからも、運用面の改善と広報等で使用効率を高め、創意工夫で精度の高い画像作りを目指して参ります。

学術・各種イベント・資格取得に於いては、ボランティア活動(災害支援)や院内・外のセミナー、学術発表、又専門性を活かした認定資格取得に務めスキルアップを引き続き図ってまいります。

今後も、チーム医療の下、スタッフのレベルアップを図り患者様やスタッフ等から信頼頂ける安全・安心の検査に励んで参ります。

【放射線部組織(陣容)】

1. 放射線科(5名)

クリニック院長	大久保 幸一(放射線科専門医会認定医)
放射線治療科部長	中 禮 久彦(放射線科専門医会認定医・放射線治療認定医)
放射線診断科部長	銚 立 博文(放射線科専門医会認定医)
	長谷川 知仁
	佐竹 有貴

2. 中央放射線部

<技術部門担当>(22名)

技 師 長	新 村 栄 次	副技師長	飯 伏 順 一
●本院	四 本 斉(主任) 稲 留 久 恵 小 屋 俊 彰 宮ヶ谷 瑠 林 幸志郎	篠 原 なつき(主任) 池 田 真 一 小 谷 祐 樹 尾 堂 聡	丸 尾 美由紀 加治屋 博 一 中 村 圭 太 中 村 亮 也
リニアックセンター	松 下 芳 正(主任)	田 川 伸 夫(主任)	
●クリニック	永 山 照 明(副技師長) 濱 田 智太郎	浮 田 啓一郎(主任) 川 畑 朋 之	川 原 美 咲

<事務部門担当>(5名)

医療クラーク	四 本 春 香(主任) 時 任 八千代	武 田 美 里 川 崎 麻 衣(派遣)	奥 ひとみ
--------	------------------------	------------------------	-------

<看護部門担当>(4名)

看護師	中 馬 たまみ 佐々木 まゆみ	有 村 拓 真 ○永田 三千代
-----	--------------------	--------------------

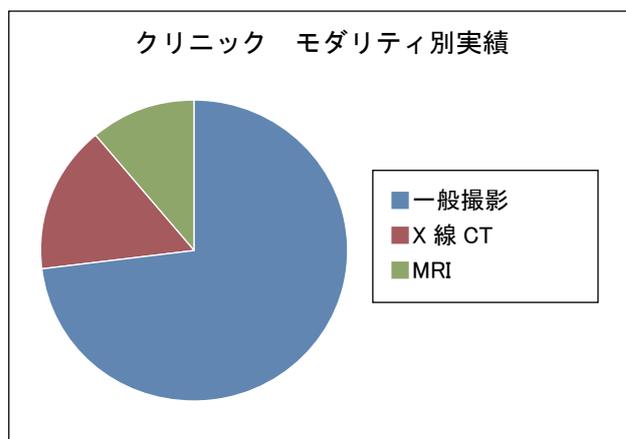
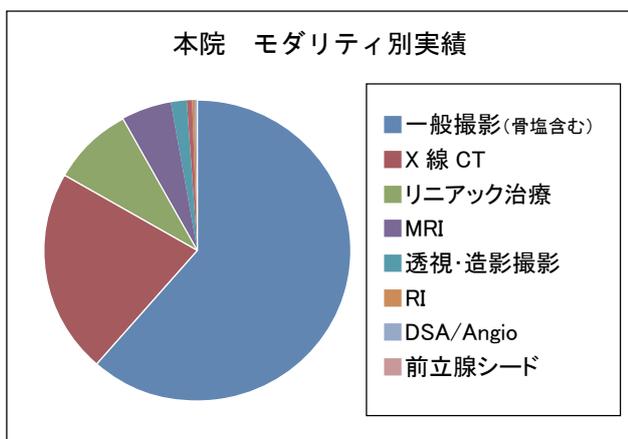
○は、新入職、配属者を示す。

合計 36名

【検査業務実績】(表1)

業務実績は、下記の通りです。全体として対前年度比0.1%の減少でした。
前年度比↑は増、↓は減

検査・治療	29年度	依頼件数等		
	本院	クリニック	計	増減
1 一般撮影(骨塩含む)	22,331	18,340	40,671	↓
2 X線CT	10,613	3,919	14,532	↓
3 M R I	3,055	2,777	5,832	↓
4 透視・造影撮影	1,096	—	1,096	↓
5 R I	310	—	310	↓
6 DSA/Angio	203	—	203	↓
7 リニアック治療	3,174	—	3,174	↓
8 前立腺シード	2	—	2	↓
合計	40,784	25,036	65,820	↓



【学会発表・著述】は 研究実績の項目を参照

【認定資格取得・更新者等】

新規取得 2018年9月28日	救急撮影認定技師	丸尾 美由紀
新規取得 2018年9月28日	救急撮影認定技師	濱田 智太郎
新規取得 2018年9月28日	救急撮影認定技師	稲留 久恵
新規取得 2018年11月1日	放射線被ばく相談員	浮田 啓一郎
更新 2019年2月16日	検診マンモグラフィ撮影技術認定	宮ヶ谷 瑠

【その他の活動】平成30年度の放射線部の受け入れ学術活動(参加)は、次の通りです。

【研修・視察受け入れ】

平成31年 2月4日	明桜館高校インターシップ研修	放射線部	2名
---------------	----------------	------	----

【実習生受け入れ】

平成30年 6月4日～7月28日	鹿児島医療技術専門学校	診療放射線技術学科4年	2名
9月3日～9月28日	鹿児島医療技術専門学校	診療放射線技術学科4年	2名
10月1日～10月28日	鹿児島医療技術専門学校	診療放射線技術学科3年	2名

【ボランティア】

平成30年 5月12日	第13回つながる思い in かごしま	かんまちあ	2名
10月1日	ピンクリボンツリー設置	鹿児島市役所	1名
10月18日	KYT レディースゴルフ 2018	知覧カントリークラブ	1名
10月21日	2018 ピンクリボン in かごしま	ベルク広場	6名
平成31年 2月3日	鹿児島県原子力防災訓練	森林技術総合センター	1名

【院外の会議・研修会等への参加】

平成 30 年			
7 月 21 日	第 5 回 F R T 九州研修会	ホルトホール大分	1 名
9 月 4 日	第 3 回 肺がん検診均てん化研修会	鹿児島県医師会館	5 名
8 月 19 日	第 22 回 乳がん検診研修会	県民交流センター	4 名
8 月 23 日	第 21 回 乳がん検診従事者研修会	鹿児島県医師会館	1 名
10 月 3, 4 日	九州 GYRO ミーティング	JR 博多シティ	1 名
11 月 9 日	低線量 CT 肺がん検診研修会	鹿児島県医師会館	6 名
平成 31 年			
3 月 28 日	乳がん検診従事者研修会	鹿児島県医師会館	4 名

※学会関連は[研究実績]に掲載



中央臨床検査部

部長 寺原賢人 技師長 村中利也(報告)

平成30年度は、新卒1名、エコー技師1名が新しく加わり、総勢25名の検査体制で当院の救急医療に対応しました。特に、腹部エコーは今までは医師が検査していましたが、7月より検査部と放射線部が協力して検査していくことになりました。また、検査機器3台の更新があり、細菌検査の全自動同定・薬剤感受性装置および感染症検査業務支援システム、全自動血液培養装置、グリコヘモグロビン測定装置を更新しました。細菌検査の装置の特徴は、標準化した効率的な同定・薬剤感受性検査のオーダーから結果報告、疫学統計まで、トータルでサポートできるようになりました。全自動血液培養装置は、測定原理が菌の早期検出を可能にし、採血量も少なくなり患者負担、採血者の負担も軽減されました。グリコヘモグロビン測定装置は、ヘモグロビンを高分離分析し、より正確なHbA1c値の測定が可能になりました。また、HbA2、HbFの測定でサラセミア検体を効率よくスクリーニングできます。中央臨床検査部実績は、生化学検査が528,685件、輸血・免疫血清検査が85,346件、血液・一般検査が535,348件、臨床微生物検査が22,451件、生理検査が24,923件、合計1,196,753件で前年と比較して少し減少していました。

また、精度管理は、日々臨床検査データの標準化に努め、日本医師会、日本臨床検査技師会、鹿児島県医師会、その他メーカー主催の外部精度管理への参加と毎日行う内部精度管理で良好な成績を収めました。これからも精度保証認証施設として精度管理の向上に努めたいと思います。学会、研修会等へは多くのスタッフが参加し自己研鑽に励み、1演題を発表することができました。

●平成30年度中央臨床検査部スタッフ

臨床検査部長 寺原賢人
 臨床微生物検査 村中利也(感染制御認定臨床微生物検査技師) 今堀小百合 播磨佐江子(緊急臨床検査士)
 輸血・免疫血清検査 今堀貴之(認定輸血検査技師) 福迫俊介
 血液・一般検査 原菌真由美(二級臨床検査士・血液学) 西田智佳(認定一般検査技師) 岩崎明日香 水流遥香
 生化学検査 山崎泰代 花房雅子 永岡伸代 牧之段李奈(第一種衛生管理者) 玉泉奈智亜
 外来・生理検査 平原千代子 上靄昭知(認定神経生理検査技師) 宝代聡美(認定輸血検査技師) 小原旅人(二級臨床検査士・呼吸生理学) 池本菜月 有村美和 梅田かおり
 超音波検査 富吉祐児(認定超音波検査士) 森田修康(認定超音波検査士) 上川正樹(認定超音波検査士)
 クリニック検査 久永洋一郎

●平成30年度中央臨床検査部実績

生化学検査	件数	件数	件数	件数	
セット検査	443,462	セット外検査	77,831	血液ガス	6,610
血中薬物濃度	413	血糖	369		合計 528,685
輸血・免疫血清検査					
輸血	17,745	免疫血清	5,731	感染症	26,983
腫瘍マーカー	17,364	ホルモン	11,117	その他	6,406
					合計 85,346
血液・一般検査					
血液	472,072	凝固系	33,766	尿	27,976
糞便	287	穿刺液	1,246	その他	1
					合計 535,348
臨床微生物検査					
細菌塗抹培養	13,225	嫌気培養	2,792	薬剤感受性	1,857
抗酸菌塗抹培養	2,230	PCR	1,684	その他	663
					合計 22,451
生理検査					
心電図	8,611	筋電図	1,533	ABI	384
肺機能	5,220	超音波UCG	5,847	超音波腹部	2,895
					脳波 433
					合計 24,923

●精度管理への参加

- ①第52回日本医師会精度管理
- ②第29回日本臨床検査技師会精度管理
- ③第41回鹿児島県医師会精度管理
- ④2018年度関東化学ユーザーズコントロールサーベイ
- ⑤ニッポーユーザーズコントロールサーベイ
- ⑥第20回血液検査コントロールサーベイ
- ⑦第11回コアプレスタ(凝固系)コントロールサーベイ
- ⑧エームス尿検査コントロールサーベイ
- ⑨第25回ルミパルスコントロールサーベイ
- ⑩第23回A I Aコントロールサーベイ
- ⑪平成30年度特異IgEコントロールサーベイ

●実習生(学生)の受け入れ

熊本保健科学大学 保健科学部 医学検査学科 4年生 2名

●学会・研究会への参加

月	学会・研修会名	月	備考
H30. 4月	第1回生物化学分析部門研修会	3	
5月	第28回鹿児島感染制御ネットワーク学術講演会	1	
	鹿児島県臨床検査技師会春季研修会・総会	3	
	第1回輸血細胞治療部門研修会	1	
	第67回日本医学検査学会	1	座長：西田
6月	第7回九州ICMTを育てる会	1	座長：村中
	第2回生物化学分析部門研修会	3	
	第1回臨床微生物検査部門研修会	2	
	第2回臨床血液部門研修会	2	
	第11回九州心不全診断フォーラム	4	
7月	第1回臨床一般部門研修会	4	座長：西田
8月	第2回輸血細胞治療部門研修会	1	
	第1回臨床血液部門研修会	2	
10月	第2回臨床一般部門研修会	2	座長：西田
11月	第28回南九州臨床微生物研究会	1	
12月	臨床血液・病理細胞部門合同研修会	1	
	第3回臨床微生物検査部門研修会	7	座長：村中
	第4回輸血細胞治療部門研修会	2	
H31. 1月	第3回生物化学分析部門研修会	2	
	九州卒後教育セミナー	1	
2月	第30回日本臨床微生物学	1	
	第9回鹿児島県合同輸血療法懇話会	2	
3月	第5回輸血細胞治療部門研修会	1	
	臨床生理部門研修会	5	
	第41回鹿児島県医師会臨床検査精度管理調査研修会	2	
	大島地区研修会	1	発表：西田
	第4回臨床微生物検査部門研修会	2	
	第4回生物化学分析部門研修会	2	

●検査部内勉強会

月	発表者	発表テーマ
H30 5月	富吉 祐児	感染性心内膜炎
6月	岩崎 明日香	後天性血友病A
7月	平原 千代子	血液培養採取方法
8月	播磨 左江子	新しい血液培養の機械について
9月	シスメックス	CS-5100
10月	システムフロンティア	試薬管理システムについて
12月	永岡 伸代	ドラソムマブ投与における輸血検査への影響と対処法
H31 2月	宝代 聡美	喘息の病態生理

※学会関連は[研究実績]にも掲載



リハビリテーション部

療法士長 児島 邦幸

【平成 30 年度の概要】

1. はじめに

急性期医療は、救命や原疾患の治療が、細心のコントロール下で行われます。リハビリは、重症化の予防や心身機能の改善のため、リスクを十分に理解した上でのアプローチが必要です。

一方で、在院期間の短縮は進み、“重症患者であっても、できるだけ短い期間で、しかも在宅に帰っていただく”ことが求められる時代です。これまでは、発症・手術後、すぐに早期リハを開始、自ずと心身機能を高めるリハビリが中心となり、退院後の生活を具体的にイメージしたリハビリの意識は薄かったように思います。

いまや、入院時から早々に退院支援のプロセスが始まります。原疾患の治療が順調な回復路線に乗れば、自宅生活をイメージできるリハビリ計画に変わらなければなりません。“多少、日常生活ができるようになってから退院をする”といったこれまでのロジックからの転換が求められています。

今後は、リハビリスタッフの意識改革を促し、患者本人、家族、ケアマネージャー、その他に自宅生活を支援する人たちとの相談機会を増やし、近距離であれば、時間を調整して入院中の訪問指導等も検討していく。そうして集積した情報からアセスメントを経て、患者家族、他関係者のニーズに添った、現実的な自宅生活イメージの提案ができる療法士の人材育成が必要であると考えます。

2. 届出承認

施設承認	受理番号	算定開始
脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)	(脳I)第46号	平成18年4月1日
呼吸器リハビリテーション料 (I)	(呼I)第28号	平成18年4月1日
運動器リハビリテーション料 (I)	(運I)第7号	平成22年4月1日
がん患者リハビリテーション料	(がんリハ)第9号	平成23年7月1日

3. スタッフ(平成31年3月31日時点)

専任リハ医師	1名			
理学療法士	42名(2名育休中)	作業療法士	22名	言語聴覚士 9名(1名育休中)
リハビリ事務	4名(派遣社員2名含む)	リハビリ助手	1名	

4. 人事

入職	H30.4.1	理学療法士	徳永 顕輝	鹿児島大学
	H30.4.1	理学療法士	桑山 仁志	鹿児島大学
	H30.4.1	理学療法士	森満 真帆	鹿児島医療福祉専門学校
	H30.4.1	理学療法士	種子島 碧	鹿児島第一リハビリ専門学校
	H30.4.1	理学療法士	溝口 真里奈	鹿児島第一リハビリ専門学校
	H304.1	理学療法士	上村 愛実	長崎大学
	H304.1	理学療法士	岩松 有里香	鹿児島医療技術専門学校
	H30.4.1	理学療法士	永田 明日翔	長崎大学既卒
	H30.4.1	作業療法士	蕨南 彩	宮崎保健福祉専門学校
	H30.4.1	作業療法士	大西 結子	鹿児島医療技術専門学校
	H30.4.1	作業療法士	宇都口 瞬	神村学園専修学校
	H30.4.1	作業療法士	伊牟田 俊輝	鹿児島医療技術専門学校
	H30.4.1	作業療法士	中村 恭平	神村学園専修学校卒
	H30.4.1	作業療法士	渡辺 貴子	鹿児島大学医療技術短期大学部既卒
	H30.4.1	言語聴覚士	鬼塚 珠美	国際医療福祉大学
	H31.1.1	作業療法士	森脇 由依	神村学園専修学校既卒

【部門実績】

1. 診療科別

(1) 患者数

	H30. 4	H30. 5	H30. 6	H30. 7	H30. 8	H30. 9	H30. 10	H30. 11	H30. 12	H31. 1	H31. 2	H31. 3
小児科	0	0	0	2	2	0	0	0	1	0	0	1
整形外科	211	215	191	184	206	183	210	224	199	203	201	207
形成外科	17	18	19	19	16	17	23	18	21	18	25	32
脳神経外科	24	19	15	26	21	14	23	25	20	16	24	23
産婦人科	4	2	4	2	2	3	4	3	2	2	3	3
眼科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
耳鼻咽喉科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
放射線科	0	0	0	1	1	2	2	1	0	0	1	1
泌尿器科	11	12	18	17	17	15	14	12	14	14	15	17
麻酔科	1	1	2	2	3	3	3	3	3	2	1	1
皮膚科	3	1	1	2	2	1	1	1	1	1	0	1
総合内科	18	22	17	12	16	16	19	13	15	13	16	21
脳神経内科	63	65	56	58	50	46	45	47	55	49	49	53
循環器内科	10	12	11	17	24	15	14	16	14	12	10	12
呼吸器内科	35	32	32	39	32	30	38	35	33	34	33	35
消化器内科	23	31	29	26	29	25	30	23	19	32	34	35
糖尿病科	2	1	1	2	1	0	0	1	1	1	3	3
血液内科	13	15	12	13	16	19	19	22	24	16	18	20
新生児内科	30	33	30	31	30	28	32	32	30	30	25	25
外科	31	33	33	46	33	32	38	33	36	28	28	26
呼吸器外科	32	25	25	28	24	27	32	33	24	24	20	23
緩和医療科	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	530	539	497	527	525	476	547	542	512	495	506	541

(2) 単位数

	H30. 4	H30. 5	H30. 6	H30. 7	H30. 8	H30. 9	H30. 10	H30. 11	H30. 12	H31. 1	H31. 2	H31. 3
小児科	0	0	0	33	24	0	0	0	19	0	0	17
整形外科	9,360	10,189	10,167	10,066	10,574	9,873	10,435	10,427	9,464	9,387	8,909	9,688
形成外科	1,057	1,173	855	945	919	1,138	974	967	917	918	1,172	1,290
脳神経外科	2,092	1,742	1,660	1,588	1,553	1,223	1,762	1,593	797	1,039	1,157	1,208
産婦人科	99	165	169	99	100	128	119	21	67	51	62	41
眼科	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
耳鼻咽喉科	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26
放射線科	0	0	0	24	34	29	140	37	0	0	5	26
泌尿器科	262	311	555	407	441	465	411	350	417	316	372	434
麻酔科	60	62	72	100	112	132	122	180	100	47	43	5
皮膚科	28	48	48	63	105	74	76	90	93	79	0	10
総合内科	872	894	630	419	460	469	472	633	624	582	885	891
脳神経内科	3,609	4,216	4,165	3,791	3,726	3,366	3,310	4,192	3,965	4,096	4,045	4,908
循環器内科	488	620	618	823	820	624	470	717	546	443	446	667
呼吸器内科	1,074	1,095	1,231	1,042	983	856	1,116	862	843	1,001	837	717
消化器内科	725	1,080	1,261	958	723	1,047	893	915	660	1,077	936	1,082
糖尿病科	40	20	4	53	60	0	0	34	141	178	151	46
血液内科	531	546	565	726	664	836	951	820	631	634	692	838
新生児内科	210	452	387	419	475	397	405	473	448	417	392	496
外科	852	1,168	1,227	1,617	906	1,053	1,056	944	949	825	690	654
呼吸器外科	586	656	450	625	514	541	551	594	645	461	304	347
緩和医療科	61	120	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	22,016	24,563	24,067	23,798	23,193	22,251	23,330	23,849	21,411	21,586	21,107	23,408

2. 実習受入

専門	養成校	種別	人数	開始	終了
理学療法学	鹿児島大学	総合臨床実習Ⅲ	1	H30.7.17	H30.9.7
理学療法学	鹿児島医療技術専門学校	臨床実習Ⅳ	1	H30.5.7	H30.7.13
理学療法学	鹿児島医療福祉専門学校	長期臨床実習Ⅰ	2	H30.5.7	H30.7.14
理学療法学	鹿児島医療福祉専門学校	長期臨床実習Ⅱ	1	H30.7.30	H30.10.6
理学療法学	鹿児島医療福祉専門学校	臨床実習Ⅱ	2	H30.7.23	H30.7.28
理学療法学	鹿児島医療福祉専門学校	臨床実習Ⅰ	2	H30.7.9	H30.7.14
理学療法学	神村学園専修学校	臨床実習(後期)	1	H30.6.25	H30.8.18
理学療法学	九州看護福祉大学	臨床実習ⅢB	1	H30.7.2	H30.8.25
理学療法学	九州看護福祉大学	臨床実習ⅠA	1	H30.9.25	H30.10.13
理学療法学	福岡医療専門学校	見学実習	1	H30.6.26	H30.6.28
作業療法学	鹿児島医療技術専門学校	長期実習	1	H30.8.6	H30.10.12
作業療法学	沖縄リハビリテーション福祉学院	長期臨床実習	1	H30.5.7	H30.7.7
作業療法学	熊本保健科学大学	臨床実習Ⅱ	1	H30.5.7	H30.6.29
作業療法学	九州保健福祉大学	総合臨床実習Ⅱ	1	H30.8.13	H30.10.13
言語聴覚療法学	鹿児島医療技術専門学校	臨床実習Ⅱ	1	H30.5.21	H30.7.13
言語聴覚療法学	熊本保健科学大学	評価実習	1	H30.7.16	H30.8.4

【認定資格者】(平成31年3月31日時点)

がんのリハビリテーション研修修了者	25名	多数
3学会合同呼吸療法認定士	23名	多数
リンパ浮腫複合的治療技術者	1名	井上 和貴子
褥瘡認定作業療法士	1名	宮之原 俊一
日本糖尿病療養指導士	1名	川崎 岳

【部門の取組み】

- 平成17年11月～ NSTにST参加
- 平成18年4月～ 疾患別リハ施設承認
- 平成18年4月～ 専従常勤の療法士が20名
- 平成19年10月～ 褥瘡対策チームにPT・OT・ST参加
- 平成20年4月～ 専従常勤の療法士が30名
- 平成20年7月～ 療法士の病棟担当制の開始
- 平成21年3月～ 日祝含めた均等配置勤務体制開始
- 平成21年4月～ 専従常勤の療法士が40名
- 平成22年6月～ 口腔ケアチームにST参加
- 平成22年10月～ 緩和ケアチームにPT・OT参加
- 平成23年6月～ 専従常勤の療法士が50名
- 平成23年7月～ がん患者リハ施設承認
- 平成24年4月～ 日本リハビリテーション医学会専門医・認定臨床医を専任配置
- 平成24年6月～ リンパ浮腫外来開始
- 平成25年4月～ 専従常勤の療法士が60名
- 平成25年7月～ NSTにPT・OT参加
- 平成26年3月～ RSTにPT参加
- 平成26年4月～ 化療緩和ネットワーク委員会に参加
- 平成27年1月～ 回復期病棟開設
- 平成28年4月～ 転倒・転落ワーキンググループ参加



臨床工学部

技士長 齋藤謙一

1. 高気圧酸素療法 (HB0)

高気圧酸素療法は、平成 30 年度診療報酬改定にて救急適応、非救急適応という境界が廃止され、保険点数が従来の 200 点 (非救急適応) から 3,000 点への変更や疾患により治療回数制限 (7 回、10 回、30 回) などが設けられました。当院では第 1 種装置 2 台で月～金曜日 8:30～17:00、土曜、祝祭日 8:30～12:00 実施。緊急時にはオンコールでいつでも HB0 を実施できる体制で実施しています。2018 年度の治療回数は 2,394 回でした (表 1)。診療科別では、整形外科 58%、耳鼻咽喉科 24% と 2 診療科で全体の約 8 割を占めています (表 2)。

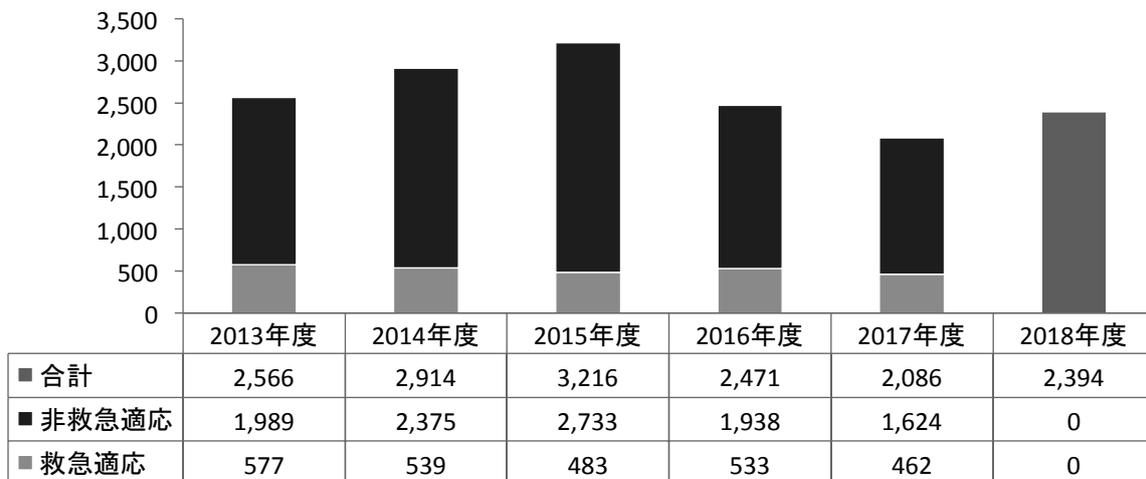


表 1 高気圧酸素治療実施状況

2. 人工呼吸関連

当院の人工呼吸器を表3 (次頁) に示します。

人工呼吸器患者の搬送について

人工呼吸器装着患者の CT や MRI の検査や院外への転院などは、これまで医師がバッグバルブマスクなどを用いて用手換気を行いながら実施していましたが、当院では人工呼吸器装着患者の搬送にも適した人工呼吸器や MRI 対応人工呼吸器の採用により必要な時にいつでも検査することができます。また、人工呼吸に関わる搬送には必ず臨床工学技士が同伴して医師や看護師の労力軽減につなげられるよう努力しています。2018 年度は 138 件の搬送があり院内での搬送は 101 件、院外搬送は 37 件でした。転院時には搬送先での人工呼吸器設定などの申し送り等を臨床工学技士が実施しています。また、鹿児島市立病院 NICU より当院へ転送する新生児に人工呼吸器 (n-CPAP) や NHF が装着されている場合は必ず当院臨床工学技士も一緒に迎えに行き搬送用呼吸器のセットアップ、搬送中の監視を実施しています (表 4)。また、今年度 8 月に当院から九州新幹線で博多、福岡空港から空路で、北海道室蘭市まで赤ちゃんの搬送を行った際には臨床工学技士が福岡空港まで同行しています。10 月には NPPV 装着患者様を九州新幹線で博多、福岡大学病院への搬送にも人工呼吸器、酸素ボンベ、モニター、バッテリーなどの管理に同行しました。

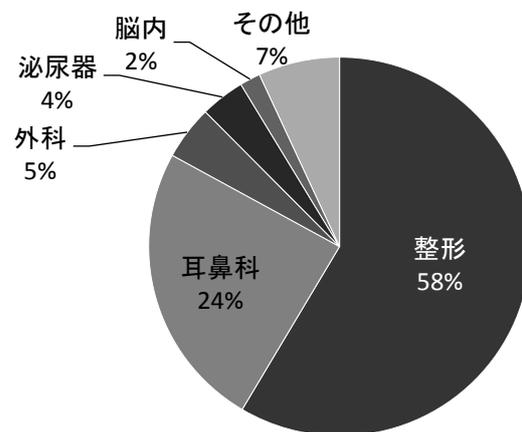


表 2 診療科別HB0依頼件数

機種名	メーカー	台数	コメント
HAMILTON-C1	HAMILTON	4	長時間バッテリー、小型、コンプレッサ内蔵、NPPV・IPPV可、ASV・APRVモード搭載
NPB-840	Covidien	4	高性能、高度な設定が可能、
Evita_XL	Dräger	1	高性能、APRVモード、スマートケア搭載
Engstrom Carestation	GE Healthcare	1	高性能、酸素消費量やCO2産生量、エネルギー消費量、呼吸商、FRC測定
V 60	Philips	2	NPPV専用機 常時レンタル
Carina	Dräger	1	長時間バッテリー、小型、コンプレッサ内蔵、NPPV・IPPV可
Babylog 8000plus	Dräger	3	新生児専用人工呼吸器
Babylog VN500	Dräger	1	HFO搭載の新生児専用高性能人工呼吸器
infant Flow SiPAP	CareFusion	2	新生児専用 n-CPAP 装置 +3台レンタル中
sindi	MedIn	2	新生児専用 n-CPAP 装置
CARE vent MRI	O-TWO Medical	1	ガス駆動、搬送用、MRI対応

表 3 当院所有人工呼吸器（網掛：ICU、NICU専用器）

搬送先	回数
三船病院	3
湯田内科病院	3
福岡大学病院（九州新幹線による搬送）	1
鹿児島医療センター	1
指宿浩然会病院	1
中央病院	1
臨床工学技士同乗の新生児搬送	
鹿児島市立病院	26
日鋼記念病院（人工呼吸器未装着）：福岡空港まで技士付添	1

表 4 人工呼吸患者等 搬送先病院

3. 血液浄化

血液浄化のうち血液透析は3台の個人器（+ICU内に1台）で実施しています。2018年度の透析実施回数は255回でした（表5）。当院は各科に紹介入院された透析患者様について実施しています（表6）その他、持続的腎代替療法（CRRT）、アフエーシスの実施状況を（表7）に示しました。

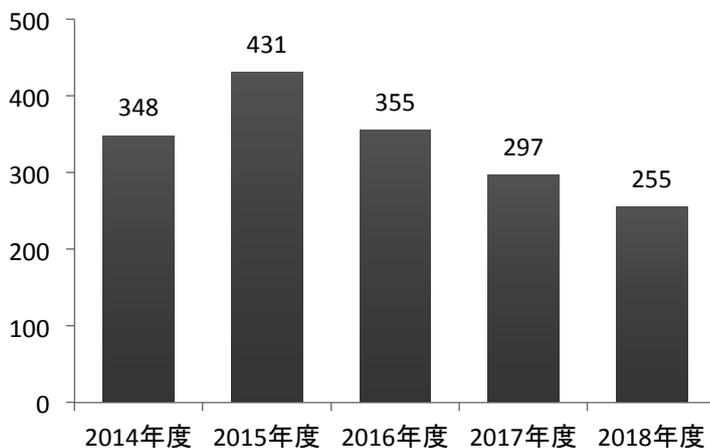


表 5 血液透析実施状況

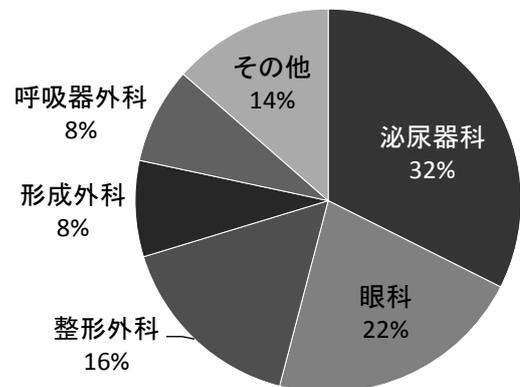


表 6 血液透析患者診療科割合

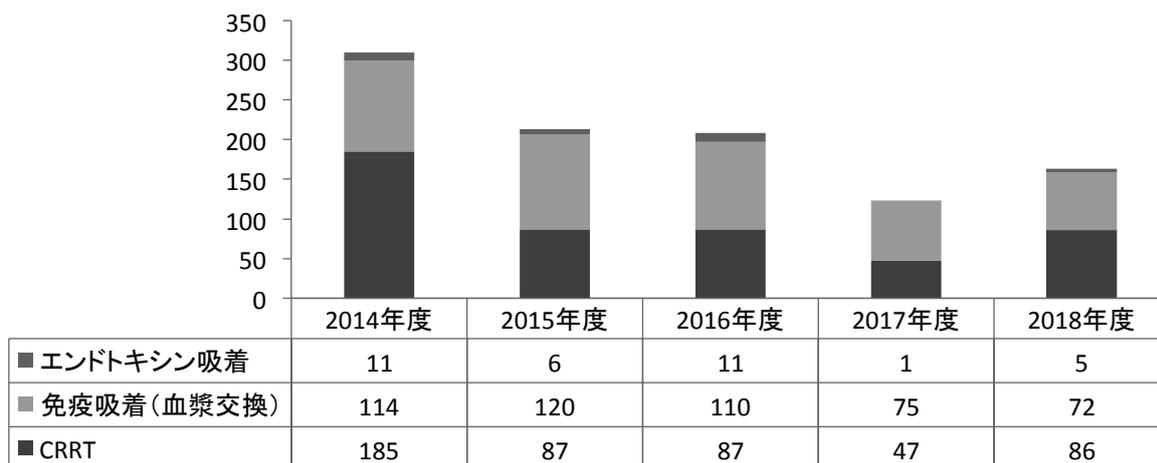


表 7 アフェレーシス実施状況

4. 術中脊椎誘発電位モニタリング

脊椎、脊髄の手術の際、MEP（運動誘発電位）およびSSEP（体性感覚誘発電位）による術中モニタリングを施行しています。脊髄モニタリングとは脊髄の電気伝導能を評価する方法であり、圧迫性病変や脊髄腫瘍などによる脊髄の損傷の程度を評価することができます。

2014年10月に検査機器（Endeavor CR 術中モニタリング装置）の導入を行いMEPの計測が可能になり2018年度は276件の脊椎・脊髄手術で実施しました（表8）。

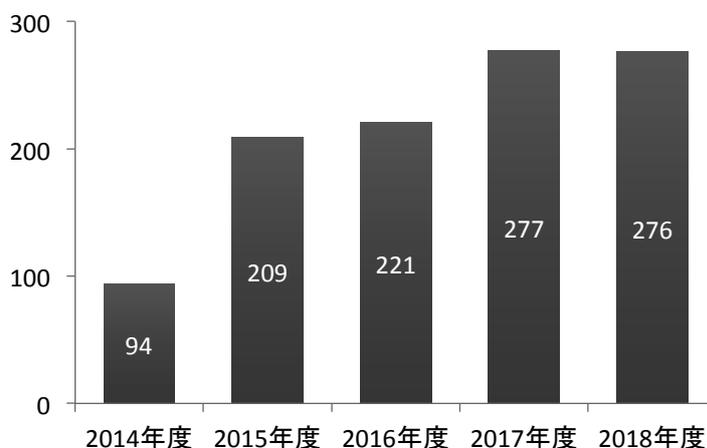


表 8 アフェレーシス実施状況



在宅医療部

主任 生野 雅子

I. 訪問看護活動(平成30年1月1日～12月31日) ※在宅診療科に合わせ、年次報告

1) スタッフ (五十音順)

保健師・看護師 4名 大重(看護部より出向)・小野・生野・南
 訪問診察医師(兼任) 6名 小田・甲斐・下舞・林・二木・三宅
 兼任作業療法士 1名 児島

2) 患者総数 43名 (男性18名 女性25名)

① 転帰

転帰	人数(人)
軽快	1
転院	6
施設入所	3
長期入院	0
死亡(病院)	4
死亡(在宅)	1
合計	15

② 月別訪問件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計(件)
訪問診察	37	39	37	33	30	33	34	31	25	29	34	34	396
訪問看護	72	73	80	104	88	83	89	91	79	92	100	86	1,037
訪問リハビリ	3	3	4	4	4	4	4	3	2	4	4	3	42
合計(件)	112	115	121	141	122	120	127	125	106	125	138	123	1,475

3) 相談ケース

① 相談内容

相談内容	件数
訪問診察と看護について	4
訪問看護について	17
訪問診察について	2
介護保険について	0
その他	0
合計	23

② 相談依頼者

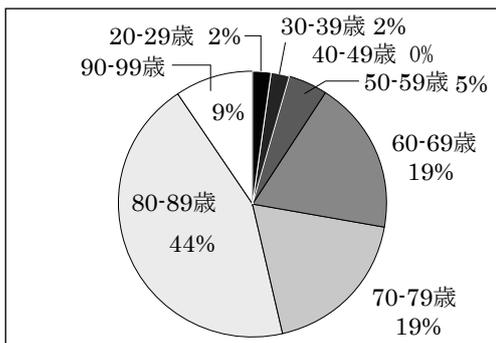
相談依頼者	件数
緩和ケアスタッフ	8
医師	7
ケアマネージャー	0
MSW	6
患者・家族	1
看護師	2
その他	0
合計	23

4) 主疾患名(43名)

疾患	(人)	疾患	(人)
神経系疾患	18	尿路器系疾患	0
悪性新生物	5	消化器系	2
循環器疾患	8	内分泌系・代謝疾患	1
呼吸器疾患	4	精神および行動障害	2
損傷、中毒外因の影響	1	筋骨格系	2

5) 患者年齢 (平均 75.8 歳 24 ~ 95 歳)

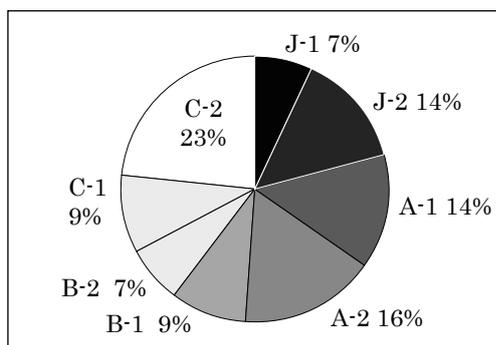
年代	人数 (人)
20-29	1
30-39	1
40-49	0
50-59	2
60-69	8
70-79	8
80-89	19
90-99	4
合計	43



6) 寝たきりランク

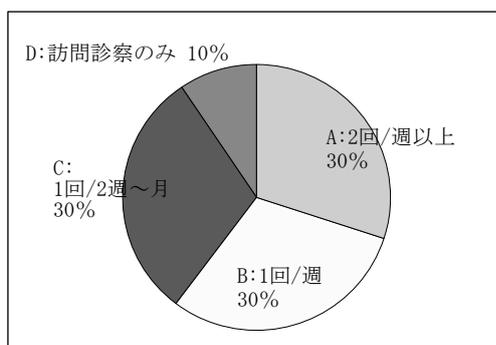
生活自立	ランク J	何らかの障害等を有するが、日常生活は自立しており独力で外出する 1. 交通機関を利用して外出する 2. 隣近所へなら外出する
準寝たきり	ランク A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	ランク B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが座位を保つ 1. 車椅子に移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う 2. 介助により車椅子に移乗する
	ランク C	1 日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する 1. 自力で寝返りをうつ 2. 自力では寝返りも出来ない

ランク	人数 (人)
J-1	3
J-2	6
A-1	6
A-2	7
B-1	4
B-2	3
C-1	4
C-2	10
合計	43



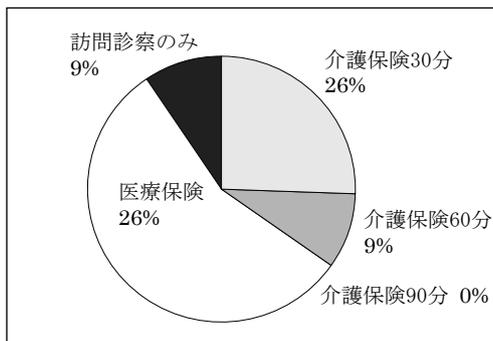
7) 訪問看護の頻度

訪問回数	人数 (人)
A:2回/週 以上	13
B:1回/週	13
C:1回/2週~月	13
D:訪問診察のみ	4
合計	43



8) 訪問看護の保険の種類

介護保険30分	11
介護保険60分	4
介護保険90分	0
医療保険	24
訪問診察のみ	4
合計	43

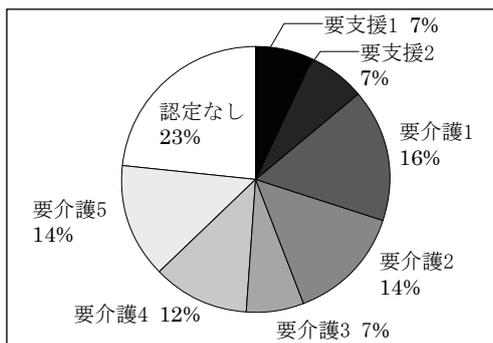


9) 医療依存度ケース

内容	人数(人)	内容	人数(人)	内容	人数(人)
軟膏塗布	21	坐薬挿入	0	吸入	5
創処置	19	人工呼吸器	2	血糖チェック	2
排便・浣腸	6	バルンカテーテル留置	3	人工肛門・ウロストミー	2
点滴・注射	8	リハビリ	3	点眼	1
麻薬・抗癌剤管理	5	気管切開	4	IVH(ポート)	3
胃ろう・経管栄養	6	在宅酸素療法	4	服薬管理	30
吸引	9	導尿	2	その他	0

10) 介護保険利用者

介護度	人数(人)
要支援1	3
要支援2	3
要介護1	7
要介護2	6
要介護3	3
要介護4	5
要介護5	6
認定なし	10
合計	43



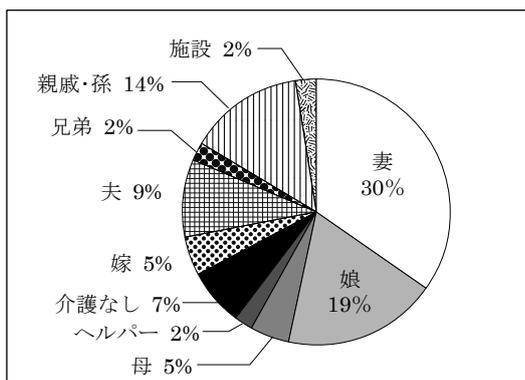
11) 清潔介助

内容	人数(人)
全身浴	2
部分浴	11
部分保清	9

全身浴: 入浴・シャワー浴・全身清拭など
 部分浴: 足浴・手浴・陰部洗浄・洗髪など
 部分保清: 部分清拭・口腔ケア・耳垢除去・髭剃り・爪きりなど

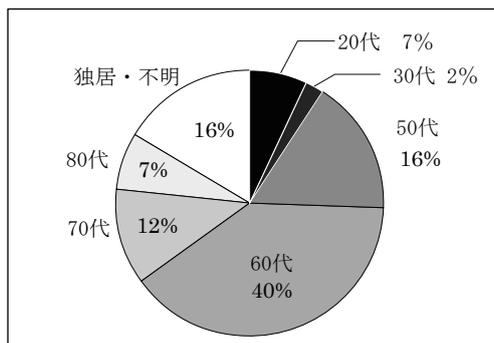
12) 主な介護者

介護者	人数(人)
妻	15
娘	8
母	2
ヘルパー	1
介護なし	3
嫁	2
夫	4
兄弟	1
親戚・孫	6
施設	1
その他	0
合計	43



13) 介護者の年齢(平均 61.05 歳 26 ～ 88 歳)

年代	人数 (人)
20代	3
30代	1
40代	0
50代	7
60代	17
70代	5
80代	3
独居・不明	7
合計	43



14) 介護保険利用状況

内容	人数 (人)	内容	人数 (人)
訪問介護	22	通所リハビリ	8
訪問入浴	5	通所サービス	15
訪問リハビリ	15	ショートステイ(病院を含む)	6

15) 指導内容

内容	人数 (人)	内容	人数 (人)
服薬指導	37	精神的支え	11
栄養指導	24	認知症対応方法	8
介護指導	17	家族の健康相談	11
福祉サービス紹介	12	終末期の援助	5

16) 他の専門機関・職種との連携

- 1) 訪問歯科診療の利用 5 名
- 2) 訪問薬剤指導の利用 12 名

Ⅱ. その他の活動

1) 実習生受け入れ実績

- ・久木田学園看護専門学校 9/10 ～ 9/21 2 名
- ・鹿児島中央看護専門学校 2 年課程(通信制)看護科 7/23 ～ 8/30 16 名
- ・神村学園高等部看護学科専門課程 6/11 ～ 12/14 16 名
- ・鹿児島医療技術専門学校(原田学園 4 年過程) 1/28 ～ 3/15 4 名

- 2) 院内感染防止対策委員会 : 月 1 回
- 3) 労働安全衛生委員会 : 月 1 回
- 4) 病院業務運営会議 : 月 1 回
- 5) 死亡患者初七日訪問 : 5 名



相談支援センター 医療相談室

副センター長 吉 満 実

【平成 30 年度 退院調整の活動報告】

地域の基幹病院としての性格を持ち、高度救急医療の提供を行う当病院では入院外来治療において阻害要因としての様々な問題が発生しています。また、医療制度の変遷により役割分担が更に明確になってきており、このような背景において平成30年度のMSWとしての活動を報告致します。

当院では退院調整加算1及び退院調整加算3（NICU）を算定しており退院調整部門として各病棟に担当MSW及びNSを配置しております。

平均在院日数の短縮

当病院におけるMSWとしての最大の役割としては、院内外との連携であります。

現在の当院の基準としては、『平均在院日数 17日以内』です。在院日数は退院支援部門の設置、退院支援の強化もあり15.52日で短縮化が図れました。

平均在院日数の短縮及び稼働率向上が当院として最大の課題です。質の高い医療の提供と共に患者様の早期退院や転院、社会復帰を目指し援助を行っています。

◆退院支援職員の早期介入の促進(退院支援部門の強化)

MSWが入院初期より、患者様の状態・基本情報等を把握することにより、いろいろな問題を未然に防ぎ、円滑な退院・転院への援助が可能となります。

早期での患者様との関わりを持つことで、信頼関係の構築が容易になり、患者様・その家族の理解を得ることにより、入院・治療期間の短縮につながります。また、整形外科・脳神経外科・脳神経内科・呼吸器内科・総合内科のカンファレンスに同席し、患者様の状態や状況の変化に応じて対応しています。また、退院支援部門として退院調整カンファレンスの他職種介入により患者様の退院や転院に関して質の高い支援が構築されつつあります。

◆社会的入院患者へのアプローチ

核家族化が進むなか、一人暮らしのために家に帰れない・日中、仕事で自宅介護が困難等いわゆる「社会的入院」が、問題になっています。当病院においても例外ではありません。現時点においては、MSWの早期患者把握・介入によって、かなり減少傾向にあります。常日頃より療養型の医療機関、回復期リハビリテーション病院・介護老人保健施設・グループホームや在宅復帰の場合は居宅介護支援事業所等と綿密に連携をとることで、迅速な援助を行うことができます。

◆長期入院患者へのアプローチ

長期入院患者（入院期間3ヶ月以上）の的確な把握を行い、「なぜ、長期になっているのか」ということを明確にすることが重要です。長期入院となっている患者様の中には、治療の経過で長期になられた患者様や病状的に退院・転院が困難な患者様への理解は忘れてはなりません。長期入院は年々減少傾向です。

◆回復期病棟における退院支援

平成27年1月1日より3階北病棟において33床の回復期病棟を運営しています。

整形外科の術後の患者様が中心ですが、高齢者、要介護者、障害者など自宅退院を目標とした病棟なので退院に際し、在宅サービスの導入など調整が必要です。

自宅退院を調整するためケアマネージャーとの連携強化を図り退院前カンファレンス等充実を図っています。

引き続き患者様及び御家族にとってより良い退院調整ができるように努めます。

地域の医療機関・介護保険関連事業所との連携強化

当病院が急性期のDPC医療機関として体制を維持していくためには、地域の各医療機関との連携を推進していかなければなりません。

また、療養型の医療機関もそれぞれ役割や特徴があります。その状況を把握して患者様の橋渡しをしなくてはなりません。リハビリテーションにおいても疾患別限度日数が導入され、リハビリ目的で早い時期での転院が必要となってきました。地域の医療機関との連携もより迅速に行っていかなければならなくなりました。

また、介護保険に関連した施設や居宅会議支援事業所との連携もより多様化し、多くの事業所との関係が必要となっています。介護連携指導の充実と退院時共同指導の充実が今後の課題です。

医療相談室の開設

当院本館1階に医療相談室や患者サポート窓口が開設しており、個室での面談・相談が可能です。患者様のプライバシーに配慮した面談が可能です。

医療相談室では、患者様や御家族に来室してもらい相談援助を実施する形を取っていますが、来室が困難な場合は各病室への訪室も可能です。また、がん相談・経済的相談・社会的相談・各種申請書類についての相談や苦情や個人情報に関する相談窓口としての機能を有しています。

その他の業務として

変遷していく医療保険制度や介護保険制度において、退院支援部門として対処しなければならない事柄は多いものです。

MSWの役割として、外来・入院患者様を問わず医療費の相談や社会福祉サービス等の相談を受けています。連携室では緊急性のない入院相談等も調整しています。介護保険・指定難病・身体障害者手帳の手続き代行や苦情処理・個人情報に関わる相談・平均在院日数の管理・紹介患者の管理・問題患者への対処等々、その他の細かい業務は多いものです。

次年度は退院支援に関し、入退院支援室（PMF）との連携も図り、入院前から退院調整・社会的問題の把握、解決を図り、調整部門の充実と患者様、ご家族にとってより良い退院支援を目指して行きたいと思えます。

退院調整部門（MSW5名・NS1名・退院調整専従看護師1名 NICU専従1名）計 8名

MSW：原口一博・吉満 実・湯田麻里子・荒竹美弥子・有村佳華

NS：窪田いづみ・本坊ひろえ（専従）・有村こずえ（NICU 専従）

現在、月曜日から金曜日までの午前・午後、土曜日の午前の勤務となっています。

事前に連絡を頂ければ、時間外でも相談に応じます。

平成30年度 平均在院日数、長期入院患者、退院支援の統計表

平均在院日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成28年度	16.5	16.7	15.8	16.0	15.5	16.2	17.3	15.7	16.2	17.9	16.9	16.8	16.46
平成29年度	16.5	16.5	15.6	15.7	15.4	15.6	15.6	15.4	14.6	17.3	17.1	16.1	15.95
平成30年度	15.7	15.0	14.6	14.4	14.5	16.0	14.3	16.4	15.5	17.5	16.6	15.7	15.52

長期入院患者（3ヶ月以上入院患者）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成28年度	4.8%	6.1%	4.9%	5.9%	4.6%	5.1%	4.8%	4.2%	3.3%	2.9%	2.5%	2.3%	4.2%
長期（人数）	18	22	18	22	17	19	18	16	13	11	10	9	16.08
病床稼働	376	358	367	372	373	369	378	381	394	383	406	399	379.67
平成29年度	4.1%	6.0%	4.4%	3.3%	3.4%	4.5%	4.6%	4.0%	4.2%	2.3%	3.6%	3.0%	3.9%
長期（人数）	15	23	17	13	13	17	17	15	16	9	15	12	15.17
病床稼働	365	383	389	399	386	380	369	375	384	398	418	406	387.7
平成30年度	3.2%	4.1%	3.0%	3.0%	2.7%	3.3%	3.6%	2.8%	4.3%	2.6%	2.8%	3.6%	3.2%
長期（人数）	12	15	11	11	10	12	13	11	15	10	11	14	12.08
病床稼働	378.8	368.8	363.9	370.3	369.1	364.4	364.5	394.3	352	382	393	392	374.4

退院支援患者集計表（退院支援部門介入）

	医療機関	在宅	老人保健施設	他施設	死亡退院	平成30年度合計
4月	81	43	0	19	7	150
5月	97	34	5	14	3	153
6月	87	44	3	15	3	152
7月	89	46	3	9	2	149
8月	97	46	1	17	8	169
9月	74	33	2	15	8	132
10月	98	57	2	14	3	174
11月	102	55	6	16	3	182
12月	89	72	3	23	9	196
1月	82	35	0	11	14	142
2月	76	45	2	11	7	141
3月	93	61	4	15	11	184
平成27年度合計	738	197	35	67	25	1,062
平成28年度合計	809	316	38	88	38	1,289
平成29年度合計	1,038	441	26	124	67	1,696
平成30年度合計	1,722	725	66	227	96	1,924

退院調整加算等算定数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
退院支援加算1	135	138	123	111	136	106	145	151	155	115	121	147	1,583
退院支援加算3	19	21	19	17	21	11	19	19	17	15	14	12	204
介護連携指導	9	11	9	6	12	8	13	13	12	6	13	14	126
退院時共同指導2	10	7	4	4	8	3	8	2	3	6	9	3	67
多機関共同指導加算	0	1	2	0	2	0	3	1	0	1	0	1	11



相談支援センター 地域医療連携

上ノ園美穂

平成30年度は、1,0670名の紹介がありました。

鹿児島県内900施設、県外111施設から紹介をいただきました。

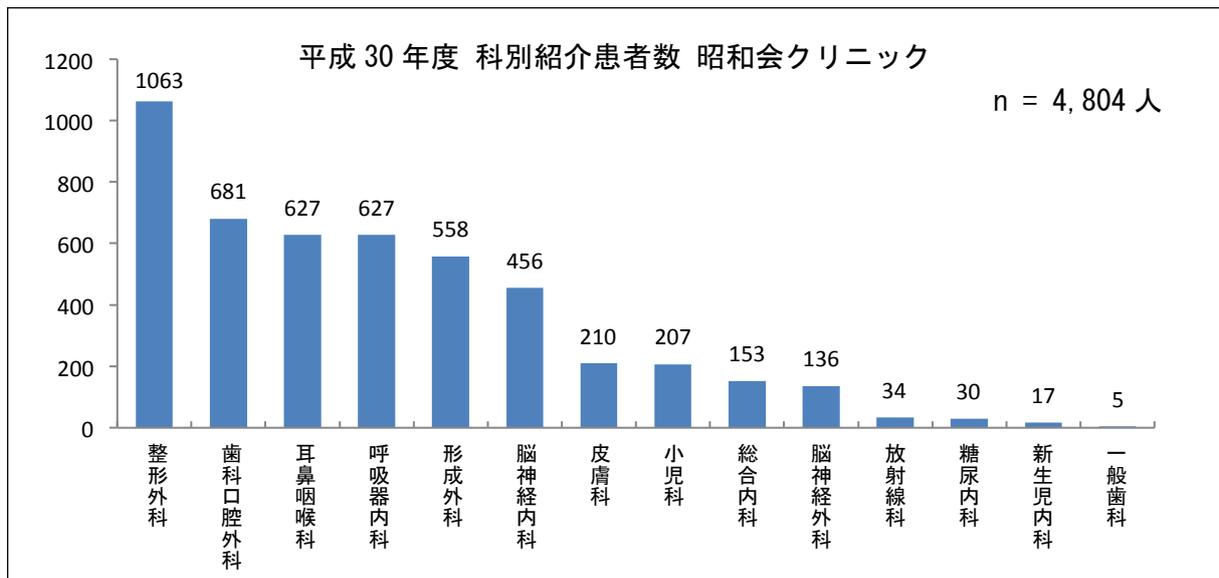
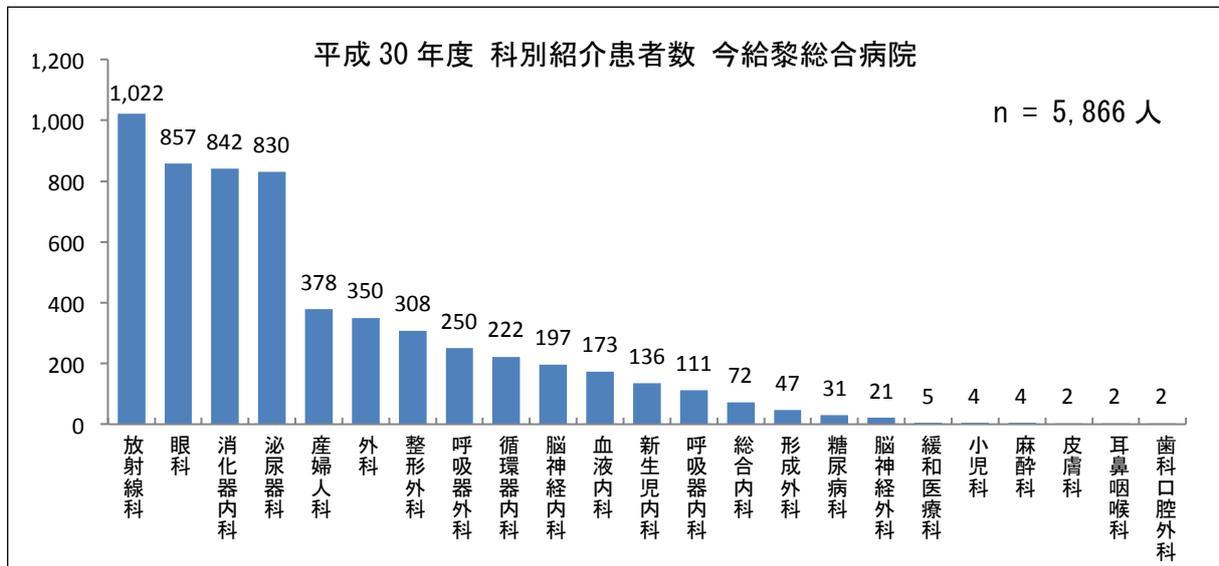
県内では、鹿児島市・霧島市・始良市・薩摩川内市・日置市の順に、離島からも多くのご紹介をいただいています。

また、当院は多数の診療科を有しており、総合医療を提供できることが最大の特徴です。

単科診療を目的とした紹介もありますが、1施設から多数の診療科に紹介をいただくといい、総合医療を目的とした紹介が多くみられます。

日常診療の充実はもとより、救急医療や地域の中心的病院としての役割を担っています。

当院では、病診・救急医療へ積極的な取り組みを病院方針の一つとして、今後とも、紹介患者や救急患者を積極的に受け入れていくことにより、地域医療に貢献していきたいと考えています。



- 紹介患者及び逆紹介市町村別統計は、病院統計にて参照
- 年度別救急車受け入れ台数・患者数統計病院統計にて参照



がん相談支援センター

専従保健師（緩和医療課） 植屋 明代

がん相談支援センターは本館1階の産婦人科外来の前にあり、専従相談員の植屋が常駐、不在時は緩和ケア認定看護師の早崎・岩山が対応しています。社会福祉士は主に退院支援に携わり、管理栄養士・薬剤師・医事課の方などコメディカルスタッフの協力も非常に良好です。今後、更に多くの患者さま、ご家族、地域の方々にご利用いただけるように“病院が一体でのがん相談支援センターの周知”を図っていきたいと思います。

【スタッフ】植屋・早崎・岩山(緩和医療課) 原口・吉満(地域医療連携室)

相談内容 （*重複相談対応あり）	緩和医療課対応			社会福祉士対応			合計
	患者	家族	その他	患者	家族	その他	
がん治療	70	51	8	0	0	0	129
がんの検査	42	35	3	0	0	0	80
症状・副作用・後遺症	40	20	5	0	0	0	65
セカンドオピニオン(一般)	5	5	1	0	0	0	11
セカンドオピニオン(受入)	4	6	1	0	0	0	11
セカンドオピニオン(他へ紹介)	2	2	3	0	0	0	7
治療実績	1	0	1	0	0	0	2
臨床試験、先進医療	0	0	0	0	0	0	0
受診方法・入院	8	7	3	0	72	0	90
転院	6	25	7	0	198	0	236
医療機関の紹介	2	14	2	0	0	0	18
がん予防・検診	0	0	0	0	0	0	0
在宅医療	4	26	4	0	91	0	125
ホスピス・緩和ケア	8	38	5	0	0	0	51
食事・服薬・入浴・運動・外出など	14	15	3	0	0	0	32
介護・看護・養育	11	25	11	0	0	0	47
社会生活(仕事・学業)	3	0	1	0	0	0	4
社会生活(就労)	2	0	0	6	0	0	8
医療費・生活費・社会保障制度	16	16	2	14	0	0	48
補完代替医療	1	2	4	0	0	0	7
生きがい、価値観	28	13	2	0	0	0	43
不安・精神的苦痛	135	134	9	0	0	0	278
告知	0	2	0	0	0	0	2
医療者との関係・コミュニケーション	14	15	5	0	0	0	34
患者-家族の関係・コミュニケーション	3	10	0	0	0	0	13
友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション	1	0	0	0	0	0	1
患者会・家族会	5	4	2	0	0	0	11
その他	43	27	13	0	0	0	83

★緩和医療課のがん相談対応 371 件の詳細は『緩和医療課』のページに掲載

【院外会議】

鹿児島県がん相談員部門会・研修会(鹿児島大学病院) 8月、10月、2月：植屋



医療安全管理課

課長 千田 清美

医療安全管理活動において、発生したインシデント・アクシデントから、エラー要因が事故に発展する状況を明らかにすることで根本原因に適した改善策を策定し、取り組みを継続しながら安全対策の定着を目指すことが必要です。今年度は、報告システムに苦情・クレームの項目を追加し、患者サポート体制およびサービス委員会との情報共有を図りました。また、留置針の不具合による製品の見直しと新規留置針の導入支援、手術室における筋弛緩薬の適正な管理システムの整備、使用中のACアダプターの見直しとナースステーション内の環境整備、患者の離院発生時対応フローや院内暴力被害者の受診フローの策定に関して安全管理部門メンバーと取り組みました。

【スタッフ】

看護師 2名 千田清美、長野みつ美

【部門実績及び活動内容】

- ・安全管理部門カンファレンスの運営（1回/週 - 第1火曜日と毎週月曜日）～長野、千田
- ・医療安全対策委員会の運営（毎月第2水曜日）～長野、千田
- ・看護安全対策委員会の開催支援（毎月第3火曜日）～長野、千田
- ・多職種チーム活動への参加
 - ・RSTチーム（木曜日/週）～長野、千田
 - ・転倒、転落ワーキンググループ（毎月第2木曜日）～長野
 - ・口腔ケアチーム（金曜日/週）～長野
 - ・患者サービス委員会部会：美化活動 ～千田
- ・院内報告システムにおけるレポートの管理および定例会へのフィードバック
- ・院内教育研修の企画と開催、看護部教育研修の支援
- ・医療安全管理指針、医療安全対策委員会規約、報告フローの見直し
- ・院内および院外からの相談対応：院内 33件（患者対応8件）、院外施設 3件
- ・院内BLS講習会及びICLS講習会の開催支援（BLS 4回、ICLS 2回）
- ・リスクマネジメントニュースの発行（12回/年、臨時号2回）～各部門からの情報提供

月別	リスクマネジメントニュース タイトル
4月	原則希釈の点滴静注液を希釈せずに投与した事案が発生しています
5月	成分量の表記を正しく理解しましょう
6月	三方活栓の開閉問題
7月	酸素流しているのにSP02上がらない！
8月	採血後転倒混和不足による偽陽性
9月	足元注意！！
9月	（臨時発刊） 医療材料の不適正使用にご注意ください！
10月	医師をねらう怪しい業者からの迷惑電話が多発しています！
11月	漏電と感電
12月	麻薬の受払方法が変わります
1月	病理診断報告書 患者伝達確認～病理報告書の患者へ未伝達を防ぐために
1月	（臨時発刊） シリンジポンプの接続のゆるみ
2月	リハビリから移乗方法をアドバイス
3月	NPPVや気管切開下人工呼吸での致命的なリスク

【医療安全管理部門カンファレンス（1回/週）】

〈カンファレンスメンバー〉

松永俊二副院長(チーフ統括セーフティマネージャー)、高橋真理(医薬品安全管理責任者)
 齋藤謙一(医療機器安全管理責任者)、岩下邦子(看護副部長)、稲森優子(看護安全対策委員会委員長)
 千田清美(専従医療安全管理者)、長野みつ美(専従医療安全管理者)、野口桂一(事務局長)、
 濱田敏彦(クリニック事務長)、田中英樹(施設課課長)、今堀貴之(中央臨床検査部)、
 益田阿佑美(総務企画課)：書記

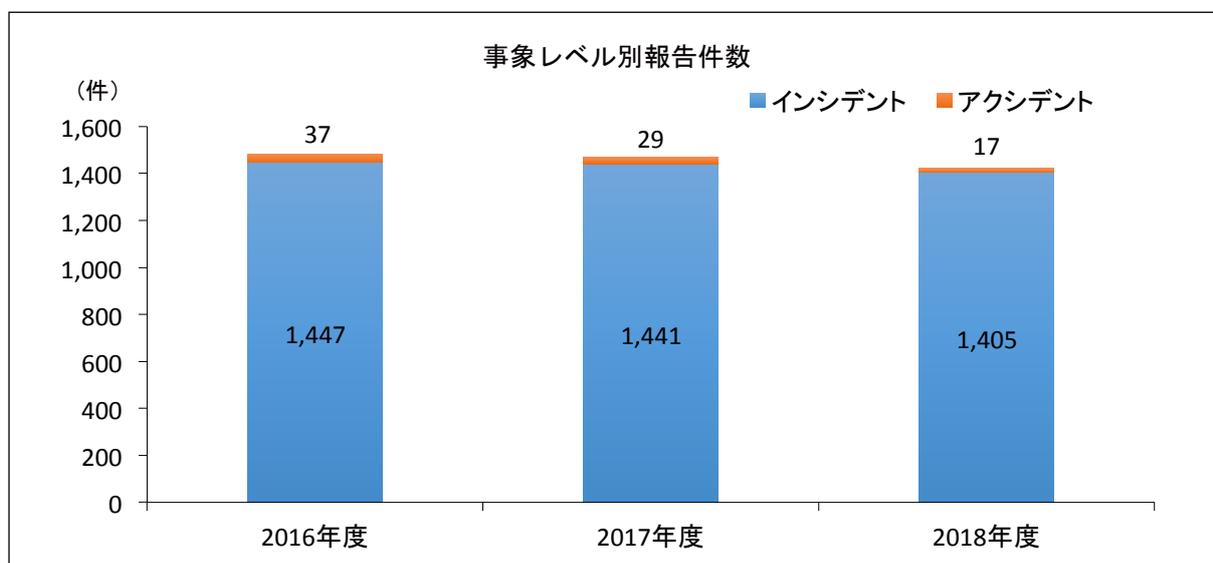
〈平成30年度の主な検討事項と活動〉

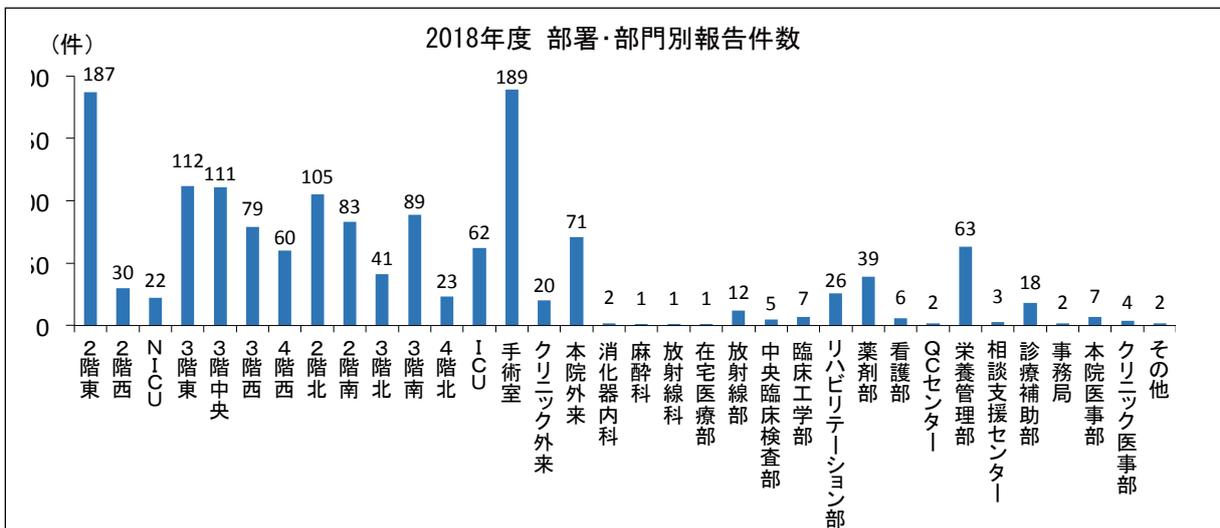
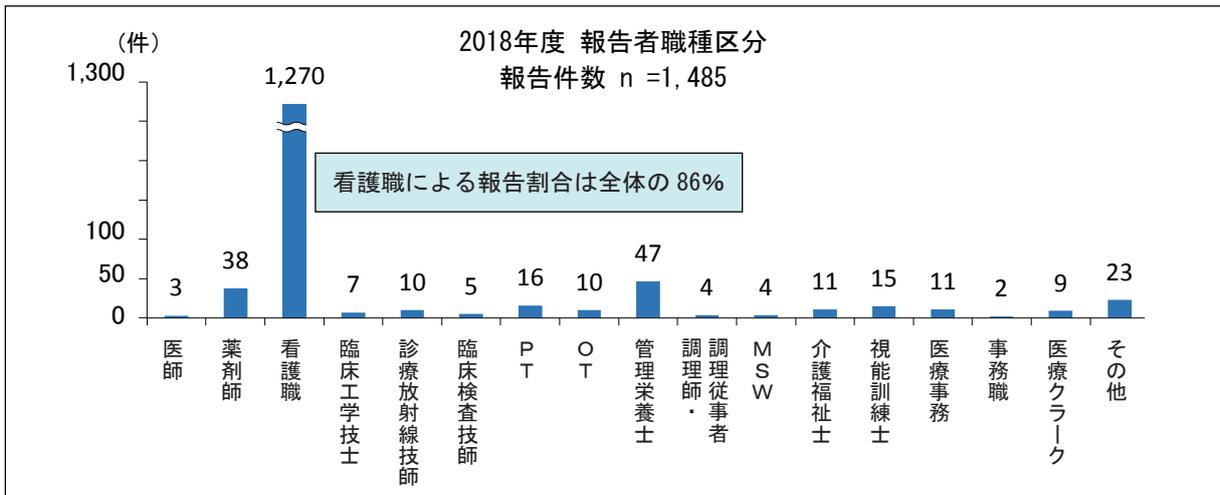
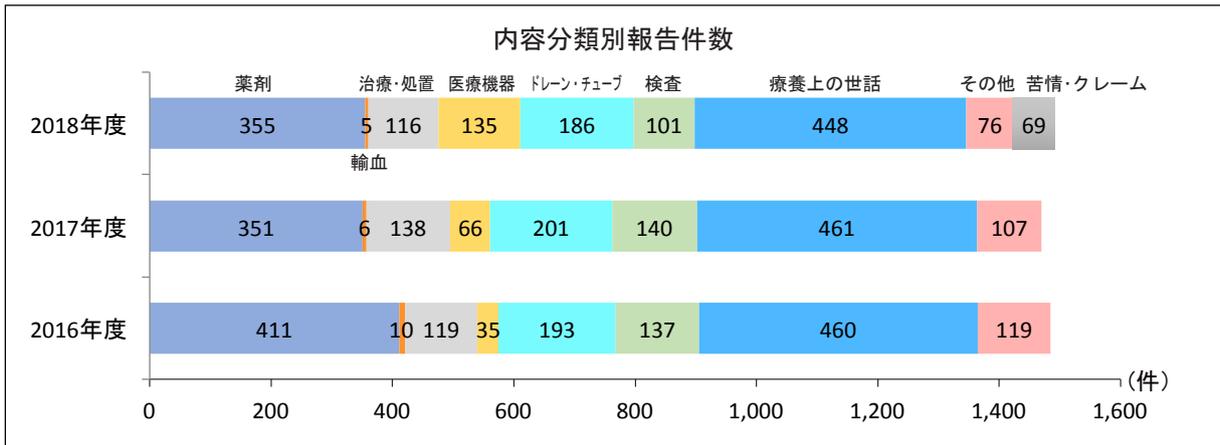
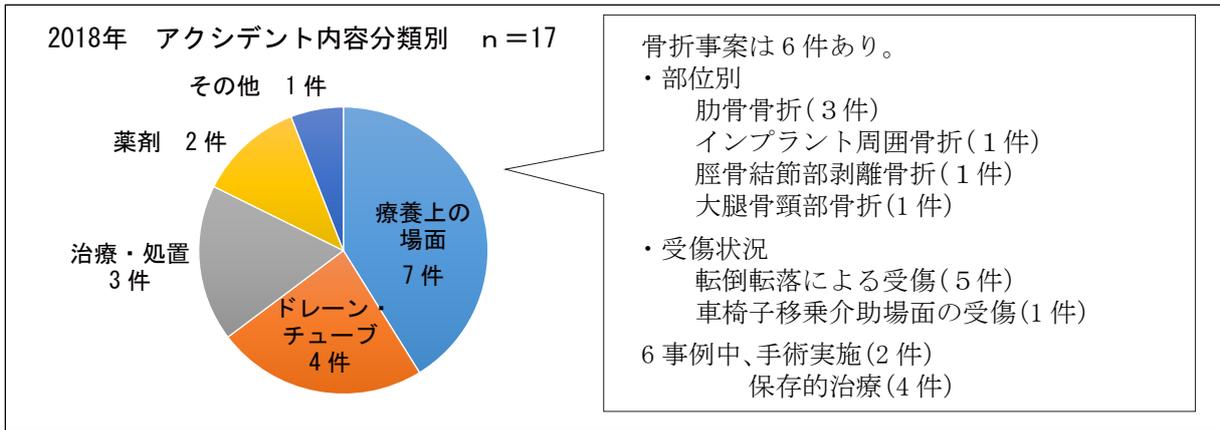
今年度は手術室において筋弛緩薬の紛失が発生しました。発生後、監督機関である保健所への届け出が行われ、臨時的医療安全管理会議が開催されました。その後も手術室管理者と医療安全管理部門メンバーで再発防止策の協議を重ね、薬剤オーダリングシステムおよび薬剤払出しシステムの整備、手術室に毒薬等を独立して管理する保管庫の導入と施錠管理の運用ルールを策定しました。他にも、電子カルテシステムで欠かせないパソコンのACアダプター4配分型がショートした事案を受けて、各部署のパソコンの電源環境を点検し、4配分型アダプターの回収とテーブルタップおよび配線用ポールの整備を進めました。なお、統括セーフティマネージャーを担っていただいた松永副院長の定年退職に伴い、後任である中目先生に医療安全管理者養成研修を受講していただきました。次年度も、新たな管理者のもと、院内の安全管理体制の整備に努めてまいります。

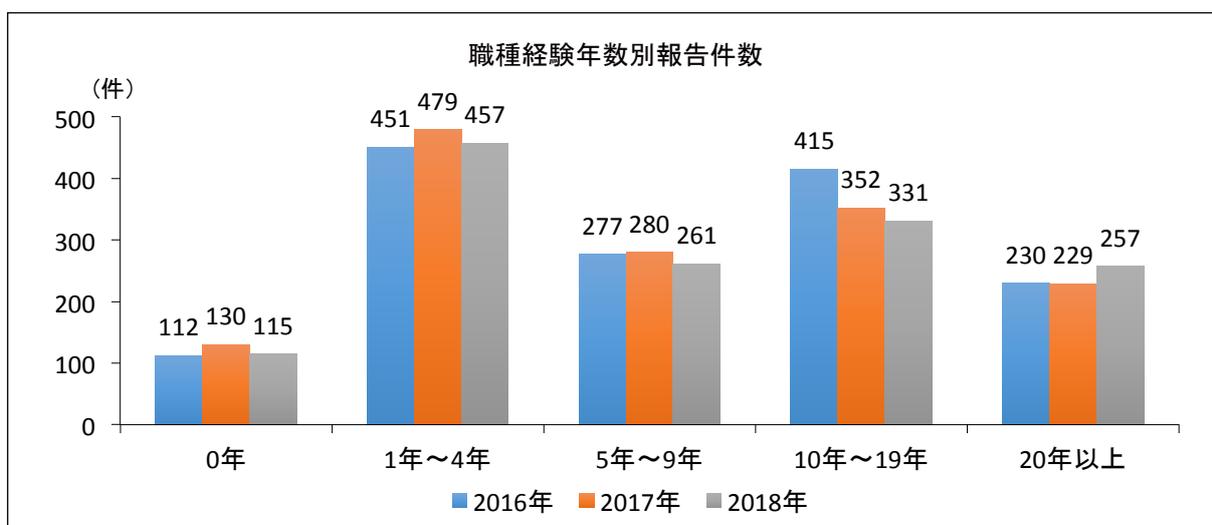
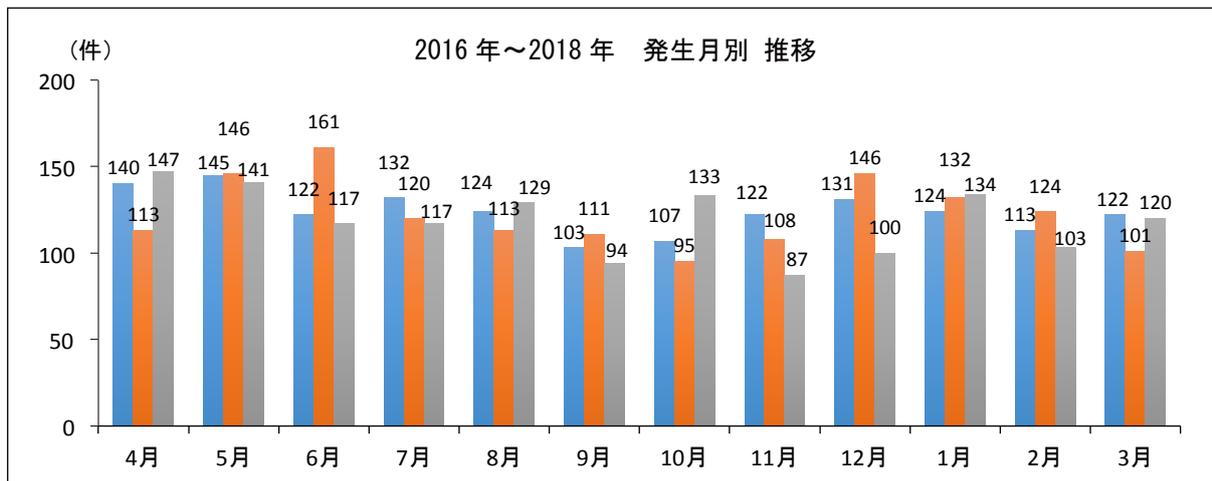
【院内報告件数の推移：平成30年】

平成30年度の報告件数は1422件で、前年度より48件減少しました。事象レベル別件数においてインシデント1405件(前年度1441件)アクシデント17件(前年度29件)で、ここ2年は減少傾向にあります。内容分類別の内訳は、療養上の世話(転倒・転落、褥瘡を含む)が448件(前年度461件)、薬剤355件(前年度351件)、ドレーン・チューブ管理186件(前年度201件)、医療機器関連135件(前年度66件)、検査101件(前年度140件)、治療・処置関連116件(前年度138件)、その他76件(前年度107件)、輸血管理5件(前年度6件)、苦情・クレーム69件でした。療養上の世話が最多ですが、そのなかの転倒・転落の発生件数は260件で、前年度303件から43件減少しました。医療機器関連の報告件数は前年度より69件増加しましたが、滅菌業務工程や手術器械の管理・取扱いに関して、現場管理者が積極的なレポート登録を推奨した背景もあり、機器等の経年劣化やメンテナンス、作業工程の問題点が検討されています。

アクシデント(事象レベル3b以上)17件の内訳は、療養上の世話7件、ドレーン・チューブ管理4件、治療・処置関連3件、薬剤2件、その他1件で、前年度のアクシデント事案29件から17件と減少、そのうち骨折発症の事案は前年度16件から6件と減少を認めました。骨折発症の要因は、転倒・転落に伴うものが5件、車椅子移乗介助下の発生が1件でした。







【院内教育研修】

日程	内容	対象者
平成30年4月3日 13:30～15:20	医療安全管理について	新入職者49名 (研修医3名含む)
平成30年4月4日 13:30～15:00	メンタルモデルについて考えよう	新人研修49名 (研修医3名含む)
平成30年5月21日 13:30～14:30	看護部臨床ラダー レベル2 医療安全管理活動について～KYTの理解と実践	18名
平成30年6月6日 13:30～14:30	看護部臨床ラダー レベル2 インシデントレポート	26名
平成30年6月21日 10:00～11:30	病院の安全対策	看護学生
平成30年6月27日 13:30～14:30	看護部臨床ラダー レベル1 医療安全管理～看護師に必要な安全意識	25名
平成30年8月1日 13:30～14:30	看護部臨床ラダー レベル2	18名
8月22日	事故発生時の報告と対応～ロールプレイ	17名
8月29日		8名
平成30年8月20日 13:30～14:30	看護部臨床ラダー レベル2 薬剤管理～薬剤投与による急変時の対応	28名
平成30年9月3日 13:30～14:30	看護部臨床ラダー レベル3 ヒューマンファクターとエラー防止の取組み	34名 41名
平成30年10月26日 13:30～14:30	看護部臨床ラダー レベル3 インシデントレポート SHELL分析	56名 45名

平成 30 年 11 月 16 日 17:30～19:00 11 月 17 日 13:30～15:00 追加開催 1 回目 3/29 :伝達講習 2 回目 3/29 3 回目 4/9 4 回目 4/18 5 回目 4/19	平成 30 年度 第 1 回 医療安全研修会 コミュニケーションの視点から考える説明と同意 ～他職種・他部門との情報交換を通して考える～ 講義と事例演習 1 日目・2 日目 講師 東京海上日動メディカルリスクマネジメント室 玉利英子先生 追加開催は医療安全管理課による伝達講習	全職員 1 日目 186 名 2 日目 75 名 追加開催 1 回目 116 名 2 回目 123 名 3 回目 117 名 4 回目 145 名 5 回目 99 名 総受講者数 861 名
平成 30 年 12 月 14 日 17:30～18:30 追加開催:ビデオ、伝達講習 2 回目 12/18 3 回目 平成 31 年 1/11 4 回目 1/18 5 回目 3/19 6 回目 3/22 7 回目 4/11	平成 30 年度 第 2 回 医療安全研修会 医療の質を担保する診療録について 講師 いづろ法律事務所 鏑野 孝清先生 追加開催は DVD 視聴 または医療安全管理課による伝達講習	全職員 1 回目 163 名 追加開催 2 回目 161 名 3 回目 130 名 4 回目 139 名 5 回目 118 名 6 回目 69 名 7 回目 66 名 総受講者数 846 名

【院外研修】

医療法人敬愛会中江病院 医療安全研修会 平成 30 年 9 月 20 日、9 月 26 日
 内容 「分析手法を理解して安全対策を考えよう」 講義とグループワーク 講師 千田清美

【救急蘇生ワーキンググループ】

当院職員を対象に、日本救急医学会認定プログラムの BLS コース 5 回と ICLS コースを 2 回開催し、BLS コース 80 名 ICLS コース 12 名の受講生に修了証が発行されました。またレサシアンシミュレーターの環境設定が整ったことで、3 月の ICLS コースは院内で開催することができました。

○コースディレクター 西山淳(麻醉科)

○インストラクター

齊藤謙一(臨床工学技士)、橋口恒夫(救急認定看護師)、尾堂知子(看護師)、有菌さつき(看護師)、熊迫智枝(看護師)、伊野知余子(看護師)、永田恵理(看護師)、小野保代(看護師)、千田清美(看護師)、有村美和(看護師)、弓元康平(理学療法士)、岩元大地(理学療法士)

院内 BLS コース (3 時間) 18:00～21:00		
日程	内容	対象者
平成 30 年 4 月 20 日	第 46 回 院内 BLS 講習会	受講希望者 18 名
平成 30 年 6 月 16 日	第 47 回 院内 BLS 講習会 (午前)	新卒看護師 15 名
	第 48 回 院内 BLS 講習会 (午後)	新卒看護師 9 名、臨床工学技士 3 名、研修医 3 名
平成 30 年 7 月 20 日	第 49 回 院内 BLS 講習会	受講希望者 15 名
平成 30 年 12 月 26 日	第 50 回 院内 BLS 講習会	受講希望者 17 名
今給黎総合病院 ICLS コース (8 時間) 9:00～17:00		
日程	内容	対象者
平成 30 年 7 月 7 日	第 12 回 ICLS コース (鹿児島大学病院総合臨床研修センター)	受講希望者 6 名 研修医 3 名含む
平成 31 年 3 月 23 日	第 13 回 ICLS コース (今給黎総合病院 別館地下講義室)	受講希望者 6 名

【その他の活動】

平成 26 年度より鹿児島県看護協会医療安全情報ネットワークの鹿児島地区委員として、4 年間活動してきました。平成 30 年度は委員交代となりましたが、引き続き鹿児島地区のネットワーク会議に参加し各医療機関の安全管理者と交流、相互評価への取り組みに関して情報交換や、ネットワーク委員会主催の研修運営の支援を行いました。

鹿児島地区医療安全情報ネットワーク会議

- 第 1 回 平成 30 年 7 月 26 日(木) 18:30～20:00 鹿児島市立病院
- 第 3 回 平成 30 年 11 月 22 日(木) 18:30～20:00 鹿児島市立病院
- 第 4 回 平成 31 年 1 月 24 日(木) 18:30～20:00 鹿児島市立病院



褥瘡管理課

主任 下前百合香

1. スタッフ4名 (皮膚・排泄ケア認定看護師2名、日本褥瘡学会認定師(看護師)1名、事務1名)

2. 部門実績

1) 業務内容

- ・入院患者の褥瘡対策・褥瘡患者管理、スタッフ指導、形成外来との連携
⇒詳細は褥瘡対策委員会報告書参照
- ・褥瘡対策患者抽出し、褥瘡ハイリスク対象患者への予防訪問
- ・スキンケア・創傷ケア・ストーマケアコンサルテーション
- ・NPWT(VAC・RENASYS・PICO)製品物品管理
- ・体圧分散寝具管理(除圧マット・Airマット・ポジショニングクッション)
感染対策の一環として、レンタル除圧マットをふき取り可能なマットへ変更し、院内で保有していたAirマットはすべて廃棄しレンタルAirマットへ変更した。
- ・褥瘡予防ラウンド：36回(60人訪問)
- ・褥瘡回診(毎週木曜日14:00～)
形成外科医(内山田Dr、斎藤Dr、藍嵐Dr、小島Dr：輪番制)、皮膚・排泄ケア認定看護師(下前、椎木)、日本褥瘡学会認定師(看護師：逆瀬川)、薬剤師(古賀、壽、築地、肥田、淵脇：輪番制)、リハビリ：輪番制(作業療法士(宮之原：日本褥瘡学会認定師、鮫島、鶴田)、理学療法士(野村、井上、福永)、各病棟スタッフ
- ・NSTカンファレンス・回診：日本褥瘡学会認定師(看護師：逆瀬川)参加(毎週火曜日)
- ・褥瘡対策委員会開催(毎月第1水曜日：17:15～18:15)
- ・NST委員会会議参加(奇数月第1水曜日：13:15～13:45)
- ・医療安全対策会議(毎月第1水曜日)、システム委員会(毎月第4木曜日)：下前参加
- ・NICUカンファレンス(毎月第3水曜日：15:30～16:00)：下前・椎木
- ・各病棟カンファレンス：介入依頼時参加
- ・ストーマケアコンサルテーション
新規ストーマ造設患者数：31名
コロストーマ：18名、イレオストーマ：8名、回腸導管術：4名、尿管皮膚瘻：1名
ストーマサイトマーキング施行患者数：34名(外科：29人、ウロ：5人)
- ・ストーマ外来(診察日に合わせて日程調整)
- ・各社メーカーとの情報交換
- ・他病院・施設・訪問看護ステーションからのコンサルテーション対応
- ・褥瘡勉強会開催(偶数月開催)

日時	内容	担当講師	参加人数
4月4日	「チームで取り組む褥瘡予防」(対象：新入職者)	褥瘡管理課：下前	46名
4月25日	「褥瘡予防対策・治療」(対象：研修医)	褥瘡管理課：下前	6名
5月18日	「診療報酬改定とケアの実際」	褥瘡管理課：椎木	206名
6月20日	「スキンケア」	褥瘡管理課：逆瀬川	165名
7月～8月	「最新のエビデンスに基づいた 褥瘡管理方法」	ナーシングスキル動画聴講	510名
10月17日	褥瘡予防ラウンド報告	褥瘡対策委員：2G・4G	164名
12月19日		褥瘡対策委員：1G・3G	111名

- ・その他、褥瘡関連勉強会開催

内容	担当講師	開催病棟
各病棟にてポジショニング勉強会開催	リハビリテーション部(宮之原)	3南、2北、2南、3西、ICU

2) 看護師特定行為(下前)

特定行為項目	介入人数	介入件数
褥瘡又は慢性創傷の治療における 血流のない壊死組織の除去	院内：16名	71回
	外来：3名	45回
創傷に対する陰圧閉鎖療法	院内：14名	41回

※下記3項目は介入なし

- ・創部ドレーン抜去(皮下)
- ・持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整
- ・脱水症状に対する輸液による補正

3) 特定行為研修実習受け入れ 公益社団法人日本看護協会看護研修学校

H31. 2. 12～22(土日祝日を除く)9日間 特定行為研修実習(創傷管理モデル): 2名

4) その他

H30. 10. 22 にいむら病院スタッフへのストーマケア指導(にいむら病院Ns: 5名) 下前・椎木

H30. 12. 8 鹿児島県内 皮膚・排泄ケア認定看護師勉強会

「WOCに係わる 医療マネージメント-医療制度改革の惑星直列を多面的な視点で整理する-」

講師: 高水勝氏(スリーエムジャパン株式会社 ヘルスカンパニー医療用製品事業部マネージャー)

参加者: WOCN15名、その他職種9名

【部門実績】

1) 院外講演活動

日時	主催・場所	内容	担当
7月14日	コンバテックジャパン株式会社	コンバテック ストーマセミナー in 鹿児島2018「症例報告」	椎木
7月18日	特別養護老人ホーム睦園	「褥瘡予防・排泄ケア」について	下前
10月19日	公益社団法人鹿児島県看護協会 看護協会研修館 公益財団法人	鹿児島県看護協会 鹿児島地区研修 「褥瘡ケアの基礎」について	椎木
10月20日	日本オストミー協会鹿児島県支部 市立病院会議室	第4回オストメイト研修講座 「ストーマケアの基本と実技」 講義・実習指導	下前
12月3日	久木田学園看護専門学校	ストーマ造設患者の看護「周手術期にある人の看護」	椎木
12月22日	持田ヘルスケア株式会社	鹿児島スキンケア勉強会 「スキンケア」「フットケア」	下前 椎木

2) その他院外活動

日時	主催・場所	内容	担当
4月28日	日本オストミー協会鹿児島県支部 ハートピアかごしま	公益財団法人日本オストミー協会鹿児島県支部総会 2018年定期総会	下前
4月21日	日本褥瘡学会九州・沖縄地方会 市民会館、熊本国際交流会館	第15回日本褥瘡学会九州・沖縄地方会学術集会 世話人会参加	下前
6月14日	びくるすの会 自治会館	第14回びくるすの会研究会 ～医療・介護・在宅～ “食の支援”をシームレスに 繋ぐために！ 特別講演Ⅰ：座長	下前
6月24日	日本褥瘡学会 鹿児島市立病院	第11回鹿児島県在宅褥瘡セミナー 運営スタッフ	下前・椎木

※学会関連は[研究実績]に掲載



緩和医療課

主任 植屋 明代

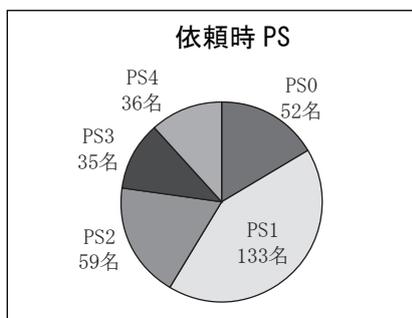
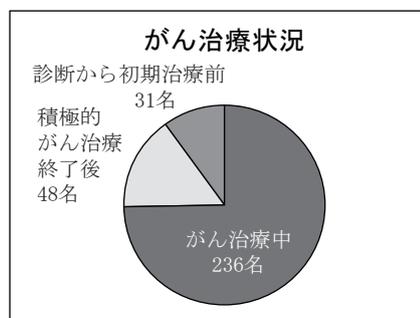
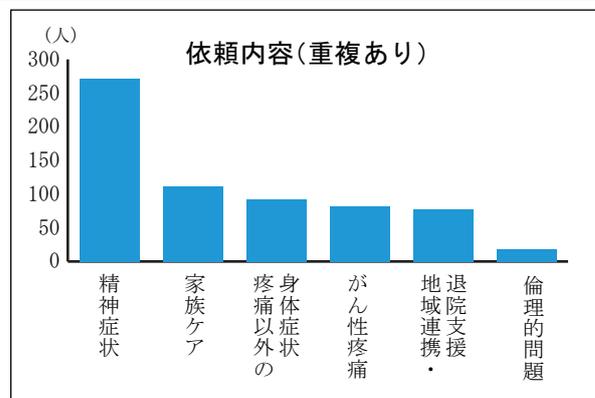
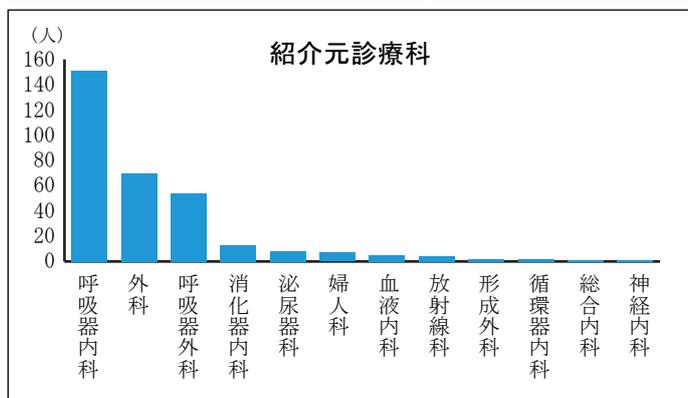
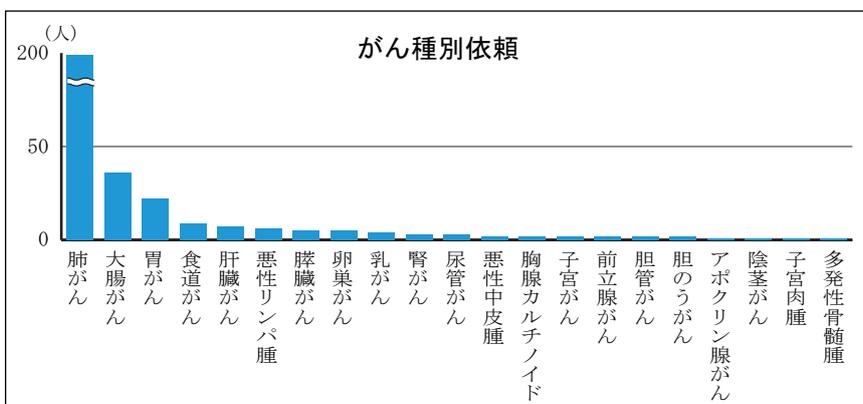
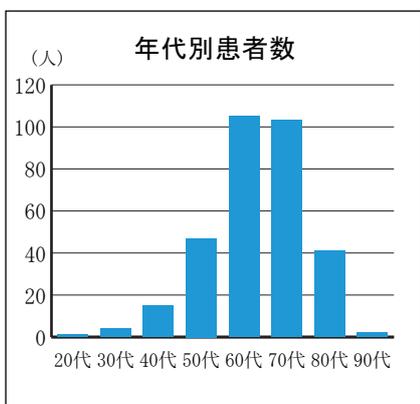
緩和医療課は、早崎・岩山が緩和ケアを、植屋ががん相談を主軸にお互い情報共有・サポートし合いながら活動し、患者サロンの実施やがん・緩和ケア研修の企画なども行ってきました。次年度からは緩和医療課は組織再編でなくなります。今後とも緩和ケアチーム、がん相談支援センターそれぞれにお役立ていただけたらと思います。

●スタッフ：早崎玲子(緩和ケア認定看護師)、岩山友紀(緩和ケア認定看護師)、植屋明代(保健師)

●緩和ケアチーム実績

緩和ケアチーム実績 依頼件数：318 名

(入院 311 名、外来 7 名／がん患者 315 名、非がん患者 3 名／男性 207 名、女性 111 名)



PS:Performance Status

●がん相談支援センター実績(緩和医療課対応分)

相談件数：466 件

面談：360 件 電話：102 件 メール：4 件

初回：136 件 2回目以上：330 件

*相談内容の詳細は、がん相談支援センターにて報告。

●ほっとサロン今給黎(第3水曜日 14:00～16:00)

がん患者様、ご家族が安心して思いを語り合う場として、がんサポートかごしまと協働で開催しています。

月	ミニ勉強会テーマ	担当	参加者 (スタッフ含)
4	抗がん剤治療中の皮膚ケアについて	赤坂美保(がん化学療法看護認定看護師)	10
5	地域包括支援センターについて	上町長寿あんしんセンター高橋裕子保健師	24
6	バルーンアートを作ろう!	藤山看護副部長、近藤看護部長	12
7	実践できる良好な食事のポイント	田中美帆(管理栄養士)	11
8	鹿児島県のがん対策について	鹿児島県健康増進課松下保健師	12
9	抗がん剤について	前嶋一友(薬剤師)	12
10	がんと口腔ケア	瀬戸山智香(歯科衛生士)	9
11	睡眠について	小原旅人(検査技師)小玉哲史(精神腫瘍医)	13
12	クリスマス会	参加のみなさん	18
1	がんリハについて 作業療法の視点から	山田千夏作業療法士	8
2	折り紙で楽しもう!	がんサポートかごしま	11
3	お薬でがんの痛みをとる方法	築地辰典(薬剤師)	9

●がん・緩和ケア研修会

日付	テーマ	講師	人数
5/19	ケアと対人援助に活かす臨床瞑想法	大下大圓先生(飛騨千光寺住職、臨床宗教師)	50名
10/12	緩和ケア病棟の実際 ～地域社会のニーズにあわせて～	中窪尊子先生(いづろ今村病院緩和ケア病棟 師長・緩和ケア認定看護師)	79名

●セカンドオピニオン外来 2件

性別	年齢	がん部位	相談内容	対応医師
男	73歳	S状結腸癌術後、肝肺転移	治療方針について	吉永英希医師(消化器内科)
女	72歳	肺腺がん疑い	手術以外の方法について	米田敏医師(呼吸器外科)

●がん患者指導管理料(緩和ケア認定看護師対応)

173件(うち58件は算定不可)

依頼診療科: 外科78件、呼吸器内科59件、呼吸器外科14件、消化器内科12件、婦人科8名、血液内科2件

●退院支援(緩和医療課対応: 緩和ケアチーム+がん相談支援センター)(人数)

緩和ケア病棟・外来(計39名): 天陽会中央病院(13) 相良病院(6) いづろ今村病院(7)

鹿児島市医師会病院(6) 南九州病院(3) 霧島医療センター(2)

サザンリージョン病院(1) 出水郡医師会広域医療センター(1)

他医療機関(計19名): 種子島医療センター(2) 内村川上内科(2) 久保内科(1) 清泉クリニック(1)

池田病院(1) 林内科胃腸科病院(2) ひらさ内科(1) 三船病院(1) 川内市医師会

市民病院(1) 白石病院(1) いづろ今村病院(1) 中央病院(1) 高田病院(2)

薩南病院(1)

在宅医療(計9名): ナカノ在宅医療クリニック(5) 五反田内科クリニック(1)

笹川医院(1) 立神リハビリ温泉病院(1) しおんの家クリニック(1)

訪問看護(計22名): 今給黎総合病院在宅医療部(7) ナカノ訪問看護ST(5) あおぞら訪問看護ST(2)

よしの訪問看護ST(2) さくら訪問看護ST(1) 訪問看護STこもれ陽(1) 一歩訪問看護ST(1)

訪問看護ST立神(1) こじか訪問看護ST(1) ステップハート訪問看護ST(1)

●図書の閲覧・貸出利用者(がん相談支援センター図書) 7名利用(貸し出し: 計10冊)

●つながる想い in かごしま かんまちあ 5月12日(土)参加呼びかけ がん相談協力: 早崎、植屋

●学術実績

学会実績：日本看護協会急性期看護学会（9/8） 示説発表：岩山
 講義（院内）早崎：看護部ラダー教育レベルⅢ「がん患者の意志決定支援」講義
 リンパ浮腫指導について（2 西）
 岩山：エンゼルメイク物品について勉強会（クリニック）
 緩和ケア認定看護師についてミニレクチャー（看護学生 2 回）
 家族看護について（がん看護委員会）
 講義（院外）早崎：今給黎総合病院緩和ケア研修会（10/14） 患者の立場として講義
 研修協力：今給黎総合病院緩和ケア研修ファシリテーター協力（10/14） 早崎、岩山、植屋
 緩和ケア多施設合同カンファレンス事例提示（11/8） 岩山

●その他の活動

- ・緩和ケアチームカンファレンス（木曜日午後）
- ・病棟カンファレンス・キャンサーボード参加（随時）
- ・呼吸器内科回診参加（金曜日）
- ・在宅医療部カンファレンス参加（第 3 火曜日）
- ・化学療法緩和ケアネットワーク（第 1 木曜日）
- ・がん看護委員会（がん関連認定看護師で企画実施）（第 1 木曜日）
- ・緩和ケア他施設合同カンファレンス（鹿児島市内がん拠点病院・指定病院 1 回／月）
- ・鹿児島県がん診療連携拠点病院合同部門会・4 部門会議（緩和ケア 2 回／年・がん相談 3 回／年）
- ・緩和医療科・精神腫瘍科診療の調整・補佐
- ・緩和ケア週間にて PR（10/7-13）
- ・パンフレット・リーフレットにより情報提供、広報・周知活動、患者図書室“すまいる”へパンフレット等提供
- ・誕生日カード、グリーフケア（電話・手紙での遺族ケア）
- ・鹿児島県がん相談員メーリングリスト管理
- ・認定看護師会（奇数月）
- ・認定看護師連絡会（3・9 月）
- ・認定看護師だより（輪番制）
- ・倫理委員会
- ・患者図書運営委員会
- ・病院業務運営会議（第 2 月曜日）
- ・病院業務運営会議（第 2 月曜日）



感染管理課

主任 立和名聖子

当課は、平成24年院長直下の感染管理部門として新設された。その後、感染防止対策加算1・感染防止地域連携加算を取得、また、2019年2月より抗菌薬適正使用支援加算が開始された。これにより更に院内感染対策が強化されている。病院感染防止対策委員会、感染対策・抗菌薬適正使用支援チーム、看護部感染対策委員会は基より日常的な院内ラウンドやコンサルテーション等の業務遂行により組織横断的な関わりを行い院内感染の予防・制御に努めている。院内のほぼすべての感染情報が当課に集まるため、院内の感染情報を整理し迅速に関係部署へ伝達・介入できるよう取り組んでいる。

今年度の主な活動は、①針刺し粘膜曝露対応の再検討②経路別予防策のゾーニング③感染管理システム導入準備④適切な手指衛生の実施⑤適切な検体採取⑥安全面・性能・コストの観点で感染対策物品の見直しであった。①については、各委員会等の関係者を交えての協議、②は、医療安全管理課との共同活動④では、初の取り組みとして手指衛生直接観察を実施した。(結果は下記図3.参照)

今後も現場の感染対策の実施状況を把握分析し、現場ともに改善に向け取り組み、患者と医療従事者の双方を無用な感染から守るために日々活動していくことが責務であり院内外の関係部署と情報共有や相談介入を積極的に実践できるよう取り組んでいきたいと考える。

【スタッフ】 1名(感染管理認定看護師)

【部門実績】

院内

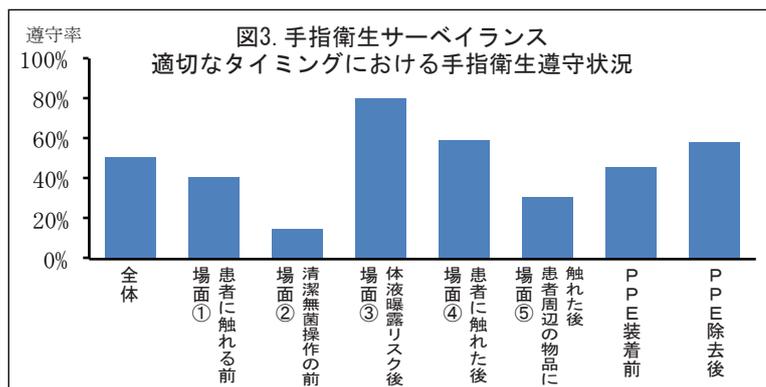
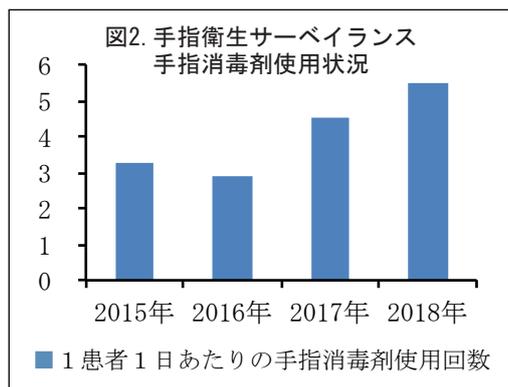
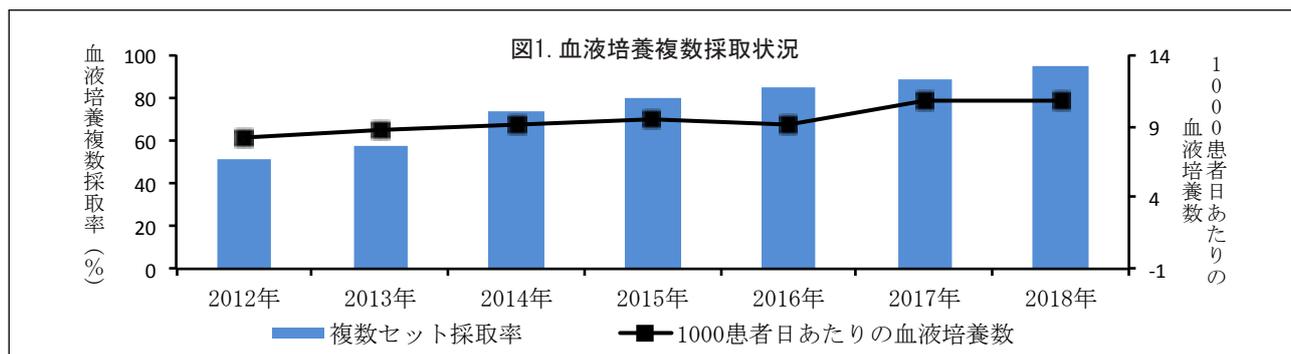
- ・感染症発生対応：皮膚感染症、麻疹疑い、結核、CD、耐性菌、インフルエンザ、疥癬
- ・院内感染防止対策委員会の運営(毎月第4水曜日)
- ・ICT/AST 会議、ラウンド(毎週水曜日)の調整、計画、実施
- ・看護部感染対策委員会運営(毎月第1火曜日)
- ・サーベイランスの実施と結果報告

カテーテル関連尿路感染サーベイランス

手指消毒剤使用量サーベイランス(図2,3)

血液培養セット数サーベイランス(図1)

厚労省サーベイランス事業(JANIS)全入院部門



- ・相談：125件(内訳：環境13件、患者配置23件、洗浄消毒滅菌4件、検査結果5件、標準予防策経路別予防策関連31件、ケア手順2件、就業制限5件、廃棄物0件、職業感染4件、インフルエンザ関連6件、その他32件)
- ・院内研修の計画、実施 詳細は、病院感染防止対策委員会参照

	研修内容	参加率
第1回 全職員対象	「感染対策の概要」 「経路別の感染制御」	81%
第2回 全職員対象	「インフルエンザ流行シーズン前の再点検」	96%

【加算関連】

- ・感染防止対策加算地域連携加算 相互評価ラウンドの調整、計画、開催

	評価対象医療機関	評価実施医療機関
7月25日	日本赤十字社 鹿児島赤十字病院	今給黎総合病院
10月3日	今給黎総合病院	恒心会おぐら病院

- ・感染防止対策加算合同カンファレンスの調整、計画、開催

(感染防止対策加算2連携施設：医療法人慈主会 八反丸リハビリテーション病院)

開催日	主な内容
5月10日	抗菌薬・手指消毒使用量調査の概要、UTIサーベイランスの概要と現状 KICNサーベイランス情報提供、麻疹対策について
8月9日	抗菌薬・手指消毒使用量報告と評価、加算2施設院内ラウンド
11月8日	抗菌薬・手指消毒使用量報告と評価、JANIS耐性菌サーベイランスの現状 感染事例、寝具管理について
2月14日	抗菌薬・手指消毒使用量報告と評価、感染症事例

【院外】

- ・アイアイ保育園のインフルエンザアウトブレイク対応：保育園訪問調査、保健所報告指示
- ・相談：8件

【学術実績】

院内感染研修(講師)

実施月	対象
4月	新入職者 看護部キャリアラダー1
6月、8月、10月(計3回)	看護部キャリアラダー3
8月(計2回)	看護部キャリアラダー2
5月-10月	看護部感染対策委員
12月	委託業者(南九イリョー株式会社)
その他	看護学生

院外研修(講師)

5月18日、7月13日、11月9日	日本感染管理ベストプラクティスSaizen研究会 鹿児島ワーキンググループ アドバイザー
10月17日	社会福祉法人厚生会 睦園 感染研修 「感染対策の基礎 インフルエンザ蔓延防止対策」
11月12日	鹿児島県看護協会 「感染管理(1)感染管理の基礎」
11月14日	ワタキューセイモア(株) 「廃棄物の取り扱いについて」



施設課

課長 田中英樹

【はじめに】

当課は、病院全体の施設の管理を行う部署で、24時間体制で業務を行っています。

病院の理念、基本方針、目標に沿って目標課題を毎年設定し達成できるように業務を推進しています。

また、病院で活動する全ての方に安全で快適な環境を提供するために建物、設備のメンテナンスをサポートしています。老朽化した建物、設備に対して単純に修理・更新の手配をするのみではなく、運営方針や経費対効果を考慮した、適切な修繕計画の策定も担っています。また東日本大震災・熊本地震レベルの大規模災害時にも、建物の機能不全に陥ることがないように、日常の点検業務・修繕に取り組んでいます。

【スタッフ】 6人体制

1・2級ボイラー技士、第1・2種電気工事士、危険物取り扱い、エネルギー管理員、医療ガス保安管理技術者、貯水槽清掃作業監督者、防火・防災管理者等の有資格者

田中・米盛・佐々木・山元・大迫・上赤
資格を取得することだけでなく、どんな物でも修理できる発想力の豊かさが求められます。

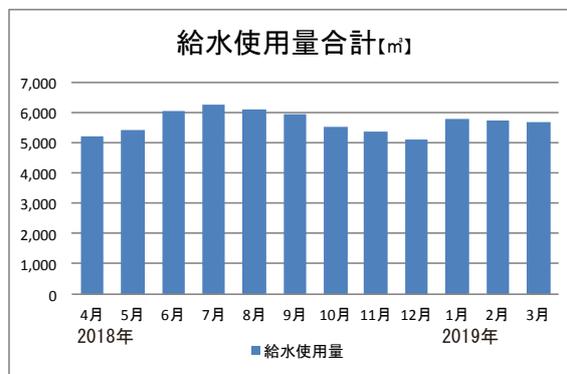
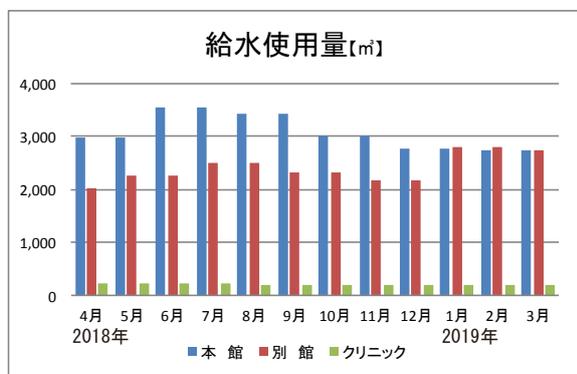
【実績】

4月	本・別館冷温水機分解整備 全館害虫駆除 エレベータ点検【全館】 医療ガス研修会 防火委員会	11月	本館2号ボイラー性能検査 火祭り エチレン・ホルムアルデヒド残留濃度測定 消防設備総合点検【本・別館・クリニック】 ガス器具保守点検 本・別館冷温水機分解整備 エレベータ点検【全館】 汚水検査 総合防火訓練
5月	中材・消毒器性能検査【3缶】 本・別館、貯水槽清掃作業 クリニック電気年次精密点検 エチレン・ホルムアルデヒド残留濃度測定 消防設備機器点検【本・別館・クリニック】 エレベータ点検【全館】 汚水検査 総合防火訓練	12月	本館1号ボイラー性能検査 エレベータ点検【全館】 コンセントプラグ点検 手術室 環境消毒清掃・清浄度測定 高圧酸素治療装置精密点検
6月	自動ドア総合点検 エレベータ点検【全館】 コンセントプラグ点検	1月	医療ガス設備保守点検【本・別館・クリニック】 エレベータ点検【全館】
7月	自家発電設備精密点検 手術室消毒器性能検査【2缶】 エレベータ点検【全館】	2月	本館ストレージタンク性能検査 本・別館電気年次精密点検 窒素酸化物・ばいじん量測定 エレベータ点検【全館】 汚水検査 自動ドア総合点検 CE設備検査
8月	別館ストレージタンク性能検査 窒素酸化物・ばいじん量測定 ガス器具保守点検 エレベータ点検【全館】	3月	ガス器具保守点検 エレベータ点検【全館】 ナースステーション空調機点検清掃 医療ガス安全管理委員会 在庫管理
9月	汚水検査 エレベータ点検【全館】		
10月	熱交換器、分解整備 全館害虫駆除 自動ドア総合点検 エレベータ点検【全館】 防火委員会		

【給水使用量実績表】
2018年4月分～2019年3月分

単位【m³】

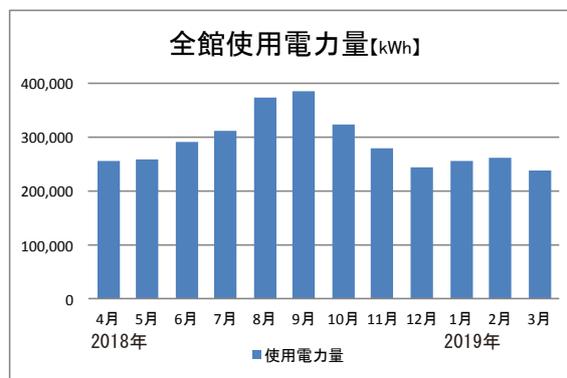
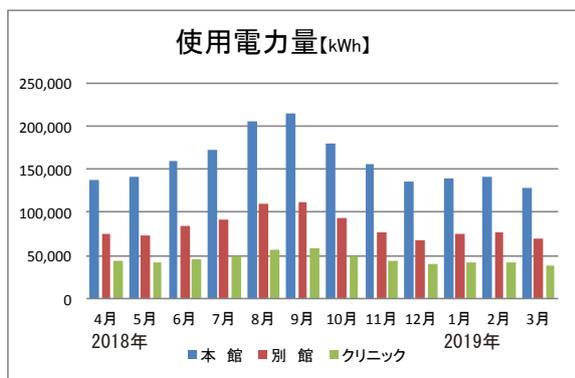
給水使用量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
本館	2,960	2,960	3,554	3,554	3,412	3,412	2,988	2,988	3,028	2,772	2,744	2,744	36,860
別館	2,009	2,244	2,244	2,488	2,488	2,327	2,327	2,154	1,983	2,787	2,787	2,745	28,754
クリニック	214	214	225	225	211	211	210	210	203	197	200	200	2,514
合計	5,183	5,418	6,023	6,267	6,111	5,950	5,525	5,352	5,214	5,756	5,731	5,689	68,128



【電力使用量実績表】
2018年4月分～2019年3月分

使用電力量【kWh】

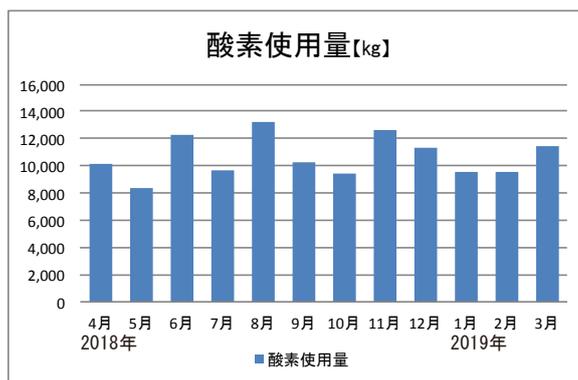
使用電力量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
本館	137,904	140,688	159,600	172,140	205,848	214,752	179,820	155,484	136,020	139,068	141,852	128,712	1,911,888
別館	74,844	73,752	84,372	91,068	109,884	110,928	93,216	77,388	68,328	74,100	76,548	69,000	1,003,428
クリニック	43,020	42,522	45,828	48,960	55,674	59,154	49,218	44,256	39,246	41,394	42,654	38,658	550,584
合計	255,768	256,962	289,800	312,168	371,406	384,834	322,254	277,128	243,594	254,562	261,054	236,370	3,465,900



【医療用酸素使用量実績表】
2018年4月分～2019年3月分

使用電力量【kWh】

酸素使用量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
酸素使用量	10,100	8,400	12,264	9,719	13,238	10,205	9,441	12,590	11,293	9,533	9,534	11,409	127,726





栄養管理部

課長 上平田美樹

【スタッフ構成】(平成31年3月31日現在)

管理栄養士10名（産休1名含む）、NST専任管理栄養士1名、栄養士5名
調理師10名、調理補助8名、洗浄パート3名、洗浄部門（委託）15名 合計52名

【認定資格取得状況】(平成31年3月現在)

・上平田美樹	病態栄養専門管理栄養師 NSTサポートチーム専門療養士 糖尿病療養指導士（CDEJ）	がん病態栄養専門師 NSTコーディネーター
・鈴木聖子	病態栄養認定管理栄養師 NSTサポートチーム専門療養士 特定保健従事者	褥瘡管理栄養士 NSTコーディネーター
・鶴瀬裕美	病態栄養認定管理栄養師 糖尿病療養指導士（CDEJ）	がん病態栄養専門師 健康運動療指導士
・染川麻美	病態栄養認定管理栄養師	糖尿病療養指導士（CDEJ）

【給食管理】

平成28年4月1日から運営方式を変更して3年目となりました。今年度の栄養管理部では患者満足度の向上と働き方改革として人員確保と教育の充実に取り組みました。

今年度の食事アンケートでの評価においては、満足度が75.3%（平成30年8月実施）から88.2%（平成31年2月実施）へ向上した結果となりました。今後も引き続き、喜ばれる給食提供とサービス向上を目指して参ります。

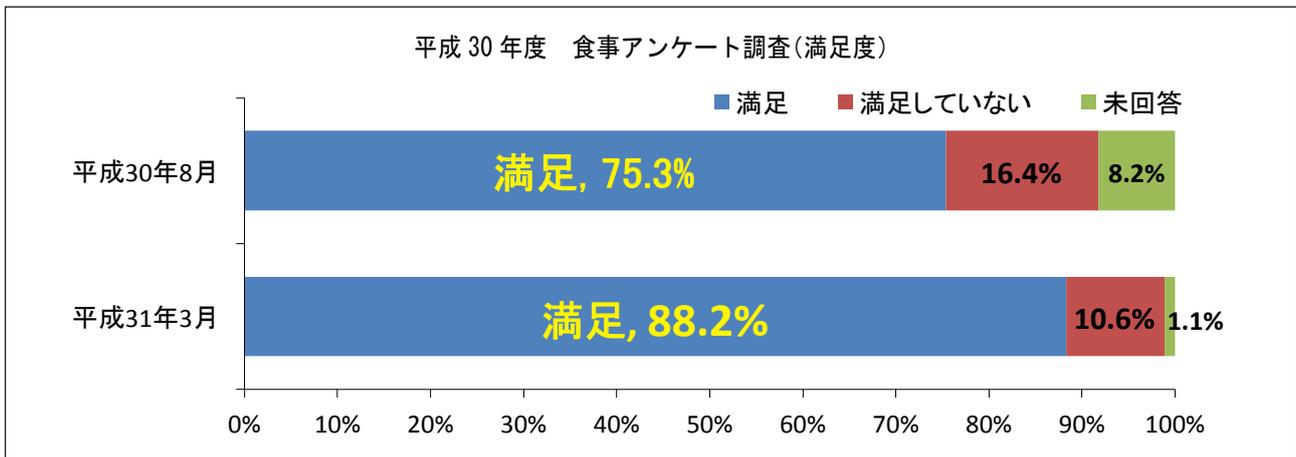


図1) 食事アンケート調査（満足度）比較

2021年の新病院への移転計画において、設計段階から新厨房における給食運営方法の見直しを行い、スタッフの衛生意識の向上とニュークックチルを目指した新調理を含めたHACCP勉強会を新たに加え、現在の給食にも取り入れながら準備を進めて参りました。

2施設での給食運営に向け、引き続きサービスの向上、運営の効率化、スタッフ教育を行い、患者さまに安心安全で喜ばれる給食提供を目指して取り組みました。

【栄養管理・栄養指導実績】

平成30年度の指導実績は、入院栄養指導1,779件、入院集団指導34件、外来栄養指導114件、外来集団指導2件、昭和会クリニック外来栄養指導79件、合計2,008件※でした。前年度と比較し、327件増加(+19%)となり、患者様の身体状況、臨床データ、患者背景などを考慮し、オーダーメイドでの栄養管理と栄養指導を実施しました。平成30年4月からの診療報酬改定から「低栄養」「がん」「嚥下食」も新たに算定に加わり、がんに関する指導件数が増加しました。 ※栄養指導算定・非算定を含む実施数

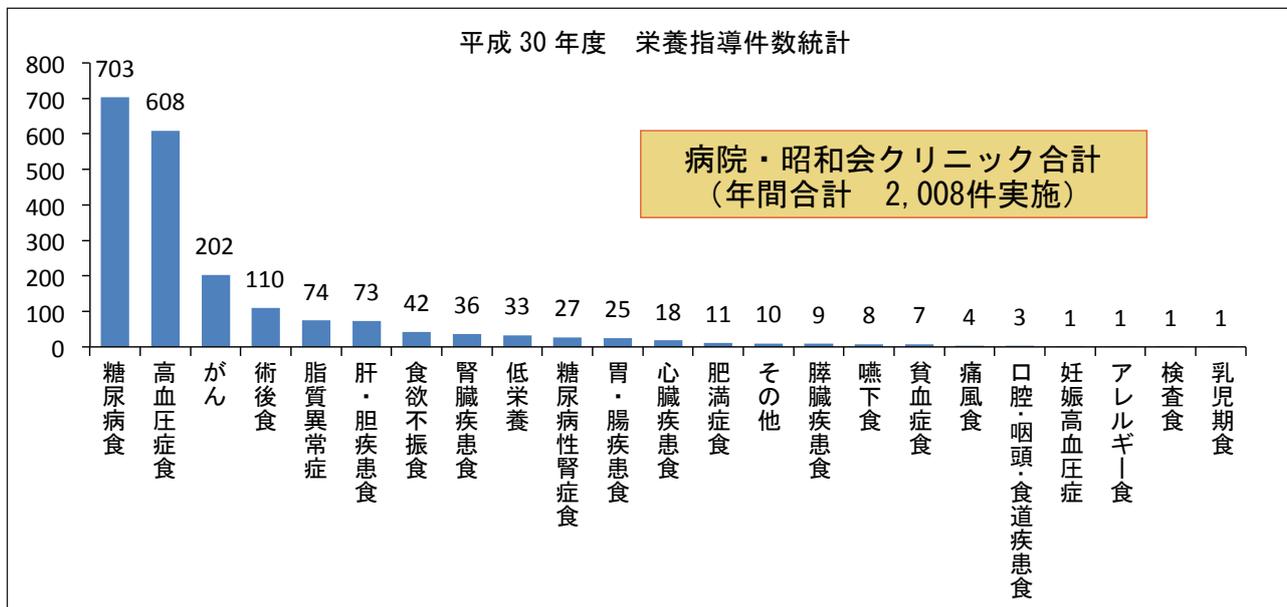


図2) 平成30年度 栄養指導件数統計 (今給黎総合病院/昭和会クリニック)

【平成30年度 栄養管理部活動状況報告】

・実習生受け入れ状況

平成30年8月20日～8月31日 臨床栄養学実習 (校外実習)
 鹿児島県立短期大学 生活科学科 食物栄養専攻 2年生 2名受け入れ
 平成30年8月27日～8月31日 給食管理実習II (校外実習)
 尚絅大学短期大学部 食物栄養学科 2年生 1名受け入れ

・インターンシップ(職場体験学習)受け入れ

平成30年11月8日 鹿児島県立東高校 2年生 4名 講師 上平田美樹
 平成30年2月6日 鹿児島県立明桜館高等学校 2年生 2名 講師 上平田美樹

・病院施設の見学受け入れ

平成30年12月20日 厨房内施設見学 池田病院 管理栄養士 1名

・院外講師活動

平成30年12月11日 鹿児島県立短期大学 生活科学科 食物栄養専攻1年生、他 35名
 第6回「キャリアデザイン(食に関する仕事)」 講師 上平田美樹
 平成30年5月12日 つながる想いin かごしま～がんとともに生きる～
 パネルディスカッション 講師 鈴木聖子

・院外研修会及び勉強会スタッフ派遣要請対応

平成30年6月16日 第14回「びくるすの会」研修会 運営協力 鈴木聖子
 平成31年3月3日 鹿児島県「糖尿病重症化予防従事者連携研修会」
 ファシリテータースタッフ派遣 鶴瀬裕美

・病院施設の公開利用

平成30年7月18日 がん患者サロン「ほっとサロン今給黎」ミニ勉強会
 「実践できる良好な食事」 講師 田中美帆

・大規模災害研修会

平成30年11月7日 自衛消防隊消化競技会参加 加藤 友教

・院外ボランティア活動

平成30年8月17日～19日 第49回鹿児島小児糖尿病サマーキャンプ 鶴瀬裕美

・公的会議参加

平成30年11月18日 鹿児島摂食嚥下リハビリテーション研究会 理事会 鈴木聖子

・院外公的研修参加

鹿児島大学公開講座 第2回摂食嚥下リハビリテーション研修講座 神之田優
 計8回：平成30年9月5日、9月12日、9月19日、10月3日、10月10日、10月31日、11月7日、11月21日
 平成30年9月11日 平成30年度給食施設従事者研修会（管理栄養士、栄養士） 竹内裕香、福田侑加、堀紗耶可
 平成30年9月19日 平成30年度給食施設従事者研修会（調理従事者） 安山 寿登

・学会参加状況

平成30年5月24日～26日 第61回日本糖尿病学会年次学術集会 上平田美樹
 平成30年9月28日～29日 第20回日本褥瘡学会学術集会 鈴木聖子
 平成30年10月12日～13日 糖尿病学会 九州地方会 神之田優、上野真紀
 平成31年1月11日～12日 第22回日本病態栄養学会年次学術集会 染川麻美、福田侑加
 平成31年2月14日～15日 第34回日本静脈経腸栄養学会学術集会 鈴木聖子

・その他、研修会・学会参加状況

平成30年4月7日 第2回糖尿病医療学研究会in鹿児島 鶴瀬裕美
 平成30年4月28日 第15回鹿児島NST研究会 上平田美樹、鈴木聖子
 平成30年5月5日 2025年生き残るための経営セミナー（全日本病院協会主催） 上平田美樹
 平成30年5月6日 病院食&Care Food・新調理システム実演セミナー 上平田美樹
 平成30年5月20日 リハ栄養フォーラム2018 in鹿児島 鶴瀬裕美
 平成30年6月2日 公社）鹿児島県栄養士会総会及び第1回研修会
 上平田美樹、田中美帆、久永亜里紗、神之田優
 平成30年6月30日 第23回鹿児島糖尿病スタッフセミナー
 染川麻美、鶴瀬裕美、小園千恵美、富永奈穂美
 平成30年6月16日 第14回「ぴくるすの会」研修会
 上平田美樹、染川麻美、柘沙由理、上野真紀、竹内裕香、福田侑加、堀紗耶可
 平成30年7月14日 第3回鹿児島の食で健康シンポジウム 神之田優
 平成30年7月17日 鹿児島Luncheon Web講演会
 上平田美樹、染川麻美、鶴瀬裕美、柘沙由理、神之田優、上野真紀、北之園佳奈
 平成30年7月22日 公社）鹿児島県栄養士会総会及び第2回研修会
 上平田美樹、鈴木聖子、染川麻美、鶴瀬裕美、上野真紀、柘沙由理、江藤裕基恵
 平成30年7月14日 がん病態専門管理栄養士更新セミナー 上平田美樹、鶴瀬裕美
 平成30年8月4日 平成30年度スキルアップ研修in始良（第1回） 神之田優
 平成30年8月7日 朝夕無人化厨房運営セミナーin鹿児島
 上平田美樹、鈴木聖子、鶴瀬裕美、染川麻美、上平田智喜、松山貴子
 平成30年9月1日 平成30年度スキルアップ研修会（鹿児島県保険者協議会主催） 上野真紀
 平成30年9月14日 Delivery Meeting for Kagoshima（糖尿病研修会）
 上平田美樹、染川麻美、鶴瀬裕美、柘沙由理、上野真紀、神之田優、北之園佳奈
 平成30年10月6日 平成30年度スキルアップ研修in始良（第2回） 神之田優
 平成30年10月24日 NK活性を高める生活習慣と乳酸菌 鈴木聖子
 平成30年11月13日 HACCP制度化に向けて 高山省吾、神之田優
 平成30年11月18日 第14回鹿児島摂食嚥下リハビリテーション研究会 鈴木聖子、神之田優
 平成30年11月25日 第11回カーボカウントインスリンポンプセミナー 染川麻美、鶴瀬裕美
 平成30年12月1日 平成30年度スキルアップ研修in始良（第3回） 神之田優
 平成30年12月9日 第4回鹿児島1型糖尿病セミナー 鶴瀬裕美
 平成31年1月19日 メディカルスタッフカンファレンス（MSC）in鹿児島（動脈硬化学会主催）
 上平田美樹
 平成31年1月30日 再加熱カート調理テスト及び研修会 上平田美樹、鈴木聖子
 平成31年2月2日 平成30年度スキルアップ研修in始良（第4回） 神之田優
 平成31年2月3日 公社）鹿児島県栄養士会総会及び第4回研修会
 上平田美樹、鈴木聖子、染川麻美、鶴瀬裕美、神之田優、江藤裕基恵
 平成31年3月15日 糖尿病チーム医療を考える会 鶴瀬裕美

・病院指定

日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設認定更新 平成26年4月1日～平成31年3月31日
 日本栄養療法推進協議会 NST稼働施設認定 平成28年9月1日～平成33年8月31日

・院内自主勉強会の実施状況

平成30年5月16日・17日 手洗い講習会 厨房スタッフ 33名
 平成30年6月6日 手洗い講習会 洗浄委託スタッフ 15名
 平成30年8月7日 HACCP勉強会開催 厨房スタッフ 32名
 平成30年8月21日 栄養管理研修 栄養士・管理栄養士 18名
 平成30年11月15日・21日 ノロウイルス・インフルエンザウイルスの感染対策勉強会 35名



診療情報管理部

課長 畑 中 幸 子

今年度は診療録監査方法を一新しました。7月までは厚生局の個別指導にて公開されている指摘項目を参考に監査表を作成し、診療内容記録の充実を主に監査してきましたが、今年度は診療報酬請求の根拠に基づく記載がされているかに視点を換え、試行錯誤しながら監査しました。同じ監査を2回することで1回目は記載の必要性の周知、2回目は改善評価に繋がりました。

また、入院時・退院時記録のサポートを医師事務作業補助へ依頼し、少しずつではありますが記載率があがってきました。今後も“診療の証”としての診療録、“診療報酬の根拠”となる診療録を意識しながら診療録の質向上に努めてまいりたいと思います。

<監査>

4月 形成外科

5月 4月入職医師10名

6月 形成外科

7月 整形外科 4月入職医師4名

8月 6月整形外科運動器リハビリテーション100単位以上症例

- 実施計画内容説明の記録があるか
- 定期的に1回以上説明されているか
- リハビリ終了時に治療評価の記載があるか

9月 検査実施時に検査結果評価の記載があるか（退院前検査のみ）1回目

10月 9/1～9/18リハビリ開始時指示および説明の記載（全診療科）1回目

11月 検査実施時に検査結果評価の記載があるか（退院前検査のみ）2回目

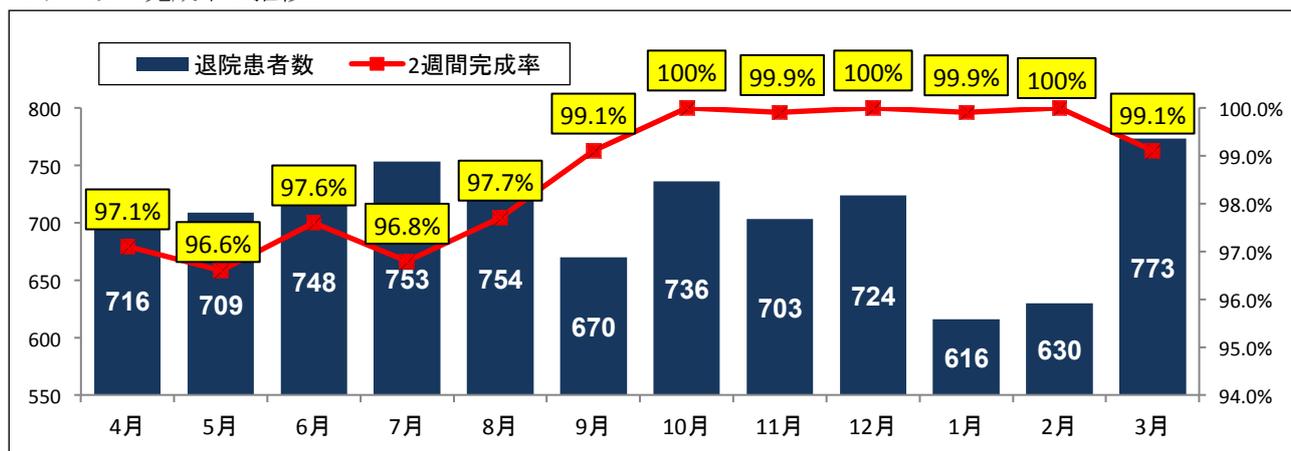
12月 入院時記録監査（クリニック記録として記載されていないか）

1月 12/1～12/15 リハビリ開始時指示および説明の記載（全診療科）2回目

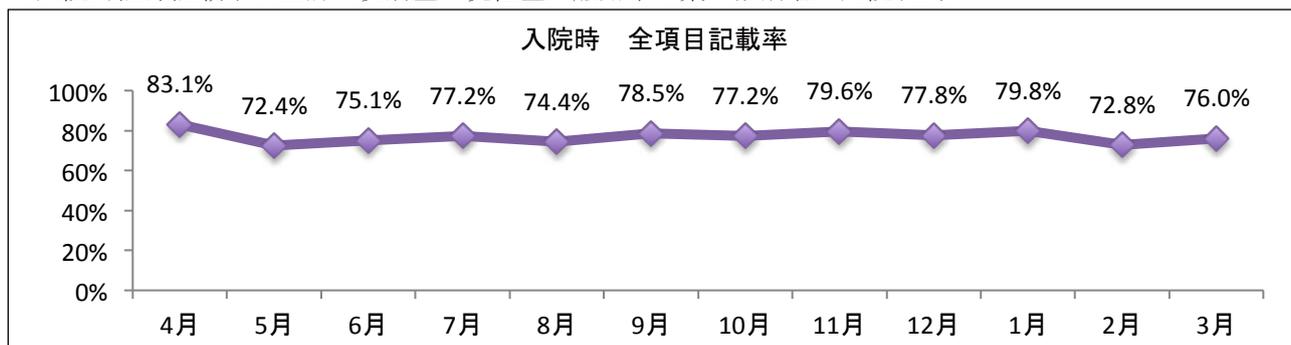
2月 H30.12月退院患者 DPC請求病名および副傷病の診療録記載

3月 H31.1月退院患者 手術および病状説明時に本人・家族の反応が記載されているか

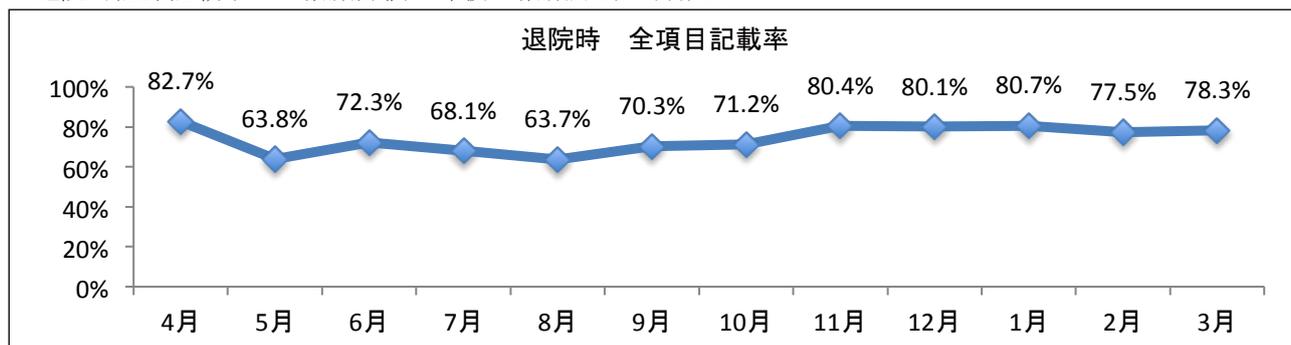
<サマリー完成率の推移>



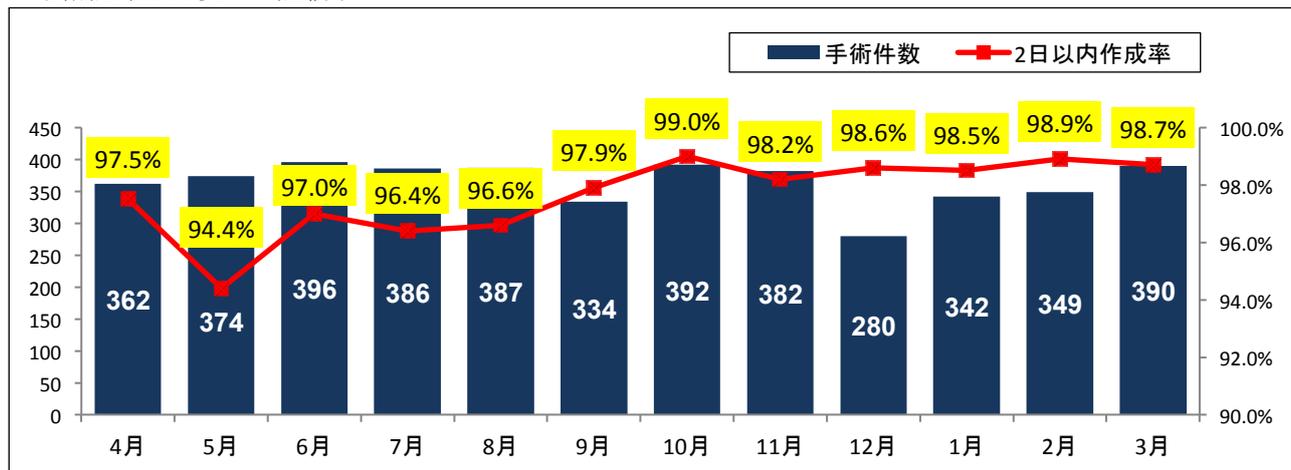
<入院時記録記載率> 主訴・現病歴・既往歴・服用中の薬・診断名・入院目的



<退院時記録記載率> 治療評価・今後の治療方針・再診日



<手術記録2日以内の記載率>



<がん登録>

当院はがん診療連携拠点病院に認定されており、中級者2名(うち1名専従)、初級者1名(兼任)で院内がん登録を実施しています。

2018年(1~12月)は、全登録数739件 責任症例数571件(統計資料は別資料参照)でした。

また、国立がん研究センター主催のQI研究や予後調査事業へ参加し、がん登録の質向上に努めています。

<その他>

医師事務作業補助者との連携による診療録記載充実に努めました。職員1名を診療補助部へ短期間派遣し、記載方法の提案・助言等を行いました。

<情報活用および広報>

- ・年代別にみる外傷とその要因 9月広報誌掲載
ICD10外因コードを使用し、H29年度外傷退院患者の年代別疾患および年代別外因の特徴を紹介しました。
- ・病院情報公開(案内) 12月広報誌掲載
10月にホームページ上で公開したDPC退院患者病院情報公開について紹介しました。
- ・院内がん登録のデータを使用しがん検診・健診促進のポスターを作成し院内掲示しました。
(2012年~2017年データを使用)

【スタッフ】

- ・ 畑中幸子 H13年4月入職 診療情報管理士・院内がん登録実務初級者・DPCコース認定
- ・ 黒丸恭弘 H20年3月入職 診療情報管理士・院内がん登録実務中級者・DPCコース認定
- ・ 新地佑貴 H20年4月入職 診療情報管理士・院内がん登録実務中級者・DPCコース認定
- ・ 越間北斗 H24年3月入職 診療情報管理士・DPCコース認定
- ・ 松下侑磨 H30年9月入職 診療情報管理士 H31年3月退職
- ・ 坂元 雅 H31年3月入職 診療情報管理士
- ・ 高橋和代 H17年3月入職
- ・ 濱菌千鶴 H24年5月入職 H30年9月退職
- ・ 松崎 愛 H22年7月入職 H30年4月退職
- ・ 青山知恵 H30年8月入職 H31年3月退職
- ・ 吉田亜紀 H31年2月入職

【実習および職場体験受入れ】

- ・ 鹿児島市立吉田南中学校 H30. 5. 9 (職場体験)
- ・ 鹿児島キャリアデザイン専門学校 医療情報管理学科 3名 H30. 5. 14 ~ 6. 8(実習)
- ・ 鹿児島県立東高等学校 4名 H30. 11. 7 (職場体験)
- ・ 鹿児島県立明桜館高等学校 3名 H31. 2. 5 (職場体験)
- ・ 鹿児島県立樟南高等学校 2名 H31. 2. 14 (職場体験)

【院外活動】

- ・ 鹿児島キャリアデザイン専門学校 教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会 畑中幸子
- ・ 鹿児島キャリアデザイン専門学校 講師：診療情報管理士の業務について 越間北斗
- ・ 鹿児島県がん四部門研修会 がん登録部会 講師：当院の院内がん登録について 黒丸恭弘

【院外研修会参加】

- ・ 鹿児島診療情報管理研究会セミナー 鹿児島大学病院
H30. 7. 21、H31. 2. 16 畑中・黒丸・新地・越間
- ・ 鹿児島県がん四部門研修会 鹿児島大学病院
H30. 8. 4、H31. 2. 2 畑中・黒丸・新地
- ・ 院内がん登録初級者研修会 国立がん研究センター H30. 8. 7 畑中
- ・ 院内がん登録研修会 鹿児島大学病院 H30. 9. 1、H30. 12/1 ~ 12/2 畑中・黒丸・新地
- ・ 鹿児島診療情報管理研究会Aブロック会 鹿児島市立病院
H30. 9. 15、H31. 1. 26 畑中・黒丸・新地・越間
- ・ S S I スコープ研修会 ソフトウェアサービス本社
H31. 3. 9 畑中
- ・ 鹿児島診療情報管理講習会 鹿児島キャリアデザイン専門学校
H31. 3. 16 黒丸・新地・越間

【院内がん登録集計 2018年1月～2018年12月31日 739件】

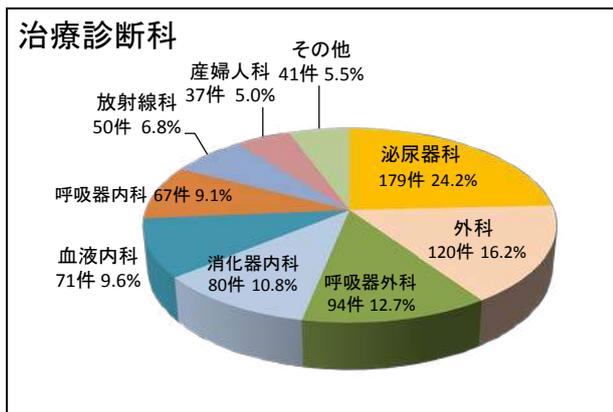
※がん登録の対象となる症例：上記期間中に診断及び治療の対象となった症例

★1腫瘍1登録★ 重複がんの場合は原発の数をそれぞれ登録

①治療診断科

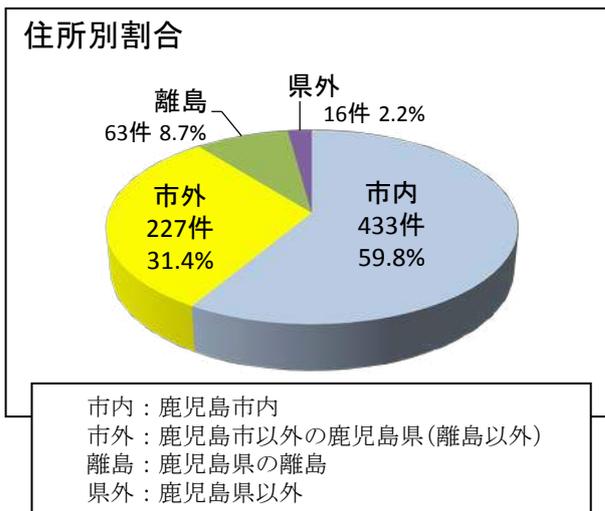
診断のみで終了した場合：診断を行った診療科
 治療を行った場合：初回治療を行った診療科
 どちらも行った場合は、治療をした診療科を1としています。

(例) 消化器内科にて診断、外科にて治療
 ⇒ 外科でカウント



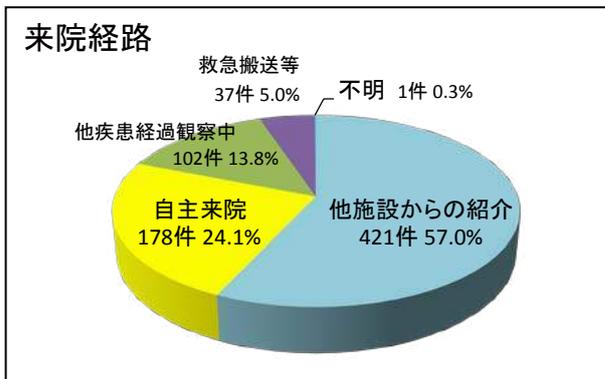
②住所別割合

患者様の居住されている地域別分類です。
 市外では多い順に始良市 40、霧島 29、日置 24
 離島では、種子島 31、屋久島 17 の順となっています。



③来院経路

がんの診断・治療のため当院を受診した経路別分類です。



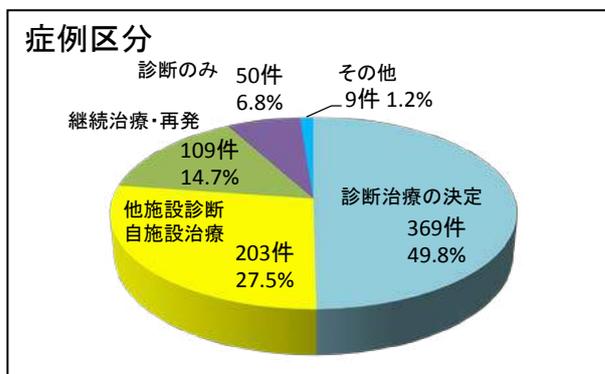
④ 症例区分

診断治療の決定：
 当院でがんの診断を行い、治療方針を決定した症例

他施設診断自施設治療：
 がんの診断は他施設で行われ、初回治療を当院で行った症例

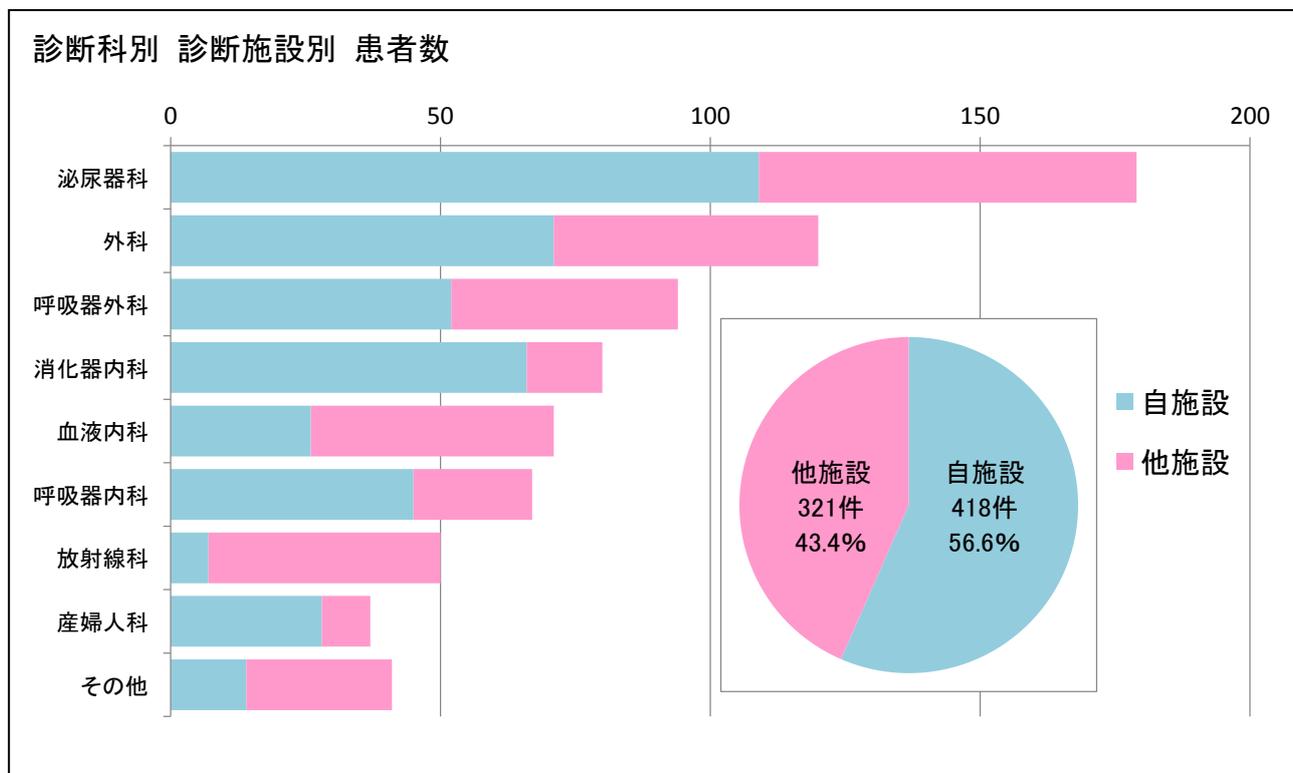
継続治療・再発：
 他施設にて初回治療後、当院にて継続治療を行った症例。もしくは、他施設にて治療後、再発し当院にて治療を行った症例

診断のみの症例：
 当院でがんの診断を行ったが、治療は他施設で行ったもしくは治療を選択しなかった症例



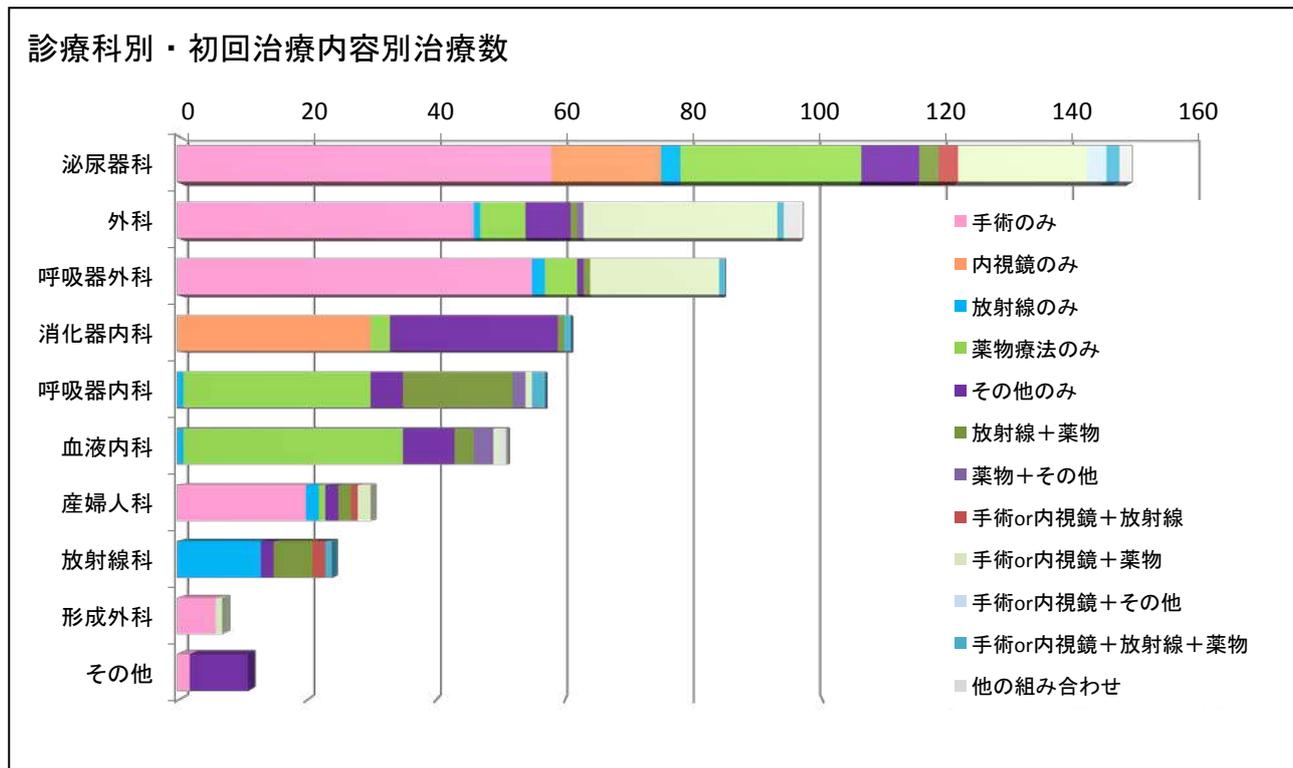
⑤ 診療科別・診断施設別患者数

がん患者様の診断がどこで行われたかを診療科別で示しています。



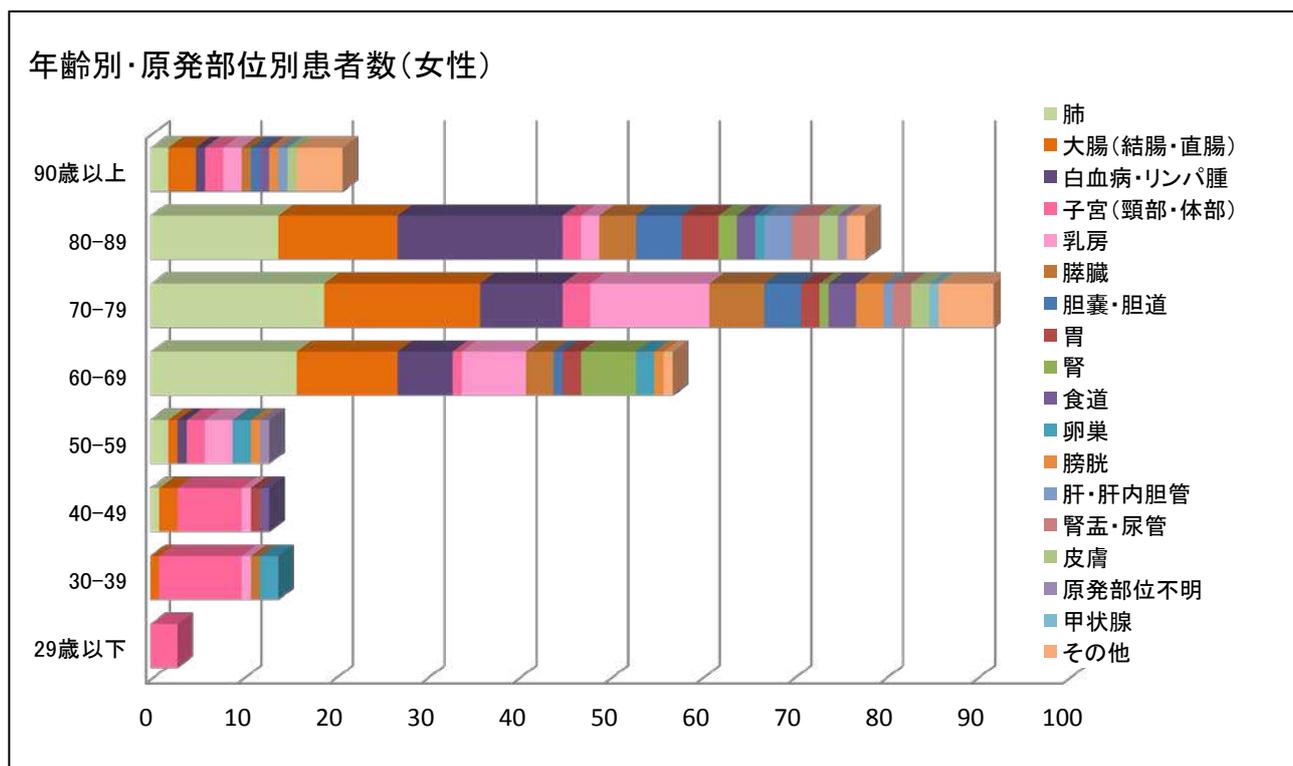
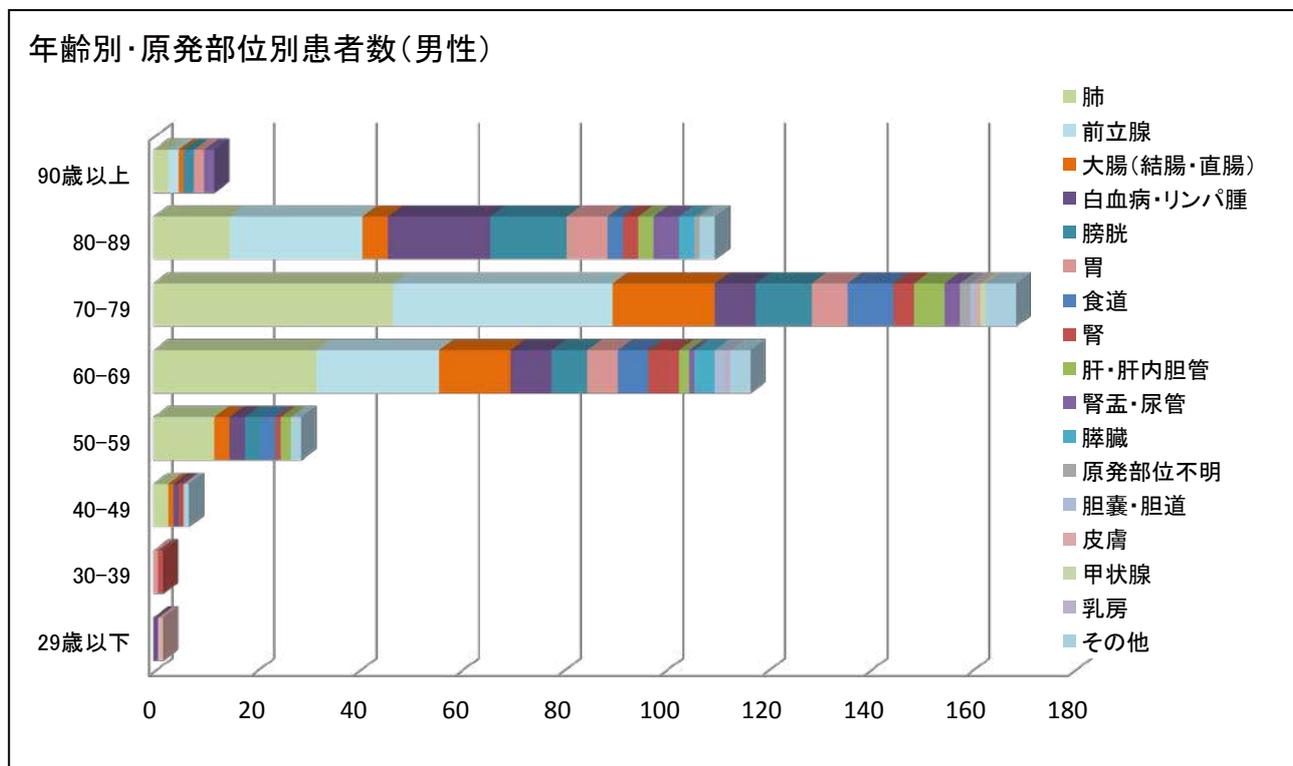
⑥ 診療科別・初回治療内容別治療数

初回治療として選択された治療内容を診療科別で示しています



⑦性別・年齢階層別・原発部位別 患者数

どの年代でどのようながんが多いかをグラフ化しています。





患者サポートチーム

看護副部長 中村 章子

【目的】

入院および外来患者やその家族からの医療・療養に関する不明・不安・不満などに対し、適切にかつ迅速に患者のサポートができる体制をとり、入院および外来患者や家族が安心して納得できる医療が受けられることを目的とする

【構成員】

昇 院長、野口事務局長、濱田事務長、中村看護副部長、千田安全管理課長、医事課 岩元、総務企画課 益田、サポート窓口吉國、施設課 田中課長、外部委員 春田

【活動内容】

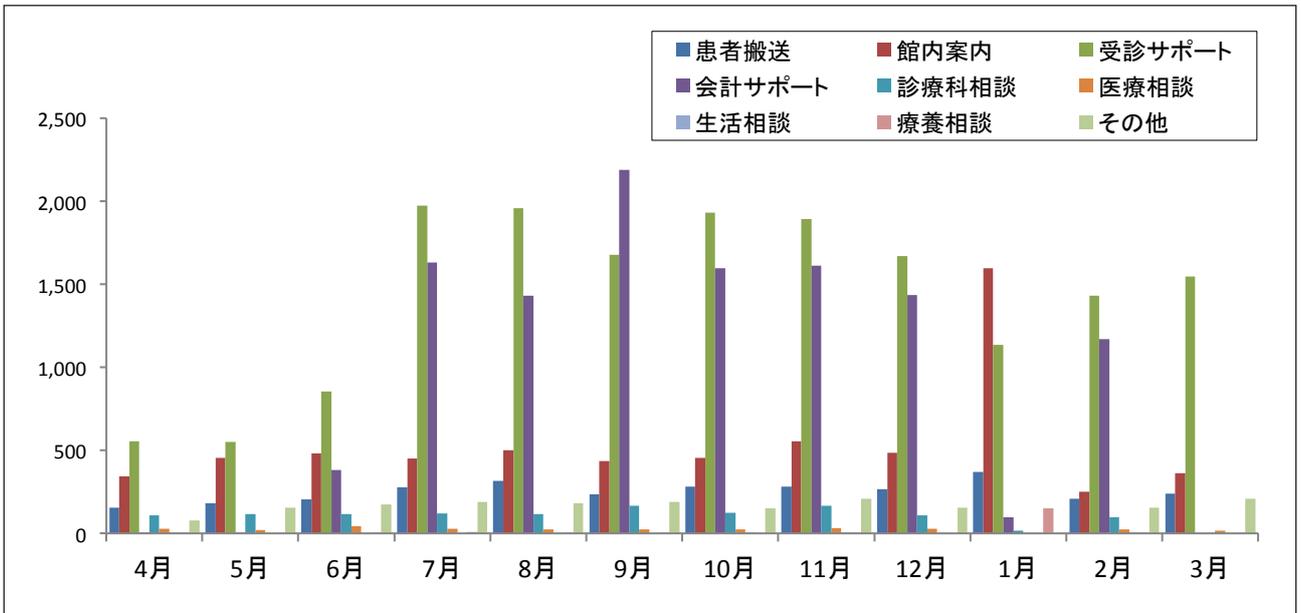
1. 【患者サポート窓口】を本館1階外来の薬局前に設置し、担当者を配置、相談を受ける。なお、相談者の状況や相談内容によって、適宜適切な場所を確保し、柔軟に対応する。
2. 毎週月曜日にカンファレンスを行い、相談窓口、意見箱、各部門より寄せられた内容について検討する。

主な活動実績

1. 患者満足度調査を入院患者対象に4月、7月、10月、1月の4回実施。回収率は前年度より上がったが病棟により差があった。調査方法等の検討が今後の課題でもある。調査結果と改善策は院内へ掲示した。
2. カンファレンスで検討された主な内容は以下の通りである。
 - ・入院日に病室に行く前に検査があり荷物を置く場所がない →ロッカーの案内掲示を大きくした。
 - ・ナースコールが部屋単位であるため、夜間のナースコール時の対応が難渋する。
→ベッド単位でのナースコール対応の工事を施設課が実施し、ナースコール対応がスムーズに行くようになった。
 - ・空調に対する意見→空調稼働に関するポスターを作成し院内掲示した。
 - ・清掃の方法や言葉遣いに対する意見
→委託業者へ指導。業者より指導内容の提示もあり指導の徹底を依頼した。
 - ・患者サポート相談室の周知ができていないのでは
→患者サポート相談窓口のポスターを一部修正し掲示した。
 - ・駐車料金が低い
→ご家族・面会者の駐車料金についての理解と協力についてポスター作成し掲示した。
 - ・外来が本館とクリニックに分かれており、退院後どちらに行ったらいいかわからない。
→退院後の外来受診についても案内状作成、その用紙を元に退院時に説明する各病棟へ指導した。
3. サポート相談窓口内容件数については以下の表を示す。
窓口対応窓口での対応件数、内容内訳は、表の通りである。
相談内容によっては、医事課長、交通事故担当、病棟師長などによって対応するケースもあった。

【2018年度 患者サポート窓口利用集計】

	患者搬送	館内案内	受診サポート	会計サポート	診療科相談	医療相談	生活相談	療養相談	その他
4月	155	342	553	3	108	26	1	6	110
5月	182	454	549	1	118	21	0	0	92
6月	205	483	854	381	116	43	0	1	164
7月	279	451	1,972	1,630	119	27	0	10	169
8月	315	500	1,959	1,429	117	24	0	1	182
9月	236	434	1,676	2,190	167	24	0	1	147
10月	283	454	1,931	1,598	123	23	1	0	143
11月	282	556	1,891	1,610	167	33	1	2	142
12月	265	486	1,670	1,434	108	27	0	0	266
1月	371	1,597	1,135	95	17	0	0	149	155
2月	208	251	1,429	1,170	96	22	1	1	126
3月	239	362	1,546	0	0	18	0	0	147
総数	3,020	6,370	17,165	11,541	1,256	288	4	171	1,843
月平均	252	531	1,430	962	105	24	0	14	154





事務部

事務局長 野口桂一

特記事項

4月2日	公益社団法人へ移行
9月28日	鹿児島県DMAT指定病院
11月5日	浜町へリポートにおける今給黎ドクターカー運用開始
12月7日	新病院起工式

1. 院内行事

4月2日	入社式	41名入職
5月14日～18日	職員健診	860名実施
5月10日	リフレッシュ研修	
8月20日	鹿児島県臨床研修病院見学ツアーBコース 県外医学生	
10月29日	がん診療に携わる医師のための緩和ケア研修会	受講者15名・スタッフ20名
11月6日～8日	職員健診	118名実施

2. 文化活動・スポーツ事業活動・ボランティア活動

毎月第一木曜日	病院周辺清掃活動 主任級以上20名程度で活動	
6月7日	鹿児島県赤十字血液センター献血	23名
11月14日	鹿児島県赤十字血液センター献血	23名

3. 入院患者不在者投票実施

4月22日	鹿屋市議会議員選挙	1名実施
12月2日	天城町長・天城町議会議員選挙	1名実施

4. 各種補助金関係

へき地医療拠点病院運営費補助金
 医師臨床研修費等補助金
 がん診療連携拠点病院整備事業補助金
 周産期母子医療センター運営費補助金
 病院内保育所運営補助事業
 産科医等確保支援事業補助金
 新生児医療担当医確保支援事業補助金
 地域周産期母子医療センター設備費補助金
 認知症看護分野認定看護師養成促進事業補助金

9つの項目において申請手続きを行った

5. その他の活動報告

乳がん検診	99名受付
子宮がん検診	113名受付
大腸がん検診	38名受付
低線量CT肺がん検診	26名受付
前立腺がん検診	1名受付
12月22日NHK歳末たすけあい募金	11,427円

6. 教育研修

4月2日～6日新人オリエンテーション研修

5月30日・31日/6月1日・8日・12日・19日

医療安全研修会 「医療安全管理課 院内事例からの報告」 計897名

6月7日・14日/7月3日・12日 院内感染研修会「感染経路別の感染制御」 計402名受講

6月26日 日本専門医機構認定講習会 医療倫理講習 「医療倫理における利益相反」 93名受講

7月18日 職員勉強会「熱中症-鹿児島を脅かすもう一つの災害-」 82名受講

7月26日/8月9日・16日・27日/9月14日・19日

管理職対象研修 コミュニケーション研修 ～風通しの良い職場作り～ 計108名受講

8月3日 医療連携講演会「社会保障について～医療・医薬品分野を中心として～」 90名受講

11月1日・22日・27日・28日・29日/12月5日・6日

日本専門医機構認定共通講習会 院内感染研修
「インフルエンザ院内発症時の対応の再点検」 計934名受講

11月16日・17日/1月25日・30日・31日/3月29日

日本専門医機構認定講習会 医療安全研修会
「コミュニケーションの視点から考える説明と同意～他職種・他部門との情報交換を通して考
える～」 計252名受講

12月14日・18日/1月11日・18日/3月19日・22日

日本専門医機構認定講習会 医療安全研修会
「医療の質を担保する診療録について」 計593名受講

7. 会計監査

監査法人監査（いちご公認会計士共同事務所）

平成29年度下半期監査 平成30年5月24日・25日

決算監査 平成30年6月6日・7日

平成30年度上半期監査 平成30年12月6日・7日

現金実査 平成31年3月30日

8. その他

(1) 公益社団法人の組織再編

平成30年3月8日 公益地位継承認可

平成30年4月2日 新設合併登記

(2) 鹿児島県公益法人検査

平成30年9月6日 実施

会議・委員会活動報告

IV

- 各会議
- 法令関連
- 医療安全
- 医療の質向上
- 教育研修推進
- 病院運営
- 地域サービス



病院業務運営会議

【目的】

総合医療推進に伴い、病院運営上の実務についての連絡調整、意見集約を図りながら、より充実したチーム医療を構築する。

【本会議の開催】 毎月第2月曜日 (18:00～19:30)

【出席者】

理事長、院長、各科部長、各科医師、看護部長、看護師長、薬剤部長、放射線・検査技師長、療法士長、栄養管理課長、事務局長、各事務部課長、各部署責任者

本会議は、病院運営上において、原動力的会議として位置づけされ、毎月1回開催されている。各科各部署より連絡事項、報告、問題点、提案等を提議して、多面的な立場より検討し『より適切な医療とサービスの提供』を目標にしている。

本年度も多くの課題が検討され、医療機能の質の向上・改善が図られた。

講演会について初めて、日本専門医機構認定共通講演会を開催した。医師は医療安全、感染と倫理が必修となっており、特に倫理に関しては、他でもなかなか開催していない、参加したくてもできない状況があり、昇院長の熱い思いに、当院の顧問弁護士が快諾し6月下旬に『医療倫理における利益相反』と題してご講演頂いた。院内からはもちろん、医師会の協力も頂き、地域の先生方も多くご参加頂いた。

医療安全に関しても、1月に『医療の質を担保する診療録について』と題し、当院の顧問弁護士に依頼し、日本専門医機構の共通講演会として開催した。

また、新病院開院へ向けて、和幸副院長は接遇の向上を掲げ、医師を含む管理職を対象にコミュニケーション研修を開催した。これは今後、定期的に開催して、内容を変えて全職員にも行っていく予定である。

来年度から、昇院長、大久保院長をはじめ、副院長級の医師が一新されることが決まり、3月下旬に慰労会を盛大に開催した。長年に渡り当院の発展に大変貢献して頂き感謝致します。今後も当院への指導をお願いしたい。

今後も、患者様はじめ、地域医療関係機関へ、更なる貢献向上に向けて、全職員一体となり、取り組んでいきたいと考える。

《今年度の主な検討事項》

- | | |
|---------------------|------------------|
| ・各部署からの現状実績報告 | ・7対1・ICU入院料、実績報告 |
| ・各委員会からの報告 | ・各講演会関係開催 |
| ・収入支出報告、稼働状況報告 | ・在院日数短縮、病床利用率 |
| ・医療安全対策・院内感染対策 | ・インフル、ノロウィルス対策 |
| ・サマリー、診療記録監査、がん登録報告 | ・病院移転関係 他 |



薬事委員会

【目的・目標】 採用薬の整理・後発医薬品への切替え

【開催日】 3ヶ月に1回

【構成員】

大久保幸一 昇卓夫 中目康彦 大場一郎 野口桂一 酒匂英子 前嶋一友 高橋真理

【平成30年度活動内容】

平成30年度は、新規採用・削除薬を審議する定期の薬事委員会を第97回～100回まで4回開催した。新規採用薬は院内・院外共通10品目、院内処方専用18品目、院外処方専用14品目であった。後発医薬品への切替えは15品目（内服薬11品目・注射薬1品目・外用剤3品目）について行った。

分子標的薬・生物学的製剤など高額な薬剤が増えてきており、薬剤費は年々増加している。前年度と比較した薬剤費の増加額は1億4,900万円であった。医薬収入に対する薬剤費率は昨年度より1.2%増加し、13.4%となった。

薬剤費率(医薬収入に対する薬剤費の割合)と薬剤費に対する後発品の割合 前年度との比較

	平成29年度		平成30年度	
	年間	月平均	年間	月平均
医 業 収 入	10,264,016,893	855,334,741	10,432,502,148	869,375,179
薬 剤 費	1,251,461,885	104,288,490	1,401,441,459	116,786,788
薬 剤 費 率	12.2%		13.4%	
後 発 品 金 額	114,409,466	9,534,122	115,623,398	9,635,283
後 発 品 割 合 (金 額)	9.1%		8.3%	
後 発 医 薬 品 置 換 え 率	80.70%		92.8% (平成30年3月～5月)	
後 発 医 薬 品 係 数 *	0.00949			
後 発 医 薬 品 使 用 体 制 加 算 *			加算1 ⇒ 機能評価係数 0.0014	
医薬収益 前年との差額	425,823,359	35,485,280	168,485,255	14,040,438
薬剤費 前年との差額	189,101,667	15,758,472	149,979,574	12,498,298

平成30年度診療報酬改定ではDPC制度における後発医薬品係数が廃止され、後発医薬品使用体制加算の対象にDPC対象病棟入院患者が追加されて評価が見直された。

平成30年1月～3月の当院における後発医薬品使用割合は94.1%、全医薬品中の後発医薬品の割合は65.9%で、後発医薬品使用体制加算1の施設基準（後発医薬品あり先発医薬品及び後発医薬品の規格単位数量50%以上かつ後発医薬品使用割合85%以上）を満たすことができた。

*後発品使用割合＝後発医薬品の規格単位数量／後発医薬品あり先発医薬品及び後発医薬品の規格単位数量

後発医薬品使用体制加算1は、DPC機能評価係数1では0.0014、出来高点数45点(初日)として評価される。また、一般名処方加算も点数が見直され、僅かではあるが後発品使用による加算による収入が増える見込みである。

新しく上市される薬剤には高額なものが多く薬剤費の増加を抑えるのは難しいが、今後も定期的に後発医薬品への切替えと採用薬の適正化を検討していきたい。



[法令関連]

産業医 牟禮 洋 委員長 前野 浩一

労働安全衛生委員会

【目的】

職員の健康保持及び職場の環境衛生の改善について必要な事項を定め、職場の勤務能力を向上させる。

【開催日】 毎月1回

【構成員】

牟禮洋(産業医)、岩下邦子(看護部・衛生管理者)、福元こずえ(看護部・衛生管理者)、飯伏順一(中放)、村中利也(中検)、有村郷司(病理・衛生管理者)、牧之段李奈(中検)、小野純子(在宅・衛生管理者)、児島邦幸(リハ)、澁村佳奈(薬局)、十島達也(人事)、小林美子(人事)、上唐湊芳一(医事)、前野浩一(総務・委員長) 14名

【活動内容】

1. 労働環境衛生、施設等の改善
2. 職員の健康保持の判定及び事務処理に関する事
3. 職員の疾病予防に関する事
4. 常時飲食物を扱う職員の保菌検査及び保健衛生や指導に関する事
5. 放射線技師及び放射線科に勤務する職員の保健衛生や指導に関する事
6. 夜勤を行う職員の保険衛生や指導に関する事
7. その他衛生管理に必要な事

【総括】

今年も例年通り、5月と11月に職員健康診断、職員インフルエンザ予防接種、ストレスチェック、医師の時間外状況や化学物質リスクアセスメントについても、毎回報告をあげ検討してきた。

院内巡視については4名の衛生管理者を中心に毎月行ってきた。委員会から、担当の各現場へ改善を依頼することで、患者様はもちろん職員も満足度がアップしていると思う。

定期健康診断を外部へ委託したことで、職員の負担軽減はもちろん、結果報告が早くなり、要検査や再検査など早期治療に役立っていると思われる。

ストレスチェックが義務化され3回受診しているが、各部署の改善への取り組みまで行っていないので、来年度は着手できるようにしていきたい。

今後も職員が安全安心して業務出来るよう、当委員会が中心となり取り組んでいきたい。



[法令関連]

委員長 白濱 浩 報告 東 貴史

個人情報保護推進委員会

【本委員会の開催】 毎月第3月曜日(17:00～17:30)

【職員による院内巡視】 毎年2月、7月

個人情報保護推進委員会では、当院が取り扱う個人情報の適切な保護のため、年2回本委員による患者様視線を意識した院内巡視を実施しております。各診療科では、入院手術予定一覧、外来検査一覧等が患者様の見える場所で管理されていないかなどを重点にチェックを行い、また病棟では、電子カルテが廊下などに置かれた状態で、スタッフ不在にならないように教育を行っております。スタッフへも周知が進み、改善傾向ではありますが、新人スタッフも多く、継続して教育指導等を行ってまいります。

毎月の委員会では、各部署で問題となった事案の検証、今後の方針について協議を行っております。以前、FAX誤送信、封筒へ他情報が混ざってしまう事例がありましたが、毎月問題点を協議し、各部署個人情報保護委員により周知徹底がされており改善傾向となっております。

今後も引き続き指導、教育、研修等を行ってゆく予定です。



防火対策委員会

【目的】

本委員会は、火災の予防及び火災発生時の対応について、職員の防火意識の高揚と防火訓練の立案・計画・実施等により、患者様・職員の人命を守ることを最大の目的とする。

【構成員】 委員長 昇院長、副委員長 野口事務長、防火管理者 田中施設課長
委員 近藤看護部長、各病棟師長(火元責任者)15名、各部署火元責任者9名

【平成30年度の主な活動】

- 4/19 鹿児島市自衛防火協会定期総会（事務長出席）
- 4/20 本委員会開催（27名出席）
- 5/10 乙種防火管理者講習（火元責任者4名受講）
- 5/18 消防署立入検査立ち合い（本館、別館、医局）
- 5/28～6/2 消防設備機器点検（4日間）
- 5/29 別館昼間想定防火総合訓練実施（109名参加）
水消火器取扱い（5名実施）
- 9/6 昭和会クリニック昼間想定防火総合訓練実施（22名参加）
水消火器取扱い（4名実施）、消防署立入検査
- 10/26 本委員会開催（27名出席）
- 11/7 第57回自衛消防隊消火競技会出場（男性3名、女性3名）
- 11/12～11/17 消防設備総合点検（4日間）
- 11/30 本館夜間想定防火総合訓練実施（87名参加）
水消火器取扱い（8名実施）
- 3/14 昭和会クリニック昼間想定防火総合訓練実施（40名参加）
水消火器取扱い（5名実施）

【総括】

今年度は、鹿児島市消防局中央消防署上町分遣隊立ち合いのもと、総合訓練を実施しました。

訓練では、火災発生連絡、消防への訓練通報、初期消火訓練、区画の形成、出火区画外への避難誘導訓練本部への報告訓練を行いました。

消防署ご指導のもと、水消火器を使用した消火訓練を行い、初期消火の重要性と取り扱い方法の周知を図った。また、火元責任者には更なる防火意識の向上に努めていただけるよう防火管理者講習を受講してもらいました。

日常的においては、消火器・消火設備・非常ベルの位置・避難経路の確保及び周知、廊下の物品管理消火設備・防火戸の前に物を置かない等、職員の防火意識向上を図ることです。今後も、火災予防と火災時に落ち着いて判断・行動・実践出来るよう基本的な訓練は怠らず、本委員会を通じて職員一人一人の防火意識の向上に努めたい。



医療ガス設備安全管理委員会

【点検活動実績】

- *エチレンオキシド・ホルマリン作業環境測定 5月・11月/年2回
 - *医療ガス配管設備年次点検 12月/4日間
 - *7トンCEタンク(液体酸素)年次点検 /2月
 - *新入職員医療ガス研修 /4月
 - *高気圧酸素治療装置点検 12月/2日間
 - *医療ガス設備安全管理委員会 /3月
- 委員会目的、目標：医療ガスの安全及び管理について審議し決定し以て医療事故防止を図る
- *医療ガスの使用量は病院の売り上げに比例します。

【委員会議事録】

1. 委員長(総括責任者)の変更報告
牟禮洋副院長より小倉芳人外科部長に変更
2. 高気圧酸素治療装置 KH0-2000 の点検報告書の連絡事項にある、アクリル内筒の交換について
齋藤 臨床工学技士長より
川崎エンジニアリングによる、アクリル内筒の交換はせず、エアウォーターのセクリスター2800に機器更新の予定です。
3. サプライセンター ステラッド100s 設置について
2月5日当直帯 6階手術室 機材室のステラッドにてVA2、VA7のアラームの発生。その後、再スタートを実行しエラーなく運転完了したが、BI判定にて『+』、後日2月14日当直帯でも、2回連続BI判定で『+』となり、メーカーに整備依頼となる。
6階ステラッド100s の点検期間の代替器として5階サプライセンターに2月21日 設置 現在、ステラッド2台を併用運転しBI判定も正常な状態である。3月16日よりメーカーのスポット点検予定
野口事務局長より
現在、休止中のEPG滅菌器をバックアップとして点検整備の準備をしておりましたが、滅菌工程に24時間必要なこと、滅菌ガスによるリスクもありますのでメーカーによる点検見積り後、ステラッドの修理もしくは交換を速やかに対処したいと思います。
4. 新人職員研修プログラムで医療ガス取扱い講習会を4月3日13：30より40分間の予定で行います。

日時： 3月22日 7F カンファレンス室

時間： 16：00～17：00

出席者

役付委員又は役割	氏名	病院内職務名	備考欄
委員長・・・総括責任者	小倉 芳人	外科部長	
副委員長	近藤 ひとみ	看護部長	
副委員長	池田 耕自	麻酔科部長	
委員(監督責任者)	田中英樹	施設課長	
委員	藤山 みどり	看護副部長	
委員	齋藤 謙一	臨床工学技士長	
委員	尾堂 知子	手術室師長	
委員	比良 知余子	ICU 師長	
委員(書記)	坂口 聖治	医事部主任	H. 31. 4. 18 書記依頼
委員	脇元 弘喜	薬剤師	
委員 (実施責任者)	米盛 正志	施設課長補佐	
	野口 桂一	事務局長	

委員出席者：12名

欠席：なし



栄養管理委員会

【目的】 患者栄養管理の内容充実、栄養管理業務の改善向上

【会議内容】 栄養管理及び給食管理業務に関する事項
院内約束食事(箋)・入院患者の嗜好調査に関する事項
入院及び外来栄養指導に関する事項
NST・医療安全管理に関連する事項
電子カルテ使用に関する事項

【構成員】 院長・事務長・看護部長・病棟師長 5名
栄養管理部 課長(管理栄養士)1名・NST専従(管理栄養士)1名
調理長(調理師)1名

【開催日】 年4回(4月・7月・11月・2月) 第三月曜日 14:00～

【平成30年度の活動内容及び取り組み】

＝平成30年＝

- 4月 診療報酬改定における連携強化と対応について
嚥下調整食の分類と院内食事確認(栄養管理計画書の見直し)
食事アンケート結果報告
(2月28日調査分:配布数108名、回答数73名:回収率68%、満足度82%)
配茶、食事用カトラリーに関する要望と検討開始
- 7月 安全管理統計報告と対策
病院新築移転に向けた勉強会、衛生勉強会の実施
食事アンケート調査の検討(8月・2月実施計画)
給食材料費の見直し
- 11月 院内電子カルテ運用における対策(時間外対応)
厨房内安全対策について
感染対策強化と院内ルール確認
食事アンケート報告(8月23日調査:配布数95名、回答数73名:回収率77%、満足度75%)

＝平成31年＝

- 2月 異物混入対策、空調に関する要望と次年度の予算確認(食器、厨房補修)
食事アンケート計画と調査内容の検討(平成31年3月13日実施予定)
配茶・箸の配膳テスト(3南病棟)検討と実施

【総括】

今年度より委員会の運営方法において、開催月の見直しを行い、検討事項を院内メール活用にて早期報告とワーキンググループの開催(本年度は嚥下調整食)、スタッフ勉強会の開催を増やすなど、部内の教育充実と院内連携による運営を行い、給食及び栄養管理向上を図りました。



放射線安全管理委員会

【議事録】

開催日：平成30年7月5日(水) 17:00～17:40

場所：本院7階 カンファレンスルーム

出席者(敬称略)

院長	：昇(病院)	医師	：松永、中禮、鉾立
放射線部	：新村、飯伏、永山、松下、浮田	看護部	：中馬、加治屋
事務局	：野口、前野、田中(施設管理)		
その他	：高橋(薬剤部)、原口(医療相談)、千田(医療安全)		計 17名
進行	：放射線安全委員会委員長・放射線取扱主任者 安全管理責任者・取扱責任者	中禮 久彦 新村 栄次	

1. 29年度報告

(1) 放射線障害防止法に基づく職務審議案件報告

- ① 業務従事者の登録とその教育・訓練・健康診断及び被曝管理に関すること
 - ・被ばく線量測定用バッジ着用者数
 - ・業務従事者の新規登録は2名でした。
 - ・5ミリシーベルト以上の被ばく者なし
 - ・健診(前期)5月17日から19日まで、(後期)11月16日から18日まで実施
放射線による被ばく障害者の発生なし
 - ・教育講演を行った。11月30日実施(講義室) 参加者50名
 - ・整形外科ミエロ、神経根ブロック検査用鉛手袋を新たに10枚購入した。
- ② 放射性同位元素等・放射線発生装置の管理及び運用に関すること
 - ・年末年始は4日間あけないで1月3日に放射線治療を実施した。
- ③ 帳簿・書類の記帳及び保管に関すること
 - ・7月、保健所による医療監査を受けるために書類の準備を進めています。
- ④ 法令に基づく申請、届出、報告の審査
 - ・法人格変更による放射線障害予防規程等の制定
 - ・法人格変更による、各種届出の変更
担当飯伏副技師長より報告

(2) 安全管理報告について

- ① 29年度安全管理報告書
報告書13件 インシデント13件でした。
- ② 各部門責任者より安全管理について

(3) その他の対応(機器)

- ① 9月にワークステーションのバージョンUP、それと同時にポータブル装置アクロスを導入しました。

2. 30年度計画案件等について

- ① 被ばく実効線量減少への取り組み
 - ・外部講師(メーカー等への依頼も検討)を招いての教育講演を実施する。
- ② 保健所による医療監査にむけて準備を行う。
- ③ 退職者等に伴う放射線障害予防規程の各種委員・担当者の変更を行う。
- ④ がん拠点病院等で問われる認定資格取得(複数取得)への取り組みや支援を行う。

3. その他

新病院移転に向けて、新規機器を予算内で導入できるように、検討していく。
医療安全の目的で放射線情報管理システム(RIS)、放射線治療情報システムの導入

* 次回の開催について 来年の6ないし7月頃を予定(臨時招集はその都度)



化学療法緩和ケアネットワーク委員会

【目的】

本委員会は、院内で行われているがん化学療法の問題点などを議論し解決策を見出すことを目的としている。さらに院内で実施されている化学療法のレジメン(治療内容)の妥当性を評価し、承認する。また、外来化学療法室の現状を報告し、問題点を洗い出し、解決策を見出す。そして、緩和ケアに関する問題点を議論し、院内で統一化を計る。

【構成員】※異動者を含む

委員長 米田 敏 (呼吸器外科)

委員 濱ノ上 雅博、小倉 芳人、緒方 俊二 (外科) 今給黎 尚幸 (呼吸器外科) 緑川 健介 (呼吸器外科) 小濱 浩介、井上 大栄 (血液内科)、立和田 得志 (泌尿器科)、萩原 陽子 (呼吸器内科)、中間 恵美子 (産婦人科)
財間 富士子、前嶋 一友 (薬剤部)
鎌田 寿子、福留 舞子 (リハ)、田中 美帆 (栄養管理部)、福徳 里佳、下野 智子 (医事課)

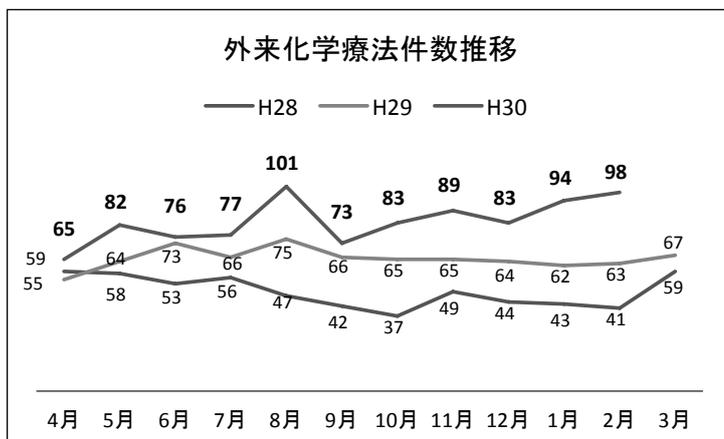
【看護部】※退職者、異動者を含む

横山 睦美 (2東) 酒匂 英子 (2西) 有菌 さつき (3東) 河原 尚美 (3西) 松野下 恵子 (2北)
橋口 恒夫、赤坂 美保 (外来)
植屋 明代、早崎 玲子、岩山 友紀 (緩和医療課)

【平成 30 年度活動内容】

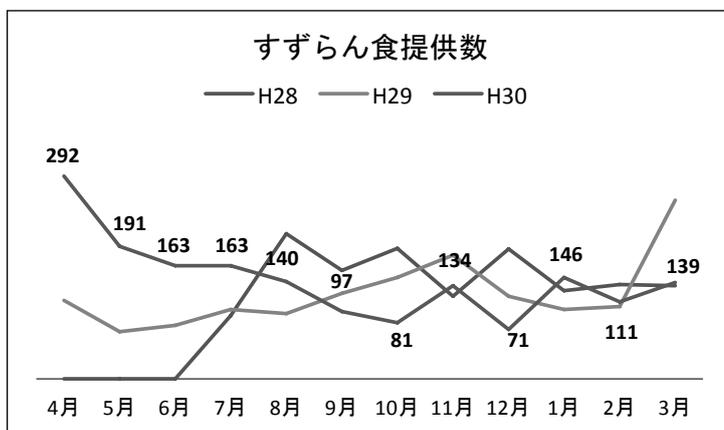
毎月 1 回 第 1 木曜日 (17時15分～)

- ・ 外来化学療法実績報告 (右図)
 - ・ 院内の化学療法数・主な有害事象報告、化学療法に関わる医療安全事案、解決すべき問題点の提案が行われた
 - ※主にアレルギーや発熱性好中球減少症、血管外漏出、免疫チェックポイント阻害薬の有害事象などの情報を共有することができた。
 - ・ エピシルの紹介
 - ・ 他院でのICI使用について
 - ・ 鼻出血時の対処方法についてリーフレットを作成
 - ・ 化学療法開始前チェック表作成
 - ・ 免疫チェックポイント阻害薬逆引きマニュアルの導入
 - ・ デスカンファレンスの実施



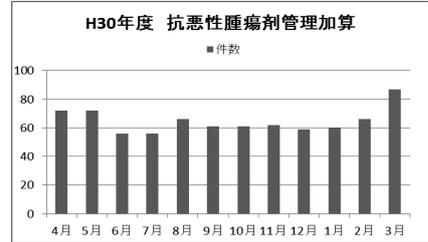
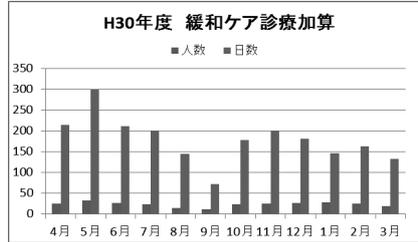
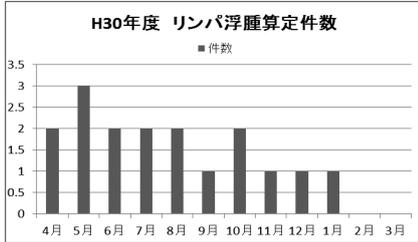
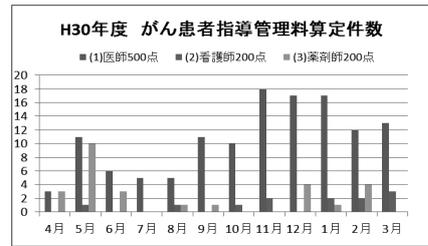
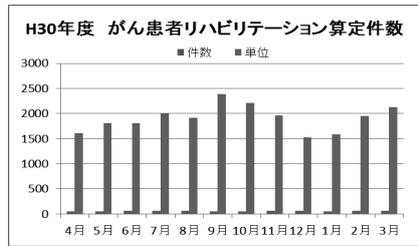
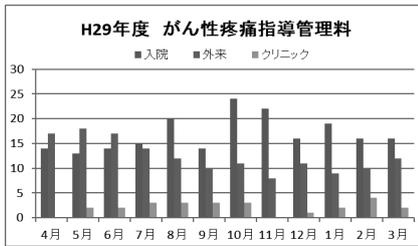
・ 栄養管理部 (右図)

※平成28年4月から7月3日まで厨房職員不足のため、すずらん食の提供ができなかった。



・ 医事課

算定報告並びに DPC 改訂、がん患者指導管理料の説明



・緩和ケア

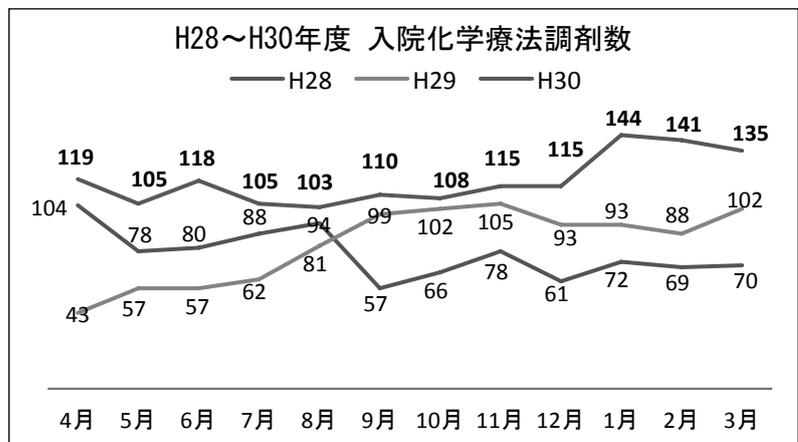
ほっとサロン案内、緩和ケア研修会案内(詳しい内容に関しては、緩和医療課の項参照)

・薬剤部

入院化学療法調剤数報告(右図)

●薬剤に関する情報提供

- ・ペプシドが、後発品のエトポシドへ変更される
- ・オブジーボ承認事項変更について (240mg/body、投与時間30分へ変更)
- ・制吐剤適正使用ガイドラインに伴い、カルボプラチンが含まれるレジメンにはイメンドを追加する



・医師

承認月	申請診療科	レジメン名	適応がん
4月	血液内科	DB d 療法	再発または難治性の多発性骨髄腫
	整形外科	オレンシア	関節リウマチ
5月	呼吸器内科	テセントリク	切除不能進行・再発の非小細胞肺癌
9月	外科	5FU-MMC+RT 療法	肛門癌
	呼吸器内科	イミフィンジ	肺癌
10月	呼吸器内科	オブジーボ	悪性中皮腫
	泌尿器科	オブジーボ+ヤーボイ	腎細胞癌
1月	呼吸器内科	テセントリク+CBDCA+PTX+BV	切除不能進行・再発の非小細胞肺癌
		キイトルーダ+CBDCA+PEM	切除不能進行・再発の非小細胞肺癌
		キイトルーダ+CDDP+PEM	切除不能進行・再発の非小細胞肺癌
		キイトルーダ+CBDCA+PTX	切除不能進行・再発の非小細胞肺癌
		キイトルーダ+CBDCA+nabPTX	切除不能進行・再発の非小細胞肺癌
	外科	CDDP+5FU	肛門癌
血液内科	髄注：メソトレキセート	悪性リンパ腫・急性白血病	
	髄注：メソトレキセート+キロサイド+プレドニン	悪性リンパ腫・急性白血病	
	DeVIC	悪性リンパ腫	
	ICE	悪性リンパ腫	
	CHASE	悪性リンパ腫	
2月	血液内科	ガザイバ+CHOP	濾胞性リンパ腫

以上、19件が申請され、すべて承認された。

●新病院の外来化学療法室について

・その他

●5月29日、10月30日に免疫関連会議を各診療科の医師、薬剤師、医事課、看護師を中心に開催した。



DPCコーディング委員会

【活動報告】

当委員会は、年4回(4、7、10、1月)開催しております。

委員の構成は、病院長をはじめとして副院長、事務局長、診療情報管理士、医事課スタッフ16名 総勢約20名で構成されます。

【目的】

標準的な診断及び治療方法について院内で周知を徹底し、適切なコーディングを行う体制を確保することを目的とする

【構成員】

委員長 牟禮 洋(副院長)

委員 昇 卓夫(病院長)	野口 桂一(事務局長)	畑中 幸子(診療情報管理士)
上唐湊 芳一(医事課長)	東 貴史(医事課長補佐)	坂口 聖治(ICU医事担当)
永野 一彰(2東医事担当)	柿木 浩希(3東医事担当)	岩元 正子(手術室医事担当)
中村 亜希子(2西・NICU・GCU医事担当)		東 知子(3中央医事担当)
針山 朋美(2南医事担当)	小湊 麻美(病床管理部兼務)	米満 久美(2北医事担当)
福徳 里佳(3西医事担当)	河野 真子(3北医事担当)	岡元 麻衣(4北医事担当)
中藪 ひとみ(4西医事担当)	松元 葵(3南医事担当)	竹下 実花(3北医事担当)

議事内容としまして、様々な報告、提案をしています。

【議題】

30年4月

- ・症例検討(消化器内科)イレウスについて
H30.4月改正でHBOの点数が引き上げられたので積極的な活用をお願いしたい
- ・症例検討(外科)ソケイヘルニアについて
保険点数に注目 腹腔鏡と開腹の入院料が同点数
- ・DPC/出来高比較(H30.1-3月入院患者)
整形外科が増収 感染が多く総合内科はマイナス、新生児内科や耳鼻科もマイナス
- ・医療機関別係数の報告
暫定調整係数の廃止、機能評価係数2に置き換え
機能評価係数I、後発医薬品使用体制加算、
データ提出加算が追加
- ・DPCにおける高額な新規医薬品への対応について
当院で採用される可能性のある医薬品(ノル
デイトロピン注、フレックスプロ注、オレンシ
ア注、リムパーザ錠)

30年7月

- ・DPC/出来高比較(H30.4-6月入院患者)
DPC請求-出来高請求=DPC請求で+6,500万円
総合内科(血液内科の化学療法で大きくプラス)
眼科(前年度短期滞在3⇒今年度DPC マイナス
診療科)
- ・症例検討(整形外科)
前年より増収 要因として"手術手技の増点"
"HBO算定" "回リハ病棟利用"
- ・提出データ評価加算について
未コード化病名割合1割未満であること
現状1%程度で推移

- ・新規高額薬剤について

タフィンラーカプセル・メキニスト錠の採用
可能性あり
採用した場合は出来高請求

30年10月

- ・症例検討(形成外科・眼科)
形成 壊死性筋膜炎と敗血症ショックで迷う
(319,748点差)
眼科 網膜動脈閉塞症 鼓膜切開術を行うと分
岐が変わりマイナス症例となる
- ・新規高額薬剤について
イミフィンジ注、ガザイバ注の採用可能性あり
- ・DPC/出来高比較(H30.7-9月入院患者)
DPC請求-出来高請求=DPC請求で+7,100万円
- ・未コード化傷病名の実績報告
(新設)提出データ評価加算20点
直近6ヶ月の未コード化病名の使用率0.8%
~1.3%で推移

31年1月

- ・症例検討(麻酔科)
入院後24時間以内に死亡した症例(外傷性腹
腔内出血)
24時間以上生存された場合DPC対象となり、
出来高比較で35万円の差額が発生
- ・新規高額薬剤について
ポテリジン注、テモダール注、ページニオ錠が
採用予定
ポテリジン注(血液内科)再発又は難治性皮膚
T細胞性リンパ腫

テモダール注（脳神経外科）再発又は難治性の
ユーニング肉腫
ページニオ錠（外科）ホルモン受容体陽性かつ
HER2 陰性の手術不能
または再発乳がん

- ・DPC/ 出来高比較(H30. 10-12 月入院患者)
DPC 請求 - 出来高請求 = DPC 請求で +8, 800 万円
総合内科、外科、脳神経内科でプラス
耳鼻科、眼科、でマイナス
- ・DPC コーディング委員会委員長 交代について
後任の委員長は後日決定予定

【総括】

適切なコーディングを行うために、関係部署でよく議論し診療報酬請求業務等を行っています。

出来高算定の場合とDPC算定の場合で、点数の乖離が大きい症例等、正しくコーディングされているか医療資源の投入量の点検・確認を行い、皆さんより意見・助言を頂いています。

また、交代で診療科別の症例検討も行っています。

入院医事担当が医療資源傷病名に悩んだ症例をもちより、コーディングが正しかったのか、他に変更がでなかったのか、先生方をはじめ他スタッフにも意見を頂戴しています。

また、中医協の動向などもふまえ情報の共有を図っています。

そして、DPCのデータを提出していることから行政や患者様からの評価も受けているとの認識をもち、正確なデータが提出できるよう日々精進していきたいと考えています。

今後も当委員会の活動を前進させ、適切なコーディングに努めたいと思います。最後にDPCの啓蒙活動にも力を入れ、院内にも浸透していけたらと思っています。



[法令関連]

委員長 生野 博久 報告 前嶋 一友

治験審査委員会

昨年度に引き続き、新日本科学臨床薬理研究所（10月よりアルメックへ社名を変更）がSMO（治験施設支援機関）として参加して頂きました。委員会に関しては毎月開催しています。

本年度の当施設における審査対象試験

- 昭和会クリニック整形外科実施試験
 - 変形性関節症患者を対象とした MT-5547 の第Ⅱ/Ⅲ相試験

今給黎総合病院実施試験は昨年度同様に 0 試験であった。また、昭和会クリニック実施試験は昨年度の 2 試験から 1 試験へ減少した。

院外からの審査依頼試験数は昨年度 6 試験に対し、本年度は 2 試験であった。

審査依頼施設としては、川原泌尿器科、天保山内科、厚地脳神経外科、田村脳神経外科クリニック、なかむら整形外科クリニック、橋口整形外科、武本整形外科、かいクリニックであった。

昨年度まで昭和会クリニック神経内科で実施していたパーキンソンニズムを伴うレビー小体型認知症を対象とした AD-810N の検証的試験に関しては、製造販売承認の取得の報告を受けた。

来年度は当院、昭和会クリニックでの実施治験数の増加及び外部医療機関の治験審査依頼数の増加に努めていきたいと考えます。



病院感染防止対策委員会

【目的】

院内感染の発生を未然に防止することや院内感染が発生した場合における緊急対策など院内感染防止対策に関する問題の原因分析、改善策を審議し諸施策の査定などを行うことを目的とする。病院長直属の顧問機関とし最終的な意思決定機関として機能する。

【開催日】 定例会議：月1回(毎月第4水曜日 14時30分～)、緊急会議：今年度は実施なし

【構成員】

委員長 丸山芳一(神経内科、ICD)

副委員長 岩川純(呼吸器内科医師/ICD)、立和名聖子(感染管理課/CNIC)

委員 昇卓夫(病院長)、

看護部：近藤ひとみ、酒匂英子、古川秀子、横山睦美、河原尚美、水元英子、末吉美津代、有菌さつき、伊野千余子、尾堂知子、上野京、稲森優子、松野下恵子、山下真理恵、上ノ町和子、橋口恒夫、上山真紀、田中かすみ、尾ノ上稲子

中央検査部：村中利也(ICMT)、薬剤部：高橋真理、久津輪久世(BCPIC)

病理室部：肥後真、中央放射線部：篠原さつき、リハビリテーション部：児島邦幸

栄養管理部：上平田美樹、在宅医療部：大重智子、事務局長：野口佳一

議事担当：今堀小百合

Infection Control Team (ICT)

丸山芳一(ICD)、岩川純(ICD)、村中利也(ICMT)、久津輪久世(BCPIC)、立和名聖子(CNIC)、古川秀子(看護部)、日高知恵(総務課)、日高章洋(用度課)

【平成30年度活動内容及び実績】

定例会議では、耐性菌検出状況や抗菌薬使用状況の報告、事案検討、感染症発生に対する院内感染対策の周知と検討などを行った。各月の検討事項を下記に列挙する。

委員会の主な内容、検討事項

4月25日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、結核濃厚接触者追跡調査、感染防止対策地域連加算相互評価ラウンド指摘事項に関する検討
5月23日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、感染防止対策地域連加算相互評価ラウンド指摘事項に関する検討
6月27日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、感染防止対策地域連加算相互評価ラウンド指摘事項に関する検討、院内感染防止対策マニュアル検討(結核)
7月18日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、第1回院内感染研修報告
8月22日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、感染事例、鹿児島大学病院アウトブレイク事例うけて院内洗濯・マット管理の検討
9月26日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告 MRSA 検出年次比較、抗 MRSA 薬(シベクトロ®)使用許可制について、鹿児島大学病院アウトブレイク事例うけて院内洗濯・マット管理の検討
10月24日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、血液培養複数採取の向上にむけて、スルバシリン製剤の集荷調整に伴う使用制限について、滅菌不良事案
11月28日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、結核未否定の化膿性脊椎炎対応について
12月26日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、CD治療フローチャート
1月23日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、院内のインフルエンザ発生状況、感染管理システム導入について
2月27日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、院内のインフルエンザ発生状況、TB接触者健診
3月27日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告

院内感染研修の内容と参加率(全職員対象)

参加率	内容(講師)	講師
第1回 81%	テーマ1 経路別の感染制御	岩川純(今給黎総合病院 呼吸器内科部長)
	テーマ2 感染対策の概要	ナーシングスキル日本版動画講義
第2回* 96%	インフルエンザ流行シーズン前の再点検	岩川純(今給黎総合病院 呼吸器内科部長)

*日本専門医機構認定共通講習会を兼ねる



[医療安全]

医療安全対策委員会

委員長 中目 康彦

管理者 千田 清美

報告 益田 阿佑美

【目的】

本委員会は医療安全対策の確立を促進し、以て適切かつ安全な医療の提供に資することを目的とする。また、医療事故発生時の適切な対応及び医療事故等の経験を活かすため、原因分析と再発防止策を検討の上、現場へのフィードバック、医療の質の確保と向上および職員の安全に関わるスキルの向上を目指すものである。

【平成30年度委員会構成員】

松永俊二(委員長～H30.12)、中目康彦(委員長 H31.1～)、昇卓夫、丸山芳一、土持賢一、千田清美(医療安全管理者)、長野みつ美(専従医療安全管理者)、近藤ひとみ、藤山みどり、岩下邦子、下前百合香、高橋真理(医薬品安全管理者)、新村栄次、今堀貴之、児島邦幸、齊藤健一(医療機器安全管理者)、田邊尚子、鈴木聖子、野口桂一、原口一博、濱田敏彦、岩元正子、田中英樹、益田阿佑美(外部) 東京海上日動メディカルサービス株式会社メディカルリスクマネジメント室 玉利英子(年4回)

【今年度の主な活動】

※看護安全対策委員会との連携
・同委員会で特に課題となったアクシデント報告の再検討と対策を図る

※医療安全管理責任者より、毎月発生したインシデント・アクシデント事案を、内容分類別・事象レベル別の報告あり、事案を共有し検討を加える

※各部署持ち回りでのリスクマネジメントニュースの作成(毎月発行)

※医療安全推進週間 11月25日～11月30日
(安全標語・ポスター作成、レポート入力促進)

※医療安全推進月間 12月1日～1月31日

※医療安全対策研修会(2回/年)
＜1回目＞H30年11月16日・17日 実施
追加研修10回実施
・全職員対象：総参加者数812名
「コミュニケーションの視点から考える説明と同意」
講師：東京海上日動メディカルサービス株式会社
メディカルリスクマネジメント室
玉利 英子 先生

※医療安全対策研修会(2回/年)
＜2回目＞平成30年12月14日
追加研修6回実施
全職員対象：総参加数 835名
「医療の質を担保する診療録について」
講師：いづろ法律事務所 所長 鑑野 孝清

※その他、主な検討実施事項
・安全管理報告書の集計結果と改善策の提示
・安全管理のための方策の提示
・リスクマネジメント関連情報の検討
・安全管理に関連する委員会からの報告、情報提供
・医療機能評価機構の安全情報の検討
・医薬品、医療機器材料、褥瘡管理者による安全情報の検討
・安全管理部門カンファレンスの実施(毎週月曜)



看護感染対策委員会

- 【目標】 1. 病棟別におけるラウンド項目の低遵守率項目の改善ができる。
2. 標準予防策に対する知識を深めスタッフ育成ができる。

【開催日】 毎月1回、第一火曜日 10時～12時

【構成員】

委員長 古川秀子

副委員長 木場信一、田川愛子、感染管理課 立和名聖子

委員 師長 横山睦美、副看護部長 岩下邦子

各病棟担当 2北 吉永雄作 2南 上温湯和美 3北 徳永京子 3南 藤田理恵 4北 四元麻由子
2西 本田里美 2東 羽根田歩 NICU 柿本真弓 3西 吉岡里沙子 3中 出口忍
3東 中野菜里 4西 佐野智美 ICU 勝山茜 手術室 福山綾斗 外来 永野のぶ子
クリニック 國生かおる

【活動内容】

1. 感染チェックラウンド
毎月チェックシートに基づいて行う。PPE装着の現状把握、感染対策の環境確認。
2. グループ活動
1G：PPE、手指衛生：2西、2東、3西、3東、クリニック、手術室
PPE着脱手順作成。ブラックライトによる手洗いチェック。
2G：感染対策委員の指導：外来、4西、ICU、4北
血液培養時の手順の見直し。インフルエンザの勉強会。
3G：環境整備チェックリスト作成：NICU、3中、2北、2南、3北、3南
病棟ラウンド時のチェック表の見直し。外出外泊チェック表作成。
面会者への指導チェック表を作成。
3. 感染管理課による感染対策委員の教育
感染対策委員の役割について、毎月プレゼンの提供。
各部署ごとの症例検討会のアドバイザー。院内感染マニュアルの見直し。
感染ラウンドの評価。
4. その他
毎月、各病棟の消毒薬の使用状況、細菌培養結果の報告と対策

【総括】

1. 病棟のラウンド項目は、医療廃棄物に関すること、電子カルテのカートの使用、注射台の使用法、薬剤保管庫、庄頭台・ベッド周囲・手洗い環境をチェックした。チェックする時のポイント内容も具体的で、後期は80%～100%改善できていた。
2. 感染管理課による感染対策委員の役割についての教育は、委員の感染管理に関するスキルが高まった。そして、委員がグループ活動で学んだことを、各病棟で活用できる資料作成に繋げていた。

今年度は、委員が各病棟の現状を把握し、さらにスタッフへ教育的関わりができるようになってきている。今後も感染対策委員会を中心に継続性のある感染管理ができるような年間計画が必要である。



輸血療法委員会

【構成員】

委員長 丸山芳一(脳神経内科)

副委員長 小倉芳人(外科)、井上大輔(血液内科)

委員 昇 卓夫(病院長)

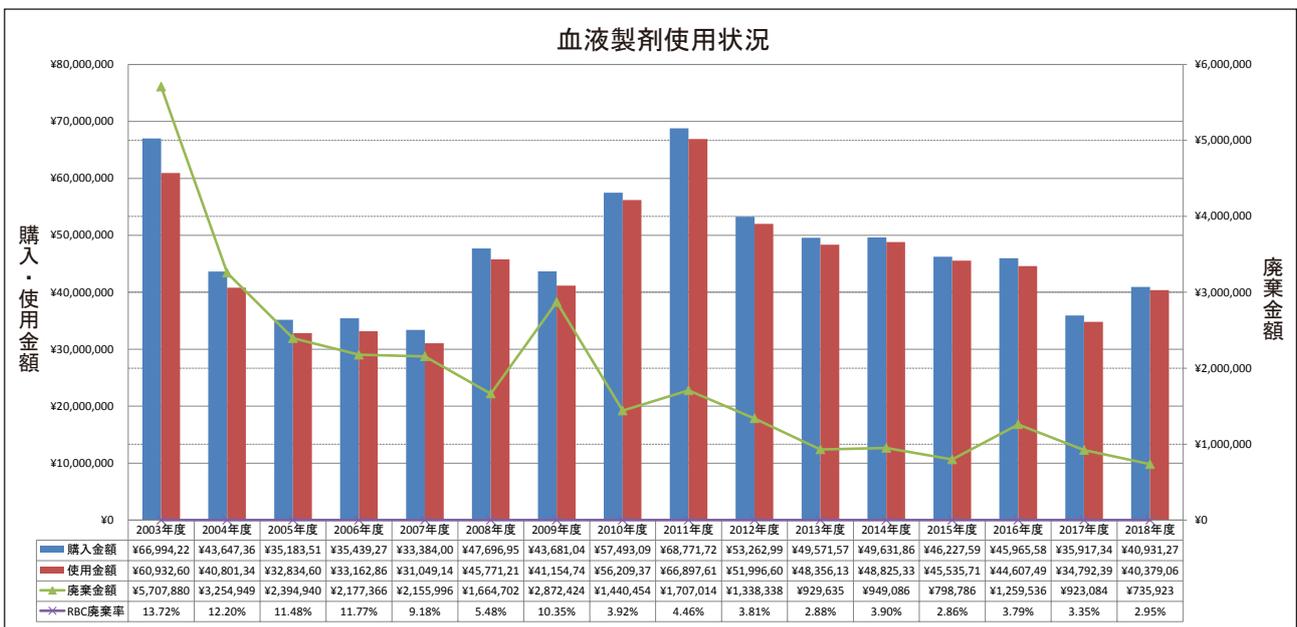
近藤ひとみ、藤山みどり、松野下恵子、横山睦美、尾堂知子、伊野知余子、二宮ルミ子、徳 恵梨香、浜田みのり(看護部)

高橋真理(薬剤部)、村中利也、今堀貴之、宝代聡美(検査部)

当委員会は隔月の第4水曜日に開催した。主な協議事項は血液製剤の適正使用を目標に診療科ごと、医師ごとの血液製剤発注と使用量、製剤ごとの廃棄量とその原因につき詳細な検討を行った。廃棄は期限切れが一番の理由であり、新鮮凍結血漿ではバッグ破損も原因であった。アルブミン/赤血球製剤比は1.54、FFP/赤血球比は0.26と輸血管管理料算定基準を満たしていた。例年、廃棄血減少が大きな命題であるが、本年度は73万円(2015年度79万円)を抜いて過去最低を記録した。不適切あるいは過剰オーダーなどに十分なご理解が得られている結果と思われる。以下に2018年度の血液製剤使用量、廃棄量、購入金額と廃棄金額をまとめた。

2018年度血液製剤使用量(2018年4月~2019年3月)

製剤名	単位	薬価(円)	購入本数	購入金額(円)	使用本数	廃棄本数	廃棄金額(円)	廃棄率(%)
濃厚赤血球	1単位	8,864	6	53,184	6	0	0	2.95
	2単位	17,726	1,212	21,483,912	1,182	36	638,136	
新鮮凍結血漿	120ml	8,955	4	35,820	4	0	0	0.33
	240ml	17,912	288	5,158,656	435	3	107,472	
	480ml	23,617	6	141,702	20	0	0	
血小板製剤	5単位	40,100	0	0	0	0	0	0.57
	10単位	79,875	176	14,058,000	175	1	79,875	
	15単位	119,800	0	0	0	0	0	
	20単位	159,733	0	0	0	0	0	
自己血	1単位		2		2	0	0	9.52
	2単位		19		18	1		
計			1,713	40,931,274	1,684	40	735,923	1.73





看護安全対策委員会

【目的】

本委員会は、医療事故防止対策の確立を促進すると共に、安全な医療看護を提供し万が一事故が発生した時は、速やかに誠心誠意取り組む
それを生かし、安全教育の場にフィードバックし再発防止に努め、看護医療の質の確保と向上を図る

【目標】

病棟全体の医療安全への意識を高め、安全な行動が実践できる

【年間目標】

各病棟単位で自部署のリスクカンファレンスの充実を図る
薬剤エラーの発生要因を明らかにする

【構成員】

岩下看護副部長 医療安全管理課：千田課長 長野主任 各部署師長 主任2名
委員メンバー：各部署委員

【活動内容】

1. 毎月の安全管理報告件数、事象レベル、発生事例についての報告
2. アクシデント発生部署からの事例及び対策の報告
3. 外部リスクマネジメントニュース関連情報提示
日本医療機能評価機構～医療安全情報
東京海上日動メディカルサービス～リスクマネジメント関連情報提示
4. グループ活動
○1転倒・転落対策グループ：転倒転落マニュアル作成／病棟ラウンド／履き物・トイレポスター掲示
○2内服管理グループ：中止薬マニュアル作成・配布
○3注射管理グループ：6Rテスト（4月・12月）注射薬投与前確認監査
○4ドレーン・チューブ管理グループ：チューブ・ドレーン不慮の抜去発見後の対応マニュアル
5. 注入食相互監査・評価／車いす点検表作成／誤認防止の内服確認監査
④ドレーン・チューブ管理グループ

本年度も院内インシデントの共有、内容の分析、予防対策の改善、評価を行いながら安全な医療・看護に取り組んだ。

委員会では、患者への侵襲の大きい事例や繰り返されている事例などは、当該病棟にて事例の内容・対応・改善策を発表しそれに対して医療安全管理課長より意見、アドバイス等をもらい振り返りの場とした。

目標でもある薬剤エラーの発生要因を明らかにするというなかで、退院時・中止薬関連、無投薬・誤認等がリスクの上位を占める。それらの予防対策として、チェックリストの見直し、マニュアル作成、手順の遵守・見直しを業務委員会と協働しながら活動を行った。

注入食の監査や誤認防止内服監査等も行ったが、次年度も様々な監査を計画立案することで、常に安全な看護を意識し行動へつなげていけるように活動していく。



診療録検討委員会

【構成員】

委員長 丸山芳一（神経内科）
 委員 昇卓夫（院長）、米田敏（診療科部長）
 看護部：近藤ひとみ（看護部長）、岩下邦子（副部長）、尾之上稲子（看護記録委員長）
 千田清美（医療安全管理課課長）、上山真紀（クリニック師長）
 リハビリテーション部：豊留研二（副療法士長） 栄養管理課：上平田美樹（課長）
 医療情報管理課：神野博幸（主任） 中央放射線部：新村栄次（技士長）
 中央臨床検査部：上鶴昭知
 診療補助部：桑波田かおり、堀貴子、泊美由紀（3名主任）
 医事課：針山朋美、米満久美
 診療情報管理部：畑中幸子（課長）、黒丸恭弘（主任）、小西佑典、吉永理恵、越間北斗

【活動内容】

・委員会 毎月第2火曜日 15:00～16:00

【今年度の主な活動】

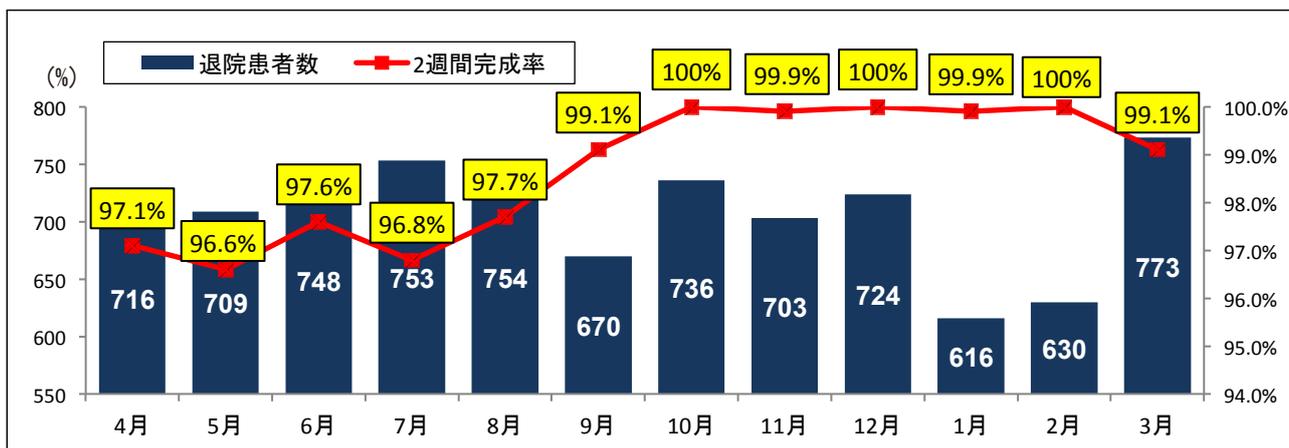
- ・診療録監査

4月	形成外科	10月	9/1～9/18リハビリ開始時指示および説明の記載（全診療科）1回目
5月	4月入職医師10名	11月	検査実施時に検査結果評価の記載があるか（退院前検査のみ）2回目
6月	形成外科	12月	入院時記録監査（クリニック記録として記載されていないか）
7月	整形外科 4月入職医師4名	1月	12/1～12/15
8月	6月整形外科運動器リハビリテーション100単位以上症例	2月	リハビリ開始時指示および説明の記載（全診療科）2回目
	●実施計画内容説明の記録があるか	3月	H30.12月退院患者
	●定期的に1回以上説明されているか		DPC請求病名および副傷病の診療録記載
	●リハビリ終了時に治療評価の記載があるか		H31.1月退院患者 手術および病状説明時に本人・家族の反応が記載されているか
9月	検査実施時に検査結果評価の記載があるか（退院前検査のみ）1回目		

- ・診療情報管理規定の見直し
- ・診療録記載マニュアルの作成
- ・リハビリ処方について整備
- ・同意書改定 財団変更による表記修正、説明医入力時の押印欄自動反映設定、年号改定に伴う日付表記変更 和暦→西暦
- ・代行入力未承認運用について整備
- ・入院診療録の破棄について方針決定
- ・CT・MRI同意書取得や禁忌情報に関するテンプレート運用整備
- ・診療録管理規定の見直し（H31年度へ繰越）

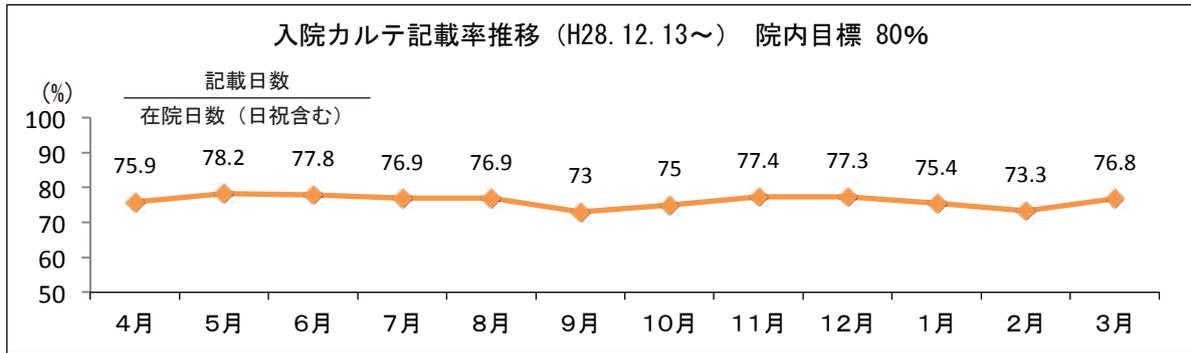
【退院時要約2週間以内の完成率】 診療録管理体制加算1要件 90%以上

H30年度退院患者 8,532名 完成数 8,446名 完成率 99%

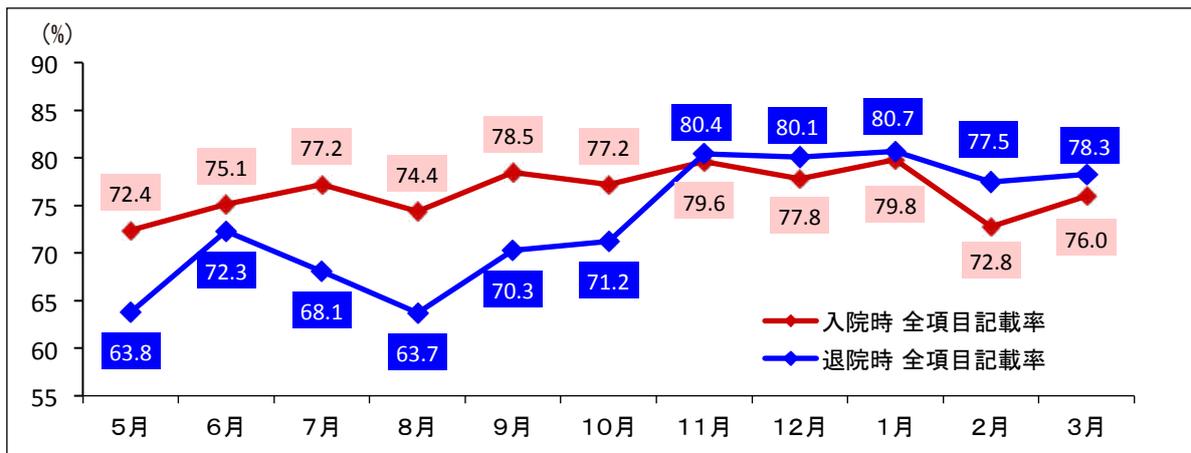


【診療録記載状況監査】

●入院診療録記載率 担当診療科記載日数/在院日数（日祝含む・転科除く）



●入退院時記録 全項目記載率




[医療の質向上]
委員長 今給黎 尚幸 報告 吉満 実

地域医療支援病院委員会

【目的】

地域における医療確保、向上のための必要な支援に係る業務に関し、当該業務が適切に行われるために必要な事項を審議することを目的とする。

【構成員】

鹿児島県医師会副会長	野村秀洋	今給黎総合病院副院長	今給黎尚幸
鹿児島市医師会副会長	池田耕自	今給黎総合病院事務局長	野口桂一
鹿児島県立病院事業管理者	福元俊孝	今給黎総合病院看護部長	近藤ひとみ
鹿児島市消防局次長	安樂 剛		

当院は、平成25年3月22日地域医療支援病院に承認されました。

【議事内容】

- 1、年度業務報告 年度業務報告(県知事への業務報告書提示)
- 2、地域医療連携強化について 平成29年度・平成30年度病院実績指標・紹介施設数・患者数報告、救急実績報告
- 3、病院移転について 新病院の説明
- 4、質疑応答 研修医の受け入れについて、在宅医療・訪問看護について
地域医療支援病院運営全般に対する、ご意見・ご助言を承る。

**【目的】**

今給黎総合病院および昭和会クリニックで行われる医学研究や医療行為に対し、倫理上の対応指針を示すことを目的とする。ヒトを対象とした医学研究については「ヘルシンキ宣言」、日常の医療については「リスボン宣言」を審議上の基準とし、医学的、倫理的および社会的観点から調査検討し、審議する。また、倫理に関する職員への教育や研修等により、患者の意思の尊重と人権保護の意識高揚を図る。

【平成 30 年度 倫理審査委員会委員】

昇 卓夫、大久保 幸一、丸山 芳一、寺原 賢人、牟礼 洋、白濱 浩、高橋 真理、近藤 ひとみ、藤山 みどり、野口 桂一、原口 一博、前野 浩一、上唐湊 芳一、長野 芳幸（外部委員）、林 宏嗣（外部委員）、山内 茂（外部委員）

【平成 30 年度 倫理審査小委員会委員】

昇 卓夫、丸山 芳一、寺原 賢人、牟礼 洋、米田 敏、高橋 真理、近藤 ひとみ、藤山 みどり、野口 桂一、前野 浩一、上唐湊 芳一、山内 茂（外部委員）

【平成 30 年度 医学研究に関する倫理審査概要】

小委員会開催回数(平成 30 年度)：9 回

開催頻度：月 1 回(第 2 金曜)申請がない月は未開催

審査件数：合計 18 件 0 件 未承認、18 件 承認

会議記録：厚生労働省「倫理審査委員会報告システム」に委員名簿及び規程とともに掲載

【平成 30 年度 委員会開催日、課題名、申請者】

H30. 4. 13(金) 申請者：耳鼻科部長 昇 卓夫
『臨床研究等に関する内規について』
『保険収載されていない免疫療法について』

H30. 4. 23 (月) 申請者：総合内科 三宅 健治
『髄液オレキシン測定』

H30. 5. 11(金) 申請者：総務企画課 吉村 加奈子
『発達障がい児に対する脳波・MRI プレパレーションについて』～検査内容の事前説明が不要であった 6 才男児例～と題した事例研究発表について

H30. 6. 1(金) 申請者：看護師 飯塚 君枝
『A 病院 NICU における N-CPAP 離脱基準の作成に向けて』(第 1 報)無呼吸発作の実態調査

H30. 7. 13(金) 申請者：脳神経内科部長 丸山 芳一
『血液凝固異常症 全国調査』

H30. 8. 10(金) 申請者：血液内科部長 小濱 浩介
『骨髄増殖性腫瘍の実態調査と遺伝子変異同定』

H30. 10. 12(金) 申請者：小児科 玉田 泉
『当院におけるフラッシュグルコースモニタリング導入後の I 型糖尿病患者のコントロール状況について』

H30. 11. 9(金) 申請者：総合内科 三宅 健治
『本院における高齢者の血清リン採血における考察』

H30. 11. 9(金) 申請者：消化器内科部長 吉永 英希
『他院提供画像を学会発表にて使用する件』

H30. 11. 9(金) 申請者：形成外科 齋藤 景
『尋常性疣贅に対するブレオマイシンの使用』

H30. 12. 14(金) 申請者：外科部長 小倉 芳人
『腹腔鏡下肝切除について』

H30. 12. 14(金) 申請者：看護部長 近藤 ひとみ
『無医地区離島における看護師クリニカルラダーに基づく学習プログラムの開発』

H30. 12. 14(金)
申請者：栄養管理部課長 上平田 美樹
『Free Style リブレ装着後の 1 型糖尿病患者へのカーボカウント指導』

H30. 12. 14(金) 申請者：循環器内科部長 大場 一郎
『非弁膜症性心房細動を有する後期高齢患者を対象とした前向き観察研究の臨床研究終了報告』

H31. 2. 8(金) 申請者：血液内科部長 小濱 浩介
『鹿児島県での ATL 診察の後向き調査』

H31. 2. 8(金) 申請者：血液内科部長 小濱 浩介
『多発性骨髄腫に対するカイプロリス、アルケラン併用療法について』

H31. 3. 8(金) 申請者：皮膚科部長 三好 逸男
『第 2 回ステイブンス・ジョンソン症候群(SJS)の二次調査協力』

H31. 3. 27(水) 申請者：看護師 早崎 玲子
『看護研究「A 病院看護師のアドバンス・ケア・プランニング(ACP)に対する認識と教育課題」の学会発表についての申請』



看護部臨床倫理委員会

【目的】

今給黎総合病院・昭和会クリニックの職員等が行うヒト対象とする医療行為、看護研究および当院で発生した倫理上の諸問題について、ヘルシンキ宣言および我が国の個人情報保護に関する法律等を踏まえ、ヒトを対象とする医学系研究に関する倫理指針等の趣旨に沿って審議し、倫理的配慮を図ることを目的とする。

【目標】

臨床での倫理問題に気づくことができ、スタッフでの話し合いの場を持ち、看護職の倫理意識を高めることができる。

【構成員】

委員長	近藤 ひとみ	副委員長	伊野 知余子		
副部長	藤山 みどり・岩下 邦子・中村 章子				
2	西 附田 加織	2	北 赤崎 みずえ	2	東 四村 朋美
2	南 牧瀬 輝美	NICU	原田 純子	3	北 船木 泉
3	西 上床 梓・河原 尚美	3	南 上野 奈美・郡山 リカ	3	東 森永 智恵
4	北 高倉 加代子	3	中 新徳 まゆみ	手術室	行野 圭美
4	西 徳 恵梨香	外来	川崎 陽子	ICU	平瀬戸 剛
クリニック	福里 美佐子	緩和ケア	早崎 玲子		

【活動内容】

1. 規定の見直し
2. 学習会：ナースィングスキル動画聴講（スタッフ用、管理者用）
3. 事例検討：毎月（グループワーク）
4. アンケート調査：2回（5月、11月）/年
5. 事例発表：各部署1事例

【反省】

昨年度の反省を踏まえ、今年度も同じ目標を立て取り組んだ。まずは、全看護職員にナースィングスキルの看護倫理に関する動画の聴講を2か月実施し、聴講後の感想・意見を必ず入力するよう促し、他のスタッフの意見も閲覧できるよう工夫したため、倫理意識を高められたのではないかと思う。また、倫理意識調査を実施したことで、自分たちが日常的にどんなことにジレンマを感じているのか認識する機会となったと考える。毎月の事例検討では、1グループ4名の設定にて委員ひとり一人が発言しやすい環境であり、いろいろな意見や考えを話す機会や情報共有の場になった。各部署の事例発表では、倫理カンファレンスを行った結果や課題・対策案までのまとめがほとんどであり看護実践には至ってなかった。そこで来年度は、倫理的視点をもったカンファレンスを行うことが目標ではなく、カンファレンス後の対策案を実践し、患者・家族の思いに添える看護を提供していきたいと思う。



クリニカルパス委員会

【平成 30 年度目標】 1. 患者パス作成促進 2. 電子パス改訂・使用率向上 3. 電子パス普及と知識の向上

【構成員】

委員長：中目 康彦 副委員長：昇 卓夫、上山 真紀、梅北 裕司、畑中 幸子

オブザーバー：尾堂 知子、野島 裕二郎 医療情報管理課：山内 久法

委員：リハビリテーション部：木下 慎也 薬剤部：古賀 亜希子、築地 辰典、岡崎 直樹

臨床検査部：原菌 真由美、水流 遙香 中央放射線部：加治屋 博一

医事課：坂口 聖治、中村 亜希子 栄養管理部：染川 麻美

2北病棟：福永 輝、瀬戸山 奈美 2南病棟：神野 綾 3南病棟：追立 里絵

4北病棟：榮 真奈美 2西病棟：高江 真都香、平田 恵美 NICU：瀧本 千尋 2東病棟：坂元 美鈴

3西病棟：常喜 由起子 3中病棟：池田 美智子、樋口 友梨香 3東病棟：前田 成美、桐原 絵美花

4西病棟：安藤 友香里 ICU：平瀬戸 剛 手術室：本村 有紀 本院外来：丸山 恵美

クリニック外来：有迫 瑠美

【活動報告】

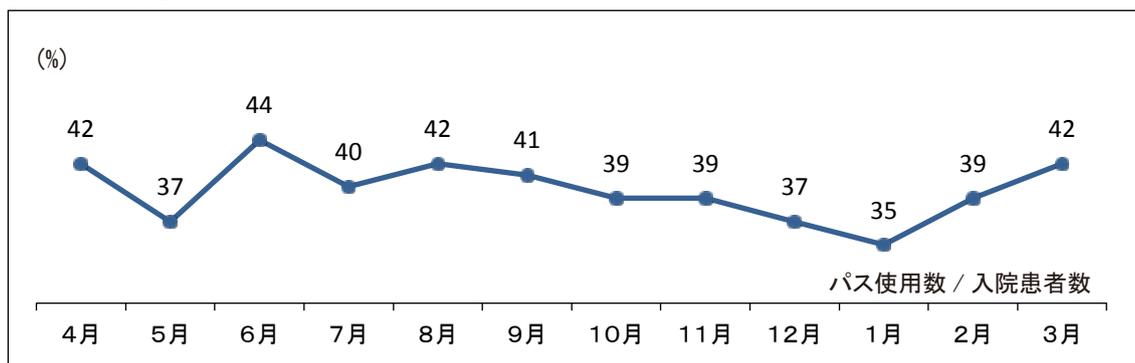
- ・4月 法人名の変更により、患者パス内表記を公益財団法人より公益社団法人へ変更
- ・5月 パス理解度調査、作成方法について梅北委員より説明
- ・9月 パス作成操作指導(梅北委員より)
- ・10月 中止薬再開をパスへ追加。パス内の表記もばらつきがあるため、文言統一
→「中止薬剤(抗血栓薬など)の再開指示確認」 術後1日目看護オーダーへ追加
抗血栓薬について薬剤部古賀委員より説明
- ・11月 パス上の麻薬の取扱いについて薬剤部古賀委員より説明
- ・12月、1月 院内クリニカルパス大会の実施について
- ・2、3月 今年度の反省

3/20 院内クリニカルパス大会開催(消化器内科：胃 ESD パス)

演者：消化器内科部長 吉永英希

：クリニカルパス委員 梅北裕司(看護部)古賀亜希子(薬剤部)永野一彰(医事課)

【パス使用率】



【新規・見直しパス承認】

- ・脳神経外科 穿頭血腫除去術
- ・総合内科 入院ポート挿入
- ・耳鼻咽喉科 唾石症、頸部リンパ節摘出術(生検)局麻2日、耳瘻孔摘出術(局麻：1泊2日)
- ・形成外科 硬化療法
- ・呼吸器内科 可逆性試験



医療情報システム委員会

医療情報システム委員会（通称システム委員会）は通常は月一回、木曜日に定例の会を行っています。特に新しいシステムの運用開始時には臨時の会議や実地的な運用を決めるためのWG（ワーキンググループ）を適宜行っています。単に電子カルテの運用だけではなく、病院全体のシステム化に向けて全領域からの参加があるのが大きな特徴です。

当院法人名変更に伴い、文書管理等の名称変更を行いました。大きな不具合も無く対応できました。また、同時期に診療報酬・介護報酬の改定作業を実施しましたが、これらに関しても大きなトラブルもなく対応できました。

昨年度より継続しているシステム障害マニュアルの改訂に向けてWGを実施しました。協議内容が多岐にわたることから、次年度への継続となりました。

退職者の利用者マスタへの「退職」設定は、イレギュラーが多いことから運用の見直しを行うためWGを実施しました。まずは、非常勤医師と研修医に関して徹底できる運用を検討・構築し、次年度への継続となりました。

およそ13年利用したクリニック自動精算機3台のメーカー保守対応が終了することとなり、クリニック開院時より利用してきた当該機を2台の自動精算機へと入替えました。

仮想サーバの耐用年数が満了となり、8月10日（金）～11日（土）間で仮想サーバの入替を実施しました。この際、仮想サーバをDC（データセンター）へハウジング設置し、当院とDC間の通信を光ケーブル且つ、キャリア（2社）冗長化の形で実現しました。

代行承認では、退職・休職の先生方の未承認分に関し、直属の医師にて承認ができるように、診療記録検討委員会と検討を続けたうえで、システム設定を行いました。

日本神経学会の意向により従来「神経内科」と標榜していた診療科名を8月1日付で「脳神経内科」へと変更致しました。

来年度導入予定のシステムとして感染管理システムが上げられています。感染対策委員による協議が活発に行われ、ICT-Webの導入が決定しました。

来年度は、元号改元及び救急科新設に向けた各システムの改修が発生することから、各部門のシステム委員から確認を行いました。また、電子カルテシステムに関しては、12月～3月まで足掛け4ヵ月間で改元対応プログラムの入換を行いました。

まだまだ、新病院に向けた本格的なシステム協議は進んでおりませんが、次年度はシステム導入に関し、コンサルティング会社様と医療情報システム委員の皆さんのお力をお借りしながら、共に新病院移転が達成できるよう、医療情報システム委員会として役割を果たしていきたいと考えています。



NST(栄養サポートチーム)委員会

【目的・目標】

栄養障害の状態にある患者や栄養管理をしなければ栄養障害の状態になることが見込まれる患者に対し患者の生活の質の向上、原疾患の治癒促進及び感染症等の合併症予防等を目的とする。

構成メンバーは栄養管理に係る専門的知識を有した多職種で構成される。NSTは、栄養状態を改善させ患者の状態に応じた、栄養ルート(静脈栄養、経腸栄養または経口摂取)への円滑な移行を促進することが必要である。

【活動】

2005年に日本静脈経腸学会よりNST稼働施設認定を受け、主治医よりNST介入依頼のあった患者様のカンファレンス・回診を行っています。構成メンバーは、総合内科医師・歯科医師、管理栄養部、褥瘡管理課・薬剤部・中央臨床検査部・リハビリテーション部・看護部・事務部です。毎週火曜日14時より、病棟にてカンファレンス・回診を実施し、あらゆる職種の視点から知識を出し合い患者様の栄養改善に取り組んでいます。平成23年6月から、栄養管理についてオンコール体制を開始し、食事摂取不良症例の相談や経腸栄養の選択について主治医や看護師・コメディカルからの相談をお受けしています。

【構成員】

(コア委員)17名 院長、医師、歯科医師、管理栄養士、QCセンター看護師、薬剤師、検査技師、言語聴覚士
(委員)23名 看護師長、看護師主任、看護師(各部署)、事務員

【主な活動内容】

- ・カンファレンス・回診 当該病棟：毎週火曜日14時～15時30分(1～1.5時間程度)
- ・NST会議 奇数月第1水曜日 13：15～13：45
- ・NST口腔ケアチーム合同研修会 平成30年11月30日 17：30～18：30
参加者82名
「舌から見える身体の話&未病としての口腔機能低下症」
講師：医療法人ハヤの会 田中矯正歯科 歯科慢性疾患診療室 部長
昭和大学医学部生理学講座生体制御学部門 客員教授 山口 孝二郎 先生

【学会施設認定更新】

日本静脈経腸栄養学会 稼働施設認定更新の申請

【学会活動】

平成31年2月15日 第34回日本静脈経腸栄養学会学術集会 ポスター発表
「本院における高齢者の血清リン採血における考察」 三宅健治医師

【平成30年度のNST回診について】

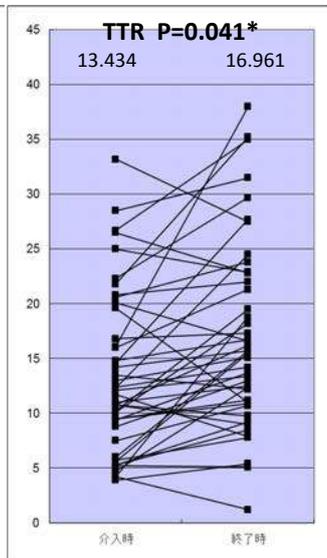
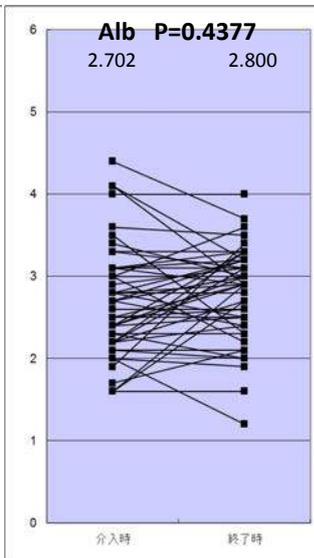
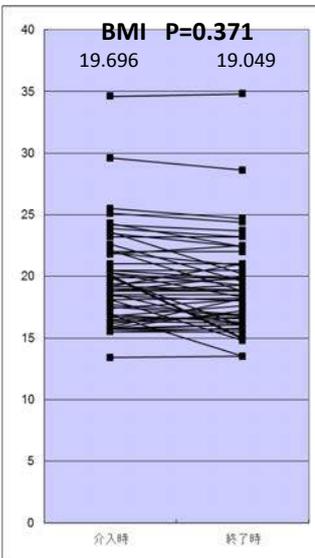
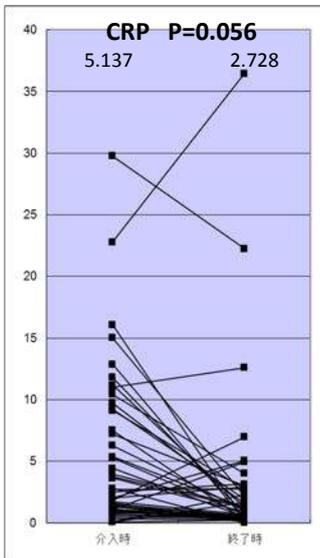
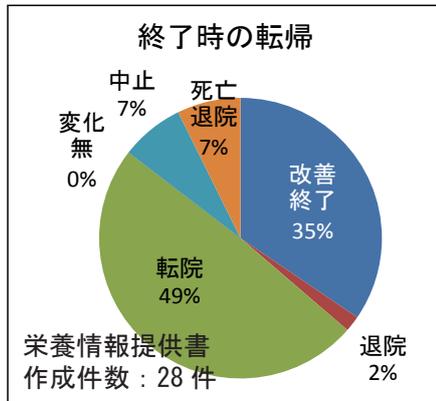
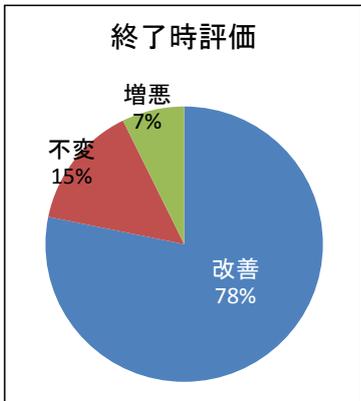
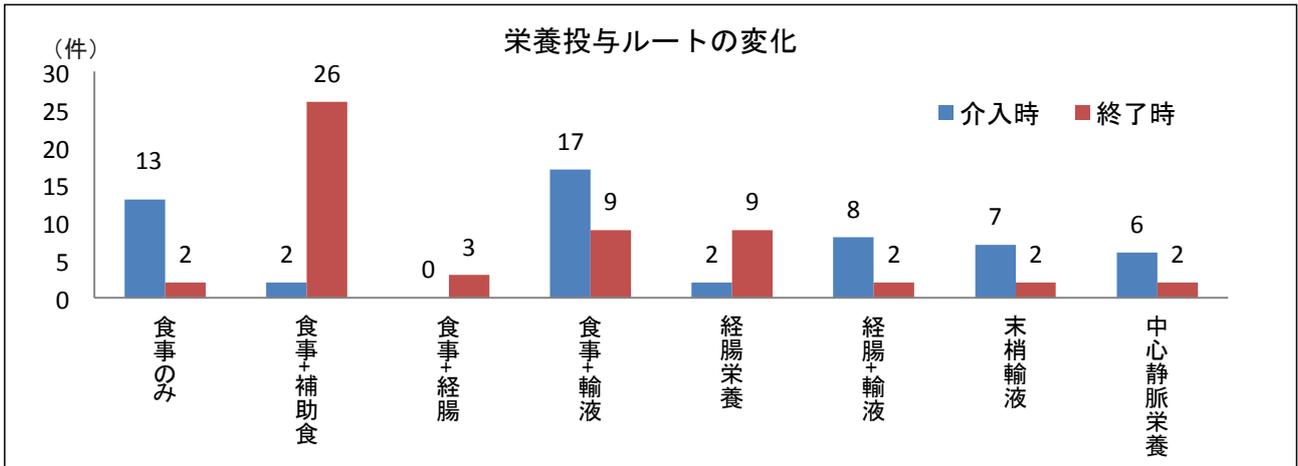
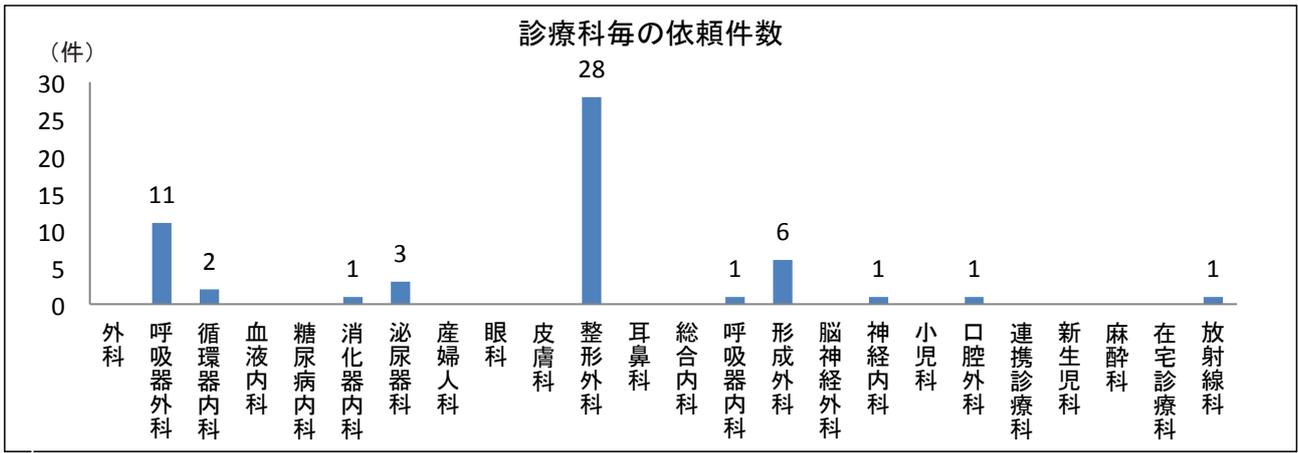
新規依頼件数 54件

平成30年度でNST回診介入を終了した患者55名について下記に報告する

平均介入日数 26.2日

平均介入回数 4.8回

介入時と終了時における、CRP・BMI・Alb・TTR(Pre-Alb)のデータについて比較しました。介入日数が26.2日平均だったため、ARP・BMI・Albについては有意差を認めませんでした。TTRについては、半減期が短いため $P=0.041^*$ と有意差を認める結果となりました。患者様の病態は様々で炎症指標や肝機能・腎機能に差もあるため一概には評価しづらいですが、患者様にとって適切な栄養療法となるよう今後も主治医へアドバイスできるようチーム一同努めて参ります。





褥瘡対策委員会

【目的】

- ・褥瘡対策に関する診療・看護計画を作成し、予防及び対策を実施する
- ・専門的知識・技術で患者・家族のQOLを高める

本年度より褥瘡に関する危険因子の評価に、スキンケアの有無・既往、ハイリスク項目に医療関連機器関連の長期かつ持続的な使用が追加された。

褥瘡対策が必要な患者数は年間4401名で、入院患者数の約51%で昨年より2%増加、うち褥瘡ハイリスク対象患者数は2244名で褥瘡対策が必要な患者数は108名前年度より増加していた。

褥瘡ハイリスク項目では皮膚脆弱が約74%と最も多く、医療関連機器関連の長期かつ持続的な使用、術中特殊体位、末梢循環障害、鎮痛剤投与の順であった。褥瘡推定発生率は、自重関連褥瘡は0.50%、医療機器関連圧迫創は0.22%で全てが全国平均より低い結果であったが、院内褥瘡発生数は前年度と比較し、褥瘡は22名、医療機器関連圧迫創も8名増加していた。褥瘡発生リスク患者の増加や終末期患者等予防困難症例、予防的スキンケアや明らかなアセスメント不足での発生であった。また、同一病棟で短期間に褥瘡発生が3件程あり、褥瘡発生しやすい病棟スタッフへは、より褥瘡予防実践を含めた指導が今後も必要である。

院内褥瘡発生部位では尾骨部・踵部が同値で多く、頭側挙上時の摩擦・ズレや観察・除圧不足が主な要因で、医療機器関連圧迫創では顔面と踵部が多く、NPPV マスクや胃管チューブ等による発生で、踵部は牽引やシーネ等での発生であった。術中特殊体位がハイリスク項目の上位であるが、術中での発生は6件であった。診療科別では、院内は整形外科、院外発生では総合内科患者が多く、診療科別では、院内は整形外科、院外は総合内科、医療関連機器圧迫創傷は内・外共に整形外科が多い結果であった。

平成29年度同様、褥瘡発生リスク患者を専任看護師・リハビリ部門、褥瘡管理課と共に（自病棟を中心に管理職も含め）褥瘡予防ラウンドを36回60名に実施した。その結果を、院内褥瘡対策勉強会で2回にわたり（275名対象）報告し、専任看護師の褥瘡対策・予防への認識向上にも繋げ、2018年日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会で「褥瘡予防ラウンド導入における褥瘡予防の効果」で演題発表した。

褥瘡対策委員会勉強会は計6回(1248名)、ナーシングスキル導入により多くのスタッフが褥瘡に関する知識を効率的に学習し、リハビリ部にて褥瘡発生患者数の多い病棟を中心にポジショニング勉強会を開催した。

マットの整備では、院内感染予防として拭き取り可能なウレタンマットレスへの変更、エアーマットの全面レンタル化など感染面にも配慮した整備を行った。

褥瘡回診は毎週木曜日：14時より形成外科医、WOCN、褥瘡学会認定看護師、リハビリテーション部・薬剤部と共に訪問し病棟Nsと褥瘡回診チームにて褥瘡・ケア内容を評価し、ケア統一が図れるよう週末処置も考慮し褥瘡経過記録に記載した。

NST委員会や栄養管理部とも連携を図り、患者を多方面より援助することで早期治癒にも繋げることができている。看護師特定行為(創傷関連)を、院内にて壊死除去19件(延べ116回)、局所陰圧閉鎖療法14件(延べ41回)実施した。

以下の表やグラフは、病棟単位・発生部位・診療科を院内・院外で、各々褥瘡と医療機器関連圧迫創に分けたデータである。

《委員会メンバー》 毎月第1水曜日、17:15～開催

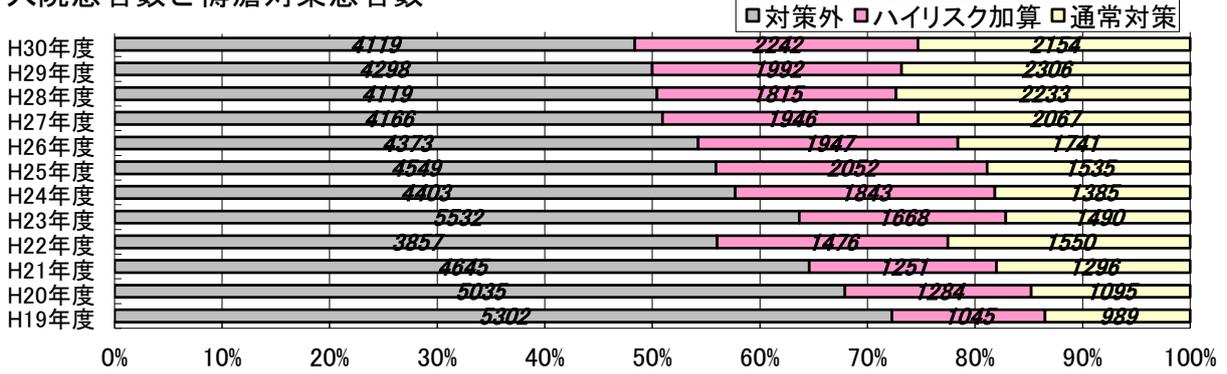
形成外科：高木Dr、褥瘡管理課(下前WOCN・逆瀬川、椎木WOCN)、看護部(水元師長、野田主任)

外来・クリニック・各病棟・OPE室、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーション部(PT・OT・ST)、医事課

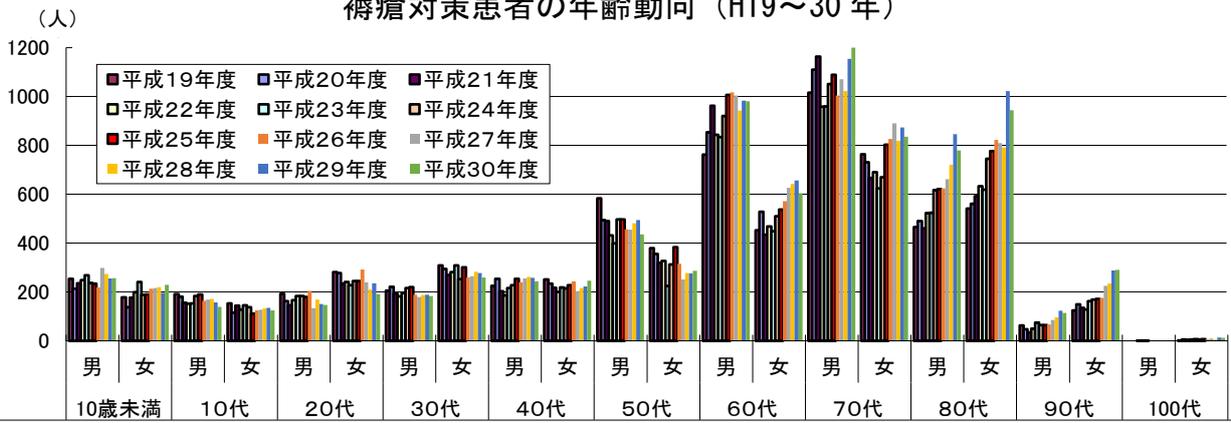
	入院患者数	要対策	ハイリスク	ショック	循環不全	鎮痛	6時間以上	特殊体位	下痢	皮膚脆弱	褥瘡	医療関連
4月	698	169	184	5	28	34	10	50	0	130	19	112
5月	736	192	216	12	48	36	11	51	0	158	25	106
6月	728	190	182	6	33	38	10	50	1	133	21	96
7月	779	186	186	12	32	24	12	42	1	133	18	94
8月	743	181	190	2	17	35	10	47	0	138	16	98
9月	647	177	152	5	33	36	6	38	2	111	18	86
10月	762	202	220	5	31	28	8	42	1	171	31	140
11月	705	170	197	3	38	40	6	49	0	144	22	136
12月	630	152	171	5	38	24	7	23	0	141	20	97
1月	738	192	188	8	29	29	9	35	1	141	27	110
2月	624	158	164	6	33	26	14	44	0	120	23	105
3月	725	185	192	4	40	36	15	48	1	142	24	106
計	8515	2154	2242	73	400	386	118	519	7	1662	264	1286
割合%		25.3	26.3	3.3	17.8	17.2	5.3	23.1	0.3	74.1	11.8	57.4

	入院患者数	要対策	ハイリスク	要対策割合%	ショック	循環不全	鎮痛	6時間以上	特殊体位	下痢	皮膚脆弱	褥瘡	医療関連
NICU	225	28	197	100		74					194		181
2西	385	171	6	46		1	1		1		5	0	2
2東	1346	328	218	41	10	43	17	1	7	2	212	53	96
3西	914	181	150	36	2	51	40	0	3	2	141	23	60
3中	502	98	310	81	1	8	25	3	169	1	148	18	167
3東	932	250	157	44	3	24	3	1	14	1	148	21	67
4西	1219	226	65	24	2	5	3	14	15	0	41	22	37
ICU	125	103	401	403	47	88	249	93	255	1	132	20	237
2北	622	115	249	59	7	67	10	0	2	0	240	48	101
2南	608	149	148	49	1	28	2	0	2	0	134	26	68
3北	0	0	0	0			1					1	
3南	715	241	330	80	0	10	35	3	51	0	259	27	266
4北	922	264	11	30	0	1	0	3	0	0	8	1	4
OPE												4	
計	8515	2154	2242	52	73	400	386	118	519	7	1662	264	1286

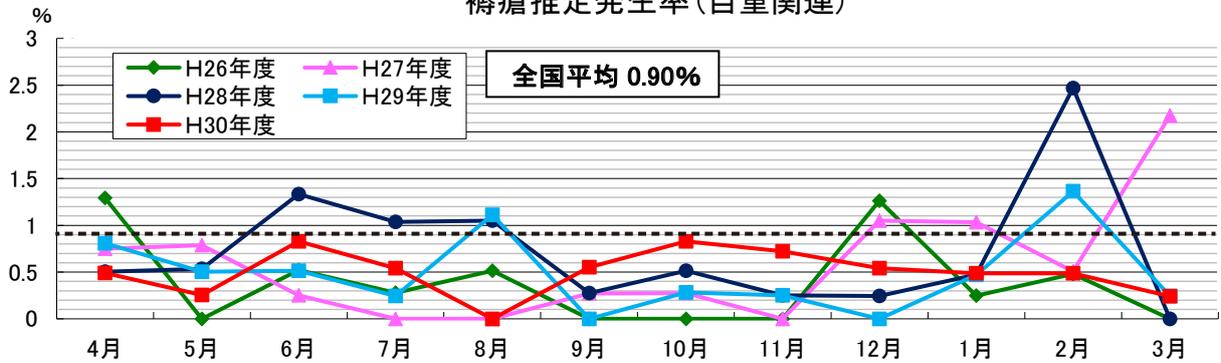
入院患者数と褥瘡対策患者数



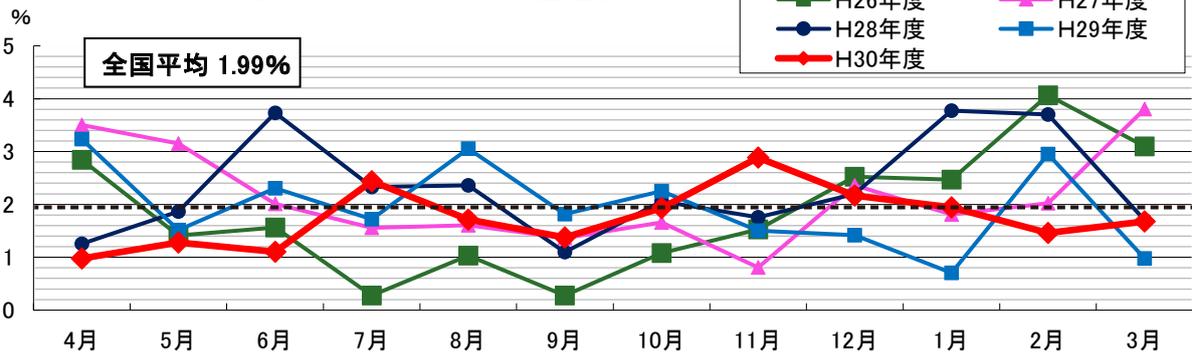
褥瘡対策患者の年齢動向 (H19~30年)

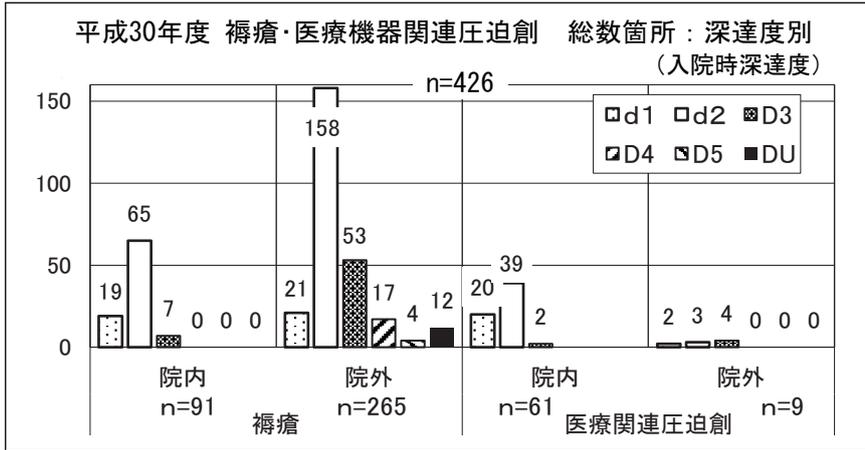
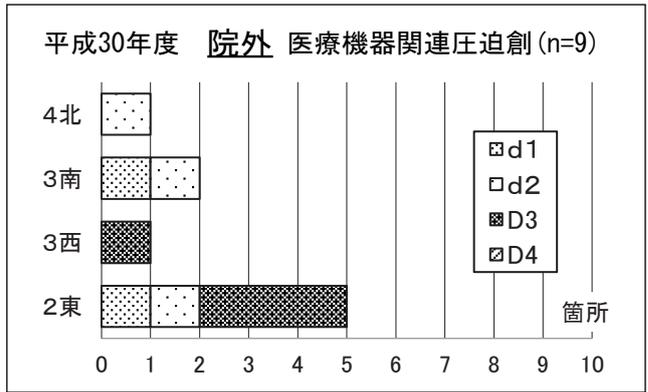
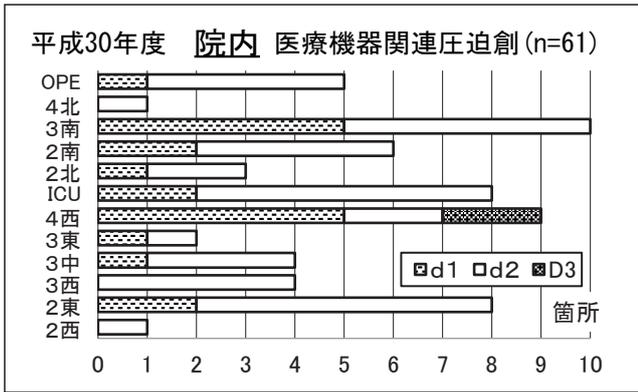


褥瘡推定発生率(自重関連)



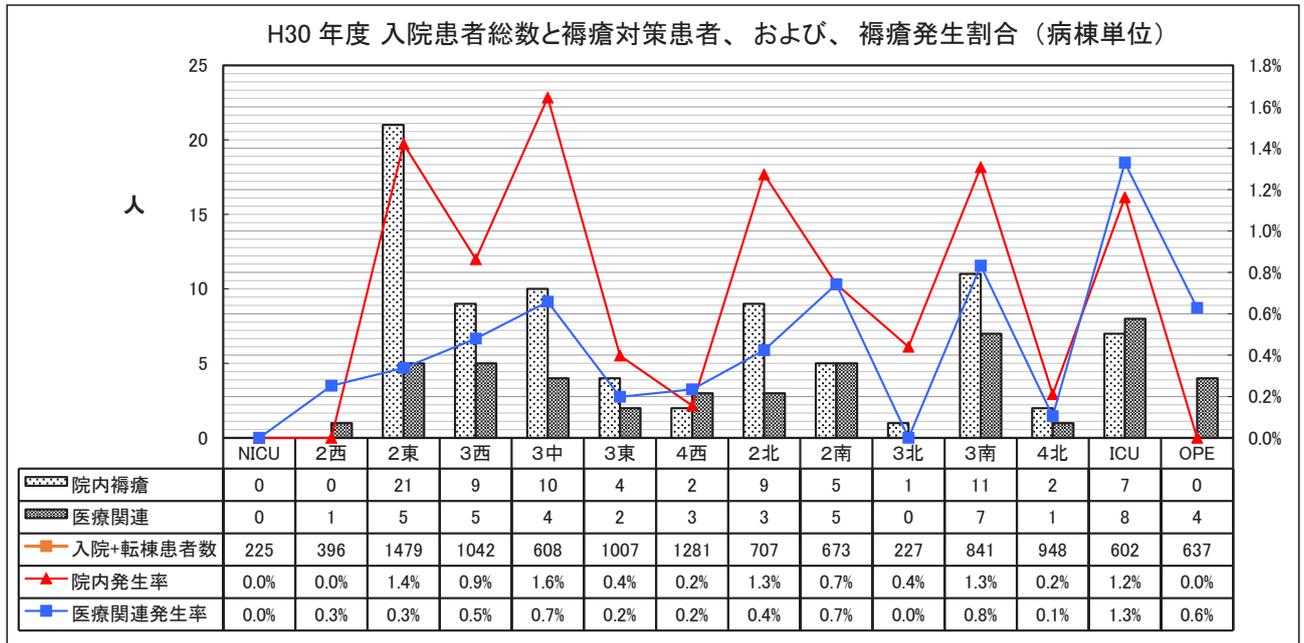
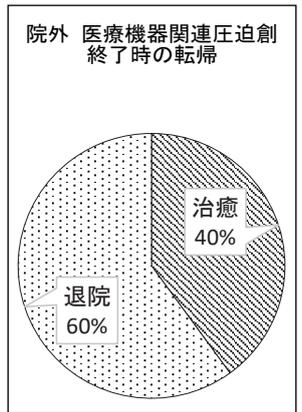
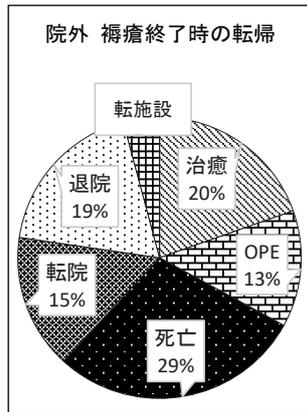
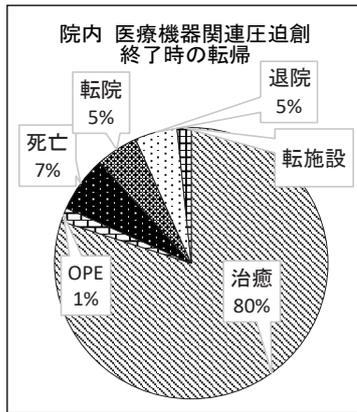
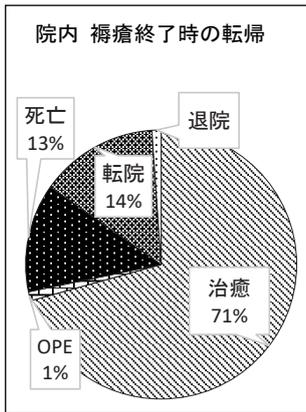
褥瘡有病率(医療関連圧迫創抜き)





H30年度 治癒日数

	院内		院外	
	褥瘡	医療	褥瘡	医療
d1	6.2	7.4	8.1	6.5
d2	9.5	10.3	10.4	11.5
D3	20.4		31.6	
D4				
D5			72	
DU				





臨床検査適正化委員会

平成30年度臨床検査適正化委員会は、精度管理報告、新規検査項目の実施、外注化項目の決定や中止、検査運用の変更等、臨床検査の適正化を目的、目標に年2回(4、12月)開催しました。

【構成員】

委員長	白濱 浩	(診療支援部長)			
副委員長	寺原賢人	(中央臨床検査部長)	二木 真琴	(総合内科部長)	
委員	岩下 邦子	(看護副部長)	橋口 恒夫	(外来看護師長)	
	濱田 敏彦	(クリニック事務長)	御供田 貴之	(経営企画課長)	
	東 貴史	(医事課長補佐)	村中 利也	(中央臨床検査部技師長)	
	山崎 泰代	(中央臨床検査部主任)	持留 ゆりか	(中央臨床検査部：議事録担当)	

【平成30年度活動内容】

(委員会名簿の変更)

副委員長：寺原賢人（中央臨床検査部長）、二木真琴（総合内科部長）

(精度管理報告)

- ・第51回日本医師会臨床検査精度管理報告
生化学と血液が中心の精度管理で、99.7点と高得点であった。
- ・平成30年日本臨床検査技師会精度管理報告
ロット間差のある項目でC評価はあったが、98.6点と高得点であった。

(検査項目の新規、変更、中止)

《生理検査》

- ・クリニックへ呼気NO濃度検査機器 (NO Breath) 導入
→検査方法が簡単で低コストで検査可能
- ・MSLT(反復睡眠潜時検査)実施
- ・クリニック肺機能可逆性試験薬剤をベネトリンからサルタノールへ変更
→検査の待ち時間が10分短縮

《血液凝固検査》

- ・ヘパプラスチンテスト、全血凝固時間検査中止
平成30年4月の診療報酬改定により、ヘパプラスチンテストと全血凝固時間検査は保険点数削除となり、それに伴い試薬等販売中止となるため、上記2項目は4月1日より検査中止となりました。メール送信済です。

《生化学検査》

＜検査内容の変更＞

- ・2018/4/2より生化学セット検査にS1(全身1)+IP(リン)：85歳以上を作りました。これはNST担当医からの希望で、理由は当院は高齢患者が多く、低栄養の方が目立ち、早期の低栄養患者の発見と対処のためとのことです。
- ・IgD 基準値の変更 2018年12月7日～
理由：測定機器の変更のため基準値の変更
従来：9.0以下mg/dl →新：12.6以下mg/dl
- ・亜鉛 基準値の変更 2018年10月1日～
理由：日本臨床栄養学会「亜鉛欠乏症の診療指針2018」亜鉛欠乏症診断に準拠
従来：64～111 μg/dl → 新：80～130 μg/dl

＜データ影響に関する情報案内＞

- ・ACTH 2018年12月～
ACTHは抗凝固剤のEDTA濃度増加により測定値が低下するため容器の指定量を採取してください。
対策) 従来、小児は5ml採血管に1ml採取していたが12/1より2ml採血管を払い出しし、EDTA濃度の影響を少なくする対応をしております。採血量が確保できない場合も2ml採血管を払い出します。

＜CK-MBの試薬の変更＞

- 2018/10/1より変更しました。
従来の試薬ではCK-MBの活性測定という原理上、CK-BBやCKアノマリー（免疫グロブリン結合型CK、ミトコンドリアCK）の影響を受け、場合によっては測定不能で、精査の為CKアイソザイムの追加検査を依頼していました。この度発売されたCK-MB massはCK-MB蛋白量を測定するため、CKアノマリーが存在する検体においてもほとんど影響をうけません。
従来法：免疫阻害法 基準値25U/L未満
保険点数55点
新試薬：ラテックス比濁法（高感度試薬）
基準値5.0ng/ml未満（CKと単位が違います）保険点数90点
新試薬の急性心筋梗塞におけるカットオフ値は心臓血管附属病院が9.9ng/ml、国立循環器病研究センターが9.1ng/mlと発表しています。

＜リパーゼの試薬の変更＞

2018/10/1より変更しました。現使用試薬が2018/12/31に販売中止になるため、リパーゼの試薬をロシュからシノテストへ変更しました。相関等問題なかったため基準値も現行のまま使用しています。

《輸血検査》

- ・全自動輸血検査装置更新
(バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社)
ID - GelStasionからIH500に変更
- ・機器変更に伴い、輸血検査用の採血管変更
EDTA2K (2ml)→EDTA2Na (5ml)

《細菌検査》

- ・CDチェックの報告の変更
当院では、クロストリディウム・ディフィシル感染症の診断に迅速診断キット(EIA法)を用いています。このキットは直接糞便を検体として使用する方法では抗原の検出感度は90～99%と高いのですが、トキシンの検出感度はそれに比べると低いといわれています。そこでそれを補うために、培養検査を追加することになりました。追加することによって、結果の報告が少し変更になります。

【現行】

抗原(+)トキシ(+)
抗原(+)トキシ(-)
抗原(-)トキシ(-) } 全て最終報告にて報告

【変更後】

抗原(+)トキシ(+)
抗原(-)トキシ(-) } 今まで通り
最終報告にて報告

抗原(+)トキシ(-)

→中間報告にて報告し、培養検査(約2日間)を追加します

備考欄にて『培養にて確認中』とはいります。

培養した後、最終報告の備考欄に

『培養にて抗原(+)トキシ(-)』

『培養にて抗原(+)トキシ(+)]

と培養した結果が入力されます。

- ・血液培養の機械の変更・血液培養ボトルの変更
好気ボトル(紫ラベル・銀キャップ)・嫌気ボトル(赤ラベル・赤キャップ)に変更
小児ボトルはありません。

《採血量》

通常：各3ml (以前は10ml)、
小児：各1ml、臍帯血：各3ml、
ベビー本人血：各0.3～0.5ml

《採血手順》変更ありません。

《培養日数》

5日間(変更なし)陽性になったら、その時点で主治医に報告します。
心内膜炎などが疑われ、培養延長の希望があれば、培養延長可能

《保存》

病棟での保管は、室温(冷暗所)にて行う。
冷蔵庫は不可

《外注検査新規検査・検査内容変更・受託中止》

＜新規項目＞

- ・サイトメガロウイルス核酸検出(新生児尿)
850点 2018年6月30日～
- ・25OHビタミンD(ECLIA) 骨粗鬆症 117点
2018年10月1日～

＜一時受託中止＞

- ・UGT1A1 遺伝子多型解析 2018年10月20日～
試薬の品質異常により、検査が一時受託中止となっています。
→検査がどうしても必要な場合はメーカーで受けつけます。

＜受託中止＞ 2018年12月7日～

- ・副甲状腺ホルモン(PTH)(高感度)
- ・副甲状腺ホルモン(PTH)(高濃度測定)
理由：検査試薬販売中止のため
代替項目：
副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト
副甲状腺ホルモン(Whole PTH)
- ・HTLV-1抗体(ウエスタンブロット法)
理由：検査試薬販売中止のため
代替項目：HTLV-1抗体(ラインブロット法)
- ・抗IA-2抗体(RIA) 基準値：0.4未満(U/ml)
理由：検査試薬販売中止のため
代替項目：抗IA-2抗体(ELISA)
基準値：0.6未満(U/ml)

以上のことが2回の委員会で報告、決定されました。

**がん看護委員会****【一般目標】**

1. がん患者と家族に生じる問題を理解し、家族ケアに必要な専門知識・技術を習得する。
2. 部署内で事例検討を行い、スタッフへの教育方法を身につける。

【到達目標】

1. 家族ケアの目的、がん患者の家族が置かれている状況を理解し、適切な家族ケアを行うことができる。
2. 部署内で事例検討を行うことで、さらに理解を深め、スタッフの知識・技術を高めることができる。

【構成員】 委員長 河原 尚美、 副委員長 赤坂 美保

年月	内容	備考
H30.4	家族ケアとは(講義)	司会：岩山、書記：芝
5	事例検討：看取り(グループワーク)	司会：芝、書記：村崎
6	家族ケアについて理論を用いて考える(講義)	司会：村崎、書記：赤坂
7	ロールプレイ	司会：赤坂、書記：早崎
8	各部署でカンファレンスした内容を発表	司会：早崎、書記：岩山
9	事例検討：せん妄(グループワーク)	司会：早崎、書記：芝
10	各部署でカンファレンスした内容を発表	司会：芝、書記：村崎
11	事例検討：危機的状況(グループワーク)	司会：村崎、書記：赤坂
12	各部署でカンファレンスした内容を発表、まとめ	司会：赤坂、書記：早崎
H31.1	今年度の評価、せん妄のパンフレットについて(グループワーク)	司会：早崎、書記：岩山
2	次年度に向けて課題を検討する	司会：岩山、書記：芝
3	次年度の取り組みについて	司会：早崎、書記：芝

【評価・反省】

<中間>

年間計画に沿って、家族看護とは何かを考え、自部署でのカンファレンスをしてもらい、委員自身で考え実践してもらおう働きかけた。また、そんな中でせん妄のケアについて、各部署が苦慮していることが伺えたため、年間計画の一部、計画を変更し、せん妄ケアのリーフレットを作成し、病棟で活用してもらおうことを考えた。年度末までに、完成させ、実践に結びつける予定である。

<年間>

今年度は、リンクナースの意識の向上、達成感を持って委員会活動に取り組んでもらうため、目標設定シートを使用して1年間取り組んだ。目標を設定することで、意識的に各部署で活動することができ、自己評価も行うことができていた。各部署の評価は5段階評価の内、平均3.7であった。内容としては、家族ケアに関する講義を行った後、看取り、せん妄、危機的状況について委員会の中で事例検討を行い、さらに各部署でカンファレンスを行うことで、家族看護について各部署で考えるきっかけはできたのではないかと考える。部署によっては、勉強会やロールプレイを実際に行うことができていた。また、委員会の中でせん妄ケアのリーフレットを作成し、病棟で活用できるように現在、最終の見直しを行っている段階である。家族看護については初めての取り組みで、実際の家族看護につなげることができていない現状があるため、今後も継続して取り組んで行けるように支援が必要である。



【目標】

1. PNS のアクションチェックにおけるそれぞれの役割りを理解し実践する
2. PNS の成果を明確にし課題を抽出する

【構成員】

委員長 酒匂英子

副委員長 池上紀代子 本田沙織

年月	内容
H30. 4	入職者対象に PNS についての講義(4月6日) レベル2研修:「フレッシュパートナーの役割」(4月23日) 各病棟ガントチャート作成
5	各病棟にて「三重・四重構造について」学習会実施 グループワーク
6	アクションチェックアンケート作成 グループワーク
7	レベル1研修:「みんなで学ぼう、新しい看護方式」(7月6日) レベル2研修:「PNSにおけるリーダーの役割」(7月23日) グループワーク
8	グループワーク
9	レベル3研修:リーダーについて1回目(9月7日) レベル3研修:マインドについて1回目(9月14日) 研修評価・反省 グループワーク
10	レベル3研修:リーダーについて2回目(10月1日) 研修評価・反省 グループワーク
11	レベル3研修:マインドについて2回目(11月2日) 研修評価・反省 アクションチェック実施
12	アクションチェックの評価 年間評価 各レベル研修の評価 グループワーク
H31. 1	各病棟年間目標評価発表
2	次年度活動内容検討 次年度目標設定
3	PNS 学会参加(福井)

【評価・反省】

- ・昨年アクションチェックの結果「パートナーと積極的に話ができる」が高値の割に、委員会活動の補完要請や受持ち患者の把握などPNSの3重構造が理解できていないことが分かった。今年度は各病棟で学習会を実施し正しく理解することを目標に取り組んだ。全体では昨年度より「できている」との回答が増加しており「パートナー間で話し合う時間を作る努力をしている」が80%以上を示し効果が出てきていると考える。一方でアンケートの中にはマインドが育っていない意見もあり今後の課題となった。
- ・前残務の調査を実施。業務開始時間の意識を持つことと業務改善を周知した。ほとんどの病棟で前残務の減少がみられた。引き続き取り組む必要あり。
- ・リスクについては、報告の7割がPNS関連によるものであり昨年より減少という結果に至らなかった。日々のペアとの情報共有や2人確認が徹底されていないことが原因。今後もPNSのペアのあり方やリーダーの育成が課題となる。



看護記録委員会

【目 標】 実践した看護が見える記録の充実を図り、看護記録の質向上を目指す

1. 整合性ある記録と実践の向上とマニュアルの見直し
2. 年に2回の監査(8月11月)、監査結果のフィードバックと対策・実施する
3. 認定取得率の向上、改定後の目標 80% とする(前年度 80%)

	内 容	備考
H30 4月	自己紹介 委員習得度アップ：毎月テスト施行 (①4/19→14名参加・合格率29%) 看護記録委員会規則 看護必要度・監査・記録・3グループに分かれ活動(活動計画) 【記録グループ】記録マニュアルの検討内容の確認 【監査グループ】1年間の活動計画・毎月の書記を決める	看護必要 度テスト (毎月) 新人研修
5月	各グループの活動計画発表 委員習得度アップ：毎月テスト施行 (②5/30→40名参加・合格率29%) ☆先月の試験の評価：正解率の低かった5項目の振り返りとして委員に小テストをし、委員は病棟にて再度振り返りを行っている。(病棟会にて)グループ活動 【必要度グループ】今年度の研修の検討 【記録グループ】記録マニュアル検討項目の抽出と割り振り 【監査グループ】前年度の反省内容の振り返り→結果を踏まえ今回の監査表見直す	
6月	委員習得度アップ：毎月テスト施行 (③6/21→53名参加・合格率55.6%) 先月の試験の評価：☆施行 院外研修：eラーニングにて事前学習・演習・課題後参加、講義及びビデオ演習・解説：参加者24名 グループ活動 【必要度グループ】10月～12月にかけての研修の計画 【記録グループ】記録マニュアル3項目検討 【監査グループ】監査表の見直し 8月監査の方法、対象者の検討→人数は減らず	研修 院外必要 度認定試 験(6/24)
7月	委員習得度アップ：毎月テスト施行 (④7/10→23名参加・合格率47.8%、⑤7/19→45名参加・合格率44.1%、⑥7/31→54名参加・合格率19.2%) 先月の試験の評価：☆施行 グループ活動 【必要度グループ】研修の進め方の話し合い(進行内容・アンケート作成・回答について) 【記録グループ】記録マニュアル1項目検討、次回検討内容確認 【監査グループ】監査方法決定 ・監査日 8/21 ・監査調査 8/22～8/29 8/30回収 対象者10人・用紙内容は前回とほぼ同じ	研修 新人・中途 者・希望者 (7/11)
8月	委員習得度アップ：毎月テスト施行 (⑦8/8→54名参加・合格率19.2%、⑧8/16→49名参加・合格率28.6%、⑨8/21→66名参加・合格率9.1%) 先月の試験の評価：☆施行 院外研修：eラーニングにて事前学習・演習・課題後参加、講義及びビデオ演習・解説：参加者54名 グループ活動 【必要度グループ】研修内容の再検討(時間修正、パワーポイントの内容) 【記録グループ】記録マニュアル2項目検討、報告 【監査グループ】監査手順について記録委員全体へ説明	院外必要 度試験 (8/26)
9月	委員習得度アップ：毎月テスト施行 (⑩9/6→61名参加・合格率44.2%、⑪9/11→77名参加・合格率55.5%、⑫9/20→74名参加・合格率30%) 先月の試験の評価：☆施行 グループ活動 【必要度グループ】回答内容作成、レジメ作成、アンケート内容見直し 【記録グループ】記録マニュアル項目検討内容確認 【監査グループ】監査結果発表→ほぼ例年と変わらない結果。該当なしが多い項目は削除する事検討。 他病棟監査(監査グループメンバーで行う)	
10月	委員習得度アップ：毎月テスト施行 (⑬10/18→44名参加・合格率32%、⑭10/26→36名参加・合格率44%) 先月の試験の評価：☆施行 グループ活動 【必要度グループ】不合格者対象院内研修→基礎項目の振り返り及び試験対策(1回目：10/4→32名参加・合格率100%) 研修後の反省・振り返り 【記録グループ】記録マニュアル薬歴新規コメントの運用 【監査グループ】監査表内容見直し→家族構成・既往歴(自己免疫の項目)ドレーン管理 次回監査日発表 11/19～25 今回は1週間の期間へ変更	
11月	委員習得度アップ：毎月テスト施行 (⑮11/2→31名参加・合格率26%、⑯11/15→32名参加・合格率41%) 先月の試験の評価：☆施行 グループ活動 【必要度グループ】不合格者対象院内研修→基礎項目の振り返り及び試験対策(2回目：11/14→34名参加・合格率100%) 研修後の反省・振り返り 【記録グループ】記録マニュアル4項目検討 【監査グループ】監査方法説明、監査実施。今後の検討事項	



看護部入退院支援調整委員会

【目的】 各部署における円滑な入退院支援調整の実践を支援することで、患者の早期退院・ケアの質の向上を図る

【開催日】 毎月第2金曜日に定例の委員会を実施

【構成員】 師長会が選出する師長、入退院支援看護師、単位毎に選出する看護師、MSW

【平成30年度目標】 患者を生活者と捉え、院内・外の他職種を交えた入退院支援ができる

【平成30年度活動内容】

1. 委員会内でのミニレクチャー及び勉強会計6回実施
2. ケアカフェ2回実施：7月当院職員23名・地域福祉職31名
11月当院職員38名・地域福祉職32名
3. 入退院支援・調整に関するアンケート
4. グループごとの活動内容
 - * 1G：退院カンファレンスの実践と定着
4分割を用いたカンファレンスの充実を図り、個別性のある退院支援へ繋げる
 - * 2G：統一した看護提供と連携強化
院内外で統一した指導を行うため退院指導及び在宅での身体ケアに関する共通項目パンフレットの見直し、病棟と外来連携のためのワードパレット作成
 - * 3G：「お互いを理解し議論が交わせる関係性の構築」
地域福祉職や他施設の医療関係者と入退院支援委員を中心とした交流で患者・家族の思いに沿った支援を考える
 - * 4G：入退院支援調整に関する意識向上を図る
訪問看護研修、社会資源などの研修企画
5. 入退院支援加算1・3、入院時支援加算チェックとデータ集計と評価
入退院支援加算1：1583件/年　入退院支援加算3：204件/年　入院時支援加算：40件/年

【反省・評価】

4分割を用いたカンファレンスは定着しつつあるが、カンファレンス内容と質向上への取り組み、情報共有の連携強化のための活動を継続する。入退院支援の重要性を認識し、知識を習得し、患者・家族の意思決定支援が自らできる看護師を増やし、地域社会との連携に急性期病院でも積極的な関わりができるように支援していく必要がある。



看護業務委員会

【目標】 マニュアルを遵守し、安心安全な看護を提供する

【開催日】 委員会：毎月第3水曜日 13：30～14：30

【構成員】 委員長：松野下恵子

副委員長：北野美鈴 戸高孝子 仮屋由紀子

委員：宮園奈真(2北) 山中大樹(2南) 東めぐみ(3北) 追立理恵(3南) 北之園七恵(4北)

幸田亜弥(2西) 吉村はるか(2東) 川崎亜莉沙(NICU) 東いずみ(3西) 岩川玲菜(3東)

中村ゆかり 市橋さつき(3中) 永岩真弓(4西) 相澤理紗(ICU) 西牧亨(OPE)

同免木直美(外来) 齋藤民子(クリニック)

【活動計画】

1、課題の実施 チェックリスト・テストの実施・監査まで

2、ナーシングスキルの見直し

前年度の評価で、「ナーシングスキルを活用しチェックリストを元に、病棟毎に活動したことで、インシデント数が減少し看護師の認識も変わり行動に変化が得られた」とあり、本年度も目標は変えずナーシングスキルのチェック項目を元に行動計画を立てた。課題として、接遇・環境整備／輸液管理・静脈内注射／転倒転落を共通課題とし、ナーシングスキルの見直しや活用を行い、他部署監査を実施。11月、12月の2ヶ月は、自部署で課題を決めチェックリストに基づいて他部署監査を実施。監査後、委員会の前半30分で他病棟の監査を行い、後半の30分で評価を行った。

今回は初めての他部署監査ということもあり、事前に他部署監査を行うに当たり、自らもナーシングスキルをチェックすることで自分の学びになり自部署へのアプローチを行う機会も増えた。また、他部署監査により、自部署のできていない部分を指摘・指導されたことで問題点が明確になり、スタッフへの刺激につながり意識の変化が見られるようになってきた。その他には、病棟によって工夫を凝らし病棟目標に連動するように必要な課題を決め活用もしている等の声もあった。ナーシングスキルの活用を勧め活用したことで、ナーシングスキルの閲覧する機会も全体的に増えてきている。

今後は、より身近に活用できるようリスクカンファレンス時に、ナーシングスキルを使用した活動を取り入れ、医療安全や感染管理へ連動させ、看護の質を高めていけるように取り組む。



看護教育委員会

看護部教育委員会は、看護職員の資質を高め、より良い看護が行われると共に教育の推進をはかること。また、法律の改正に伴い、(看護職の免許取得後の臨床研修、その他研修を受けその資質の向上を図ることに努めなければならない)研修を受ける機会を確保する。

このことを目的に毎月委員会と、教育研修の企画、実施、評価を行っている。平成30年度よりキャリアラダーを作成し、1年間実施してみた。途中見直し、修正を重ねたが、まだまだ修正が必要な運用もある今後も課題として取り組んでいく。受講者にとっては、ラダーの意味が示すように自己のキャリアデザインに沿って、研修を通し知識を獲得して欲しい。そのためにポートフォリオも同時に推進している。

平成30年度院内研修110研修／2651名参加 院外研修127研修／483名参加

看護補助者研修については、1：医療制度の概要及び病院の機能と組織の理解、2：医療チーム及び看護チームの一員としての看護補助者の理解、3：看護補助業務を遂行するために基本的な知識・技術、4：院内感染防止と感染症について、5：看護補助者業務における安全管理とリスクマネジメント、6：労働安全衛生・看護補助者に求められる倫理、について研修を行い、研修自体は動画講義及び追加で教育師長による追加指導とした。

平成30年度は6テーマ実施し、2回／月実施することで研修参加率100%を目指した。評価としては、研修の振り返りテストを行った。

中途採用者に対しては、移乗・移送(実技まで)、テスト、を行い病棟での業務開始とした。



医師臨床研修管理委員会

【目的・目標】

本委員会の医師臨床研修活動は、医師としての基盤形成期において、人格の涵養性、プライマリ・ケアの基本的な診療能力等を習得し、将来の地域医療を担う専門医の育成を目的とする。また、研修に専念できる環境の整備を図る。

【平成 30 年度委員 (H31. 3 現在)】

委員長 昇 卓夫 副委員長 / プログラム責任者 今給黎 和幸

(指導医講習会修了医)

牟礼 洋、今給黎 和幸、丸山 芳一、小倉 芳人、緒方 俊二、米田 敏、堀之内 兼一、島子 敦史、玉田 泉、加藤 明彦、生野 博久、今給黎 尚幸、鉾立 博文、西山 淳、石田 育男、甲斐 太、三宅 健治、大磯 陽子、吉永 英希、大場 一郎、二木 真琴、中目 康彦、小玉 哲史、徳久 琢也、今給黎 南香、林 茂昭、高木 信介、宮口 文宏、岩川 純、三好 逸男、井上 大栄、兒島 信子、佐藤 恭子、徳永 正朝(公立種子島病院)、高橋 誉(谷山病院)、川崎 孝一(鹿児島市立病院)、厚地 伸彦(中央病院)、杉本 東一(奄美病院)、徳田 浩喜(小林市立病院)

(上級医)

昇 卓夫、西澤 輝彦、池田 耕自、盛満 慎吾、小瀨 浩介、高橋 範雅、丸山 有子、中禮 久彦、下舞 浩二、白濱 浩、佐藤 雅美(鹿児島大学病院)、浜畑 弘記(長島町立鷹巣診療所)

(外部委員)長野 芳幸

(パラメディカル)近藤 ひとみ、高橋 真理、兒島 邦幸、村中 利也、室屋 純一、上平田 美樹、原口 一博、野口 桂一、永井 美由紀、松山ひとみ

【平成 30 年度の活動内容及び実績】

平成30年度は、6名の基幹型初期臨床研修医(1年次3名、2年次3名)および3名の鹿児島大学病院協力型研修医を受け入れ、計19診療科で指導を行った。

当院における厚労省指定の指導医は33名(H31.3現在)。うち1名の指導医がプログラム責任者養成講習会を受講。一部の委員で研修医体制会議を計12回(毎月1回)開催した。救急症例カンファレンスは毎水曜日に開催し、研修医、救急担当指導医および各科の指導医が参加した。修了判定会には26名の委員が参加し、3名の初期研修修了が承認された。

平成31年度県内マッチ者(平成31年度からの臨床研修先として鹿児島県内を希望し、病院の受け入れ意向と合致した医学生)は、104名(前年度比7名減)、そのうち実際の採用者は99名(前年度比4名減)であり、前年度を下回る結果であった。

なお、当院における平成31年度採用者は募集定員の8名に対して6名であった(前年度比3名増)。今後も他医療機関と協力しながら、県内医学生や鹿児島出身の県外医学生に対するアプローチに注力し、指導体制をはじめ多方面における受け入れ体制の充実が必要と考えられる。

また、医師法第16条2第1項の中で「指導医はプライマリ・ケアの指導方法等に関する講習会を受講していること」と規定されていることから、院内の研修指導に携わる医師に対して指導医講習会受講を引き続き推進していくこととする。

初期臨床研修関係事業(平成 30 年度)

日付	事業名称	当院参加者	場所	主催
H30. 6. 10	「マイナビ RESIDENT FESTIVAL 福岡会場」	6名	FFB ホール	マイナビ
H30. 6. 26	「平成 30 年度第 1 回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会担当者会議」	3名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
H30. 7. 9	「平成 30 年度第 1 回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会本会議」	1名	自治会館	県初期臨床研修連絡協議会
H30. 7. 13	「平成 30 年度第 1 回臨床研修病院合同説明会」	7名	鹿児島大学医学部	県初期臨床研修連絡協議会
H30. 8. 20	「鹿児島県臨床研修病院見学ツアー事業」(B コース)	—	県内 12 病院	県初期臨床研修連絡協議会
H30. 8. 21	「平成 30 年度第 2 回臨床研修病院合同説明会」	5名	鹿児島県医師会館	県初期臨床研修連絡協議会
H30. 10. 6	「第 17 回鹿児島県臨床研修医合同研修会」	9名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
H30. 10. 16	「平成 30 年度プログラム責任者養成講習会」(今給黎和幸副院長修了)	1名	スペースアルファ神戸	臨床研修協議会
H30. 11. 21	「平成 30 年度第 2 回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会担当者会議」	3名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
H30. 12. 19	「平成 30 年度第 2 回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会本会議」	1名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
H31. 1. 12	「第 18 回鹿児島県臨床研修医合同研修会」	12名	鹿児島県医師会館	県初期臨床研修連絡協議会
H31. 3. 3	「レジナビフェア 2019 in 福岡」	6名	マリンメッセ	民間医局

- (その他)・医学部医学科病院見学者 25 名を受け入れた。
(4 年生 2 名、5 年生 11 名、6 年生 7 名；鹿児島大学 8 名、県外大学 12 名[内、鹿児島出身者 7 名])
・2020 年度プログラム(臨床研修プログラム昭和会)：平成 31 年度からの変更点あり

(研修歯科医)

鹿児島大学病院歯科医師臨床研修プログラム研修協力施設として、次の通り研修歯科医を受け入れ、指導教育を行った。(平成 30 年 6 月 5 日～平成 31 年 2 月 12 日毎週火曜日の週 1 回)
地域歯科医療プログラムの研修歯科医を 1 名ずつ、計 25 回



[医療の質向上]

委員長 昇 卓夫 報告 大原 美保子

患者図書室運営委員会

【委員会目的・目標】

患者図書室の管理・運営を円滑に遂行し、より充実した利用者サービスを提供できるよう患者図書室サービスを検討し、また患者図書室としての意向を反映できるようにする。

【患者図書室目的・目標】

患者さんご自身が病気や検査・治療法について理解を深め、医療提供者の医療に関する説明の質と効率の向上を図り、協働の医療を促進する。

【構成員】

医師(病院長・運営委員長) 1 名、看護部 1 名、リハビリテーション部 1 名、患者サポートセンター 1 名、緩和医療課 1 名、事務局(事務局長、総務企画課) 3 名、総務企画課 学術情報室 2 名。上記のほか人事課 ボランティア担当 1 名が参加。

【平成 30 年度の活動内容・実績】

患者図書室運営委員会の開催は 2 回。利用統計、蔵書点検、ボランティアスタッフの活動状況の報告や運営について報告、検討を行った。

患者図書室『すまいる』は NPO 法人の支援のもと、2013 年(平成 25 年) 4 月 19 日にオープンし 6 年が経過した。ボランティアスタッフを中心に原則 2 名ずつで運営しており、2018 年度は 24 名のボランティアが活動した。

2018 年度の延べ利用者数は 2,523 人、1 日平均利用者数 10.3 人、入院患者比率 52.4%、図書貸出数 860 冊であった。

眺めのよい場所で、室内には季節ごとにボランティアの手仕事によるさまざまな作品が展示され、癒しの空間となっている。7F という場所柄利用者数にはバラつきがあるが、繰り返し利用される患者さまも少なくない。その一方で、もっと早く知りたかったという退院間近の患者さまの声も聞かれる。

2019 年度も引き続き、職員への認知度の向上や利用の促進を図り、患者さまへの紹介や口コミにつながるよう、全体的な利用を推進したい。



看護部臨地実習指導者委員会

【目的】

本会は、臨地実習の意義と実習指導者としての役割が理解でき効果的な実習指導を行う

【目標】

- 1、学生をPNSの一員とし、既習学習と実習を統合させ、看護の喜びと楽しさを伝えることができる
- 2、指導案の追加・修正を行い、スタッフ全員で活用し統一した指導を行う

【構成員】

委員長：上ノ町 和子 副委員長：江口 しおり

師 長：前田 康子

委 員 2西：寿島 恭子 2東：折田 千佳 NICU：染木 里恵 3西：吉留 千尋 3中：福留 美紀
 3東：中原 真紀 4西：野間 紋子 4北：角倉 舞 2北：中村 詩歩 2南：折田 恵
 3北：益森 節子 3南：伊東 美保 外来：西迫 ルミ子 クリニック：満留 あゆみ
 ICU：馬場 恵理

【活動内容】

- 4月 実習上の問題点・リスク報告・グループ活動
- 4月 実習上の問題点・リスク報告・グループ活動 久木田学園研修報告
- 5月 実習上の問題点・リスク報告・平成29年度臨地指導者講習会受講者による伝達講習
- 6月～8月 実習上の問題点・リスク報告・グループ活動
- 9月 実習上の問題点・リスク報告・グループ活動・ 中間反省（各病棟・グループ）
- 10～12月 実習上の問題点・リスク報告・グループ活動
- 1月 実習上の問題点・リスク報告・グループ活動 年間目標評価・発表（各病棟・グループ）
- 2月 実習上の問題点・リスク報告・グループ活動 次年度の年間目標について検討
- 3月 実習上の問題点・リスク報告・グループ活動 次年度の年間目標について

目標1に対して

3グループに分かれて活動した。

各グループとも、学生をPNSの一員としての関わりが持てるように取り組みを行ってきた。

臨地実習指導者だけの負担にならないように、事前に実習要項の提示やスタッフへ声かけしたことで看護師もPNSの一員として意識が高まった。学生を名前で呼ぶことにより、一層関わりが深まったところもあった。

3グループの活動は、年間計画の設定と活動状況の発表、シート入力で進行状況が確認できた。

実習上の問題・リスク報告の記入と発表で情報共有でき、全体の問題として捉えることができた。

目標2に対して

次年度 指導案の追加・修正を重点的に行っていく。

毎月、各学校の実習打ち合わせや反省会を実施 学校名は以下の通り

- ・久木田学園看護専門学校・鹿児島医療法人協会立看護専門学校・神村学園専修学校
- ・神村学園高等部・龍桜高等学校・鹿児島医療技術専門学校・鹿児島中央看護専門学校
- ・鹿児島看護専門学校・神村学園高等部専門課程・タラ看護専門学校

各学校の実習打ち合わせ、反省にかなりの時間を費やしていたため、要点のみを報告して頂き時間短縮が出来た。

**病床運営委員会****【目的】**

病院全体の病床の効率的な各診療科の割り当て・入退院の状況及び空床状況に、急性期のDPCの医療機関として適切かつ効率的病床の有効利用を目指す。

長期入院患者の把握と社会的入院患者の適正化を目指す。

DPC病院として、ベッドコントロールの効率化の向上を目指す。

【開催日時】

月一回・病院業務運営会議の30分前に開催 別館地下1階 講義室

【構成員】

診療部：昇病院長(委員長)・今給黎理事長・大久保クリニック院長・丸山副院長・西澤副院長
今給黎(和)副院長・今給黎(尚)副院長・米田 診療部長

看護部：近藤部長・中村副看護部長・岩下副看護部長・藤山副看護部長・尾之上師長・橋口師長

診療支援部：田中師長(病床管理部)・前迫主任(リハビリ)・吉満相談支援センター副センター長(MSW)
原口相談支援センター長(MSW)

事務局：野口事務局長・御供田課長(経営企画室)・小湊課長補佐(医事)

【会議議題】

平均在院日数・病床稼働率・紹介率・逆紹介率の報告	長期入院患者のチェック
DPC入院の分析	看護必要度の報告と分析
回復期リハビリテーション病棟からの報告	経営企画課より、救急の実績報告と分析
病床管理部からの病床運営の報告	地域連携プロジェクト会議より報告
その他	

【総括】

昨年度末より、病床運営に係わる各部門・各委員会・会議から、現状と分析・対策立案などを報告してもらった形式で委員会の進行を行っています。その結果、病床運営に関する様々なデータや対策などの各関係スタッフで共通認識をはかることができました。

来年度も医療看護必要度の確保や平均在院日数の短縮と稼働率の向上を確認しつつ、適切な病床管理を計画していかなければなりません。また、再来年度に病院の新築移転も控えているため、病棟の編成も検討していかなければなりません。

【平成30年度 病院実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
在院日数 (調整後)	15.7	15.0	14.6	14.4	14.5	16.0	14.3	16.4	15.5	17.5	16.6	15.7	15.5
稼働率(%)	84.2	82.0	80.9	82.3	82.0	81.0	81.0	87.6	78.2	84.8	87.3	87.1	83.2
医療看護必要度 (調整後)	31.3	33.6	35.7	34.8	36.8	35.9	367.7	35.7	34.0	36.1	36.0	35.5	62.8
在宅復帰率(%)	93.0	91.6	91.7	93.1	90.5	92.6	92.1	90.6	83.4	92.2	90.6	93.4	91.2
紹介率(%)	75.9	84.3	76.6	78.0	73.2	77.9	75.3	77.5	78.6	80.8	73.8	84.2	78.0
逆紹介率(%)	118.3	120.1	116.7	108.2	102.7	102.5	108.5	114.9	117.8	111.6	111.8	122.2	112.9
救急車台数	253	280	218	287	297	249	296	293	308	343	230	252	275.5



労務委員会

【目的】

働きやすい環境づくりを基本に、規程の策定や見直し、各部署からの事案の検討、検証、解決を図り、職員人事考課制度の運用と適正な人件費管理を目的とする。

【構成員】

昇卓夫(委員長)・近藤看護部長・野口事務局長・川越事務次長・堀経営企画室長・十島人事課長補佐

【主な議題】

- 4月 人事考課の進捗・人件費、一般職員の人事考課、規程・組織図改定、昇格の検討
- 5月 人事考課進捗の確認、一般職員の人事考課、規程・組織図改定、労務問題
- 6月 人事考課の決定、ナースアシスタント雇用対策、人事異動の検討、組織図の検討、労務問題
- 7月 人件費・時間外推移、昇格の決定、平成30年度総人件費増減確認、労務問題
- 8月 人件費・時間外推移、昇格の決定、労使委員会準備、労務問題
- 9月 人件費・時間外推移、パート職員人事考課検討、新卒入職者の評価、人事考課中間面談実施検討
- 10月 人件費・時間外の推移、パート人事考課の昇給検討、規程改定検討、労務問題
- 11月 人件費・時間外の推移、パート人事考課の昇給決定、一般職員中間面談状況、昇格の決定、正職登用の決定、労務問題
- 12月 人件費・時間外の推移の検証、人事考課説明会日程調整、労務問題
- 1月 人件費・時間外の推移の検証、人事考課進捗報告、人事異動の検討、職員定数の考え方、新卒採用状況進捗確認、労務問題
- 2月 人件費・時間外の推移の検証、職員人事考課進捗確認、新卒採用状況進捗確認、入社式日程及び担当者検討、労務問題
- 3月 人件費・時間外の推移の検証、職員人事考課進捗確認、新卒採用状況進捗確認、正職員登用検討、組織図改定の検討、労務問題

【総括】

平成30年度本委員会では引き続き「人件費の適正化」「職員のモチベーション向上」「規程の整備」を主な施策として取り組みました。



労使委員会

【目的】

職員にとって働きやすい環境づくりに取り組み、労働意欲と健康の維持、向上を図る。労使協力して職場の繁栄を目指し、相互の満足、共存共栄を目的とする。

【委員会】

労使代表者が集まり、定例夏に行う。但し必要に応じて随時開催する。

平成30年度開催実績1回開催：1回目平成30年9月7日



働き続けられる職場作り (Work Life Balance) 委員会

【目 標】全職員が健康でやりがいを持って働き続けられる職場をつくる

【構成員】人事課：十島課長補佐、小林美子

看護部：岩下邦子（看護副部長）、伊野千余子（師長）、永尾幸江（主任）、畠中愛（主任）、
福重絵里子（主任）、渡邊さつき、田中範晃、徳守由起子、福山睦美、四村朋美

放射線部：稲留久恵、濱田智太郎、池田真一 臨床工学部：外口健太郎（主任）、馬渡太尊

検査部：平原千代子、宝代聡美

リハビリテーション部：重水智子

薬剤部：財間富士子（主任）、肥田香織、西岡帆菜未

【平成 30 年度活動内容と実績】

●定例の活動

- ・月1回（毎月第4火曜日16：00～）の会議
- ・ぴたっとカエルデー（第4金）の実施

●今年度の活動

・健康教室開催について

6月22日開催 9名参加

前回と異なり、医師の参加もあった。他にも、参加したくてもできなかった職員もいるため、今後も継続していきたい。また、月1回開催してほしいという好意的な意見あるが現状で増やすのは人員不足もあり困難

このほか、リハ室の職員ジム使用を希望する意見も出ていたが、職員への開放はマシンの操作説明やリハ室解放時の職員の配置などいくつかの問題あり開放とはならなかった。

・会議の開催について

年休取得・ピタッとかえるデイなど成果が出ており一旦活動停止で良いのではないかと。

新たな議題が提出された時だけ会議を開催すれば良いのではないかと。毎月のWLB推進会議は必要ではないかと。数ヶ月に1回で良いのではないかと。時間は変更できないか等の意見から偶数月のみの会の開催とし、メンバーの集合しやすい時間帯を検討し、15時30分からの開催へ8月より変更となった。

このほか、会議が発足当時のメンバーが入れ替わり、会の方向性を見失ってきているのではないかとという意見あり。再度、会の発足からこれまでの経過（平成20年8月発足。WLBインデックス調査から現状把握し、年休取得率向上、時間外労働の削減、就業規則の周知対策、部署間の業務改善など）についてメンバーと共有した。今後も活動継続し、取り組んでいくことがメンバー間で確認された。

・コンピュータ室の2F更衣室について

夜間、階段のライトがないのがとても暗くて危ないという委員からの要望あり、ライトの点消灯をわかりやすく張り紙で表示し改善された。

・アニバーサリー休暇取得の経過について

電子カルテが整備され自分の年休残がわかりやすくなった。

取得促進については人事課よりメール。各部署の年休取得率を各部署長に提示。年休取得0がなくなったことは一つの成果。昨年度分の年休も取得できるようにしてほしいとの意見や、4月更新としてほしいという意見あり、労務委員会へ議題として提出。

30年度の病院全体の年休取得率は54.1%であった。

・禁煙運動について

服務規程にも喫煙に関するルールを明記する方向となった。

・各部署で患者搬送の協力をしてはどうか

・新病院の福利厚生に対して知りたいという声がある。

【次年度の課題】

・全ての部署が参加しているわけでは無く要望を吸い上げること自体が困難となっているため参加部署を増やしていきたい

・数年にわたり事務局長の会議参加を希望しているが調整できていないため来年度は日程調整を検討予定

・他部署へ患者搬送を拡大するための対策としてストレッチャー及び車椅子移乗操作説明を企画予定

・各部署の業務負担軽減の意見集約

病児保育室

報告：吉村加奈子

【平成30年度 病児保育室業績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用者数	33	40	55	30	51	25	59	42	34	41	34	48	492
開室日数	24	24	26	25	26	23	26	24	23	23	22	25	291
満室お断り	3	18	32	15	38	21	42	25	51	22	22	28	316
1日平均	1.3	1.6	2.1	1.2	1.9	1	2.2	2	1.5	2.8	1.5	1.7	2
キャンセル数	18	11	12	10	18	4	12	23	17	22	17	10	174
新規登録数	4	0	0	4	4	0	1	0	1	0	4	1	19

多くの方のご協力のもと、11年目の運営を展開いたしました。平成30年度の年間利用者数は492人でした。小児科医、クリニック看護師、常勤保育士(3名のうち1名が産休・育休の間は派遣保育士1名が交代で勤務にあたっています)で運営してまいりました。常勤保育士3名とも病児保育専門士資格を取得済み、また2名は医療保育専門士資格も取得しました。保育看護の高い専門性を発揮し、職員の皆様が安心して子育てと仕事を両立しながら働き続けられる職場環境を提供するため、病児保育室を通して貢献できたらと思います。

【参加学会】

H30 6/23.24 第22回 日本医療保育学会(東京) 発表者：吉村 参加者：鈴木・吉村
H30 7/16.17 第27回 全国病児保育研究大会(香川) 参加者：鈴木・吉村・福里・有迫
H30 11/11 第12回 全国病児保育協議会鹿児島支部会 参加者：鈴木・羽生・吉村・福里・畠中

【資格取得】

H30 4月 日本医療保育学会認定 医療保育専門士資格 取得者：西郷



[教育研修推進]

委員長 昇 卓夫 報告 大原 美保子

図書委員会

【図書室目的】

職員の生涯研修及び医学・医療の知識の向上を図り以て高度医療・地域医療・救急医療に貢献する。

【構成員】

医師(病院長、昭和会クリニック院長)2名、看護部1名、薬剤部1名、中央放射線部1名、中央臨床検査部1名、リハビリテーション部1名、栄養管理部1名、事務局(総務企画課1名、総務企画課 学術情報室 1名)

【平成30年度の活動内容・実績】

30年4月より、文献検索データベースをJDreamIIIから医中誌Webへ変更した。

5月に日本病院ライブラリー協会の研修会へ1名が参加した。

31年2月に図書委員会を開催。図書室の概要・各種統計を報告した。また、病院移転を見据え30年10月・11月に行ったジャーナル全文データベースサービス「医書.jpオールアクセス」の無料トライアルの利用実績を合わせて報告した。

病院図書室は、新刊用の雑誌架のみを医局棟3Fカンファレンスルームに残して、25年4月より本館7Fカンファレンスルームの一隅に書架を移動している。

データは一元管理しているが、スペースの関係上蔵書は殆どを各部門で排架しており、各部門からの要請で廃棄申請及び除籍処理も行っている。また、各種資料を病院ウェブサイトや電子カルテ端末で閲覧できるよう整備している。今後は病院移転に備え各部門保管の図書の整理を引き続き促していくとともに、病院が分かれることを考慮して電子コンテンツの契約や文献複写申込の方法等について検討を重ねたい。



広報委員会

【目的】 医療の公共性や、地域に開かれた病院としての観点から、広報誌の発行、病院パンフレット、ホームページを通じての患者さまや他医療機関、地域の方々に対するの広報を目的とする。

【構成員】 委員長 西澤輝彦
中央放射線部 川原、中央検査部 森田、薬剤部 吉永、福永、リハビリテーション部 兒島、栄養管理部 篠田（～6月）、染川（7月～）、相談支援センター 吉満、岡本、看護部（師長担当 輪番制）、診療情報管理部 畑中、経営企画室 御供田、総務企画課 前野、総務企画課 学術情報室 大原（書記）・永井（進行）

【活動状況】

年4回 但し必要に応じて随時開催

広報委員会では広報誌、院内報の編集、発行が主な活動となっている。

- ・広報誌 四季だより（季刊誌 年4回発行） ・院内報 いまきいれ（毎月発行）
- ・病院案内・病院業績集 昭和会誌（年報）平成30年10月発行
- ・ホームページ・Facebook これらの編集、発行、更新は学術情報室2名が担当

[広報誌コンセプト]

- ・意外と知られていない今給黎をもっと知ってもらう。
- ・院外とのコミュニケーションツールとして広報誌を活用し、医療機関・患者・地域・スタッフを繋ぐ

■年間広告費の予算を決定

■広告 リビングかごしま「がん征圧月間」2019年9月号 担当：永井

■広報関連フォーラム・研修参加

・HISフォーラム2018 in KYOTO 第22回全国病院広報研究大会 2018年10月27日 参加：永井

広報誌「四季だより」は昨年度から引き続き、各号で1診療科を紹介。広報誌は院外の医療関係者、採用関係へ配布。診療科紹介記事を1枚にまとめたペーパーも作成し、各医療機関訪問時に配布も継続している。広報誌の編集は、委員以外から希望があり記事を掲載することもあるが、大体が一部の広報委員が担当している状況である。また、広報誌編集だけに偏っている活動状況を打破したかったが、委員会で行う広報活動は難しいと感じた。

来年度は新病院の情報を広報する機会が増えると思うが、広報誌でも情報を公開していきたい。

広報誌・ホームページ等からの情報提供により病院への信頼、理解、好意を得られ、患者様の満足度も高められると思う。今後もより多くの情報を発信し、患者さま、関連施設、地域の方々とのコミュニケーションを図りたい。

研究実績 V

■ 各診療科・各部署別 研究実績

- 論文・誌上発表
- 学会発表 他

■ 院内研修会・講演会一覧

■ 院外活動報告

【診療部】2018年1月～12月

消化器内科

【学会発表】

- 山下真弘、吉永英希
皮膚病変を伴わない胃原発悪性黒色腫の一例
第106回 日本消化器内視鏡学会 九州支部例会 研修医発表 2018年11月9日 鹿児島

【講演（院内）】

- 倉田知幸 薬剤起因性消化管潰瘍のリスクとマネジメント

呼吸器内科

【学会発表】

- 川野ゆき子、里村 緑、亀之原佑介、新村昌弘、岩川 純
呼吸器外科 緑川健介、今給黎尚幸、米田 敏
第80回日本呼吸器学会 日本結核病学会九州支部春季学術講演会 2018年3月10日 長崎市
- 大田 篤（研修医）、里村 緑、亀之原 佑介、新村 昌弘、岩川 純
潰瘍性大腸炎の治療中に認めた肺病変の一例
第80回日本呼吸器学会 日本結核病学会九州支部春季学術講演会 2018年3月10日 長崎市

外科

【論文・誌上発表】

- 小倉芳人、緒方俊二、野口智弘、田中貴子、牟禮洋、吉田雅司、鎌田ユミ子、江頭寿洋
当院外科における周術期医科歯科連携の取り組みの現状 鹿児島市医報 681 : p27-31 2018
- 小倉芳人
周術期医科歯科連携の情報共有について～鹿児島県歯科医師会方式を使用して～
鹿歯会報 141 : p9-10 2018

【学会発表】

- 小倉 芳人
周術期医科歯科連携の情報共有について ～鹿児島県歯科医師会方式を使用して～
第40回九州口腔衛生学会総会（シンポジウム） 2018年9月9日 鹿児島市
- 野口智弘、小倉芳人、緒方俊二、田中貴子、米田 敏、今給黎尚幸、緑川健介
腹腔鏡及び胸腔鏡下に手術施行したMorgagni孔ヘルニアの一例
平成30年度鹿児島市外科医会秋季例会 2018年11月15日 鹿児島市

【研究会】

- 消化器がん治療カンファレンス 2018年12月20日 鹿児島市

呼吸器外科

【論文・誌上発表】

- 山本耕三、緑川健介、今給黎尚幸、米田 敏、岩崎昭憲
鈍的外力による外傷性気管完全断裂の1救命例 日本呼吸器外科学会雑誌 2019年33巻4号 p. 448-452
- 緑川健介、今給黎尚幸、米田 敏、岩崎昭憲
成人左Bochdalek孔ヘルニアから横隔膜破裂をきたしたと考えられた1例
日本臨床外科学会誌 投稿中

【学会発表】

- 今給黎尚幸、緑川健介、米田敏
多発肺癌に対する区域切除 南九州VATSクラブ 2018年1月27日 鹿児島

2. 緑川健介、今給黎尚幸、米田敏
完全鏡視下心膜合併切除にて摘出した胸腺癌の1例 南九州VATSクラブ 2018年1月27日 鹿児島
3. 緑川健介、今給黎尚幸、米田敏
完全鏡視下心膜合併切除にて摘出した胸腺癌の1例
七隈癌治療フォーラム 2018年2月9日 福岡
4. 佐保 卓、今給黎尚幸、米田 敏
肺癌術後癌性腹膜炎に対してEGFR-TKIが著効した1例
第58回日本肺癌学会九州支部総会 2018年2月23-24日 熊本
5. 緑川健介、今給黎尚幸、米田敏、岩崎昭憲
リウマチによる慢性炎症と遠隔転移との鑑別を有した胸腺癌の1例
第55回九州外科学会 2018年5月11 - 12日 福岡
6. 緑川健介、今給黎尚幸、米田敏、岩崎昭憲
成人Bochdalek孔ヘルニアが関連していたと思われる横隔膜破裂の1例
第35回呼吸器外科学会総会 2018年5月17 - 18日 千葉
7. 今給黎尚幸、緑川健介、米田 敏
鈍的外力による外傷性頸部気管完全断裂の治療経験
第35回日本呼吸器外科学会総会 2018年5月17 - 18日 千葉
8. 緑川健介、今給黎尚幸、米田敏、岩崎昭憲
再発した特発性肺内血腫の1例 第51回胸部外科学会九州地方会 2018年8月23 - 24日 鹿児島
9. 今給黎尚幸、緑川健介、米田 敏
難治性気胸に対するソフト凝固による嚢胞焼灼術
第80回日本臨床外科学会総会 2018年11月22 - 24日 東京
10. 緑川健介、今給黎尚幸、米田敏、岩崎昭憲
低肺機能、超高齢者に生じた肺癌肉腫の1例 第59回日本肺癌学会学術集会 2018年11月29 - 30日 東京
11. 緑川健介、今給黎尚幸、米田敏、岩崎昭憲
感染に伴う増大を契機に胸腔鏡下に切除した気管支嚢胞の1例
第31回日本内視鏡外科学会総会 2018年12月6 - 8日 福岡

整形外科

【論文・誌上発表】

1. Uezono N, Zhu Y, Fujimoto Y, Yasui T, Matsuda T, Nakajo M, Abematsu M, Setoguchi T, Mori S, Takahashi KH, Komiya S, Nishibori M, Nakashima K
Prior treatment with anti-high mobility group box-1 antibody boosts human neural stem cell-transplantation-mediated functional recovery after spinal cord injury.
Stem Cells 36(5) : 737-750, 2018, IF:5.587
2. Nakajo M, Uezono N, Nakashima H, Wake H, Komiya S, Nishibori M, Nakashima K
Therapeutic time window of anti-high mobility group box-1 antibody administration in mouse model of spinal cord injury
Neurosci Res 141 : 63-70, 2019, IF:2.277
3. 宮口文宏、川畑直也、松永俊二、今給黎尚典、佐々木裕美、小宮節郎
整形外科と災害外科 胸腰椎破裂骨折に対する内視鏡視下前方固定術の椎体矯正率
整形外科と災害外科 67(2) : 283-287, 2018
4. 宮口文宏、川畑直也、松永俊二
Journal of Spine Research
イメージのみ使用した頸椎椎弓根スクリューの安全かつ固定力をあげる刺入方法 (抄録)
J Spine Res 9(3) : 737, 2018

【学会発表】

1. Nagano S, Futagawa T, Sumi E, Ijichi N, Yamaguchi M, Nakajo M, Hashiguchi T, Takeda Y, Yoshiura T, Shimizu A, Takatani M, Komiya S, Kosai K
Phase I study of potentially "best-in-class" survivin-responsive conditionally replicating adenovirus for advanced sarcoma actually demonstrates potent and long-term efficacy and high safety
American Association for Cancer Research(AACR) Annual Meeting 2018 【Chicago, USA】 April 14-18, 2018

2. 前原光佑、中村優子、香川陽一、堀川良治、中村雅洋
小児化膿性肩関節炎の3症例 第63回鹿児島整形外科集談会 2018年1月13日 鹿児島
3. 堀川良治
腱鞘切開術後に発生した著明なPIP関節屈曲拘縮に対する治療経験
第39回九州手外科研究会 2018年2月3日 福岡市
4. 宮口文宏
PEDの応用-仙腸関節固定, 胸椎化膿性脊椎炎に対する経肋的ドレナージ
第19回JOA内視鏡セミナー 2018年2月10日
5. 宮口文宏、川畑直也、松永俊二
イメージのみ使用した頸椎椎弓根スクリューの安全かつ固定力をあげる刺入方法
第47回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2018年4月12日-14日 神戸市
6. 宮口文宏
化膿性脊椎炎に対するPEDを用いたドレナージとPPSを用いた固定
第41回日本骨・関節感染症学会 7月6日-7日 大阪
7. Nagano S, Futagawa T, Sumi E, Ijichi N, Yamaguchi M, Nakajo M, Hashiguchi T, Takeda Y, Yoshiura T, Shimizu A, Takatani M, Komiya S, Kosai K
First-in-human investigator-initiated clinical trial of survivin-responsive conditionally replicating adenovirus for treating bone and soft tissue sarcoma
第24回 日本遺伝子細胞治療学会学術集会
8. 黒島知樹, 堀川良治, 川畑直也, 宮口文宏, 松永俊二
交通外傷による肩鎖関節脱臼を伴う烏口突起骨折の1例
第64回鹿児島整形外科集談会 2018年9月1日
9. 宮口文宏
脆弱性骨盤骨折に対する外科的治療方法とその変遷
第7回九州骨盤骨折研究会 2018年9月1日

産婦人科

【論文・誌上発表】

1. 中間恵美子、加藤明彦、兒島信子、寺原賢人、鉾立博文、白濱浩、田代幸恵
当院で経験した硬化性間質性腫瘍の2例 鹿児島産科婦人科学会雑誌第26巻 2018年3月9日

新生児内科

【論文・誌上発表】

1. 丸山有子
感染症と免疫 2. 妊娠と感染症 ①トキソプラズマ 柴原浩章(編) 実践 臨床生殖免疫学 中外医学社 東京 498-503 2018
2. 丸山有子
感染症と免疫 2. 妊娠と感染症 ⑤単純ヘルペスウイルス 柴原浩章(編) 実践 臨床生殖免疫学 中外医学社 東京 519-524 2018

【講演(院外)】

- 丸山有子 周産期感染症 第8回生長会産婦人科レビューコース 2018年2月
丸山有子 周産期医療現場の現状 志學館大学発達支援センター研修会 2018年8月

【研修会の開催】

1. 第73回九州新生児研究会 2018年9月22日
特別講演:大阪府立精神医療センター 宇藤裕子
「NICUでの痛みの緩和ケア」
清和会浅井病院精神科・国立精神神経研究センター 太田英伸
「胎児・新生児の眠りの発達〜子宮環境と光環境のつながり」

小児科

【学会発表】

1. 永留佑佳、柿本令奈、溝田美智代、玉田 泉、関 祐子、森田 智、大坪喜代子、河野嘉文
母体のビタミンD欠乏を認め、低Ca・低Mg血症による嘔吐、哺乳不良をきたした新生児3例. 第52回日本小児内分泌学会・学術集会 東京 2018年10月4-6日
2. 関 祐子、永留佑佳、柿本令奈、玉田 泉、森田 智、大坪喜代子、溝田美智代
不適切TSH分泌症候群（SITHS）が疑われた一例. 第1回日本小児内分泌学会 九州・沖縄地方会 大分 2018年2月11日
3. 永留佑佳、柿本令奈、溝田美智代、玉田 泉、森田 智、大坪喜代子
母体のビタミンD欠乏を認め、低Ca・低Mg血症による嘔吐、哺乳不良をきたした早産、低出生体重児の2例. 第167回日本小児科学会鹿児島地方会 2018年2月4日
4. 堂福美佳、上野さやか、玉田 泉
当院におけるフラッシュグルコースモニタリング（FGM）導入後の1型糖尿病患者のコントロール状況について 鹿児島小児内分泌研究会 鹿児島 2018年10月27日

放射線診断科・放射線治療科

【学会発表】

1. 銚立博文、長谷川知仁、佐竹有貴、中禮久彦、大久保幸一、今給黎和幸
PTGBD経路からの胆嚢管通過にTriple coaxial systemが有用であった総胆管結石の1例
第41回九州IVR研究会 2018年12月15日 福岡

緩和医療科

【主催】

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 2016年10月14日 かがしま県民交流センター 鹿児島市

【講演（院外）】

小玉 哲史 気持ちのつらさへの対応～自分がつらくならないためのヒント～
第4回鹿児島緩和ケア地域連携会議 2018年2月21日 鹿児島市

歯科口腔外科

【学会発表】

1. 吉田雅司
スポーツマウスガードの現状
3Dプリンタ/スキャナ利活用研究会 2018年2月16日 鹿児島市
2. Masashi Yoshida
What can I do for dental medicine in Myanmar: Sports dentistry
April 6, 2018 at University of Dental Medicine, Mandalay
3. 吉田 雅司
スポーツマウスガード製作について～現状と今後の動向（デジタル化）～
3Dプリンタ/スキャナ利活用研究会 2018年5月12日 鹿児島市
4. 吉田雅司
スポーツ歯科概論 スポーツ外傷とスポーツ障害 ～口腔外科的な対応～
スポーツ歯学研究会 鹿児島市 2018年5月26日
5. 吉田雅司
学校歯科医の活動
平成30年度学校保健委員会 2018年6月7日 鹿児島市
6. 江頭寿洋、河井洋祐、吉田雅司
当施設における顎変形症患者の手術症例の臨床的検討
第63回日本口腔外科学会総会・学術総会 2018年11月2日～4日 千葉市
7. Masashi YOSHIDA, Kiyomi KAWASHIMA, Hirofumi FUKUDOME, Kiyoko TOKUNAGA, Yuriko NISHIMURA
JICA Report: Feasibility Survey with the Private Sector for Utilizing Japanese Technologies in ODA Projects Myanmar, Improvement of Dental Service Industry by Introduction of Comprehensive

System

November 29, 2018 at University of Dental Medicine, Mandalay

8. Masashi YOSHIDA

The future of sports mouthguard ~Application of digital dentistry to sports dentistry~

【講演(院外)】

吉田雅司 スポーツ歯学の現状とこれから 長崎大学歯学部講義 2018年5月15日 長崎市

吉田雅司 17. スポーツ外傷とスポーツ障害(3): 顎骨・軟組織の外科対応
日本体育協会スポーツデンティスト講義 2018年11月3日 東京都

救急科

【学会発表】

1. 吉留寛人、西山淳

急激な転帰をとった劇症型A群β溶連菌感染症による壊死性筋膜炎の一例
第84回鹿児島救急医学会 2018年9月1日 鹿児島市

2. 山下真弘、西山淳

心肺停止で来院した無症候性Brugada症候群の一例
第46回日本救急医学会総会 2018年11月19～21日 横浜市

【表彰】

西山淳 かがしま市消防70の祭典 消防協力者 平成30年8月5日

【各部門】2018年4月～2019年3月

看護部

【論文・誌上発表】

1. 原田純子
それぞれの暮らしの場の看護 (1) NICU (新生児集中治療室) の看護 訪問看護と介護 医学書院
2018年9月号 (Vol. 23 No. 9)
2. 有村 こずえ NICUの退院支援 第29号新潟小児看護研究会ニュースレター 新潟小児看護研究会
3. 椎木 眞美子 ストーマケアの現場から 日本オストミー協会誌9月号 日本オストミー協会

【学会・院外研究会発表】

1. 飯塚君枝
A病院NICUにおけるN-CPAP離脱基準の作成に向けて (第一報) ～無呼吸発作の実態調査～
第71回九州新生児研究会 2018年5月26日 長崎
2. 本田 里美
鹿児島県助産師会 勤務助産師部会 活動報告
平成30年度公益社団法人日本助産師会通常総会・第74回日本助産師学会 2018年5月26日 鹿児島
3. 飯塚君枝
A病院NICUにおけるN-CPAP離脱基準の作成に向けて (第一報) ～無呼吸発作の実態調査～
第6回周産期フォーラム 2018年6月23日 千葉
4. 芝こずえ
がん放射線療法看護認定看護師として今後の実践と課題～放射線食道炎の支援を振り返って～
第7回日本放射線看護学会学術集会 2018年9月8日 長崎
5. 大重智子
訪問看護人材活用施行事業に参加して～訪問看護を経験して学んだこと～
シンポジウム ファシリテーター参加 鹿児島県看護協会退院支援 2018年9月14日 鹿児島
6. 原田純子
鹿児島県のNICU 施設間連携と当院の役割 第72回九州新生児研究会 2018年9月22日 鹿児島
7. 飯塚君枝
A病院NICUにおける早産児の無呼吸発作の実態調査 第28回日本新生児看護学会 2018年11月23日 東京
8. 河原 尚美
A病院の肺癌患者における静脈血栓塞栓症の発症状況と看護支援の課題
第59回日本肺癌学会学術集会 2018年11月29日 東京

【講演(院外)】

- | | | | |
|------|-----------------------------|----------------|------|
| 河原尚美 | 免疫チェックポイント阻害剤治療についてMSD株式会社 | 2018年7月11日、18日 | 鹿児島市 |
| 河原尚美 | 免疫チェックポイント阻害剤治療についてMSD株式会社 | 2018年7月18日 | 鹿児島市 |
| 河原尚美 | アストラゼネカ社員教育企画 アストラゼネカ株式会社 | 2018年8月20日 | 鹿児島市 |
| 河原尚美 | 社内学術研修MSD株式会社 | 2018年8月30日 | 鹿児島市 |
| 河原尚美 | ICI副作用マネジメント勉強会 アストラゼネカ株式会社 | 2018年10月25日 | 鹿児島市 |

【受賞】

- | | | | |
|-------|-----------|--------|-----------|
| 岩下邦子 | 鹿児島県医師会長賞 | 看護業務功労 | 2018/6/16 |
| 尾之上稲子 | 鹿児島県医師会長賞 | 看護業務功労 | 2018/6/16 |

薬剤部

【学会・院外研究会発表】

1. 築地辰典、財間富士子、前嶋一友、高橋真理
 当院におけるB型肝炎ウイルス再活性化対策への取り組み ―内服抗がん薬における外来での取り組み―
 第26回クリニカルファーマシーシンポジウム 2018年6月23日 東京
2. 壽 明伸、久津輪久世、前嶋一友、高橋真理
 当院におけるDOACの使用状況と適正使用に向けた取り組み
 第26回クリニカルファーマシーシンポジウム 2018年6月24日 東京
3. 久津輪久世 立和名聖子 岩川純
 当院におけるCDI治療薬の適正使用に向けたICTの取り組み
 第66回日本化学療法学会西日本支部総会 2018年11月16日 鹿児島

【座長】

- 高橋真理 NAGATOWNプロジェクト 2018年11月13日 南風病院多喜ホール
 高橋真理 第22回鹿児島県病院薬剤師会感染制御薬物療法対策講習会
 2018年9月22日 株式会社アステム鹿児島営業部 5階会議室
 高橋真理 第23回鹿児島県病院薬剤師研修会感染制御薬物療法対策講習会
 2018年12月15日 TKPガーデンシティ鹿児島中央 2階霧島プレミアム
 高橋真理 PDセミナー 2018年12月18日 東急REIホテル
 高橋真理 第3回鹿児島県病院薬剤師会学術大会 シンポジウム3 2019年2月17日
 鹿児島大学郡元キャンパス
 高橋真理 臨床薬学研究会 2019年3月26日 鹿児島県医師会館

中央放射線部

【学会・院外研究会発表】

1. 丸尾美由紀 骨粗鬆症の病態と診断・治療について さくらRT研修会 2018年6月23日
2. 稲留久恵 鹿児島県における骨シンチ検査の実態調査 第32回日本核医学技術学会九州地方会 2019年7月8日
3. 池田真一 小児MRIの撮影方法の紹介 第21回鹿児島MRI研究会 2019年8月4日
4. 浮田啓一郎 ITEM2018最新情報 第21回鹿児島MRI研究会 2019年8月4日
5. 川原美咲 ミサキの知らないDWIの世界 第8回かごんまGYRO Meeting 2018年8月18日
6. 池田、浮田 DWIの基礎 第8回かごんまGYRO Meeting 2019年8月18日
7. 浮田啓一郎 統一講習会（鹿児島大学病院）日本放射線技師会 2018年6月17日24日
8. 丸尾美由紀 一般演題（示説発表） 第34回日本診療放射線学術大会 2018年9月21日
9. 丸尾美由紀 日放シンポジウム1：報告“FRT九州” 第34回日本診療放射線学術大会 2018年9月21日
10. 中村亮也 QA・QCにかんしてCT装置 H30年度鹿児島放射線技師会管理士部会 2018年11月17日
11. 宮ヶ谷瑠璃 造影注入時に関わる技師業務 第44回鹿児島CT研究会 018年11月21日
12. 浮田啓一郎 腹部超音波初めの一步胆嚢炎について 第239回鹿児島超音波医学研究会 2018年11月29日
13. 浮田啓一郎 診療画像検査学Ⅰ（MRI）鹿児島医療技術専門学校 2019年1月17日24日31日
14. 浮田啓一郎 統一講習会 日本放射線技師会（大隅鹿屋） 2019年1月27、2月3日
15. 池田真一 PACSクラウド現状と問題点～4年を迎えて 第15回鹿児島医療情報システム研究会 2019年2月16日
16. 川畑朋之 施設発表手術支援画像 第45回鹿児島CT研究会 2019年2月20日

【学会発表(ディスカッション)】

1. 新村栄次 CT装置の最新情報の提供 第42回鹿児島CT研究会 2018年5月19日
2. 新村栄次 DECTの基本原理と臨床使用 第43回鹿児島CT研究会 2018年8月22日
3. 新村栄次 造影検査を安全に行うために 第44回鹿児島CT研究会 2018年11月21日
4. 新村栄次 手術支援画像 第45回鹿児島CT研究会 2019年2月20日

中央検査部

【学会・院外研究会発表】

1. 西田智佳、原菌真由美、久永洋一郎、岩崎明日香、水流遥香、村中利也
 尿試験紙法の基礎 鹿児島県奄美大島地区学術研修会 2019年3月9日 奄美市

【座長】

西田智佳 第67回日本医学検査学会 2018年6月
村中利也 第7回九州ICMTを育てる会 2018年6月
西田智佳 第1回臨床一般部門研修会 2018年7月
西田智佳 第2回臨床一般部門研修会 2018年10月
村中利也 第3回臨床微生物検査部門研修会 2018年12月

QCセンター 褥瘡管理課

1. 椎木眞美子

褥瘡予防ラウンド導入における褥瘡予防の効果 日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 2018年

院内研修会・講演会一覧

平成30年度講義室にて開催された研修会・講演会一覧

月 日	演 題	講 師	参加者数
5月11日	サイエンス漢方処方セミナー がんと漢方	静仁会 静内病院 院長 井齋 偉矢	76名 (外部24名)
5月19日	がん・緩和ケア研修会 ケアと対人援助に活かす臨床瞑想法	飛騨千光寺 住職 大下 大圓	50名 (外部10名)
5月28日	循環器疾患トータルケアセミナー 高齢者心疾患を未然に防ぐ	鹿児島大学 心臓血管高血圧内科学 教授 大石 充	136名 (外部53名)
5月30日	医療安全研修会 医療安全管理 院内事例からの報告	医療安全管理課 課長 千田 清美	897名
6月7日	院内感染研修会 感染経路別の感染防御	当院 呼吸器内科 部長 岩川 純	6/7 148名 6/14 138名 7/3 110名 7/12 6名
6月25日	医療倫理講習 日本専門医機構認定講習会 医療倫理における利益相反	天文館法律事務所 弁護士 林 宏嗣	93名 (外部48名)
6月28日	院内勉強会 薬剤起因性消化管潰瘍のリスクとマネジメント	当院 消化器内科 医師 倉田 知幸	84名
7月13日	第1回救急隊・今給黎総合病院合同カンファレンス 症例検討会 6演題 検討 プレホスピタルケアセミナー 脊椎外傷	救急隊 3演題 当院 3演題 当院整形外科 部長 宮口 文宏	198名 ドルフィンポート (救急隊43名)
7月18日	職員勉強会 熱中症 -鹿児島を脅かすもう一つの災害-	当院 麻酔科 科長 西山 淳	82名
7月26日	全管理職対象研修 コミュニケーション研修～風通しの良い職場作り～	(株)HLAビジネス 春田 尚子	7/26 15名 8/9 21名 8/16 28名 8/27 16名 9/14 9名 9/19 19名
7月27日	地域連携講演会 ～がん化学療法の悪心・嘔吐を考える～ 当院における化学療法に伴う悪心・嘔吐への取り組み 制吐療法に関する最近の話題 -ガイドラインの改訂を含めて-	当院 がん化学療法看護認定看護師 赤坂 美保 福岡大学医学部 腫瘍血液感染症内科 講師 佐々木 秀法	76名 (外部4名)
8月3日	医療連携講演会 社会保障について ～医療・医薬品分野を中心として～	前厚生労働省 事務次官 二川 一男	90名 (外部24名)
10月12日	がん・緩和ケア研修会 緩和ケア病棟の実践 ～地域社会のニーズに合わせて～	いづろ今村病院 緩和ケア病棟 師長 中窪 尊子	79名 (外部17名)
11月1日	院内感染研修会 日本専門医機構認定共通講習会 インフルエンザ院内発症時対応の再点検	当院 呼吸器内科 部長 岩川 純	11/1 125名 11/22 121名 11/27 134名 11/28 119名 11/29 113名 12/3 121名 12/5 115名 12/6 84名 (外部7名)
11月8日	定期多施設合同カンファレンス 最後まで治療を希望した30代の方との関わりを振り返って	当院をふくめ鹿児島市内6病院の医師・看護師 保健師・薬剤師など	16名 (外部10名)
11月16日	医療安全研修会 日本専門医機構認定講習会 コミュニケーションの視点から考える説明と同意 ～他職種・他部門との情報交換を通して考える～	東京海上日動メディカルサービス(株)審査企画課 メディカルマネジメント室 主任研究員 玉利 英子	252名 (外部17名)
11月28日	第2回救急隊・今給黎総合病院合同カンファレンス 症例検討会 3演題 Up to Date ケースカンファレンス マムシ咬傷 -救命しえなかったマムシ咬傷症例を通して初期 対応を考察する-	当院 3演題 当院 麻酔科 科長 西山 淳	122名 (救急隊33名)

11月30日	口腔ケアチーム・NST合同研修会 舌から見える身体の話&未病としての口腔機能低下症	田中矯正歯科 歯科慢性疾患診療室 部長 山口 孝二郎	82名
12月8日	鹿児島県内 皮膚・排泄ケア認定看護師勉強会 WOCに係わる 医療マネジメント -医療制度改革の惑星直列を多面的な視点で整理する-	スリーエムジャパン(株) ヘルスケアカンパニー 医療用製品事業部 マネージャー 高水 勝	24名 (外部17名)
12月14日	医療安全研修会 日本専門医機構認定講習会 医療の質を担保する診療録について	いづろ法律事務所 代表弁護士 鏑野 孝清	593名
12月20日	消化器がん治療カンファレンス 直腸癌への術前化学放射線療法 直腸癌への補助化学療法	東海大学医学部 消化器外科 教授 貞廣 荘太郎	71名 (外部8名)
3月20日	鹿児島骨粗鬆症治療 Lecture 当院の骨粗鬆症の取り組み 骨粗鬆症の治療戦略 ～科学的評価と再現性を～	恒心会 おぐら病院 整形外科 海江田 光祥 福岡みらい病院 整形外科 高柴 賢一郎	84名 (外部13名)

院内外活動報告

NICU20 周年記念会 (2018 年 4 月 30 日)

今給黎総合病院 NICU20周年記念会を鹿児島市サンロイヤルホテルにて開催いたしました。記念会にはご来賓の方々をはじめ、医療機関、関連施設等のみなさまにお越しいただき、また当院関係者も出席し盛大に執り行われました。



広報誌「四季だより」55号 平成30年6月より

第5回情報交換会(ケアカフェ)を開催

今年度2回目となる、看護部入退院支援調整委員会主催の情報交換会(ケアカフェ)を開催しました。

当院職員38名と地域福祉職等23カ所32名が参加し『議論が交わせる関係性の構築』をテーマに、問題点や解決策を一緒に考えました。様々な職種からそれぞれの目線で様々な考え方や経験を聞くことで、情報共有しやすい相互の工夫、各専門職の役割を理解し、更に連携がとりやすい関係性を構築することができ大変充実した時間となりました。今後もその人らしさを大切に看護と介護を繋げて行きたいと思えます。



広報誌「四季だより」57号 平成30年12月より

ドクターカー運用開始

11月5日よりドクターカーの運用を開始しました。

各種医療資器材を搭載した当院の救急車に医師1名、看護師1名、事務員2名が同乗し、当院受け入れとなるドクターヘリ搬送となった傷病者を浜町ヘリポートでドッキング搬送とするものです。

これによりドクターヘリスタッフ、救急隊の負担が軽減され、円滑な救急活動の一助となりますよう少しずつその活動の範囲を広げていく予定です。

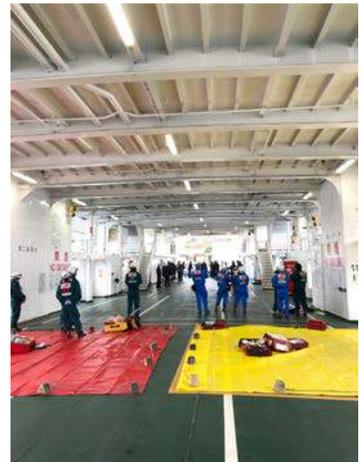
また、洋上救急協力病院として洋上で発生した救急事案に対して要請があれば迅速に医師、看護師の派遣が行えるように常時救急部門スタッフは現場出動に備えています。

広報誌「四季だより」57号 平成30年12月より



DMAT 訓練参加

2019年1月12日 鹿児島市で行われた「桜島火山爆発総合防災訓練」に参加しました。



3月13日にマリンリポートかごしまに寄港中の「飛鳥II」において、県内初の大型クルーズ船の事故を想定した訓練が行われ、当院DMATが参加しました。



新病院 起工式 開催日：平成30年12月7日(金) 場所：鹿児島市高麗町43番地12(建設地)



北海道新生児搬送



Family-Centered Careの理念を積極的に取り入れている当院NICU。今回、鹿児島市立病院で出生しgrowing care目的で当院へ入院の新生児を、ご家族の住む北海道まで搬送しました。

本児は2018年7月6日に在胎36週2日、双胎（二絨毛膜二羊膜性）第2子として鹿児島市立病院にて帝王切開で出生、出生体重938gの超低出生体重児でした。前医で急性期の管理を受け経過良好であったため、第1子と一緒に2018年7月25日（日齢25）にGrowing Care目的で当院NICUへ転院となりました。



ご家族はもともと4人家族で北海道の室蘭市近郊にお住まいでしたが、今回母体の管理入院が必要な状況となったため、ご実家のある鹿児島で出産となりました。母ご自身の退院後にはご実家や助産院で生活をされながら、児への面会のためNICUへ通っておられました。出生体重が2070gである双胎第1子は、2018年8月9日（修正41週）体重2664gで一足先に母の元へ退院しました。第1子退院当時、本児の方はまだ体重が1372gでした。呼吸サポートの必要はなく経口哺乳も可能な状態ではありましたが、体重増加を考慮すると退院可能な状態まで少なくともあと2ヵ月程度の入院が必要と思われました。父と二人の兄は夏休みを利用して鹿児島に滞在されていましたが、学校の開始と同時に北海道へ戻ることとなり、今後北海道と鹿児島での離れての生活が予想されました。



近年、Family-Centered Careという「入院中であっても患者と家族がなるべく一緒に過ごし、入院中の患者さんだけでなくご家族も治療の意思決定の主体であるべきだ」という考え方が主流となりつつありますが、入院患者が赤ちゃんであるNICUにおいてもFamily-Centered Careにより、児と家族との愛着形成や家族の満足感の向上、早産児の発達や精神衛生面に及ぼす良好な影響のみならず、医療経済的な面でも注目されています。当院NICUにおいても積極的に取り入れている理念です。

本児は当時1500g未満の体重ではあるものの航空機での移動が可能な安定した状態であるため、北海道内のNICUへ新生児搬送を行い地元で今後の入院加療を継続することが、Family-Centered Careの点から理想的であるのではないかと判断しました。

そこでご自宅近郊の室蘭市日鋼記念病院NICUへ受け入れをお願いし、転院は2018年8月22日と決定しました。転院へ向けて、航空機内持ち込み可能な移動用保育器の確保、移動用のモニター、酸素ボンベの確保、JRおよび航空機チケット確保、出発時間と先方への到着時間の調整を行いました。

転院当日の行程は以下の通りで、当院 医師1名、看護師1名、臨床工学技士1名が同行しました。

-
- 7:00 新生児専用搬送車「もじょか号」にて当院出発
 - 7:20 鹿児島中央駅到着
 - 8:02 鹿児島中央駅を出発 博多へ移動
(九州新幹線、多目的室利用にて)
 - 9:18 博多駅に到着
 - 10:00 福岡空港へ移動
(福祉タクシーにて)
 - 10:20 福岡空港に到着。機材検査、搭乗手続きなど
別室にて実施していただく
(臨床工学技士は福岡空港までの同行でした)
 - 12:15 新千歳空港へ出発 (ANA289 便にて)
 - 14:09 新千歳空港に到着
-

新千歳空港にて福祉タクシーを利用して迎えに来ていただいた転院先の日鋼記念病院NICUの医師と看護師へ本児を無事に引継ぐことができました。

新幹線の中や航空機内でも、常時、心拍数および酸素飽和度のモニタリングを行いました。移動中、児の vital に大きな変化はありませんでした。その間の哺乳意欲も普段と著変なくとても旺盛で安心しました。搬送後ご家族も「今後は家族で近くにいられます」と非常に喜んでくださいました。

その後、児は2018年10月13日（日齢99）、体重3155gで無事に自宅退院となったとのこと。

今回、鹿児島から北海道へという極めて遠距離の新生児搬送を、関係各位のご尽力、ご協力をおもひまして、無事に行うことができました。心より感謝申し上げます。

新生児内科 佐藤 恭子



昭和会クリニック VI

■ 現状・医療設備概要・業績

- (1) 標榜科目
- (2) 病床数 無床
- (3) 施設概要
- (4) 医療設備概要
- (5) 科別外来患者数
- (6) 外来患者市町村別分布図

昭和会クリニックの現況

(1) 標榜科目(14診療科)

内科、糖尿病内科、脳神経内科、呼吸器内科、小児科、整形外科
 形成外科、脳神経外科、皮膚科、新生児内科、
 気管食道・耳鼻いんこう科、放射線科、
 歯科、歯科口腔外科

(2) 病床数 無床

(3) 敷地面積 1128.02 m² 建築面積 787.73 m²

(4) 放射線部門 医療設備概要

検査室名(撮影室番号)等		メーカー	機種名	台数
1	一般撮影室(10)	島津 キャノン 近畿レントゲン	(1)UD-150B-40(RADIOTEX)	1
			(2)CXDI-50G(臥位用X線デジタルカメラ)	1
			(3)KR8100(パノラマ装置)	1
2	一般撮影室(9)	島津 キャノン	(1)UD-150B-40(RADIOTEX)	1
			(2)CXDI-50G(立位用X線デジタルカメラ)	1
			(3)CM-100(超音波骨密度測定)	1
3	X線CT(MDCT)室(8)	フィリップス	ブリリアンス Brilliance16(16列MDCT)	1
5	骨密度測定室	ホロジック	Discovery Wi	1
6	MRI室	フィリップス	インテラ アチーバ ノバ Intera Achieva Nova(1.5テスラ)	1
受付・ 操作室	C R レーザーイメージャー	ケアストリーム	(1)CR850 (2)ドライビュー8900	1 1
	画像処理	NOBORI 富士	画像ネットワークシステム(PACSクラウド化・検像システム) VINCENT(3Dワークステーション)	1式 1式
口腔外科	デンタル室	朝日レントゲン	サテライト MX-60N	1

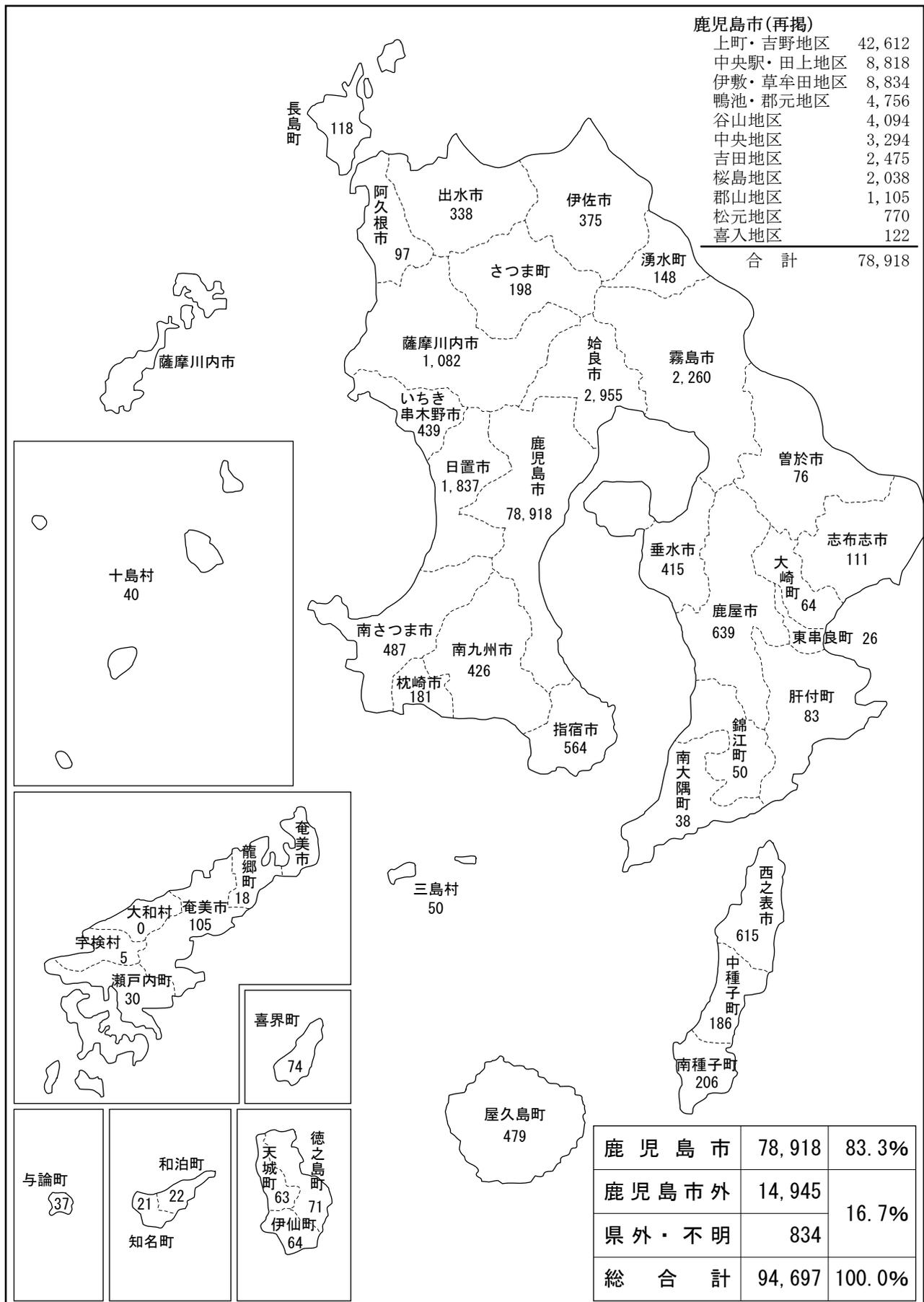
(1) 平成30年度 科別外来患者数（複数診療科受診を各々1とした場合）

・ 1日平均：患者数÷平日・土曜日数（祝日除く）・ 在宅医療含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計	1月平均	1日平均	初診率(%)
総合内科	565	612	562	554	592	461	674	790	740	840	618	653	7,661	638	28.5	34.6
糖尿内科	213	214	196	205	213	169	221	204	216	208	191	200	2,450	204	9.1	2.6
呼吸器内科	399	460	453	469	512	427	488	460	448	397	420	466	5,399	450	20.1	11.7
神経内科	796	842	854	854	797	770	809	720	781	709	702	753	9,387	782	35.0	9.7
整形外科	2,203	2,300	2,457	2,223	2,405	2,116	2,370	2,303	2,181	2,082	2,042	2,226	26,908	2,242	100.2	13.4
形成外科	399	474	566	603	673	554	634	568	543	602	460	584	6,660	555	24.8	18.3
脳神経外科	305	310	308	331	285	251	303	284	300	291	260	274	3,502	292	13.0	8.1
新生児内科	110	109	138	133	128	151	138	124	114	123	127	136	1,531	128	5.7	0.8
小児科	713	685	695	698	749	634	784	830	853	915	667	797	9,020	752	33.6	29.1
気管食道・耳鼻いんこう科	444	445	432	430	484	387	466	408	419	380	376	425	5,096	425	19.0	26.5
皮膚科	814	813	874	935	903	841	892	805	793	795	700	823	9,988	832	37.2	21.2
放射線科	3	3	5	7	4	9	2	1	6	4	5	5	54	5	0.2	81.5
歯科	245	269	289	299	300	266	290	309	272	289	269	334	3,431	286	12.8	31.3
歯科口腔外科	248	257	309	291	337	330	341	276	295	267	317	342	3,610	301	13.4	38.9
合計	7,457	7,793	8,138	8,032	8,382	7,366	8,412	8,082	7,961	7,902	7,154	8,018	94,697	7,891	-	19.0
1日平均	339	346	346	349	342	359	351	359	370	376	341	356	-	-	352.7	-
救急車患者数 (再掲)	3	3	2	1	0	1	1	1	0	2	2	0	16			

初診	1,407	1,502	1,582	1,559	1,591	1,362	1,550	1,450	1,391	1,593	1,467	1,553	18,007	1,501	61.0	-
再診	6,050	6,291	6,556	6,473	6,791	6,004	6,862	6,632	6,570	6,309	5,687	6,465	76,690	6,391	260.0	-
初診率(%)	18.9	19.3	19.4	19.4	19.0	18.5	18.4	17.9	17.5	20.2	20.5	19.4	19.0	-	-	-

(2) 平成30年度 外来患者市町村別分布図(複数診療科受診を各々1とした場合)



公益社団法人昭和会
昭 和 会 誌 (第24号)

発行日 2019年11月

発 行 公益社団法人昭和会

今給黎総合病院

〒892-8502 鹿児島市下竜尾町4番16号

電 話 099-226-2211(代表)

FAX 099-222-7906

URL <http://imakiire.jp>

E-mail info@imakiire.or.jp

公益社団法人昭和会

昭和会クリニック

〒892-0852 鹿児島市下竜尾町2番6号

電 話 099-226-2212(代表)

FAX 099-226-3366

URL <http://imakiire.jp>

E-mail info@imakiire.or.jp

公益社団法人昭和会 平成 30 年度事業実施概況書

【 特記事項 】

4 月 2 日	公益社団法人へ移行
9 月 28 日	鹿児島県 DMAT 指定病院 (P12)
11 月 1 日	浜町ヘリポートにおける今給黎ドクターカー運用開始 (P12)
12 月 7 日	新病院起工式

目 次

1.	がん医療対策関連	P1～8
	地域がん診療連携拠点病院活動報告	
	1) 公開緩和ケア研修会	
	2) がん・緩和ケア研修会	
	3) がんに関する講演会・研修会	
	4) 「ほっとサロン今給黎」	
	5) 院内がん登録集計	
	6) 施設基準に基づく主傷病名大分類	
	7) がん検診実績	
	8) 病院指定	
2.	脳卒中	P8
3.	急性心筋梗塞	P8
4.	糖尿病	P8
5.	精神疾患	P9
6.	救急医療	P9～11
7.	災害時における医療	P11
8.	へき地医療	P11
9.	周産期医療	P11
10.	小児（救急）医療	P11
11.	地域医療支援病院活動報告	P12
12.	クオリティーインディケーター（入院・救急・手術・紹介に関する指標） ..	P13～14
13.	初期臨床研修病院実績	P15
14.	実習病院としての実績	P16～17
15.	視察・研修・見学（社会人の個人、団体、および学生）の受入	P17～18
16.	文化活動・スポーツ事業活動・ボランティア活動	P18～19
17.	教育機関への講師派遣	P19～20
18.	主な公的会議・研修会への参加	P20～21
19.	入院患者不在者投票	P21
20.	施設の公開利用	P21
21.	その他の活動報告	P22
22.	表彰	P22

5 疾病

5 事業

1. がん医療対策関連について

地域がん診療連携拠点病院活動報告

1) 公開緩和ケア研修会

厚生労働省局長通知による「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催方針」に則り、地域のがん診療に携わる医師を対象に、当院主催により次の通り「公開緩和ケア研修会」を開催した。

(日 時) 10月29日(日) 9:00～17:30
(場 所) かがしま県民交流センター 3階会議室
(参加者) 15名
(講師・スタッフ) 20名

2) がん・緩和ケア研修会

10月12日 がん・緩和ケア研修会 「緩和ケア病棟の実際～地域社会のニーズに合わせて～」
講師 いづろ今村病院 緩和ケア病棟師長 中窪尊子 79名(外部17名)聴講

3) がんに関する講演会・研修会・会議への派遣

4月15日 子宮がんプロジェクト 看護部3名派遣
5月12日 つながる思い in かがしま～がんとともに生きる～ 看護部1名・放射線部1名派遣
5月26日・27日
鹿児島県立薩南病院 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会
講師 医師1名派遣
7月15日 南九州病院 がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会
講師 医師2名派遣
8月18日 済生会川内病院 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 講師 医師1名派遣
9月9日 県民健康プラザ鹿屋医療センター
がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会 講師 医師1名派遣
1月13日 鹿児島医療センター がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会
講師 医師1名派遣
3月2日 鹿児島大学病院 がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会
講師 医師1名派遣

4) 「ほっとサロン今給黎」

がん患者とその家族を対象に、病気や心の悩み、体験などを気軽に語り合い、思いを共有する場として「がんサポートかごしま」と共同で「ほっとサロン今給黎」を院内開催してサポートした。

(毎月第3水曜日開催、無料)

計143名参加

5)院内がん登録集計

【院内がん登録集計 2018年1月～2018年12月31日 739件】

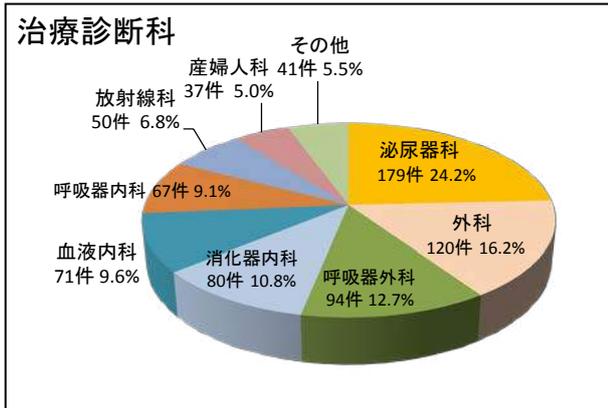
※がん登録の対象となる症例：上記期間中に診断及び治療の対象となった症例

★1腫瘍1登録★ 重複がんの場合は原発の数をそれぞれ登録

①治療診断科

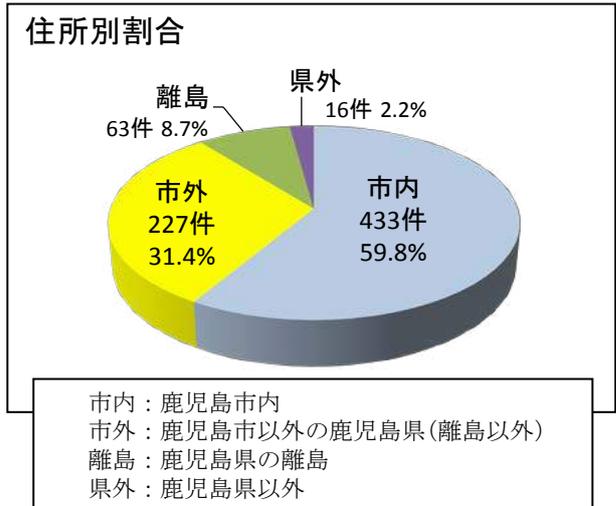
診断のみで終了した場合：診断を行った診療科
治療を行った場合：初回治療を行った診療科
どちらも行った場合は、治療をした診療科を1として
しています。

(例) 消化器内科にて診断、外科にて治療
⇒ 外科でカウント



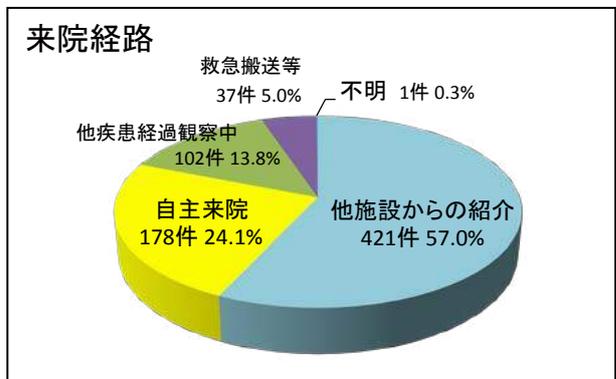
②住所別割合

患者様の居住されている地域別分類です。
市外では多い順に始良市 40、霧島 29、日置 24
離島では、種子島 31、屋久島 17 の順となっています。



③来院経路

がんの診断・治療のため当院を受診した経路別分類です。



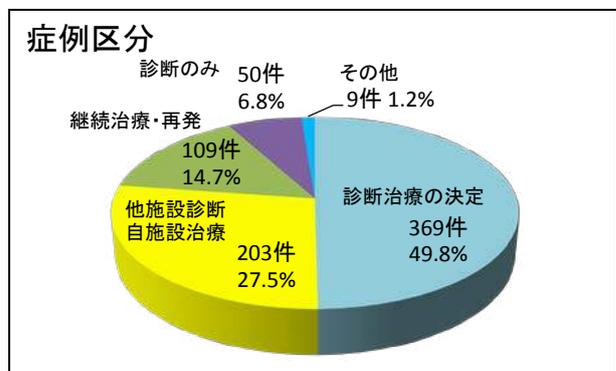
④ 症例区分

診断治療の決定：
当院でがんの診断を行い、治療方針を決定した症例

他施設診断自施設治療：
がんの診断は他施設で行われ、初回治療を当院で行った症例

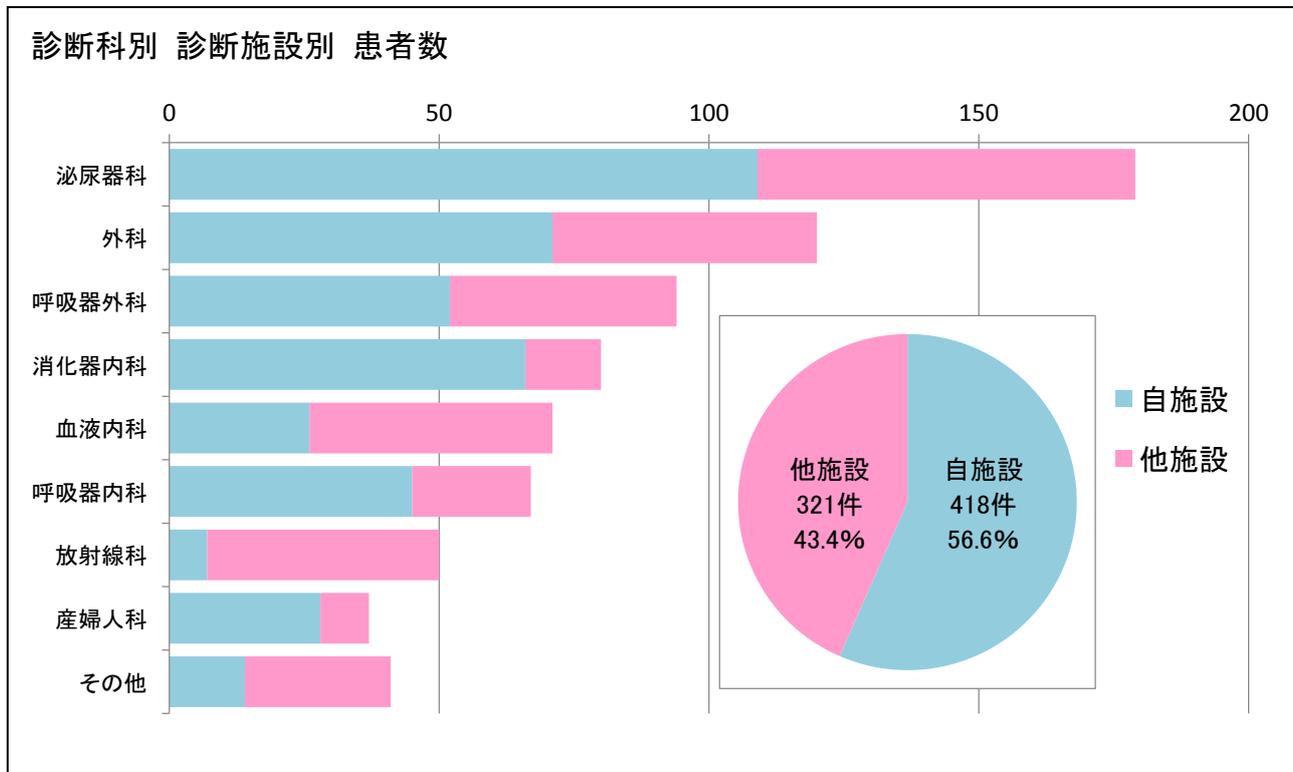
継続治療・再発：
他施設にて初回治療後、当院にて継続治療を行った症例。もしくは、他施設にて治療後、再発し当院にて治療を行った症例

診断のみの症例：
当院でがんの診断を行ったが、治療は他施設で行ったもしくは治療を選択しなかった症例



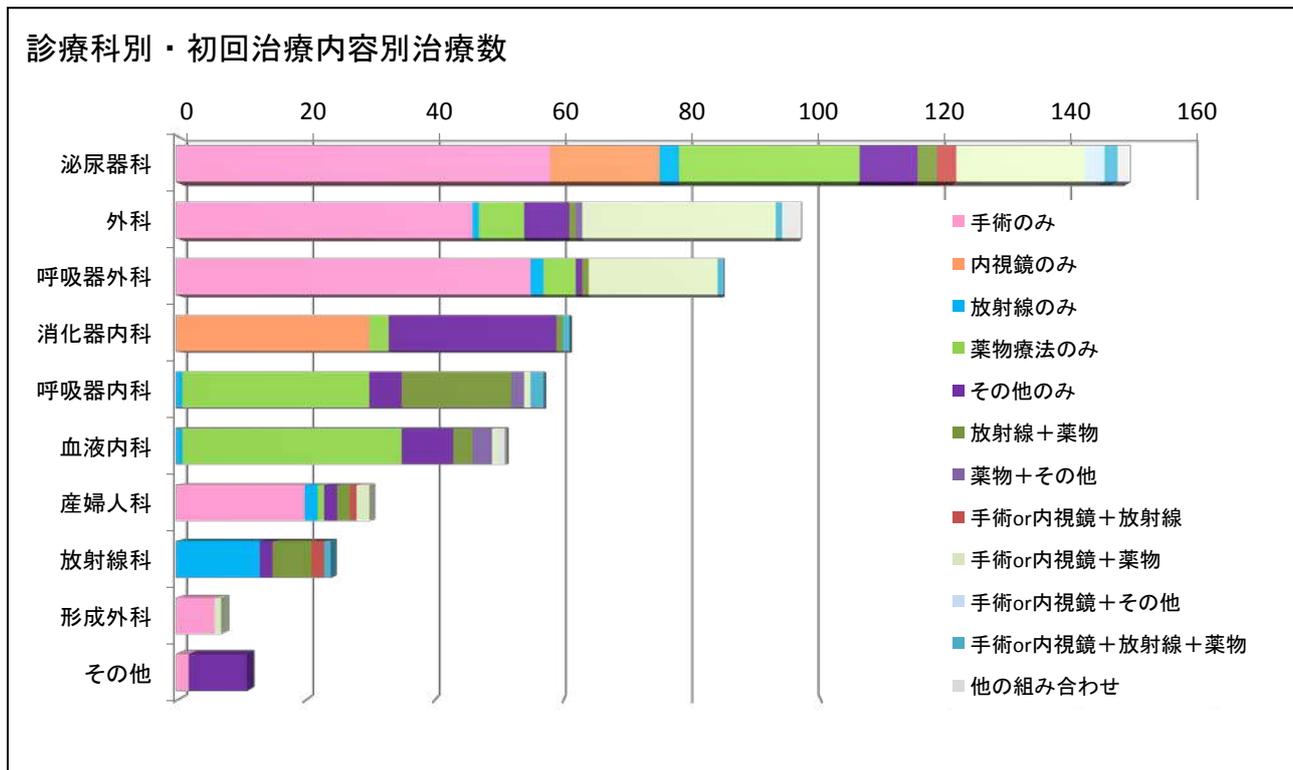
⑤ 診療科別・診断施設別患者数

がん患者様の診断がどこで行われたかを診療科別で示しています。



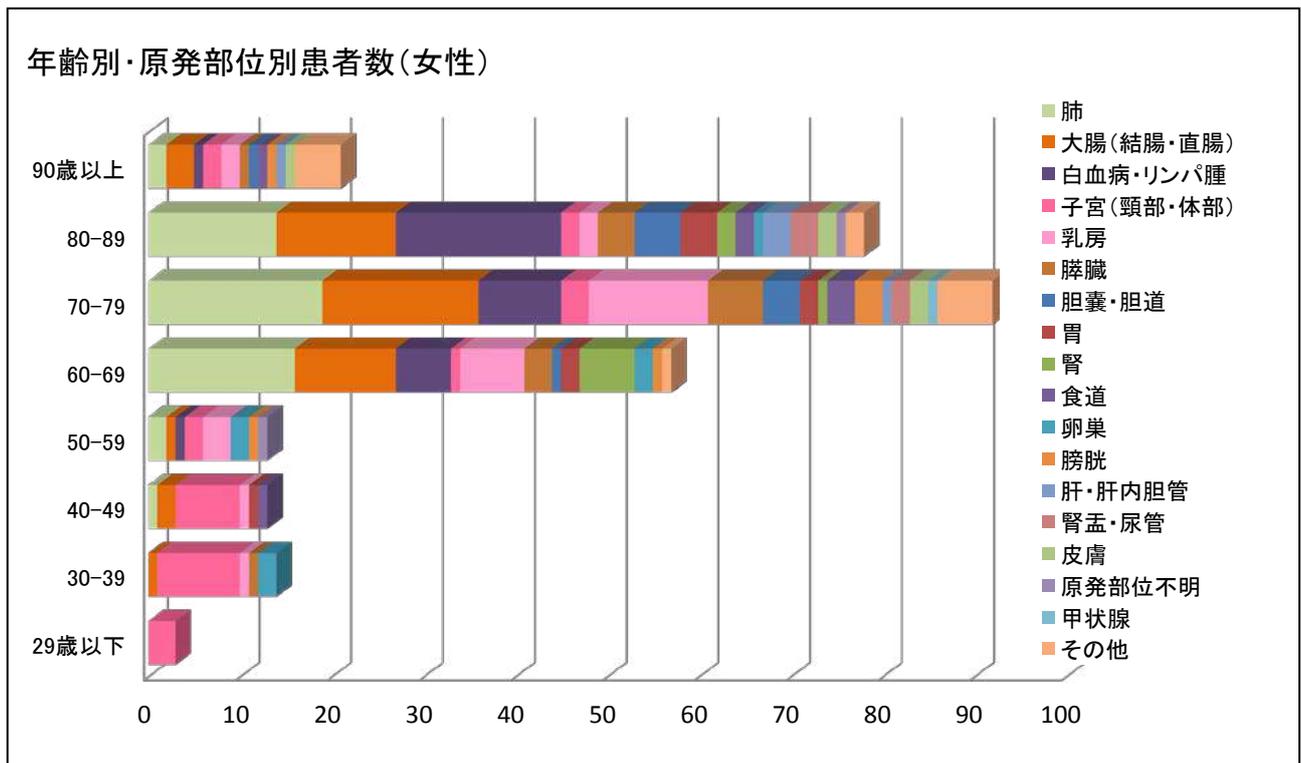
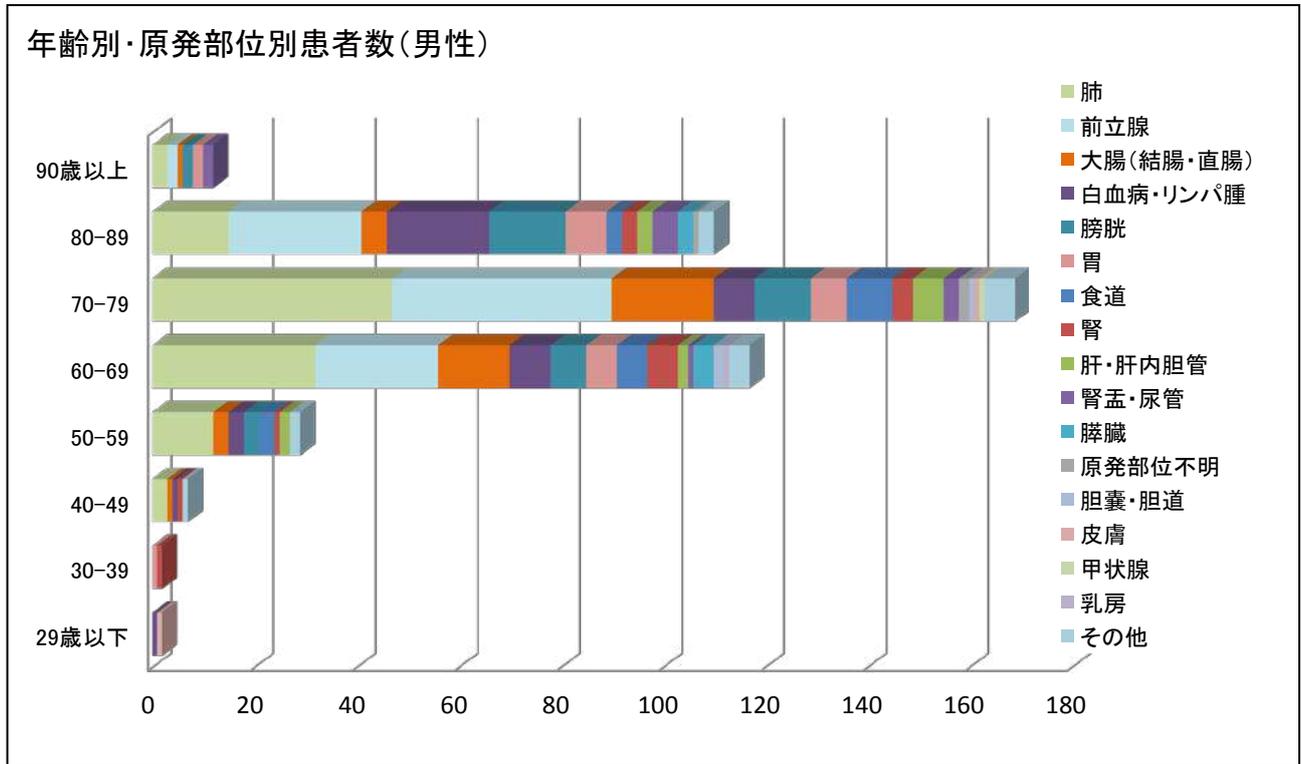
⑥ 診療科別・初回治療内容別治療数

初回治療として選択された治療内容を診療科別で示しています



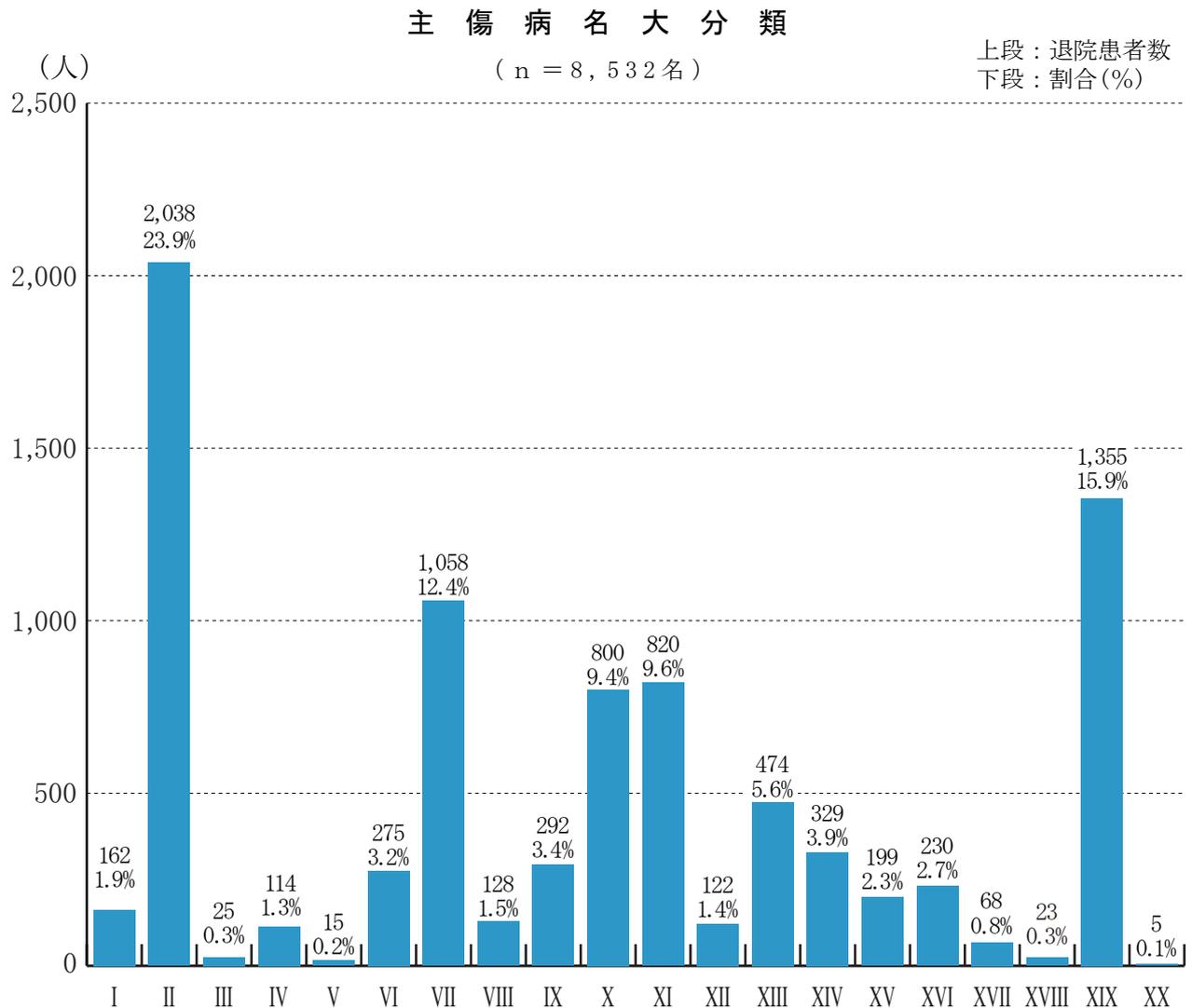
⑦性別・年齢階層別・原発部位別 患者数

どの年代でどのようながんが多いかをグラフ化しています。



6)施設基準に基づく主傷病名大分類

平成30年度 退院患者 I C D 大分類



- | | |
|--------------------------|---------------------------------------|
| I 感染症及び寄生虫症 | XII 皮膚及び皮下組織の疾患 |
| II 新生物 | XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患 |
| III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 | XIV 腎尿路生殖器系の疾患 |
| IV 内分泌、栄養及び代謝疾患 | XV 妊娠、分娩及び産褥 |
| V 精神及び行動の障害 | XVI 周産期に発生した病態 |
| VI 神経系の疾患 | XVII 先天奇形、変形及び染色体異常 |
| VII 眼及び付属器の疾患 | XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの |
| VIII 耳及び乳様突起の疾患 | XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響 |
| IX 循環器系の疾患 | XX 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 |
| X 呼吸器系の疾患 | |
| XI 消化器系の疾患 | |

平成30年度 ICD大分類・診療科別・性別・退院患者数

ICD大分類	男女合計	総数	総内	血内	神内	呼内	消内	循内	糖	小	外科	呼外	皮	整	形	脳外	泌	産	新生児	婦	眼	耳	放	麻	口腔	緩和
総数	8,532	男 4,511 女 4,021	139	57	235	381	428	73	20	101	376	257	16	646	220	102	492	-	117	-	546	208	18	7	69	3
I 感染症及び寄生虫症	162	男 79 女 83	6	-	12	17	13	1	1	17	-	3	4	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-
II 新生物	2,038	男 1,294 女 744	40	46	2	228	189	-	-	-	201	159	-	2	41	2	360	-	-	-	1	2	18	-	1	2
III 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	25	男 9 女 16	1	3	3	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	114	男 58 女 56	6	-	12	2	1	1	19	8	-	3	1	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-
V 精神及び行動の障害	15	男 8 女 7	1	-	4	-	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
VI 神経系の疾患	275	男 139 女 136	13	-	89	-	3	2	-	-	-	2	-	14	5	5	-	-	-	-	-	5	-	1	-	-
VII 眼及び付属器の疾患	1,058	男 540 女 518	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	528	-	-	-	-	-
VIII 耳及び乳様突起の疾患	128	男 56 女 72	1	-	7	-	2	-	-	-	1	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	41	-	-	-	-
IX 循環器系の疾患	292	男 145 女 147	3	-	53	1	6	42	-	-	5	1	-	-	1	29	2	-	-	-	-	-	-	1	-	1
X 呼吸器系の疾患	800	男 494 女 306	43	4	27	116	11	16	-	71	3	55	-	2	-	-	1	-	-	-	-	145	-	-	-	-
XI 消化器系の疾患	820	男 425 女 395	-	-	2	1	188	2	-	1	154	1	-	1	2	-	1	-	-	-	-	5	-	-	67	-
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	122	男 59 女 63	2	1	2	-	-	1	-	-	-	1	11	1	39	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	474	男 253 女 221	7	2	6	3	3	-	-	-	1	-	-	210	20	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XIV 腎尿路生殖系系の疾患	329	男 147 女 182	11	1	4	3	3	4	-	1	4	-	-	-	1	-	115	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XV 妊娠、分娩及び産褥	199	男 0 女 199	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XVI 周産期に発生した病態	230	男 118 女 112	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	117	-	-	-	-	-	-	-
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	68	男 32 女 36	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	26	-	2	-	-	-	-	2	-	-	-	-
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	23	男 16 女 7	-	-	3	5	2	-	-	-	1	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-	-	-	-
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,355	男 637 女 718	5	-	8	5	3	4	-	-	5	28	-	413	74	63	7	-	-	-	17	1	-	3	1	-
XX 健康状態に影響を及ぼす要因 および保健サービスの利用	5	男 2 女 3	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

7) 当院で実施しているがん検診実績

【乳がん検診】

- ◇検診項目：視触診及びマンモグラフィー検査
- ◇当院の乳がん検診対象の方
 - ・ 鹿児島市「いきいき受診券・乳がん検診」対象の方
 - ・ 市町村による「無料クーポン券」事業へ参加

受診件数

／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(名)
平成30年度	10	5	6	8	12	8	14	9	11	4	6	6	99
平成29年度	3	8	14	15	12	7	7	6	5	9	7	7	100
平成28年度	9	3	11	19	14	17	13	6	9	3	14	12	130

【子宮がん検診】

- ◇検診項目：頸部、体部検査(細胞診)※体部検査は、医師の判断により実施
- ◇当院の子宮がん検診対象の方
 - ・ 鹿児島市「いきいき受診券・子宮がん検診」対象の方
 - ・ 市町村による「無料クーポン券」事業へ参加

受診件数

／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(名)
平成30年度	10	11	16	8	11	9	9	12	9	7	4	7	113
平成29年度	7	9	11	15	9	13	8	9	8	6	10	9	114
平成28年度	14	10	15	20	7	16	12	6	17	8	8	11	144

【低線量CT肺がん検診】

- ◇当院は鹿児島県「低線量CT肺がん検診事業」へ参加
- ◇当院の低線量CT肺がん検診対象の方
 - ・ 鹿児島県在住、50歳以上の方
 - ※肺がん治療中または肺がん疑いで経過観察中、肺がん術後の方は対象外

受診件数

／月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(名)
平成30年度	6	7	1	1	5	3	6	2	4	3	38
平成29年度	13	8	4	3	10	6	3	2	6	10	65
平成28年度	13	22	9	12	14	2	4	2	3	5	86

【大腸がん検診】

- ◇検査項目：便の潜血反応検査
- ◇当院の大腸がん検診対象の方
 - ・ 鹿児島市「いきいき受診券・大腸がん検診」対象の方
 - ・ 40歳以上の方

受診件数

／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(名)
平成30年度	0	8	3	2	1	1	4	0	0	1	2	4	26
平成29年度	2	10	6	2	1	3	2	3	3	1	1	6	40
平成28年度	1	3	5	3	4	2	2	3	3	2	0	3	31

【前立腺がん検診】

- ◇検査項目：PSA(特異抗原)検査(血液検査)
- ◇当院の前立腺がん検診対象の方
 - ・ 鹿児島市「いきいき受診券・前立腺がん検診」対象の方
 - ・ 50歳、55歳、60歳、70歳になる男性

受診件数

／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(名)
平成30年度	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
平成29年度	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
平成28年度	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2

- 8) 病院指定
鹿児島県DMA T 指定病院 認定期間：9月28日～5年間

2. 脳卒中 記載事項なし

3. 急性心筋梗塞 該当事項なし

4. 糖尿病

1) 院内糖尿病教室の開催

糖尿病専門医・看護師・薬剤師・管理栄養士・リハビリスタッフによる糖尿病教室を開催 全 14 回 37 名参加

2) 糖尿病に関する講演会・研修会・会議への派遣

4月7日	第2回糖尿病医療学研究会 in 鹿児島	栄養管理部 1名参加
6月24日	第35回さくらんぼの会	看護部 7名参加
6月30日	第23回鹿児島糖尿病スタッフセミナー	栄養管理部 4名参加
8月17日～19日	第49回鹿児島小児糖尿病サマーキャンプ	看護部 6名・栄養管理部 1名派遣
9月14日	Delivery Meeting for kagoshima(糖尿病研修会)	栄養管理部 7名参加
12月9日	第4回鹿児島1型糖尿病セミナー	栄養管理部 1名参加
3月3日	鹿児島県「糖尿病重症化予防従事者連携研修会」ファシリテーター	栄養管理部 1名派遣
3月15日	糖尿病チーム医療を考える会	栄養管理部 1名参加

5. 精神疾患 該当事項なし

6. 救急医療

1) 洋上救急出動簿 平成 30 年度は出動要請なし

2) 離島緊急医療活動一覧

搬送日	市町村名	症 状
4月7日	屋久島町	下部消化管出血
4月13日	南種子町	胆石急性胆のう炎
5月7日	三島村	気管支炎喘息
9月8日	徳之島町	切迫早産
9月19日	屋久島町	非骨傷性頸髄損傷
9月19日	三島村	消化管出血
10月2日	奄美市	頸髄損傷
10月8日	屋久島町	急性虫垂炎
10月29日	奄美市	骨盤骨折
10月31日	奄美市	前期破水
11月10日	奄美市	胸椎化膿性脊椎炎
1月18日	南種子町	結石性腎盂腎炎
2月14日	三島村	急性心筋梗塞の疑い
2月16日	奄美市	頸髄損傷

3) 鹿児島市医師会休日当番医輪番担当及び夜間急病センター全夜間輪番オンコール担当を次のように担当し、診療活動を行った。

【休日当番医輪番】

4月15日	内科・外科・産婦人科	5月27日	整形外科
6月10日	泌尿器科・眼科	6月24日	皮膚科
8月26日	内科・外科・産婦人科	9月23日	皮膚科・泌尿器科
10月21日	眼科	12月23日	外科・産婦人科
1月1日	内科・泌尿器科・皮膚科	1月27日	眼科
2月3日	整形外科	3月10日	産婦人科

【全夜間輪番在宅医】

- ・オンコール
眼科 延13日 整形外科 延7日 産婦人科 延11日
- ・バックアップ
整形外科 延46日

4) 鹿児島市高規格救急車指示病院としての活動

4月17日～28日	鹿児島市消防局	救急救命士の就業前病院実習	2名
4月17日～5月1日	鹿児島市消防局	救急救命士の就業前病院実習	2名
5月2日～17日	鹿児島市消防局	救急救命士の就業前病院実習	2名
5月21日～28日	鹿児島市消防局	救急救命士 病院研修(再教育)	1名
10月15日～22日	鹿児島市消防局	救急救命士 病院研修(再教育)	1名
11月26日～12月3日	鹿児島市消防局	救急救命士 病院研修(再教育)	1名
12月10日～17日	鹿児島市消防局	救急救命士 病院研修(再教育)	1名
1月23日・25日・28日・30日	救急救命九州研修所	臨床実習	1名
1月23日・24日・27日・29日	救急救命九州研修所	臨床実習	1名
1月23日・24日・26日・29日	救急救命九州研修所	臨床実習	1名
2月21日	鹿児島県消防学校	救急救命科 病院実習	1名
2月13日～25日	鹿児島市消防局	救急救命士 就業前病院実習	1名
2月27日～3月11日	鹿児島市消防局	救急救命士 就業前病院実習	1名

5) 鹿児島市高規格救急車指示病院としての活動

※救急救命処置に対する医師の具体的な指示状況 35件

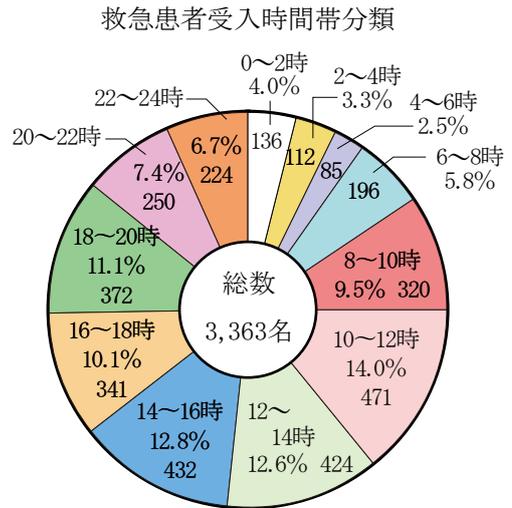
日付	出場隊名	年齢	指示医師
4月13日	吉野救急	77	黒島
4月16日	上町救急	94	林
4月18日	上町救急	46	今給黎
5月8日	吉野救急	63	石田
5月21日	西本署救急	70	大脇
5月24日	吉野救急	70	三宅
5月26日	上町救急	70	今給黎
6月3日	吉野救急	84	湯地
6月20日	上町救急	87	岩川
7月1日	吉田救急	77	川畑
7月14日	吉野救急	70	三宅
8月3日	吉野救急	70	今給黎
8月20日	吉野救急	84	奈良
8月30日	吉野救急	85	三宅
9月4日	吉野救急	77	三宅
9月22日	伊敷救急	86	今給黎
10月2日	吉野救急	87	内村
11月22日	吉野救急	67	米田
11月24日	上町救急	92	中條
12月3日	桜島東救急	86	今給黎
1月3日	吉野救急	69	中條
1月3日	吉野救急	87	三宅
1月6日	郡元救急	78	内山田
1月7日	吉田救急	81	亀之原
1月8日	吉野救急	88	今給黎
1月9日	吉野救急	72	西山
1月17日	郡山救急	40	緒方
1月20日	伊敷救急	84	今給黎
1月29日	南林寺救急	37	内村
1月30日	吉野救急	68	小島
2月2日	吉野救急	87	大場
3月7日	吉野救急	81	今給黎
3月11日	上町救急	90	甲斐
3月18日	西本署救急	84	志岐
3月30日	甲南救急	90	米田

6) 年度別救急車受入台数(患者数)

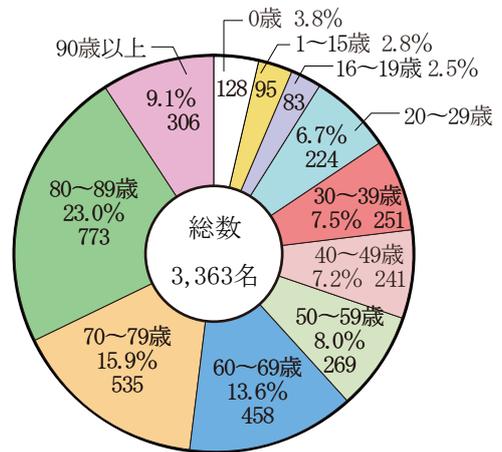
	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
4月	199 (202)	221 (224)	219 (223)	218 (221)	253 (258)
5月	213 (217)	219 (226)	205 (211)	238 (240)	280 (285)
6月	206 (209)	210 (215)	206 (206)	218 (220)	218 (220)
7月	225 (229)	209 (215)	208 (212)	286 (289)	287 (291)
8月	212 (216)	259 (264)	251 (253)	270 (276)	297 (308)
9月	224 (226)	205 (213)	224 (226)	233 (239)	249 (250)
10月	202 (205)	248 (252)	211 (211)	232 (239)	296 (304)
11月	222 (224)	213 (215)	235 (237)	268 (270)	293 (297)
12月	227 (232)	249 (253)	291 (293)	279 (282)	308 (310)
1月	244 (243)	243 (248)	259 (259)	286 (295)	343 (349)
2月	204 (209)	228 (232)	208 (209)	256 (259)	230 (232)
3月	227 (230)	251 (257)	214 (214)	263 (267)	252 (259)
合計	2,605 (2,642)	2,755 (2,814)	2,731 (2,754)	3,047 (3,097)	3,306 (3,363)
月平均	217.1 (220.2)	229.6 (234.5)	227.7 (229.5)	253.9 (258.0)	275.5 (280.3)
日平均	7.1 (7.2)	7.5 (7.7)	7.5 (7.5)	8.3 (8.5)	9.1 (9.2)
ドクターカー (再掲)	20	41	57	53	50
ドクターヘリ (再掲)	51	21	53	34	24

7) 平成30年度

救急患者受入時間帯・年令別分類



救急患者年齢別分類



平成30年度 市町村別救急患者数

市町村名		救急患者数	市町村名		救急患者数	市町村名		救急患者数	
鹿	上町・吉野	1,238	日置	日置市	61	熊毛	西之表市	6	
	伊敷・草牟田	665		薩摩川内市	9		南種子町	2	
	中央	301		いちき串木野市	4		屋久島町	3	
	児島	中央駅・田上	359	薩	さつま町	5	大島	奄美市	5
		鴨池・郡元	121		南さつま市	8		徳之島	1
		谷山	67	川辺	枕崎市	2	総合計	3,363	
		桜島	54		南九州市	8			
		島	吉田	122	指宿	指宿市	12		
			松元	26		出水市	3		
			郡	喜入	2	出水	阿久根市	10	
山				90	鹿屋市		8		
始良	三島村	2	肝属	垂水市	15				
	霧島市	39		錦江町	1				
	始良市	108	曾於伊佐	曾於市	1				
	湧水町	1		伊佐市	4				

- 8) 県消防、防災ヘリコプターの積極的活用に係る医師搭乗システム移動病院として輪番を担当した。
 4月4日・6日～10日/5月30日/6月1日～5日/9月3日～9日/10月29日～31日
 11月2日～4日/12月24日～30日/2月25日～27日/3月1日～3日

7. 災害時における医療

1) 災害救護訓練等への参加

11月7日	第57回自衛消防隊消火協議会	中央放射線部1名・看護部3名参加
1月12日	平成30年度桜島火山爆発総合防災訓練	看護部1名・DMATチーム参加
2月3日	鹿児島県原子力防災訓練	中央放射線部2名参加
2月9日	鹿児島県原子力防災訓練	中央放射線部2名参加
2月24日	洋上救急慣熟訓練	看護部2名参加
3月13日	平成30年度大型クルーズ船事故対応訓練	DMATチーム参加

8. へき地医療

11月9日～11日 科巡回診療車事業 屋久島町口永良部島 歯科医師1名派遣

9. 周産期医療

新生児入院数	239人
もじょか号出動件数(赤ちゃん専用救急車)	112件
分娩件数	153件
ハイリスク分娩件数	33件
ハイリスク妊娠件数	58件
母体搬送数	80人

10. 小児(救急)医療

1) 平成30年度小児科救急車一覧表

月日	年齢	症状	入院・外来
4月3日	9	てんかん発作	外来
5月7日	13	気管支炎喘息	入院
5月8日	0	頭部打撲	外来
5月15日	1	熱性痙攣	入院
6月6日	10	てんかん疑い	外来
7月24日	5	痙攣発作	外来
1月15日	9	複雑型熱性痙攣	入院
1月16日	11	インフルエンザA型	外来
3月1日	11	急性腹症	外来

2) 学校検診関係・会議・研修会等への参加、講師派遣

坂元中学校 学校歯科検診	歯科医師3名・歯科衛生士3名派遣
鹿児島市医師会 学校腎臓・糖尿検診	小児科医1名派遣
鹿児島市医師会 学校心臓検診	小児科医1名派遣

11. 地域医療支援病院活動報告

医師・看護師・保健師・栄養士・検査技師による、地域の医療従事者・地域住民の方を対象に、健康増進への普及を図った。

開催日	講演会名	講師	受講者数
5月11日	サイエンス漢方処方セミナー 「がんと漢方」	静仁会静内病院 院長 井齋偉矢	76名 (外部24名)
5月16日/8月15日/11月21日/2月20日	がん化学療法薬連携研修会	当院・南風病院 薬剤部・周辺薬局	計100名 (外部20名)
5月19日	がん・緩和ケア研修会 「ケアと対人援助に活かす臨床瞑想法」	飛騨千光寺 住職 大下大圓	50名 (外部10名)
5月28日	循環器疾患トータルケアセミナー 「高齢者心疾患を未然に防ぐ」	鹿児島大学 心臓血管高血圧内科学教授 大石充	136名 (外部53名)
6月26日	日本専門医機構認定講習会 「医療倫理における利益相反」	天文館法律事務所 弁護士 林宏嗣	93名 (外部48名)
7月13日	第1回救急隊・今給黎総合病院合同カンファレンス 症例検討会	救急隊3演題 当院3演題	198名 (外部43名)
7月27日	地域連携講演会 ～がん化学療法の悪心・嘔吐を考える～ 「当院における化学療法に伴う悪心・嘔吐への取り組み」 「制吐療法に関する最近の話題ーガイドラインの改訂を含めてー」	当院 がん化学療法認定看護師 赤坂美保 福岡大学医学部 腫瘍血液感染症内科 講師 佐々木秀法	76名 (外部4名)
8月3日	医療連携講演会「社会保障について～医療・医薬品分野を中心として～」	前厚生労働省 事務次官 二川一男	90名 (外部24名)
10月12日	がん・緩和ケア研修会「緩和ケア病棟の実際～地域社会のニーズに合わせて～」	いづろ今村病院 緩和ケア病棟 師長 中窪尊子	79名 (外部17名)
11月1日・22日・27日・28日・29日/12月3日・5日・6日	日本専門医機構認定共通講習会 院内感染研修会「インフルエンザ院内発症時対応の再点検」	当院 呼吸器内科 部長 岩川純	計939名 (外部7名)
11月8日	定期多施設合同カンファレンス 「最後まで治療を希望した30代の方との関わりを振り返って」	鹿児島市内6病院の医師・看護師 保健師・薬剤師など	16名 (外部10名)
11月16日・17日/1月25日・30日・31日/3月29日	日本専門医機構認定講習会 医療安全研修会「コミュニケーションの視点から考える説明と同意～他職種・他部門との情報交換を通して考える～」	東京海上日動メディカルサービス(株) 審査企画課メディカルマネジメント室 主任研究員 玉利英子	計252名 (外部17名)
11月28日	第2回救急隊・今給黎総合病院合同カンファレンス 症例検討会3演題 Up to Date ケースカンファレンス 「マムシ咬傷ー救命しえなかったマムシ咬傷症例を通して初期対応を考察するー」	当院 麻酔科 科長 西山淳	122名 (外部33名)
12月8日	鹿児島県内皮膚・排泄ケア認定看護師勉強会「WOCに係わる医療マネジメントー医療制度改革の惑星直列を多面的な視点で整理するー」	スリーエムジャパン(株)ヘルスケアカンパニー医療用製品事業部 マネージャー 高水勝	24名 (外部17名)
12月14日・18日/1月11日・18日/3月19日・22日	日本専門医機構認定講習会 医療安全研修会 「医療の質を担保する診療録について」	いづろ法律事務所 代表弁護士 鐘野孝清	計593名
12月20日	消化器がん治療カンファレンス 「直腸癌への術前化学放射線療法」 「直腸癌への補助化学療法」	東海大学医学部 消化器外科 教授 貞廣荘太郎	71名 (外部8名)
3月20日	鹿児島骨粗鬆症治療 Lecture 「当院の骨粗鬆症の取り組み」 「骨粗鬆症の治療戦略～科学的評価と再現性を～」	恒心会 おぐら病院整形外科 海江田光祥 福岡みらい病院 整形外科 高柴賢一郎	84名 (外部13名)

12. クオリティインディケーター(入院・救急・手術・紹介に関する指標)

平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H31.1月	2月	3月	合計	平均	
平均在院日数(日)	急性期一般入院料1条件 → 18日以内 (3ヶ月平均)														
調整後	15.7	15.0	14.6	14.4	14.5	16.0	14.3	16.4	15.5	17.5	16.6	15.7		15.5	
未調整	16.1	15.8	14.8	15.0	15.3	16.6	15.1	16.8	16.1	17.5	17.6	16.2		16.1	
3ヶ月平均	16.3	15.6	15.1	14.7	14.5	14.9	14.9	15.5	15.4	16.5	16.5	16.6		15.5	
入院 退院患者(人) / 病床稼働率(%)															
入院患者数(人)	698	736	728	779	743	647	762	705	630	738	624	725	8,515	709.6	
退院患者数(人)	716	709	748	753	754	670	736	703	724	616	630	773	8,532	711.0	
稼働率(%)	84.2	82.0	80.9	82.3	82.0	81.0	81.0	87.6	78.2	84.8	87.3	87.1		83.2	
重症度、医療・看護必要度(%)	急性期一般入院料1条件 → 30%以上 (看護必要度Ⅰ)														
重症患者割合	31.3	33.6	35.7	34.8	36.8	35.9	36.7	35.7	34.0	36.1	36.0	35.5		35.2	
在宅復帰率(%)	急性期一般入院料1条件 → 80%以上														
自宅等復帰割合	93.0	91.6	91.7	93.1	90.5	92.6	92.1	90.6	83.4	92.2	90.6	93.4		91.2	
外来患者数(件)															(1日平均)
今給黎総合病院	4,220	4,663	4,803	4,798	4,940	4,546	4,870	4,536	4,581	4,739	4,527	4,674	55,897	208.2	
昭和会クリニック	7,457	7,793	8,138	8,032	8,382	7,366	8,412	8,082	7,961	7,902	7,154	8,018	94,697	352.7	
手術件数(件)															
手術件数	362	374	396	386	387	334	392	382	281	342	349	390	4,375	364.6	
初診 紹介 逆紹介患者数 / 紹介 逆紹介率(%)	※地域医療支援病院計算式に準ずる(当院目標基準: 紹介率50%、逆紹介率70%)														
初診患者数(人)	410	433	461	427	489	448	469	422	383	406	381	423	5,152	429.3	
紹介患者数(人)	311	365	353	333	358	349	353	327	301	328	281	356	4,015	334.6	
逆紹介患者数(人)	485	520	538	462	502	459	509	485	451	453	426	517	5,807	483.9	
紹介率	75.9%	84.3%	76.6%	78.0%	73.2%	77.9%	75.3%	77.5%	78.6%	80.8%	73.8%	84.2%		77.9%	
逆紹介率	118.3%	120.1%	116.7%	108.2%	102.7%	102.5%	108.5%	114.9%	117.8%	111.6%	111.8%	122.2%		112.7%	
救急医療	() 内は入院数														
救急車台数(台)	253	280	218	287	297	249	296	293	308	343	230	252	3,306	275.5	
搬送者数(人)	258	285	220	291	308	250	304	297	310	349	232	259	3,363	280.3	
入院	129	170	127	152	143	113	181	151	169	183	110	143	1,771	147.6	
外来	129	115	93	139	165	137	123	146	140	166	122	116	1,591	132.6	
入院率	50.0%	59.6%	57.7%	52.2%	46.4%	45.2%	59.5%	50.8%	54.5%	52.4%	47.4%	55.2%		52.7%	
ドクターヘリ搬送(件)	5	2	1	0	2	2	3	1	2	2	3	1	24	2.0	
ドクターカー搬送(件)	3	3	4	4	3	4	5	3	7	6	6	2	50	4.2	
紹介患者	39 (37)	69 (65)	63 (58)	44 (42)	46 (40)	46 (42)	66 (65)	63 (56)	54 (52)	59 (53)	41 (38)	54 (51)	644 (599)	54 (50)	
交通事故患者	33 (5)	34 (12)	21 (5)	38 (14)	47 (17)	28 (6)	47 (15)	32 (10)	27 (6)	26 (7)	18 (6)	31 (10)	382 (113)	32 (9)	
外傷患者	60 (25)	57 (34)	43 (20)	55 (27)	71 (31)	49 (19)	82 (44)	73 (38)	75 (33)	86 (52)	55 (26)	77 (41)	783 (390)	65 (33)	
急病患者	126 (62)	125 (59)	93 (44)	154 (69)	144 (55)	127 (46)	109 (57)	129 (47)	154 (79)	178 (71)	118 (40)	97 (41)	1,554 (670)	130 (56)	
CPA (心肺停止) 件数	3	3	3	3	3	3	1	4	1	11	2	6	43	3.6	
t-PA (超急性期脳卒中) 件数	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	3	0.3	
がん医療	※責任症例数…登録数の中で、当院で初回治療を行った症例数。(目標症例数: 500件/年以上)														
責任症例数(件) ※	28	52	53	54	50	45	集計中	集計中	集計中	集計中	集計中	集計中	282	47.0	
悪性腫瘍手術	27	37	43	44	47	38	47	46	48	46	50	45	518	43.2	
化学療法	189	197	291	191	207	194	192	217	208	244	247	262	2,639	219.9	
放射線治療	173	134	200	259	363	228	262	217	244	274	404	316	3,074	256.2	
周産期医療	※もじぬ号…赤ちゃん専用救急車														
新生児入院(人)	17	26	20	19	17	18	20	18	23	22	9	16	225	18.8	
もじぬ号出動件数(件)	8	14	12	8	14	8	9	10	13	8	2	6	112	9.3	
分娩件数	11	15	17	10	9	13	14	11	17	10	11	15	153	12.8	
ハイリスク分娩件数	4	2	2	2	1	6	4	2	4	2	1	3	33	2.8	
ハイリスク妊娠件数	3	3	4	1	5	7	6	6	7	11	1	4	58	4.8	
母体搬送数(人)	8	3	5	6	7	8	11	3	10	9	4	6	80	6.7	

今給黎総合病院における施設基準に基づく手術実施件数等について

※手術の施設基準に基づき、平成 30 年(2018 年)の 1 年間に実施した手術名、手術件数は次のとおりです。

手術区分	手術名	手術件数
区分 1	頭蓋内腫瘍摘出手術等	4
区分 1	黄斑下手術等	100
区分 1	鼓室形成手術等	0
区分 1	肺悪性腫瘍手術等	66
区分 2	靭帯断裂形成手術等	13
区分 2	水頭症手術等	14
区分 2	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	0
区分 2	尿道形成手術等	1
区分 2	角膜移植術	0
区分 2	肝切除術等	20
区分 2	子宮付属器悪性腫瘍手術等	5
区分 3	上顎骨形成術等	10
区分 3	上顎骨悪性腫瘍手術等	1
区分 3	バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	0
区分 3	母指化手術等	2
区分 3	内反足手術等	0
区分 3	食道切除再建術等	0
区分 4	胸腔鏡下及び腹腔鏡下手術等	294
その他の区分	人工関節置換術	64
その他の区分	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	4

入院患者に関する年度別実績

※計算方法・・・地域医療支援病院による

	H30 年度	H29 年度	H28 年度
平均在院日数(日)	15.5	15.9	16.4
病床利用率(%)	83.2	86.2	84.1

年度別手術症例数

	H30 年度	H29 年度	H28 年度
手術症例数(件)	4,375	4,463	4,257

年度別紹介率

	H30 年度(地域支援)	H29 年度(地域支援)	H28 年度(地域支援)
紹介率(%)	77.9	67.3	68.7

年度別逆紹介率

	H30 年度(地域支援)	H29 年度(地域支援)	H28 年度(地域支援)
逆紹介率(%)	112.7	103.2	113.8

13. 初期臨床研修病院実績

初期(卒後)臨床研修病院として、次の通り研修医を受け入れ、指導教育を行った。

基幹型研修医 4月～翌年3月 6名
(救急科、整形外科、眼科、泌尿器科、小児科、産婦人科、皮膚科、耳鼻咽喉科、放射線科、脳神経外科、麻酔科、形成外科、循環器内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、外科、総合内科、緩和医療科)

協力型研修医 4月～6月 1名 (脳神経内科、呼吸器内科)
11月～翌年2月 1名 (麻酔科、耳鼻科、形成外科)
2月～3月 1名 (麻酔科、呼吸器内科)

初期臨床研修関連事業

日付	事業名称	当院参加者	場所	主催
6月10日	「マイナビ RESIDENT FESTIVAL 福岡会場」	6名	FFB ホール	マイナビ
6月26日	「平成30年度第1回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会担当者会議」	3名	鹿児島県庁	県初期臨床研修連絡協議会
7月9日	「平成30年度第1回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会本会議」	1名	自治会館	県初期臨床研修連絡協議会
7月13日	「平成30年度第1回臨床研修病院合同説明会」	7名	鹿児島大学医学部	県初期臨床研修連絡協議会
8月20日	「鹿児島県臨床研修病院見学ツアー事業 (Bコース)」	—	鹿児島県内12病院	県初期臨床研修連絡協議会
8月21日	「平成30年度第2回臨床研修病院合同説明会」	5名	鹿児島県医師会館	県初期臨床研修連絡協議会
10月6日	「第17回鹿児島県臨床研修医合同研修会」	9名	鹿児島県庁	県初期臨床研修連絡協議会
10月16日	「平成30年度プログラム責任者養成講習会」(今給黎和幸副院長修了)	1名	スペースアルファ神戸	臨床研修協議会
11月21日	「平成30年度第2回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会担当者会議」	3名	鹿児島県庁	県初期臨床研修連絡協議会
12月19日	「平成30年度第2回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会本会議」	1名	鹿児島県庁	県初期臨床研修連絡協議会
1月12日	「第18回鹿児島県臨床研修医合同研修会」	12名	鹿児島県医師会館	県初期臨床研修連絡協議会
3月3日	「レジナビフェア2019 in 福岡」	6名	マリンメッセ	民間医局

(その他)

平成31年度プログラム (臨床研修プログラム昭和会) : 平成30年度からの変更点なし

(研修歯科医)

鹿児島大学病院歯科医師臨床研修プログラム研修協力施設として、次の通り研修歯科医を受け入れ、指導教育を行った。

・6月5日～2月12日週1回 (毎週火曜日)

大学病院歯科医療 (A) ・大学病院歯科医療

(B) 地域歯科医療プログラムの研修歯科医を計25名受け入れ

(医学部医学科病院見学者)

4月3・4日	鹿児島大学医学部医学科6年生	1名	8月23日	九州大学医学部医学科5年生	1名
4月18日	近畿大学医学部医学科6年生	1名	8月23日	鹿児島大学医学部医学科5年生	1名
5月2日	新潟大学医学部医学科6年生	1名	1月7日	九州大学医学部医学科5年生	1名
6月14日	久留米大学医学部医学科6年生	1名	1月8日	九州大学医学部医学科5年生	1名
7月2日	鹿児島大学医学部医学科6年生	1名	1月25日	大分大学医学部医学科5年生	1名
7月11日	宮崎大学医学部医学科6年生	1名	3月4日	鹿児島大学医学部医学科5年生	2名
7月31日	産業医科大学医学部医学科6年生	1名	3月18日	鹿児島大学医学部医学科5年生	1名
8月2日	鹿児島大学医学部医学科5年生	1名	3月18日	福岡大学医学部医学科5年生	1名
8月6日	九州大学医学部医学科5年生	1名	3月26日	佐賀大学医学部医学科5年生	1名
8月9日	鹿児島大学医学部医学科5年生	1名			

14. 実習病院としての実績

【医師】

鹿児島大学医学部医学科 5年学外臨床実習ポリクリ 耳鼻咽喉科 第1・第2 火曜日	各日 1～3名
鹿児島大学医学部医学科 5年学外臨床実習ポリクリ 第1 水曜・金曜日 / 第2 火曜・木曜日	各日 1～2名
鹿児島大学医学部医学科 5年学外臨床実習ポリクリ 呼吸器内科 第1 水曜日	各日 1名
鹿児島大学医学部医学科 5年学外臨床実習ポリクリ 呼吸器外科 第1 水曜日 / 第2 火曜・木曜日	各日 1名
鹿児島大学医学科 4年次見学実習シャドウイング呼吸器内科 4月20日 / 5月25日 / 6月8日・22日 / 7月13日・20日	各日 1名
鹿児島大学医学科 4年次見学実習シャドウイング 神経内科 4月13日・27日 / 5月25日 / 6月8日・29日	各日 1名
鹿児島大学医学科 4年次見学実習シャドウイング 脳神経外科 4月20日 / 5月25日 / 6月8日・22日 / 7月6日・20日	各日 1名
鹿児島大学医学科 4年次見学実習シャドウイング 呼吸器外科 4月13日 / 5月25日 / 6月22日・29日 / 7月13日・20日	各日 1～2名
鹿児島大学医学部医学科 3年次見学自習シャドウイング 呼吸器内科 10月12日・26日 / 11月16日・30日	各日 1名
鹿児島大学医学部医学科 3年次見学実習シャドウイング 呼吸器外科 10月12日・26日 / 11月16日・30日	各日 1名

【看護部】

久木田学園看護専門学校	1年生 3日間 75名 / 2年生 12日間 60名 / 3年生 15日間 114名
久木田学園看護専門学校 NICU・GCU	2日間 20名
神村学園高等部	基礎課程 1年生 3日間 20名 / 基礎課程 2年生 16日間 10名
神村学園高等部	専門課程 1年生 16日間 50名 / 専門課程 2年生 16日間 56名
神村学園専修学校	1年生 2日間 43名 / 2年生 8日間 50名 / 3年生 11日間 45名
神村学園専修学校 NICU・GCU	2日間 52名
医療法人協会立看護専門学校	1年生 3日間 16名 / 2年生 12日間 13名 / 3年生 10日間 10名
鹿児島看護専門学校	2年生 12日間 20名 / 3年生 9日間 32名
鹿児島医療技術専門学校	2年生 16日間 5名 / 3年生 9日間 17名
鹿児島中央看護専門学校(通信)	2年生 7日間 21名
鹿児島中央看護専門学校(通信) NICU・GCU	2日間 27名
タラ看護専門学校	3年生 8日間 14名
タラ看護専門学校 NICU・GCU	2日間 45名
龍桜高等学校	専門課程 2年生 17日間 35名

【リハビリテーション部】

5月7日～6月29日	熊本保健科学大学 臨床実習Ⅱ(作業療法)	1名
5月7日～7月7日	鹿児島医療福祉専門学校 長期臨床実習Ⅰ(理学療法)	1名
5月7日～7月7日	沖縄リハビリテーション福祉学院 長期臨床実習(作業療法) 1名	
5月7日～7月13日	鹿児島医療技術専門学校 臨床実習Ⅳ(理学療法)	1名
5月7日～7月14日	鹿児島医療技術専門学校 長期臨床実習Ⅰ(理学療法)	1名
5月21日～7月13日	鹿児島医療技術専門学校 臨床実習Ⅱ(言語聴覚療法)	1名
6月25日～8月18日	神村学園専修学校 臨床実習後期(理学療法)	1名
6月26日～28日	福岡医療専門学校 見学実習(理学療法)	1名
7月2日～8月25日	九州看護福祉大学 臨床実習ⅢB(理学療法)	1名
7月9日～14日	鹿児島医療福祉専門学校 臨床実習Ⅰ(理学療法)	2名
7月16日～8月4日	熊本保健科学大学 評価実習(言語聴覚療法)	1名
7月17日～9月7日	鹿児島大学 総合臨床実習(理学療法)	1名
7月23日～28日	鹿児島医療福祉専門学校 臨床実習(理学療法)	2名
7月30日～10月6日	鹿児島医療福祉専門学校 長期臨床実習(理学療法)	1名

8月6日～10月12日	鹿児島医療技術専門学校 長期実習(作業療法)	1名
8月13日～10月13日	九州保健福祉大学 総合臨床実習Ⅱ(作業療法)	1名
9月25日～10月13日	九州看護福祉大学 臨床実習ⅠA(理学療法)	1名

【中央放射線部】

6月4日～7月27日	鹿児島医療技術専門学校診療放射線学科4年	2名
9月3日～28日	鹿児島医療技術専門学校診療放射線学科4年	2名
10月1日～28日	鹿児島医療技術専門学校診療放射線学科3年	2名

【臨床工学部】

7月2日～14日	九州保健福祉大学 保健科学部臨床工学科4年生	1名
9月3日～10月15日	鹿児島医療工学専門学校 臨床工学学科3年生	9名

【薬剤部】

5月7日～7月21日	九州保健福祉大学5年生	1名
5月7日～7月21日	第一薬科大学5年生	1名

【栄養管理部】

8月20日～31日	鹿児島県立短期大学 生活科学科 食物栄養専攻2年 臨床栄養学実習(校外実習)	2名
8月27日～31日	尚綱大学短期大学部 食物栄養学科2年給食管理実習Ⅱ(校外実習)	1名
11月8日	鹿児島県立東高校2年 インターンシップ	4名
2月6日	鹿児島県立明桜館高等学校2年 インターンシップ	2名

【在宅医療部】

6月11～12月14日	神村学園高等部看護学科専門課程	16名
7月23日～8月30日	鹿児島中央看護専門学校2年課程(通信制)看護科	16名
9月10日～21日	久木田学園看護専門学校	2名
1月28日～3月15日	鹿児島医療技術専門学校4年年過程	4名

【事務部】

5月14日～6月8日	鹿児島キャリアデザイン専門学校	2名
9月10日～14日	福岡県立大学 人間社会学部2年	1名

15. 視察・研修・見学(社会人の個人、団体、および学生)の受入

【看護部】

5月8日～11日	吉田南中学校3年生 インターンシップ	1名
7月11日	鹿児島県ナースセンター 再就業支援セミナー	2名
7月12日～14日	玉龍中学校3年生 インターンシップ	4名
7月24日	鹿児島医療技術専門学校4年生 インターンシップ	3名
7月27日	尚志館高校 専門課程2年生 インターンシップ	3名
7月30日	久木田学園看護専門学校 インターンシップ	1名
7月31日	神村学園高等学校 専門課程	1名
8月1日	医療福祉専門学校	1名
8月28日	松陽高等学校3年生 インターンシップ	1名
11月6日～9日	鹿児島県立鹿児島東高等学校2年生 インターンシップ	1名

【褥瘡管理課】

2月12～22日	日本看護協会看護研修学校 特定行為研修実習(創傷管理モデル)	2名
----------	--------------------------------	----

【病理部】

7月～2回	今村総合病院 臨床検査 技術指導	1名
-------	------------------	----

【中央放射線部】

2月4日 明桜館高等学校 インターンシップ研修 2名

【中央臨床検査部】

7月9日 熊本保健科学大学 医学検査学科4年次 病院見学 2名

【薬剤部】

7月30日 崇城大学5年生 インターンシップ 2名
 7月31日 鹿児島玉龍高等学校1年生 見学 2名
 11月13日 福岡大学5年生 インターンシップ 2名
 11月30日 福岡大学5年生 見学 1名
 1月28日 福山大学5年生 インターンシップ 1名
 1月28日 徳山文理大学5年生 インターンシップ 1名
 2月6日 摂南大学5年生 インターンシップ 1名
 2月28日 福岡大学5年生 インターンシップ 2名
 3月4日 長崎国際大学5年生 見学 1名
 3月12日 福岡大学5年生 インターンシップ 1名
 3月13日 福岡大学5年生 見学 1名
 3月18日 熊本大学5年生 見学 4名
 3月26日 徳島文理大学5年生 見学 1名
 3月28日 長崎大学5年生 見学 2名
 5月16日～18日 長田中学校2年生 職場体験 3名

【事務部】

4月18日 鹿屋池田病院 システム見学 8名
 5月9日 吉田南中学校 職場体験（診療情報管理部） 4名
 6月26日 保健医療経営大学 見学（診療情報管理部） 1名
 11月7日 鹿児島東高校 職場体験（診療情報管理部） 3名
 11月8日 鹿児島東高校2年 職場体験（医事課） 2名
 12月13日 鹿児島玉龍中学校3年 職場体験（医事課） 2名
 2月4日～6日 鹿児島明桜館高等学校 商業科2年 インターンシップ（医事課） 2名
 2月5日 明桜館高等学校 職場体験（診療情報管理部） 3名
 2月14日 樟南高等学校 職場体験（診療情報管理部） 2名
 2月15日 樟南高等学校1年 職場体験（医事課） 1名

16. 文化活動・スポーツ事業活動・ボランティア活動**【医師】**

9月9日～18日 第36回FIG世界新体操選手権大会 帯同ドクター 1名派遣
 10月5日～8日 第73回国民体育大会 トライアスロン競技 メディカルスタッフ 1名派遣

【看護部】

4月21日 第1回スポーツ推進委員会 1名参加
 4月24日 中央ブロック社会体育研究発表実行委員会 1名参加
 5月11日 スポーツ推進研修会 1名参加
 5月13日 フーセンバレーボール九州大会 審判 1名派遣
 5月19日 鹿児島県看護協会 まちの保健室 2名派遣
 5月19日 鹿児島県看護協会 看護の日イベント 1名派遣
 5月24日～27日 世界青年会議所会議 救護班 計9名派遣
 5月30日 仏教婦人大会 救護 1名派遣
 6月17日 中央ブロックスポーツ推進委員研修会 ソフトバレー審判講習会 1名派遣
 6月17日 レディースいごお手玉大会 1名派遣

6月20日	清水校区コミュニティ会議	1名派遣
6月24日	ソフトバレーボール教室	1名派遣
7月1日	鹿児島市スポーツ推進委員会 スポーツ教室	1名派遣
7月21日	長田町夏まつり バルーンアート	3名派遣
8月4日	鹿児島市民体育大会 救護	1名派遣
8月8日	納涼盆踊り 救護	1名派遣
8月25日	国際助産師の日イベント バルーンアート	3名派遣
9月1日	清水校区グランドゴルフ大会 運営・審判	1名派遣
9月15日	鹿児島県民体育大会	1名派遣
10月20日	市民生き生きスポーツレクリエーション開会式	1名派遣
10月28日	清水校区成人体育祭	1名派遣
10月29日	全国スポーツ推進委員会研究発表会 担当者会議	1名派遣
11月11日	第3回スポーツ推進委員会 審判講習会・レクリエーション	1名派遣
11月14日～16日	全国スポーツ推進委員研究発表 運営役員・救護班	延べ5名派遣
11月18日	フーセンバレーボール大会 審判	1名派遣
11月30日	中央ブロックスポーツ推進委員研究発表会準備	1名派遣
2月16日	鹿児島県下一周駅伝大会 自主交通整理	1名派遣
2月17日	中央ブロックスポレク大会	1名派遣
2月20日	鹿児島県下一周駅伝大会 選手対応・役員接待	1名派遣
3月3日	鹿児島マラソン 救護班	1名派遣

【中央放射線部】

10月1日	鹿児島市役所ピンクリボンツリー設置	1名派遣
10月18日	「K T S レディースゴルフ2018」乳がん検診啓発	1名派遣
10月21日	2018ピンクリボン in kagoshima	1名派遣
10月22日	ピンクリボン in かがしま	6名派遣

【病理部】

4月15日	子宮の日	3名参加
-------	------	------

17. 教育機関への講師派遣

【医師】

志學館大学発達支援センター	周産期医療現場の現状	新生児内科1名派遣
鹿児島県立加治木高等学校	入門講座	歯科1名派遣
タラ看護専門学校	母性看護学方法論II	新生児内科1名派遣
鹿児島歯科学院専門学校	歯科技工士科 非常勤講師	歯科1名派遣
久木田学園看護専門学校	病態学I 骨格系・筋系	整形外科1名派遣
久木田学園看護専門学校	病態学II 呼吸器系	呼吸器内科1名派遣
久木田学園看護専門学校	病態学II 血液・造血器系	血液内科1名派遣
久木田学園看護専門学校	病態学III 消化器系	消化器内科1名派遣
久木田学園看護専門学校	病態学III 腎泌尿器系	泌尿器科1名派遣
久木田学園看護専門学校	病態学III 女性生殖器系	産婦人科1名派遣
久木田学園看護専門学校	病態学III 内分泌系・免疫系	総合内科1名派遣
久木田学園看護専門学校	病態学IV 脳神経系	脳神経内科1名派遣
久木田学園看護専門学校	病態学IV 眼系	眼科1名派遣
久木田学園看護専門学校	小児疾病論	小児科1名派遣
久木田学園看護専門学校	周産期及び新生児の生理と異常	産婦人科1名派遣

【看護部】

11月7日	久木田学園看護専門学校	化学療法と看護	1名派遣
11月21日	久木田学園看護専門学校	放射線療法と看護	1名派遣
11月21日	久木田学園看護専門学校	輸液・輸血療法と看護	1名派遣

11月30日	久木田学園看護専門学校	乳房切除を受ける人の看護	1名派遣
12月3日	久木田学園看護専門学校	ストーマ造設患者の看護	1名派遣
【褥瘡管理課】			
12月3日	久木田学園看護専門学校	ストーマ造設患者の看護	1名派遣
【中央放射線部】			
11月17日・24日・31日	鹿児島医療技術専門学校	診療画像技術学	1名派遣
【臨床工学部】			
	久木田学園看護専門学校	専門分野1 治療援助技術2年生	1名派遣
【栄養管理部】			
12月11日	鹿児島県短期大学		1名派遣
【事務部】			
	鹿児島キャリアデザイン専門学校		診療情報管理士1名派遣

18. 主な公的会議・研修会への参加

【看護部】			
4月21日 / 7月21日	公的病院等看護部長会		1名参加
4月27日 / 5月26日 / 6月1日 / 16日 / 7月27日 / 8月24日 / 9月28日 / 10月26日 / 11月30日 /			
12月22日 / 1月18日	鹿児島県看護協会会議		1名参加
5月15日 / 9月28日 3 / 月8日	かごしま看護管理研究会		1名参加
8月3日	がん拠点病院の集まりの会		1名参加
8月22日	鹿児島県退院支援ルール合同会議		1名参加
8月22日	鹿児島圏域退院支援ルールH30年度第1回医療・介護合同会議		1名参加
10月18日	がん拠点病院看護管理者会議		1名参加
11月30日	鹿児島保健医療圏域退院支援ルール運用について		1名参加
【中央放射線部】			
9月14日	肺がん均てん化研修会		4名参加
8月23日	乳がん検診従事者研修会		5名参加
11月9日	平成30年度低線量CT肺がん検診研修会		2名参加
3月28日	乳がん検診研修会		2名参加
【在宅医療部】			
6月9日	訪問看護におけるフィジカルアセスメント		2名参加
7月12日	地域の中でガン治療 病院が果たす役割		2名参加
7月20日	再度確認！保険請求業務		1名参加
8月31日～9月1日	入院前から始まる退院支援研修会		1名参加
10月19日・20日	訪問看護基礎研修会		1名参加
11月29日	平成30年度北部ブロック多職種連携会議(地域ケア会議)		1名参加
2月9日	住み慣れたまちで、人生の最期まで過ごせる社会を目指して		1名参加
2月26日	在宅人工呼吸器に関する講習会		1名参加
【褥瘡管理課】			
6月14日	第14回ぴくるすの会研究会～医療・介護・在宅～ 座長		1名派遣
【栄養管理部】			
4月28日	第15回鹿児島NST研究会		2名参加
5月20日	リハ栄養フォーラム2018 in 鹿児島		1名参加

6月2日	鹿児島県栄養士会総会及び第1回研修会	4名参加
6月16日	第14回「びくるすの会」研修会 運営協力	1名派遣
6月16日	第14回「びくるすの会」研修会	7名参加
7月14日	第3回鹿児島の食で健康シンポジウム	1名参加
7月17日	鹿児島 Luncheon Web 講演会	7名参加
7月22日	鹿児島県栄養士会総会及び第2回研修会	7名参加
8月4日	平成30年度第1回スキルアップ研修会 in 始良	1名参加
8月7日	朝夕無人化厨房運営セミナー in 鹿児島	6名参加
9月5日・12日・19日／10月3日・10日・31日／11月7日・21日	鹿児島大学公開講座 第2回摂食嚥下リハビリテーション研修講座	1名参加
9月11日	平成30年給食施設従事者研修会	3名参加
9月19日	平成30年給食施設従事者研修会	1名参加
10月6日	平成30年度第2回スキルアップ研修 in 始良	1名参加
10月24日	NK活性を高める生活習慣と乳酸菌	1名参加
11月13日	HACCP制度化に向けて	2名参加
11月18日	鹿児島摂食嚥下リハビリテーション研究会 理事会	1名派遣
11月18日	第14回鹿児島摂食嚥下リハビリテーション研究会	2名参加
11月25日	第11回カーボカウントインスリンポンプセミナー	2名参加
12月1日	平成31年度第3回スキルアップ研修 in 始良	1名参加
1月30日	再加熱カート調理テスト及び研修会	2名参加
2月2日	平成30年度第4回スキルアップ研修	1名参加
2月3日	鹿児島県栄養士会総会及び第4回研修会	6名参加

【事務部】

6月3日	平成29年度第1回鹿児島診療情報管理研究セミナー	1名参加
6月12日	平成30年度定期総会並びに特別講演会 講師	2名参加
7月21日/2月16日	鹿児島診療情報管理研究会セミナー	4名参加
8月4日/2月2日	鹿児島県四部門研修会	3名参加
8月7日	院内がん登録初級者研修会	1名参加
9月1日	院内がん登録研修会	3名参加
9月15日/1月26日	鹿児島診療情報管理研究会Aブロック会	4名参加
12月1日・2日	院内がん登録研修会	3名参加
2月2日	鹿児島県がん四部門研修会 がん登録部会 講師	1名派遣

19. 入院患者不在者投票

4月22日	鹿屋市議会議員選挙	1名実施
12月2日	天城町長・天城町議会議員選挙	1名実施

20. 施設の公開利用

4月18日/7月18日/10月18日/1月16日	薬薬連携会議	各日約10名
10月22日	にいむら病院スタッフへのストーマケア指導	5名
11月9日	第89回かごしま医療IT研究会	9施設20名
12月8日	鹿児島県内皮膚・排泄ケア認定看護師勉強会	24名
3月26日	第145回鹿児島病理集談会	18名

患者図書室「すまいる」

利用時間月～金曜日10:00～12:00・13:00～16:00

30年度延べ利用者数2,523人/1日平均利用者数10.3人/図書貸出数860冊

ボランティアを中心に運営しており、患者さま、職員に限らずどなたでも利用可能

21. その他の活動報告

4月1日～翌年3月31日

鹿児島大学医学部臨床教授委託

(昇卓夫・松永俊二・西澤輝彦・白濱浩・濱之上雅博・米田敏・長堂竜維・岩川純)

6月7日	鹿児島県赤十字血液センター献血	リニアックセンター前	23名
11月14日	鹿児島県赤十字血液センター献血	リニアックセンター前	23名
12月22日	NHK歳末たすけあい募金		111,427円

22. 表彰

6月16日	鹿児島県医師会長賞	看護業務功労	看護部2名受賞
-------	-----------	--------	---------